あいち
トリエンナーレ
2013

2013.8.10→10.27

開催報告書

目次

Ⅰ　主催者あいさつ ……1

Ⅱ　芸術監督報告 ……2

Ⅲ　開催概要 ……4
名称、テーマ、開催目的、芸術監督、
会期、会場、事業展開、主催

Ⅳ　企画体制 ……10

Ⅴ　展開概要 ……12
1　現代美術 ……12
(1) 国際美術展（現代美術） ……12
(2) 企画コンペによる展示 ……16
(3) 映像プログラム ……17

2　舞台芸術 ……19
(1) パフォーミングアーツ ……19
(2) プロデュースオペラ ……21

3　普及・教育 ……22
(1) キッズトリエンナーレ ……22
(2) 学校向けプログラム ……25
(3) パブリック・プログラム ……27
(4) その他 ……30

4　建築関連プロジェクト ……31
(1) あいち建築ガイド ……31
(2) オープンアーキテクチャー ……31

5　モバイル・トリエンナーレ（移動
型展示） ……32

6　共催・連携事業 ……33
(1) 国際交流基金との共催事業 ……33
(2) 祝祭ウィーク事業 ……33
(3) 地元大学等との連携 ……34
(4) 特別連携事業 ……36
(5) 並行企画事業 ……37
(6) パートナーシップ事業 ……38

7　サポート体制 ……42
ボランティア

8　その他 ……44
(1) その他のイベント・プログラム …44
(2) 会場運営 ……45
(3) 広報・ＰＲ ……47
(4) ガイドブック、カタログ ……54
(5) オフィシャルグッズ ……55
(6) 旅行商品 ……56
(7) あいトリ写真部 ……56
(8) 企業・団体等からの協賛・協力 …57

9　愛知県によるトリエンナーレ補完事業
（緊急雇用創出事業基金事業） ……58
(1) ベロタクシー運行事業 ……58
(2) まちなか展開拡充事業 ……59
(3) 開催効果調査分析業務 ……60
(4) 顧客対応（コールセンター）業務 …60
(5) PR キャラバン隊事業 ……61
(6) 携帯情報端末活用コンテンツ制作事業 ‥61

【トリエンナーレ 2013 の主な特徴】 …62
【会期中のイベント・プログラム】 ……64

Ⅵ　来場者の状況等 ……73
1　来場者数 ……73
2　チケットの販売状況 ……77
3　アンケート調査結果 ……79
(1) 来場者アンケート ……79
(2) 関係者アンケート ……104
(3) 文化芸術関係機関等アンケート ……112
4　有識者意見 ……122
5　経済波及効果 ……126
6　パブリシティ効果 ……127

Ⅶ　実行委員会の状況等 ……128
1　実行委員会の収支状況 ……128
2　実行委員会委員等 ……131
3　実行委員会事務局組織 ……133

資料
・あいちトリエンナーレの開催経緯 ……134
・あいちトリエンナーレ実行委員会規約 …137
・あいちトリエンナーレの推移 ……141

《御利用にあたって》
数字の表示単位未満は、四捨五入を原則としました。したがって、合計の数字と内訳が一致しない場合があります。

Ⅰ　主催者あいさつ

2013 年 8 月から 10 月にかけて、愛知県で 2 回目となる国際芸術祭「あいちトリエンナーレ 2013」を開催致しました。79 日間の会期中には、62 万人を超える多くの皆様に御来場いただき、盛況のうち無事終了することができました。

テーマは「揺れる大地―われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活」。社会経済情勢が大きく変化し、既成の枠組みが大きく変動する時代にあって、改めて自分自身の立っている場所＝アイデンティティを確認し、同時にその場所の記憶を呼び戻し、アートの力により希望を復活させたい…東日本大震災を自ら経験した五十嵐太郎芸術監督による強い思いが込められています。

会期中には、国内外 122 組の参加アーティストによる先端的な現代美術やパフォーミングアーツのほか、オペラの上演など様々なプログラムを展開しました。また、子どもたちがアートを体感できる場としての「キッズトリエンナーレ」や、トリエンナーレをより身近に感じてもらうための「パブリック・プログラム」など、数々の普及・教育プログラムも実施しました。

会場は、前回同様の、愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町、納屋橋を中心とした名古屋市内での展開に加え、今回新たに、岡崎市内に東岡崎駅、康生、松本町の 3 会場を設けるとともに、豊橋・春日井・知多・東栄の 4 市町でも移動型展示「モバイル・トリエンナーレ」を実施し、愛知県内での広域展開を図ってまいりました。

作家や作品の選定においては、建築的な視点をふんだんに取り入れました。また、建築物の公開イベント「オープンアーキテクチャー」などの建築関連プロジェクトも今回の大きな特徴です。

私どもは、こうした事業展開を図ることにより、このあいちトリエンナーレを末永く地域に根付かせ、世界から注目される、創造性豊かな地域づくりに繋げてまいりたいと考えております。

さて、このたび、開催概要や、各プログラムの実施結果、来場者の皆様へのアンケート結果などを内容とする報告書を取りまとめました。今回の成果や課題を活かしながら、回をかさねるごとに、皆様により一層親しんでいただけるトリエンナーレとして大切に育ててまいりたいと考えております。

最後になりますが、御来場いただきました皆様をはじめ、出品してくださったアーティスト、開催に当たり御支援、御協力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。

平成 26 年 3 月
あいちトリエンナーレ実行委員会

Ⅱ　芸術監督報告

あいちトリエンナーレ 2013 報告　～都市の新しい伝統に向けて

いつも忙しそうだが、国際展の芸術監督を引き受けることは可能かどうか、という打診を最初にいただいたのは、2011 年に東日本大震災の被災地である女川を研究室の学生とともに調査しているときだった。それから勤務先の東北大学がある仙台と名古屋を数えきれないほど何度も往復しながら、準備を重ね、2 年後の熱い夏にあいちトリエンナーレ 2013 が始まり、10 月 27 日に無事終えることができた。その過程において国内最大級の芸術祭であることから、実にさまざまな出来事を経験した。これまでに幾つかの展覧会の企画をしたことはあるが、さすがにこの規模は初めてである。単館の企画ではなく、ある意味で都市そのものを舞台にしたイベントだ。もともとアートではなく、建築を専門としている私にとって、大きなチャレンジとなる仕事だった。まちなかの風景を今回のテーマカラーであるシアンブルーに染めた、2013 年の夏は生涯忘れることがないだろう。

個人的な話だが、私は長かった大学院の生活の後、名古屋で初めて大学での常勤の仕事を得て、3 年間教鞭をとった縁があり、このまちに恩返しをしたいと考えていた。今回、あいちトリエンナーレ 2013 の芸術監督を引き受けたのは、まず建築という専門を生かし、アートの力を通じて、まちの魅力をもっと多くの人に知っていただき、それを誇りに感じて欲しいと思ったからである。すなわち、シビック・プライドだ。具体的に、今回は建築ガイドの刊行やオープンアーキテクチャーのイベントなど、すでにまちに存在する建築の魅力を発見する仕かけを設けたり、前回に続きまちなか展開を行った。名古屋の人は、しばしばこのまちには何もないというが、そんなことはない。すぐれた建築があって、美術館がそろい、芸術系の大学も充実している教育環境をもち、現代アートを支えるポテンシャルをもっている。これはよそからもってきて、即席でできるようなものではない。

あいちトリエンナーレの終了後、愛知県美術館で開催された「アイチのチカラ！戦後愛知のアート、70 年の歩み」展で示されたように、半世紀以上の蓄積を経て、アートをめぐる豊かな環境が形成されたのだ。とくに 1950 年代から桑原幹根知事が愛知県美術館の前身となる施設や愛知県立芸術大学の創設に力を注いだことが種をまき、21 世紀に入り、神田真秋知事があいちトリエンナーレを始めたことで国際展として花開いた。その火を絶やさず、大村秀章知事が継承したことで、今回、現代都市に誕生した新しい祝祭が、新たな伝統として地域に根づいていく道が見えてきたのである。そうした意味で 2 回目は重要だ。現場であいちトリエンナーレに関わって感じたのは、これは東京でも大阪でも未だ実現していない、あるいは里山や島々の芸術祭とも違う魅力をもった国際展であることだ。だから、愛知県が、これを成し遂げる力をもっていることはもっと誇るべきことだろう。

また東日本大震災によって東北大学の校舎が大破し、研究室が使えなくなり、学生とともに居場所を失い、私も被災した。その後、さまざまな被災地を歩いた経験をもとに、今回のテーマ「揺れる大地―われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活」を決定した。現代アートは社会と時代の産物である。3.11 によって当たり前だと思っていた世界観が大きく変化すれば、当然、アートにも影響を及ぼす。そして震災後、世界からの視線が注がれる大都市の国際展であれば、あいちトリエンナーレ 2013 は日本が経験した歴史的な出来事に向きあわない方が不自然だろう。これは県民だけに閉じた芸術祭ではない。国際展として、多くの来場者が県外から訪れ、まちとアートを楽しみ、またアーティストも国内外のさまざまな場所から参加する。客人は普段そこで生活していないがゆえに、日常の風景から、住人が気づかないような場所の魅力をひきだす。

あいちトリエンナーレ 2013 の特徴は、思い切ったテーマ性である。第 1 回の単純な繰り返しではない。日本の国際展で、ここまではっきりとしたテーマを打ちだすことはあまり前例がないから、これも大きな挑戦だった。つまり、2 回目で試みたのは、建畠哲芸術監督がゼロから創りあげた第 1 回のすぐれたレガシーを継承しながら、新機軸を導入し、トリエンナーレは変化・成長していくことを示すことである。名古屋以外に岡崎を新しく会場に加えたり、各地を巡回するモバイル・トリエンナーレを始めたことも、その一例と言えるだろう。今回、このテーマが憲法というべき基本理念となって、現代美術、パフォーミングアーツ、オペラという複数のジャンルを横断するトリエンナーレの出品作家や内容が導かれた。その結果、前回以上に異分野の融合や交差を実現できたように思う。また建築的な視点から、徹底的に空間や場所を使い倒すことでも、一定の成果が得られた。

もちろん、私一人の力でこれだけ広いジャンルをすべてカバーするのは不可能である。現代美術と映像プログラムのキュレーター・チーム、パフォーミングアーツとオペラのプロデューサーの豊富な知識と経験、またコミュニティ・デザイナー、デザイナー、アーキテクト、アシスタント・キュレーターの活躍によって充実した内容が成立した。まちなか展開では、さまざまな制約により実現できなかったプランも数多くあって、今となっては思い出深いが、それは今後の課題だろう。そして国際芸術祭推進室のスタッフ、広報チーム、多くのボランティアやベロタクシーのドライバー、協賛していただいた企業、団体、組織、そして議員の方々を含む、さまざまな関係者の協力とサポートのおかげで、あいちトリエンナーレ 2013 は成功することができた。この場を借りて、皆様に厚く御礼を申し上げたい。振り返れば、これはまさしくみんなのトリエンナーレだった。

グローバリズムの時代において都市間競争が叫ばれるなか、国際的な芸術祭は文化の成熟度を示す重要なバロメーターであり、都市の魅力を高めるものだろう。アートを通じて、愛知県がさらに盛り上がり、3 年後に第三回のあいちトリエンナーレ 2016 が開催されることを期待している。次へのバトンを渡したものとして、そのときは観客として大いに楽しみたいと思う。

あいちトリエンナーレ 2013 芸術監督
五十嵐 太郎

Ⅲ　開催概要

名称

あいちトリエンナーレ 2013／Aichi Triennale 2013

テーマ

揺れる大地－われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活
Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection

開催目的

・新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する。
・現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る。
・文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る。

芸術監督

五十嵐太郎（東北大学大学院工学研究科教授（都市・建築学））

会期

2013 年（平成 25 年）8 月 10 日（土）～10 月 27 日（日）（79 日間）

会場

■名古屋地区

愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、中央広小路ビル、オアシス２１、名古屋テレビ塔、若宮大通公園など

■岡崎地区

東岡崎駅会場、康生会場、松本町会場

事業展開

・現代美術を基軸とするが、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、ダンス、演劇、オペラなどの舞台芸術も併せて展開する。
・幅広い層を対象とした普及・教育プログラムを展開する。
・都市空間の魅力を増すスペクタクルな展開などにより、賑わいを創出する。

主催

あいちトリエンナーレ実行委員会

特別協力

独立行政法人国際交流基金

後援

アメリカ大使館／インドネシア大使館／イスラエル大使館／オランダ王国大使館／フランス大使館

助成

文化庁／独立行政法人日本芸術文化振興会／独立行政法人日本万国博覧会記念機構／Mondriaan Fund／Pro Helvetia／公益財団法人花王芸術･科学財団／フランス大使館／アンスティチュ・フランセ／アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会／公益財団法人セゾン文化財団／アメリカ大使館／公益財団法人福武財団／アジアン・カルチュラル・カウンシル／University of Brighton／ブリティッシュ・カウンシル／Arts Council England／Artis／ドイツ文化センター／University of Westminster／一般財団法人東海テレビ国際基金／The Netherlands Film Fund

協賛

カニエプロパン株式会社／株式会社クオリ／TOYOTA／公益社団法人愛知県医師会／株式会社資生堂／一般社団法人愛知県歯科医師会／イオン株式会社／公益社団法人愛知県私立幼稚園連盟／公益社団法人愛知県宅地建物取引業協会／岡谷鋼機株式会社／長田広告株式会社／名古屋競馬株式会社／株式会社ニッショー／日本ロレックス株式会社／名古屋南ロータリークラブ／一般社団法人愛知県薬剤師会／愛知県私学協会／株式会社豊田自動織機／東和不動産株式会社／株式会社アジオカ／一般社団法人愛知県土木研究会／愛知県地域婦人団体連絡協議会／中部美容専門学校／一般社団法人愛知県浄化槽協会／愛知県農業土木研究会／学校法人中西学園名古屋ファッション専門学校／名港海運株式会社／公益社団法人愛知建築士会／株式会社サンプラン不動産／天野エンザイム株式会社／黒金化成株式会社／株式会社サンヨーハウジング名古屋／株式会社日建設計／公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会／ファニチャードーム（安井家具）／株式会社 LIXIL 中部支社／アイシン精機株式会社／一般社団法人愛知ビルメンテナンス協会／愛知県女性団体連盟／株式会社デンソー／愛水会（愛知県企業庁職員 OB 会）／サーラグループ／豊田通商株式会社／ブラザー工業株式会社／日本ボーイスカウト愛知連盟／アイシン精機株式会社 部長会／アイシン・エィ・ダブリュ株式会社／株式会社浦野設計／瀬戸信用金庫 親興会／愛知県農業土木測量設計技術研究会／一般社団法人愛知県建設業協会／愛知県住宅関連産業協議会／一般社団法人愛知県鍼灸マッサージ師会／株式会社 NHK プラネット中部支社／トヨタ車体株式会社／ホーユー株式会社／株式会社両口屋是清／トーテックアメニティ株式会社／光源舎オートプロダクツ株式会社／株式会社コングレ／株式会社佐藤総合計画／株式会社ジェイテクト／セクダム株式会社／有限会社津島ロックサービス／トーホーエンジニアリング株式会社／東朋テクノロジー株式会社／株式会社トロンマネージメント／株式会社名古屋銀行／日本空調システム株式会社／リンナイ株式会社

協力

東陽倉庫株式会社／株式会社 NTT ドコモ／中部国際空港株式会社／名古屋鉄道株式会社／株式会社 JVC ケンウッド／株式会社アンレット／東海旅客鉄道株式会社／株式会社ヤマハミュージックリテイリング名古屋店／株式会社エーアンドエー／株式会社 CITY MEDIA／日本特殊塗料株式会社／NEC ディスプレイソリューションズ株式会社／株式会社東海インタービジョン／株式会社竹中工務店／中部電力株式会社／フクビ化学工業株式会社／名鉄タクシーホールディングス株式会社／ポッカサッポロフード＆ビバレッジ株式会社／キャノンマーケティンジャパン／エルコライティング株式会社／ぺんてる株式会社／金山化成株式会社／ジャニス工業株式会社／株式会社 JSP／クリエイティブ・デザインシティなごや推進事業実行委員会

会場提供

岡崎シビコ／神谷善行／喫茶クラウン／畔柳俊二／栄公園振興株式会社／株式会社島本画材／株式会社シモジマ／松應寺／スターネットジャパン株式会社／株式会社セントラルパーク／東京福祉大学名古屋キャンパス／東邦ガス株式会社／豊島株式会社／名古屋テレビ塔株式会社／丹羽幸株式会社／林八百吉株式会社／春井正親／伏見地下街協同組合／三菱地所株式会社／名鉄協商株式会社／八木兵株式会社／山本洋品雑貨株式会社／吉田商事株式会社

認定

公益社団法人 企業メセナ協議会

〇テーマ

揺れる大地－われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活

Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection

〇コンセプト

あいちトリエンナーレ 2013 は、多くの来場者が訪れ、成功をおさめた 2010 年の第一回に続くものであり、期待を受けながら、二度目の開催に向かって船出しました。しかし、現在は荒波の時代です。大地が激しく揺れた東日本大震災が引き金となって、自然の恵みをもたらしてきた海が沿岸の街を襲い、原発の事故も発生しました。日本が大きな試練を迎え、転換を迫られるなかで、このトリエンナーレは世界に文化芸術を発信する国際展となります。したがって、先端的なアートの動向を紹介する第一回の長所を継承しつつも、荒波を越えていくための新機軸や時代性を織り込んでいきます。

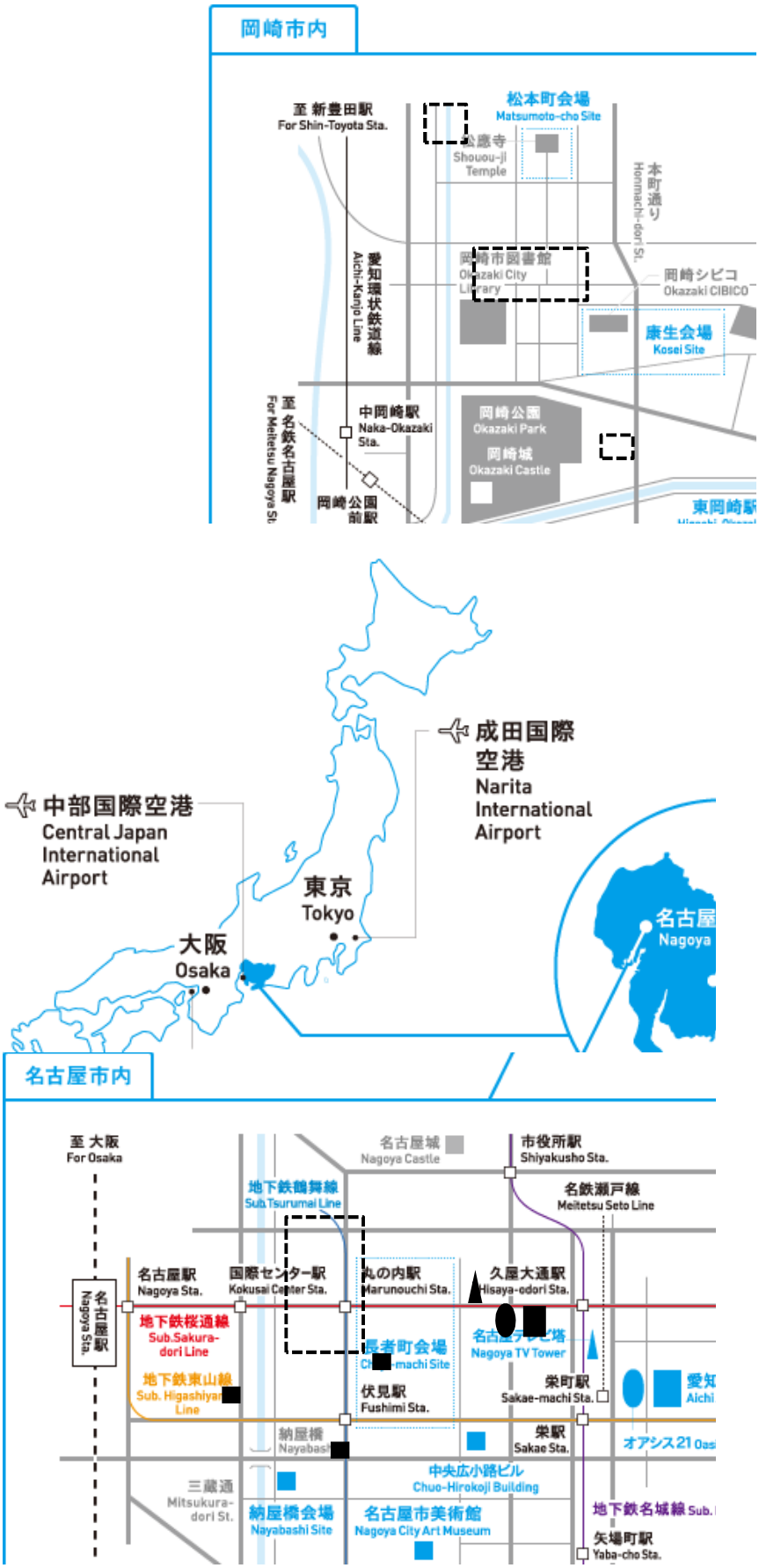
19 世紀末にゴーギャンは「われわれはどこから来たのか、われわれは何者か、われわれはどこへ行くのか」という題名の絵を描きました。これに対して、今度のトリエンナーレは「われわれはどこに立っているのか」を考えたいと思います。当たり前だと思っていた根拠を失い、既成の枠組が変動するとき、自らが踏みしめる大地＝アイデンティティがどうなっているかを確認する必要があります。この問いは、場所の固有性を具体的に考えることにもつながると考えます。美術館の箱の中とは違う、街に染みだしていく祝祭的な風景は、あいちトリエンナーレの特徴ですが、新しく芸術が介入することで、都市の可能性を開くだけではなく、作品を通じて、すでにわれわれが立っている日常的な場を再発見することができます。場所の力を引きだし、空間の意味を変えるのは、美術や建築だけではありません。このトリエンナーレでは、パフォーミングアーツの分野においても、視覚芸術との実験的な統合を試みながら、いま、ここでしか体験できない空間を生みだします。

多くの犠牲者を出した 3.11 のカタストロフに遭遇した後、アートに何ができるか、という議論がおきました。これは日本だけの問題ではありません。さまざま意見があるでしょうが、芸術がなすべき役割のひとつは、人類が生みだした最強の文化的な記憶装置として過去を忘れないようにすることでしょう。そして記憶を呼び戻し、希望を復活させること。われわれが再び歩きだし、青い空を見上げることができるように。このトリエンナーレは、固有の場所に結びつく記憶と復活を通じて、アートの力を社会に問いかけ、われわれが生きる街の輝きを増していくことをめざします。

平成 23 年 10 月 21 日

あいちトリエンナーレ 2013 芸術監督　五十嵐太郎

〇会場周辺図


岡崎市内
至 新豊田駅
For Shin-Toyota Sta.
松本町会場
Matsumoto-cho Site
Shouou-ji Temple
本町通り
Honmachi-dori St.
愛知環状鉄道線
Aichi-Kanjo Line
岡崎シビコ
Okazaki CIBICO
康生会場
Kosei Site
至 名鉄名古屋駅
For Meitetsu Nagoya St.
中岡崎駅
Naka-Okazaki Sta.
岡崎公園
Okazaki Park
岡崎城
Okazaki Castle
岡崎公園前駅
東岡崎駅
中部国際空港
Central Japan International Airport
成田国際空港
Narita International Airport
東京
Tokyo
大阪
Osaka
名古屋
Nagoya
名古屋市内
至 大阪
For Osaka
名古屋城
Nagoya Castle
市役所駅
Shiyakusho Sta.
地下鉄鶴舞線
Sub.Tsurumai Line
名鉄瀬戸線
Meitetsu Seto Line
名古屋駅
Nagoya Sta.
国際センター駅
Kokusai Center Sta.
丸の内駅
Marunouchi Sta.
久屋大通駅
Hisaya-odori Sta.
地下鉄桜通線
Sub.Sakura-dori Line
名古屋テレビ塔
Nagoya TV Tower
長者町会場
伏見駅
Fushimi Sta.
栄町駅
Sakae-machi Sta.
地下鉄東山線
Sub. Higashiyama Line
栄駅
Sakae Sta.
納屋橋
Nayabashi
オアシス21
三蔵通
Mitsukura-dori St.
中央広小路ビル
Chuo-Hirokoji Building
納屋橋会場
Nayabashi Site
名古屋市美術館
Nagoya City Art Museum
地下鉄名城線
矢場町駅
Yaba-cho Sta.

○主な会場

（名古屋地区）

■愛知芸術文化センター

愛知県美術館と、本格的なオペラを上演可能な大ホール、小ホールやコンサートホールなどが複合した日本屈指の大規模文化芸術施設。1992 年開館。
名古屋市東区東桜 1-13-2
時　間　10:00～18:00（金曜～20:00）
休館日　毎週月曜（祝日の場合はその翌日）※8/12,26,10/15,21 は臨時開館

■名古屋市美術館

名古屋中心部の緑豊かな白川公園のなかにある美術館。黒川紀章の代表作として名高い。1988 年開館。
名古屋市中区栄 2-17-25
時　間　9:30～17:00（金曜～20:00）
休館日　毎週月曜（祝日の場合はその翌日）※8/12,10/21 は臨時開館

■長者町会場

名古屋の中心地・栄と名古屋駅の間に位置する。江戸時代には城下の中心地として栄え、戦後は日本三大繊維問屋街の一つとして発展。あいちトリエンナーレ 2010 のまちなか会場でもあった。
名古屋市中区錦 2 など
時　間　11:00～19:00（金曜～20:00）
休館日　なし

■納屋橋会場

納屋橋の南に位置する、ボウリング場として建設された建物。あいちトリエンナーレ 2010 のまちなか会場でもあった。
名古屋市中区栄 1-2
時　間　11:00～19:00（金曜～20:00）
休館日　8/19、9 月の毎週月曜（祝日の場合はその翌日）、10/7

（岡崎地区）

■東岡崎駅会場

岡崎市の玄関口として中心市街地に位置する名古屋鉄道の駅。
駅ビルに展示。
岡崎市明大寺本町 4
時　間　11:00～19:00（金曜～20:00）
休館日　第 2・4 水曜

■康生会場

徳川家康公の生誕地・岡崎城の城下町、東海道の宿場町として発展してきた中心市街地。三河武士発祥の地としても知られる。ショッピングセンターや空き店舗に展示。
岡崎市康生通東、岡崎市康生通西、岡崎市連尺通
時　間　11:00～19:00
休館日　8/22、9/19、10/17

■松本町会場

かつて花街として栄え、狭い路地や木造アーケードから昭和の香りがただよう町並み。松應寺周辺の空きスペースに展示。
岡崎市松本町
時　間　11:00～19:00
休館日　8/22、9/19、10/17

○あいちトリエンナーレ実行委員会組織図

平成 25 年 8 月 10 日現在

【芸術部門】
芸術監督
＜役割＞
学芸業務の責任者。トリエンナーレ全体の企画を統括

・五十嵐太郎
（東北大学大学院教授）

キュレーター
＜役割＞
芸術監督の指揮の下に学芸業務を担当

【アドバイザー】
＜役割＞
専門的な観点から助言
・(独)国際交流基金
文化事業部企画役

【運営会議】
＜役割＞
意思決定機関。芸術監督選任、テーマ・コンセプト等決定

会長　　：愛知県知事
会長代行：名古屋市長
副会長　：名古屋商工会議所会頭
(一社)中部経済連合会会長
委員　　：名古屋商工会議所専務理事
(一社)中部経済連合会専務理事
中日新聞社代表取締役社長
NHK名古屋放送局局長
(独)国際交流基金理事
愛知芸術文化センター総長
愛知県県民生活部長
名古屋市市民経済局長
(公財)愛知県文化振興事業団理事長
(公財)名古屋市文化振興事業団理事長
馬場駿吉(名古屋ボストン美術館館長)
松村公嗣(愛知県立芸術大学学長)
高階秀爾(大原美術館館長)
峯村敏明(多摩美術大学名誉教授)
北爪道夫(愛知県立芸術大学名誉教授)
野田邦弘(鳥取大学教授)

【顧　問】
＜役割＞
運営に関し、会長の相談に応じる

・愛知県議会議長
・名古屋市会議長
・愛知県市長会会長
・愛知県町村会会長

【芸術顧問】
＜役割＞
トリエンナーレの学芸業務に関し、会長及び芸術監督の相談に応じる

・建畠　哲
（前芸術監督、京都市立芸術大学学長）

【監　事】
・加藤純利(税理士)
・中谷光孝(文化行政経験者)

【幹　事】
＜役割＞
実行委員会の円滑な運営を図るため運営会議の下に設置

・愛知県県民生活部文化芸術課長
・名古屋市市民経済局文化観光部長
・名古屋商工会議所常務理事・事務局長
・(一社)中部経済連合会企画部長
・愛知芸術文化センター管理部長
・(公財)愛知県文化振興事業団常務理事

【参　与】
＜役割＞
事業に関し、会長の相談に応じる

・愛知県議会総務県民委員会委員長
・名古屋市会経済水道委員会委員長
・中京テレビ放送代表取締役社長
・中部日本放送代表取締役社長
・テレビ愛知代表取締役社長
・東海テレビ放送代表取締役社長
・名古屋テレビ放送代表取締役社長
・朝日新聞名古屋本社代表
・日本経済新聞社専務執行役員名古屋支社代表
・毎日新聞社専務執行役員中部代表
・読売新聞東京本社執行役員中部支社長
・名古屋音楽大学学長
・名古屋芸術大学学長
・名古屋造形大学学長
・愛知県小中学校長会会長
・愛知県公立高等学校長会会長
・名古屋市立小中学校長会会長
・愛知県私学協会会長
・(公財)科学技術交流財団理事長
・愛知芸術文化協会顧問
・愛知県美術館館長
・名古屋市美術館館長

Ⅳ　企画体制

■芸術監督

五十嵐太郎

1967 年パリ生まれ。中部大学講師、東北大学大学院助教授を経て、2009 年から東北大学大学院教授。
2008 年ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展では、日本館コミッショナーを務めた。
2010 年に開催されたあいちトリエンナーレ 2010 では、長者町企画コンペの選考委員も務めた。
現在、東北大学大学院工学研究科教授（都市・建築学）。

国際美術展（現代美術）

■キュレーター

ルイス・ビッグス、住友文彦、飯田志保子、
拝戸雅彦（愛知県国際芸術祭推進室）

■アーキテクト

武藤 隆

■アシスタントキュレーター

飯田真実、佐野明子、柴田直美、原田真千子、堀江紀子、吉田有里

■アシスタントアーキテクト

山岸 綾

■コーディネーター

かないみき、児玉美香、林 育正、森田恭平

■愛知県美術館

中村史子、塩津青夏

■名古屋市美術館

山田 諭

■愛知県国際芸術祭推進室

清澤暁子、岩手瑞穂、工藤千愛子、斎藤ふみ、堀切春水

映像プログラム

■キュレーター

越後谷卓司（愛知芸術文化センター）

■アシスタントキュレーター

澤 隆志

パフォーミングアーツ

■プロデューサー

小崎哲哉〔統括〕、前田圭蔵、
藤井明子（愛知芸術文化センター）、唐津絵理（愛知芸術文化センター）

■愛知県国際芸術祭推進室

阿部晃久、小林千晴

プロデュースオペラ

■プロデューサー

水野　学（公益財団法人愛知県文化振興事業団）

普及・教育

■コミュニティ・デザイナー

菊池宏子

■エデュケーター

田中由紀子

■アシスタントエデュケーター

遠藤安子、大下琴子、福岡寛之

■愛知県美術館

藤島美菜

■公益財団法人愛知県文化振興事業団

小出充訓

■愛知県国際芸術祭推進室

岩野早苗、寺島千絵、田邉陽子

公式デザイン

■デザイナー

廣村正彰

（デザインチーム）

藤本康一、平井秀和、POWDER DESIGN（松井伸之、喜多紀和、瀬川 晃、森田展之）

広報

■ＰＲオフィサー

鈴木潤子

■コーディネーター

青木雅司

オフィシャルグッズ

■アドバイザー

高北幸矢

〇メインビジュアル

《デザイナー》
廣村正彰

《デザインコンセプト》
　今回のテーマの中でも、自らがよって立つ大地＝アイデンティティの力強さやエネルギーが、やがて復活にむけて力強くせりあがっていくイメージをデザイン。
　また、美術や舞台芸術、建築などあいちトリエンナーレを構成する要素が重なり合い、有機的に変化していく様を表現している。

Ⅴ　展開概要

１　現代美術

(1) 国際美術展（現代美術）

・国内外から 76 組のアーティストが出品し、最先端の現代美術を紹介する日本最大級の国際芸術祭。
・愛知芸術文化センターや名古屋市美術館、更には、名古屋市内のまちなか、岡崎市内のまちなかが会場となった。
・作家や作品の選定において、「建築」の視点を取り入れた。
・愛知・名古屋を象徴するオアシス２１や名古屋テレビ塔などで、都市の魅力を増す作品の展示を行った。

■スケジュール

会場	内容	開催日
愛知芸術文化センター（愛知県美術館、アートスペースなど）	国際美術展	8 月 10 日(土) ～ 10 月 27 日（日）
名古屋市美術館、納屋橋会場、中央広小路ビル	国際美術展	
長者町会場	国際美術展／企画コンペ	
東岡崎駅会場、康生会場、松本町会場	国際美術展	
会場周辺（オアシス２１、名古屋テレビ塔、若宮大通公園など）の都市空間	国際美術展	

■展示面積

会場		展示面積	備考
名古屋地区	愛知芸術文化センター	5,985 ㎡	他に宮本佳明作品 11,916 ㎡あり
	名古屋市美術館	10,861 ㎡	屋外空間 8,296 ㎡、若宮大通公園 1,250 ㎡を含む
	長者町会場	4,658 ㎡	
	納屋橋会場	2,600 ㎡	
	その他	2,274 ㎡	中央広小路ビル、オアシス２１、名古屋テレビ塔他
	計	26,378 ㎡	
岡崎地区	東岡崎駅会場	418 ㎡	
	康生会場	7,052 ㎡	
	松本町会場	115 ㎡	
	計	7,585 ㎡	
計		33,963 ㎡	

※常設的な展示を行った会場の面積を計上

■参加アーティスト・団体

	名前	生年	出身地（国）	ジャンル	会場
1	青木 淳 杉戸 洋（スパイダース）	2013 年結成	日本	建築	市美
2	青木野枝	1958 年	日本	彫刻	市美・納屋橋・松本町
3	青野文昭	1968 年	日本	彫刻	芸文
4	荒井理行	1984 年	アメリカ	絵画	納屋橋
5	ブラスト・セオリー	1991 年設立	イギリス	映像、インスタレーション	若宮大通公園
6	ジャネット・カーディフ＆ジョージ・ビュレス・ミラー	1957 年 1960 年	カナダ	サウンドインスタレーション	芸文
7	ステファン・クチュリエ	1957 年	フランス	写真	芸文
8	ミッチ・エプスタイン	1952 年	アメリカ	写真	芸文

9	ニナ・フィッシャー＆ マロアン・エル・サニ	1965 年 1966 年	ドイツ	映像インスタレーション	芸文
10	藤森照信	1946 年	日本	建築	市美
11	藤村龍至	1976 年	日本	建築	中央広小路ビル
12	マーロン・グリフィス	1976 年	トリニダード・トバゴ	パフォーマンス	長者町
13	ゲッラ・デ・ラ・パス	1996 年活動開始	キューバ	インスタレーション	東岡崎駅
14	ハン・フェン	1972 年	中国	絵画、インスタレーション	芸文
15	彦坂尚嘉	1946 年	日本	絵画、建築	芸文
16	平川祐樹	1983 年	日本	映像インスタレーション	康生
17	平田五郎	1965 年	日本	彫刻	芸文
18	トーマス・ヒルシュホルン	1957 年	スイス	インスタレーション	芸文
19	池田剛介	1980 年	日本	サウンドインスタレーション	納屋橋
20	インヴィジブル・プレイグラウンド	2009 年設立	ドイツ	プロジェクト	芸文・市美・長者町・康生
21	石上純也	1974 年	日本	建築	芸文
22	アルフレッド・ジャー	1956 年	チリ	インスタレーション	市美
23	ミハイル・カリキス＆ ウリエル・オルロー	1975 年 1973 年	ギリシャ スイス	映像	納屋橋
24	片山真理	1987 年	日本	インスタレーション	納屋橋
25	國府 理	1970 年	日本	インスタレーション	中央広小路ビル
26	レッド・ペンシル・スタジオ	1997 年結成	アメリカ	建築	康生
27	イ・ブル	1964 年	韓国	インスタレーション	市美
28	ニッキ・ルナ	1977 年	フィリピン	インスタレーション	芸文
29	バシーア・マクール	1963 年	パレスチナ	インスタレーション	康生
30	アンジェリカ・メシティ	1976 年	オーストラリア	映像インスタレーション	納屋橋
31	アーノウト・ミック	1962 年	オランダ	映像インスタレーション	芸文
32	宮本佳明	1961 年	日本	建築	芸文
33	Nadegata Instant Party（中崎透＋山城大督＋野田智子）	2006 年結成	日本	プロジェクト	長者町
34	名和晃平	1975 年	日本	彫刻、インスタレーション	納屋橋
35	新美泰史	1975 年	日本	絵画	長者町・納屋橋
36	西岳拡貴	1984 年	日本	インスタレーション	長者町
37	丹羽良徳	1982 年	日本	映像インスタレーション	芸文・長者町・松本町
38	クリスティナ・ノルマン	1979 年	エストニア	インスタレーション	納屋橋
39	岡本信治郎	1933 年	日本	絵画	芸文
40	伊坂義夫、大坪美穂、岡本信治郎、小堀令子、清水洋子、白井美穂、松本旻、山口啓介、王舒野、PYTHAGORAS[3]（覆面作家）	2003 年製作開始	日本	絵画	芸文
41	オノ・ヨーコ	1933 年	日本	インスタレーション	芸文・東岡崎駅・名古屋テレビ塔ほか
42	打開連合設計事務所	2001 年設立	台湾	建築	長者町
43	コーネリア・パーカー	1956 年	イギリス	インスタレーション	芸文
44	ニラ・ペレグ	1969 年	イスラエル	映像インスタレーション	納屋橋

45	ダン・ペルジョヴスキ	1961 年	ルーマニア	インスタレーション	芸文
46	ウィット・ピムカンチャナポン	1976 年	タイ	インスタレーション	長者町
47	ニコラス・プロヴォスト	1969 年	ベルギー	映像	芸文
48	ワリッド・ラード	1967 年	レバノン	インスタレーション	市美
49	フィリップ・ラメット	1961 年	フランス	ドローイング、写真、彫刻	芸文
50	リアス・アーク美術館	1994 年オープン	日本	インスタレーション	芸文
51	リゴ 23	1966 年	ポルトガル領マデイラ島	絵画	長者町
52	アリエル・シュレジンガー	1980 年	イスラエル	インスタレーション	康生
53	キャスパー・アストラップ・シュレーダー＋BIG	1979 年 BIG 2006 年設立	デンマーク	映像	芸文
54	ソ・ミンジョン	1972 年	韓国	インスタレーション	芸文
55	志賀理江子	1980 年	日本	写真	康生
56	下道基行	1978 年	日本	インスタレーション	納屋橋
57	シュカルト	1990 年結成	セルビア	インスタレーション	長者町
58	フロリアン・スロタワ	1972 年	ドイツ	映像	芸文
59	ソン・ドン	1966 年	中国	インスタレーション	芸文
60	studio velocity／栗原健太郎＋岩月美穂	2006 年設立	日本	建築	康生
61	菅沼朋香	1986 年	日本	インスタレーション	長者町
62	杉戸 洋	1970 年	日本	絵画	市美
63	ミカ・ターニラ	1965 年	フィンランド	映像インスタレーション	芸文
64	高橋匡太	1970 年	日本	インスタレーション	栄エリア
65	竹田尚史	1976 年	日本	インスタレーション	納屋橋
66	ブーンスィ・タントロンシン	1978 年	タイ	映像	芸文・市美・長者町・納屋橋・東岡崎駅・康生
67	THE WE-LOWS／ザ・ウィロウズ（奈良美智＋森北伸＋青木一将＋小柴一浩＋藤田傭子＋石田詩織＋酒井由芽子）	2013 年結成	日本	プロジェクト	長者町
68	和田礼治郎	1977 年	日本	彫刻	オアシス２１
69	渡辺 豪	1975 年	日本	映像	芸文
70	リチャード・ウィルソン	1953 年	イギリス	インスタレーション	納屋橋
71	ケーシー・ウォン	1970 年	中国	インスタレーション	長者町
72	山下拓也	1985 年	日本	インスタレーション	長者町・松本町
73	やなぎみわ	ー	日本	プロジェクト	芸文
74	ヤノベケンジ	1965 年	日本	彫刻、インスタレーション	芸文
75	横山裕一	1967 年	日本	絵画	長者町
76	米田知子	1965 年	日本	写真	芸文

芸文＝愛知芸術文化センター／市美＝名古屋市美術館／長者町＝長者町会場／納屋橋＝納屋橋会場／東岡崎駅＝東岡崎駅会場／康生＝康生会場／松本町＝松本町会場

■チケット

チケットの種類	区分	チケット料金		
		当日券（8月10日～10月27日）	前売券（5月1日～8月9日）	特別先行前売券（4月1日～4月30日）
普通チケット	一般	1,800円	1,400円	1,000円
	大学生	1,300円	1,000円	700円
	高校生	700円	500円	300円
ペアチケット	一般	―	2,600円	―
	大学生		―	
	高校生			
団体割引チケット	一般	1,400円	―	―
	大学生	1,000円		
	高校生	400円		
フリーパス	一般	3,500円	3,000円	―
	大学生	2,500円	2,000円	
	高校生	1,200円	1,000円	

※チケットの早期購入を呼びかけるため、廉価な特別先行前売券を4月限定で販売した。
※中学生以下無料。
※高校生は、学校行事観覧の場合、観覧日当日に限り無料。
※障害者手帳をお持ちの方及び付添いの方2名までは当日券（団体割引チケットを除く）半額。
※この他、岡崎地区のみを観覧できるチケット（高校生以上300円、当日券のみ）を販売。

【表面】

【裏面】

(2) 企画コンペによる展示

・新進作家等を対象にして、公募によって選ばれた企画展示を長者町会場で実施した。
・応募総数 195 件から 11 企画を選定した。

■参加キュレーター・アーティスト・団体

	名前	生年 （設立年）	出身地 （国）	展示期間	展示会場
1	AMR（Art Media Room）	2012 年結成	日本	8 月 10 日（土）～ 9 月 16 日（月・祝）	丹羽幸株式会社ミクス館ショーウィンドウ
2	ASIT	2012 年結成	日本	8 月 23 日（金）～ 10 月 27 日（日）	長者町各所
3	長者町くん	2009 年結成	日本	8 月 10 日（土）～ 10 月 27 日（日）の 主に土・日・月曜	長者町各所
4	カリ・コンテ	－	アメリカ	9 月 20 日（金）～ 10 月 27 日（日）	伏見地下街
5	EAT&ART TARO+東山佳永	2013 年結成	日本	9 月 9 日（月）～ 9 月 16 日（月・祝）	長者町各所
6	増山士郎	1971 年	日本	9 月 20 日（金）～ 10 月 27 日（日）	ARTISAN ビル 1 階内壁
7	松藤孝一	1973 年	日本	8 月 10 日（土）～ 9 月 16 日（月・祝）	伏見地下街
8	水野里奈	1989 年	日本	8 月 10 日（土）～ 9 月 16 日（月・祝）	ARTISAN ビル 1 階内壁
9	Orrorin	2012 年結成	日本	8 月 10 日（土）～ 9 月 16 日（月・祝）	伏見地下街
10	新藤君平	1983 年	日本	9 月 20 日（金）～ 10 月 27 日（日）	丹羽幸株式会社ミクス館ショーウィンドウ
11	タムラサトル	1972 年	日本	9 月 20 日（金）～ 10 月 27 日（日）	伏見地下街

(3) 映像プログラム

・テーマと関連する映像作品を、実験映画、ビデオアート、ドキュメンタリー、アニメーション、劇映画等のジャンル区分を越えた視点から選出し、愛知芸術文化センターを中心に長者町会場や岡崎地区の松本町会場において、独自のプログラミングにより提示した。
・国内外から 20 組のアーティスト・団体が参加した。

■スケジュール

会場	上映日	上映作品	入場者数
松本町会場	9 月 22 日(日)	＜オープニング上映＞『ファイナル・カット』	43 人
愛知芸術文化センター アートスペース A	9 月 25 日(水)	『Playback』	52 人
		『四つのいのち』	51 人
	9 月 26 日(木)	『原発切抜帖』	29 人
		『なみのおと』	19 人
	9 月 27 日(金)	『ジャライノール』	44 人
		短編 2「若人の大地」	54 人
	9 月 28 日(土)	『トリビュート-パルス』	58 人
		短編 1「復活の物語」	43 人
	9 月 29 日(日)	『原発切抜帖』	93 人
		『なみのおと』	36 人
	10 月 1 日(火)	短編 1「復活の物語」	47 人
		『ジャライノール』	28 人
	10 月 2 日(水)	『四つのいのち』	21 人
		『Playback』	38 人
	10 月 3 日(木)	『トリビュート-パルス』	46 人
		短編 2「若人の大地」	35 人
	10 月 4 日(金)	『原発切抜帖』	96 人
		短編 1「復活の物語」	56 人
	10 月 5 日(土)	短編 1「復活の物語」	106 人
		『トリビュート-パルス』	44 人
	10 月 6 日(日)	『四つのいのち』	38 人
		『Playback』	36 人
	10 月 8 日(火)	『原発切抜帖』	38 人
		『なみのおと』	48 人
	10 月 9 日(水)	『ジャライノール』	52 人
		短編 2「若人の大地」	44 人
	10 月 10 日(木)	『原発切抜帖』	28 人
		『なみのおと』	24 人
	10 月 11 日(金)	『Playback』	46 人
		『四つのいのち』	57 人
	10 月 12 日(土)	短編 2「若人の大地」	148 人
		『ファイナル・カット』	186 人
	10 月 13 日(日)	『トリビュート-パルス』	171 人
		短編 1「復活の物語」	88 人
		『ジャライノール』	35 人
	10 月 14 日(月・祝)	『Playback』	162 人
		『四つのいのち』	53 人
	10 月 16 日(水)	短編 2「若人の大地」	43 人
		『ジャライノール』	42 人
	10 月 17 日(木)	『なみのおと』	79 人
		『トリビュート-パルス』	55 人
長者町会場	10 月 19 日(土)	『arc』(ライブ・パフォーマンス)	651 人

※短編 1「復活の物語」…『フォレスト』、『へそと原爆』、『セクシャル・ヒーリング』、『グージョネットと風車小屋の魔女』、『オー、ウィリー』、『アイス・ファイアー』
※短編 2「若人の大地」…『ニュ～東京音頭』、『平成アキレス男女』、『底なしウインナー』、『あの日から村々する』、『ようこそぼくです』、『ホリデイ』

■参加アーティスト・団体

	名前	生年	出身地（国）	上映作品
1	ミケランジェロ・フランマルティーノ	1968 年	イタリア	『四つのいのち』2010 年
2	福井琢也	1977 年	日本	『グージョネットと風車小屋の魔女』2006 年
3	濱口竜介＋ 酒井 耕	1978 年 1979 年	日本	『なみのおと』2011 年
4	姫田真武	1988 年	日本	『ようこそぼくです』2011 年
5	ひらのりょう	1988 年	日本	『ホリデイ』2011 年
6	細江英公	1933 年	日本	『へそと原爆』1960 年
7	加藤秀則	1991 年	日本	『あの日から村々する』2012 年
8	川口恵里	1989 年	日本	『底なしウインナー』2013 年
9	ポール・コス	1942 年	アメリカ	『アイス・ファイアー』2004 年
10	久保田成子	1937 年	日本	『セクシャル・ヒーリング』1998 年
11	三宅 唱	1984 年	日本	『Playback』2012 年
12	ビル・モリソン	1965 年	アメリカ	『トリビュート-パルス』2011 年
13	室谷心太郎	1987 年	日本	『平成アキレス男女』2012 年
14	ぬQ	ー	日本	『ニュ～東京音頭』2012 年
15	パールフィ・ジョルジ	1974 年	ハンガリー	『ファイナル・カット』2012 年
16	アリソン・シュルニック	1978 年	チリ	『フォレスト』2009 年
17	SjQ++	2012 年 結成	日本	『arc』2013 年 （ライブ・パフォーマンス）
18	エマ・ドゥ・スワーフ＋ マーク・ジェイムス・ロエルズ	1985 年 1978 年	ベルギー 南アフリカ	『オー、ウィリー』2012 年
19	土本典昭	1928 年	日本	『原発切抜帖』1982 年
20	チャオ・イエ	1979 年	中国	『ジェライノール』2008 年

２　舞台芸術

(1) パフォーミングアーツ

・国内外から 15 組が参加し、最先端のダンス、演劇、音楽を、愛知芸術文化センターを中心に岡崎地区の康生会場やオアシス２１、長者町会場周辺で上演した。
・ジャンルの垣根を越え、ダンス、演劇、造形美術、建築等を架橋する作品を重視した。
・今回のテーマは、不条理演劇を代表するサミュエル・ベケットの世界観と大きく相通ずると考え、「われわれが立っている場所を見つめ直す」をコンセプトにベケット的な作品を中心に上演した。
・公演終了後、出演団体によるアフタートークを 24 回実施した。

■愛知芸術文化センター小ホール等公演 スケジュール

公演場所	団体名等	演目	公演日	入場者数
愛知芸術文化センター小ホール	ままごと	「日本の大人」（世界初演）	8 月 10 日(土) ～ 15 日(木)	1,425 人
	藤本隆行＋白井 剛	「Node／砂漠の老人」（劇場版世界初演）	8 月 23 日(金) ～ 25 日(日)	430 人
	やなぎみわ	「ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテープ」（新作）	8 月 30 日(金) ～ 9 月 1 日(日)	633 人
	梅田宏明	「4. temporal pattern」（日本初演）／「Holistic Strata」	9 月 6 日(金) ～ 8 日(日)	412 人
	イリ･キリアン	「EAST SHADOW」（世界初演）	9 月 14 日(土) ～ 16 日(月・祝)	585 人
	アルチュール・ノジシエル（オルレアン国立演劇センター）	「L’ IMAGE」（日本初演）	9 月 22 日(日) ～ 23 日(月・祝)	235 人
	清水靖晃＋カール・ストーン	「Just Breathing」	9 月 28 日(土)	196 人
	ARICA＋金氏徹平	「しあわせな日々」（新訳初演）	10 月 12 日(土) ～ 14 日(月・祝)	467 人
	ジェコ・シオンポ	「Terima Kos (Room Exit)」（日本初演）	10 月 18 日(金) ～ 20 日(日)	362 人
	マチルド・モニエ	「ピュディック・アシッド」／「エクスタシス」（日本初演）	10 月 26 日(土) ～ 27 日(日)	326 人
愛知芸術文化センター小ホール周辺	サミュエル・ベケット	「クワッド」	8 月 10 日(土) ～ 10 月 27 日(日)	―
愛知県美術館ギャラリーG	ペーター・ヴェルツ＋ウィリアム・フォーサイス	「whenever on on on nohow on	airdrawing」（日本初公開）（映像インスタレーション）	8 月 10 日(土) ～ 10 月 27 日(日)	―

■まちなか公演 スケジュール

公演場所	団体名等	演目	公演日	入場者数
康生会場 岡崎シビコ	向井山朋子＋ジャン・カルマン	「FALLING」（世界初演）（インスタレーション／パフォーマンス）	8 月 10 日(土) ～ 10 月 27 日(日) 週末ごとにパフォーマンス有	―
オアシス２１	プロジェクト FUKUSHIMA!（総合ディレクション：大友良英）	「フェスティバル FUKUSHIMA in AICHI!」	9 月 7 日(土)、8 日(日)	15,000 人
長者町会場周辺	ほうほう堂	「ほうほう堂＠おつかい」（新作）	9 月 21 日(土)、22 日(日)	1,949 人

■参加アーティスト・団体

	名前	生年	出身地（国）	公演場所
1	ARICA＋ 金氏徹平	2001 年結成 1978 年	日本	愛知芸術文化センター 小ホール
2	サミュエル・ベケット	1906 年	アイルランド	愛知芸術文化センター 小ホール周辺
3	藤本隆行＋ 白井剛	ー ー	日本 日本	愛知芸術文化センター 小ホール
4	ほうほう堂	2001 年結成	日本	長者町会場周辺
5	イリ･キリアン	1947 年	チェコ	愛知芸術文化センター 小ホール
6	ままごと	2009 年結成	日本	愛知芸術文化センター 小ホール
7	マチルド・モニエ	1959 年	フランス	愛知芸術文化センター 小ホール
8	向井山朋子＋ ジャン・カルマン	ー 1945 年	日本 フランス	岡崎地区康生会場
9	アルチュール・ノジシエル （オルレアン国立演劇センター）	1967 年	フランス	愛知芸術文化センター 小ホール
10	プロジェクト FUKUSHIMA! （総合ディレクション：大友良英）	2011 年結成	日本	オアシス２１
11	清水靖晃＋ カール・ストーン	1954 年 1953 年	日本 アメリカ	愛知芸術文化センター 小ホール
12	ジェコ・シオンポ	1975 年	インドネシア	愛知芸術文化センター 小ホール
13	梅田宏明	1977 年	日本	愛知芸術文化センター 小ホール
14	ペーター・ヴェルツ＋ ウィリアム・フォーサイス	1972 年 1949 年	ドイツ アメリカ	愛知県美術館 ギャラリーG
15	やなぎみわ	ー	日本	愛知芸術文化センター 小ホール

■チケット

団体名等・演目	料金	販売開始日
ままごと 「日本の大人」	前売：3,000 円　　当日：3,500 円 学生：1,000 円　　小学生以下：500 円	6 月 29 日(土)
藤本隆行＋白井剛 「Node／砂漠の老人」	前売：4,000 円　　当日：4,500 円 学生（前売）：2,500 円	
やなぎみわ 「ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテープ」	前売：4,000 円　　当日：4,500 円 学生（前売）：3,000 円	
梅田宏明 「4. temporal pattern」／「Holistic Strata」	前売：4,000 円　　当日：4,500 円 学生（前売）：2,500 円	
イリ･キリアン 「EAST SHADOW」	前売：6,000 円　　当日：6,500 円 学生（前売）：3,500 円	7 月 27 日(土)
アルチュール・ノジシエル（オルレアン国立演劇センター）「L’IMAGE」	前売：3,000 円　　当日：3,500 円 学生（前売）：1,000 円	
清水靖晃＋カール・ストーン 「Just Breathing」	前売：4,000 円　　当日：4,500 円 学生（前売）：2,500 円	
ARICA＋金氏徹平 「しあわせな日々」	前売：4,000 円　　当日：4,500 円 学生（前売）：2,500 円	
ジェコ・シオンポ 「Terima Kos (Room Exit)」	前売：4,000 円　　当日：4,500 円 学生（前売）：2,500 円	
マチルド・モニエ 「ピュディック・アシッド」／「エクスタシス」	前売：4,000 円　　当日：4,500 円 学生（前売）：2,500 円	

(2) プロデュースオペラ

・イタリア人指揮者 カルロ・モンタナーロと、新進気鋭の演出家 田尾下哲により、イタリアと日本の伝統と文化が交錯して生まれたオペラ「蝶々夫人」を上演した。
・日本の旋律が織り込まれた美しい音楽と斬新な舞台空間を、愛知芸術文化センター大ホールで展開した。
・関連事業として、中学・高校生を対象とするゲネプロ公開のほか、高校生以上の一般及び小学4年生～中学3年生を対象とする体験型のオペラ普及事業を実施した。

■スケジュール

会場	演目	公演日	入場者数
愛知芸術文化センター 大ホール	プッチーニ作曲「蝶々夫人」 （全 2 幕、イタリア語上演、日本語字幕付き）	9月14日(土)、 16日(月・祝) 両日とも15:00開演	4,285人

■参加アーティスト

	名前	役	生年	出身地（国）
1	カルロ・モンタナーロ	指揮	1969年	イタリア
2	田尾下 哲	演出	1972年	日本
3	安藤 赴美子	蝶々さん	―	日本
4	カルロ・バッリチェッリ	ピンカートン	―	イタリア
5	ジューリオ・ボスケッティ	シャープレス	―	イタリア
6	林 美智子	スズキ	―	日本

■チケット

公演日	料金	販売開始日
9月14日(土)、 16日(月・祝)	S席 15,000円　A席 12,000円　B席 9,000円 C席 6,000円　D席 3,000円（学生 2,000円）	3月30日(土)

■関連事業

行事名	開催日	対象	会場	参加者数
中学・高校生のためのゲネプロ公開	9月12日(木)	中学生 高校生	愛知芸術文化センター 大ホール	95人
大人も！ワクワク！オペラ体験！	9月13日(金)	高校生以上	愛知芸術文化センター 大ホール	386人
ワクワク！オペラ体験！	9月15日(日)	小学4年生～ 中学3年生	愛知芸術文化センター 大ホール	490人

3　普及・教育

(1) キッズトリエンナーレ

・子どもたちがアートを体感できる場として「キッズトリエンナーレ」を実施した。
・子どもたちが自由に創作活動を行うなど、アートを体験できるスタジオを愛知県美術館 8 階ギャラリー J 室に開設し、会期中、延べ 60,803 人が参加した。
・週末や夏休み期間中には、参加アーティスト自ら講師となる企画や新たに導入した公募企画など、子どもや親子を対象としたワークショップ（27 企画）を実施した。
・公募企画は、応募数 86 企画から 9 企画を選考した。

■開催概要

会　場	愛知芸術文化センター8 階　愛知県美術館ギャラリー（展示室 J）
開館日	8 月 10 日(土) ～10 月 27 日(日)
時　間	午前 10 時～午後 6 時
入場・参加費	無料

■いつでもプログラム

・「絵を描く」「工作する」だけではなく、普段ではできないようなアート体験ができるスタジオを設け、会期中いつでも誰でも、自由に参加できるプログラムを実施した。
・参加者は、家具や雑貨などを置いて日常の生活空間を再現した「きおくのへや」で、新聞紙を貼ったり絵の具を塗り重ねるなどして、この「へや」を 1 つの作品として作り上げていった。

■トリエンナーレ・キット

・ワークシートやグッズが入ったキットを会場で貸し出し、愛知芸術文化センターの展示会場で子どもや親子が楽しみながら現代美術の作品を鑑賞するプログラムを実施した。
・延べ 2,545 人の子どもたちが、7 種類から好きなキットを選んで作品鑑賞に活用した。

■ワークショップ（参加アーティストを講師としたプログラム）

・トリエンナーレに参加するアーティストがキッズトリエンナーレのために行うスペシャルワークショップを実施した。

タイトル	講師	開催日	参加者数
からだとけんちく！ まちの発見ワークショップ	ケーシー・ウォン	8 月 12 日(月)、 13 日(火)	66 人
「親子オーケストラ」ワークショップ	大友良英（音楽家、プロジェクト FUKUSHIMA!総合ディレクター）	8 月 31 日(土)、 9 月 1 日(日)	86 人
ほうほう堂 ダンス・ワークショップ	ほうほう堂	9 月 14 日(土)、 15 日(日)	52 人
オペラ『蝶々夫人』関連事業 ワクワク！オペラ体験！　※	オペラ「蝶々夫人」スタッフ・出演者	9 月 15 日(日)	490 人
音楽劇ワークショップ ～音楽を使ってストーリーを作ろう！～	田尾下 哲（プロデュースオペラ演出家）	9 月 22 日(日)、 23 日(月・祝)	76 人
『壊すこと』もアートなこと	西岳拡貴	10 月 26 日(土)、 27 日(日)	50 人
アニマル・ポップ・ダンスワークショップ	ジェコ・シオンポ	10 月 26 日(土)	21 人

※プロデュースオペラ関連事業（21 ページ）と同一事業

【音楽劇ワークショップ】

【『壊すこと』もアートなこと】

■ワークショップ（公募選考したプログラム）

・全国から応募のあった企画の中から選考したワークショップを実施した。

タイトル	講師	開催日	参加者数
my trace -「私」をなぞって壁画を描く-	河村るみ（美術家）	8 月 20 日(火)、 21 日(水)	75 人
海の音をつくり、感じてみる。	たむらひろし（ワークショップクリエイター）	8 月 22 日(木)、 23 日(金)	35 人
WA2013	日笠 保（美術作家）	8 月 27 日(火)、 28 日(水)	547 人
積んで作ろう☆紙コップランド	758 でまえワークショッパーズ	8 月 29 日(木)、 30 日(金)	576 人
みっける！町のあそびの天才！ みっけるキッズフェス！！	30 秒に一回みっける写真道場!!	8 月 31 日(土)、 9 月 1 日(日)	39 人
ダンスでピチピチ★われら 「おのまとぺてぃすた」！	外山晴菜（振付師・ダンサー）	9 月 7 日(土)、 8 日(日)	32 人
私の心が雲に乗る！	石上和弘（彫刻家）	9 月 28 日(土)、 29 日(日)	443 人
微分帖/ビブンマンガ/びぶんえほん	宮田 篤（美術家）	10 月 5 日(土)、 6 日(日)	307 人
えーい！とポーズをなぞって、どーん！ とおおきな街をえがくよ！	伊奈章之（美術家）	10 月 19 日(土)、 20 日(日)	225 人

■ワークショップ（トリエンナーレスタッフや他の団体等との連携によるプログラム）

・トリエンナーレスタッフが講師を務めたり、愛知県児童総合センター等との連携によるプログラムを実施した。

タイトル	講師等	開催日	参加者数
マーキング・リレー	トリエンナーレスタッフ	8 月 10 日(土)、 11 日(日)	223 人
ちいさなものをおおきくすると	トリエンナーレスタッフ	8 月 14 日(水) ～ 16 日(金)	69 人
オープンアーキテクチャー 愛知芸術文化センター「親子で劇場探検」　※	愛知芸術文化センター	8 月 15 日(木)	372 人
ダンボールでサバイバル！	藤村和成（ハウス・パブリッシング福祉デザイン研究所）+トリエンナーレスタッフ	8 月 17 日(土)、 18 日(日)	54 人
はかってジャスト！	トリエンナーレスタッフ	8 月 26 日(月)	10 人
プログラミングで作品鑑賞？ Ｖiscuit でつくるトリエンナーレ	NPO 法人デジタルポケット+トリエンナーレスタッフ	9 月 14 日(土) ～ 16 日(月・祝)	339 人
現代アートとあくしゅ アートにはくしゅ	愛知県美術館鑑賞学習ワーキンググループ	9 月 21 日(土)	79 人
だいちのルール	トリエンナーレスタッフ	9 月 21 日(土)	22 人
せんのとりで	愛知県児童総合センター	10 月 12 日(土) ～ 14 日(月・祝)	749 人

※オープンアーキテクチャー（31 ページ）と同一事業

【my trace-「私」をなぞって壁画を描く-】

【せんのとりで】

■高校生を対象としたワークショップ

タイトル	講師等	開催日	参加者数
作品をよく観察し、分析して言葉にする	池田剛介	8 月 24 日(土)、 25 日(日)	10 人
平成 25 年度愛知県高等学校文化連盟実技講習会 高校生とトリエンナーレで見て知り考えるトーク	愛知県高等学校文化連盟 美術・工芸専門部会	8 月 22 日(木)	208 人

■つながる！79 のキーワード

・トリエンナーレの会期中の毎日、１つのキーワードをカードにしてスタジオ内に掲示し、そこから連想することばを来場者が次々とつなげていくプログラムを実施した。

(2) 学校向けプログラム

・アートとの出会いを通じて、より多くの子どもたちの感性や創造性の成長に働きかけるため、学校向けプログラムを実施した。

■学校向け団体鑑賞プログラム

・授業、校外学習、部活動など様々な学校行事を活用して、児童・生徒に世界最先端の現代美術に触れてもらうため、学校向け団体鑑賞プログラムを実施した。
・愛知県内各地域から幅広く参加があったほか、県外からも参加があり、合わせて 130 校、5,089 人の児童・生徒が来場した。

会場	愛知芸術文化センター会場	名古屋市美術館会場
実施日	8 月 20 日(火) ～10 月 25 日(金)の毎日 (土、日、祝日、休館日を除く)	8 月 20 日(火) ～10 月 25 日(金)の火曜日と金曜日 (休館日を除く)
鑑賞方法	以下の３つから選択 ① ガイダンス及びグループ単位でのツアー鑑賞 (ガイドツアーボランティアが案内) ② ガイダンス及び自由鑑賞 ③ 自由鑑賞	・ガイダンス及び自由鑑賞 ・各回 80 人まで
観覧料	無料 (引率の教員を含む)	

○実績 (学校数)

小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	計
18 校 [4 校] (13.8%)	55 校 [2 校] (42.3%)	40 校 (30.8%)	7 校 (5.4%)	10 校 (7.7%)	130 校 (100.0%)

[ ]は特別支援学級数で内数

○実績 (人数)

小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	計
1,211 人 (23.8%)	1,697 人 (33.3%)	1,569 人 (30.8%)	523 人 (10.3%)	89 人 (1.7%)	5,089 人 (100.0%)

○実績 (地域別・学校数)

名古屋市	尾張	海部	知多	西三河	東三河	県内計	岐阜県	滋賀県	三重県	静岡県	東京都	和歌山県	県外計	計
39	28	11	9	13	11	111	5	1	6	4	2	1	19	130

■学校等へのアーティスト派遣事業

・子どもたちが授業等の中で現代アートに身近に触れる機会を作るため、学校に参加アーティストを派遣した。

・3 組のアーティストが愛知県内の 6 校を訪れ、子どもたちと一緒に作品制作やワークショップを行い、その成果が出品作品に反映された。

派遣アーティスト	内容	派遣先	日程	参加人数
下道基行 （現代美術）	「14 歳と世界と境」をテーマとした特別授業で生徒たちが作成した文章を再構成し、納屋橋会場で出品作品として発表した。また、中日新聞の連載コーナーにそれらの文章が掲載された。	愛知教育大学附属岡崎中学校	4 月 12 日(金)、 16 日(火)	158 人
		大府市立 大府中学校	5 月 7 日(火)、 10 日(金)、 13 日(月)、 17 日(金)	297 人
		刈谷市立 刈谷東中学校	7 月 9 日(火) 11 日(木)、 16 日(火)、 17 日(水)	240 人
マーロン・ グリフィス （現代美術）	アーティストの作品であるパレード≪太陽のうた≫で用いるマスクを生徒たちと一緒に制作した。8 月に名古屋市内で実施したパレードに、生徒たちはこのマスクを着けて参加した。	愛知県立 愛知工業高等学校	5 月 22 日(水)、 6 月 12 日(水)	38 人
ままごと （パフォーミングアーツ）	シアターゲームを通して気持ちと身体をほぐした後、上演作品「日本の大人」の試演を鑑賞した。その後、子どもたちが作品に関連した演技に挑戦するワークショップを行った。	名古屋市立 大宝小学校	7 月 9 日(火)	66 人
		豊橋市立 松山小学校	7 月 11 日(木)	45 人

【下道基行】

【マーロン・グリフィス】

【ままごと】

(3) パブリック・プログラム

・トリエンナーレをより身近に感じてもらうため、広く一般を対象とした「パブリック・プログラム」を実施した。
・参加アーティストによるトークやディスカッションなどを通してトリエンナーレに深くアプローチし、考え方の広がりや変化を促すとともに、現代社会とアートとの関係について考える機会を提供した（42 企画）。

■エントランス プログラム

・今回のテーマ「揺れる大地―われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活」を具現化する内容のシンポジウムや、参加アーティストのパフォーマンス等をとおして、あいちトリエンナーレ 2013 の開幕を来場者にアピールした。

行事名	開催日	会場	参加者数
国際シンポジウム「現代ケンチクの日本」　※	8 月 11 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース A	180 人
ミハイル・カリキス パフォーマンス	8 月 11 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース A	160 人
オープニングシンポジウム「カタストロフという機会-The Opportunity of Catastrophe-」	8 月 11 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース A	140 人

※国際交流基金との共催事業（33 ページ）と同一事業

■スポットライト

・一人の参加アーティストに脚光を当て、出品作品やそのプロセス、裏話などをじっくりと語ってもらうレクチャースタイルのプログラムを実施した。

行事名	開催日	会場	参加者数
やなぎみわ	8 月 11 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース G	111 人
ヤノベケンジ	9 月 7 日(土)	愛知芸術文化センター アートスペース A	220 人
青木淳　杉戸洋（スパイダース）	9 月 14 日(土)	名古屋市美術館 講堂	270 人
ミッチ・エプスタイン	9 月 23 日(月・祝)	愛知芸術文化センター アートスペース G	108 人
名和晃平	9 月 29 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース A	315 人
ダン・ペルジョヴスキ	10 月 5 日(土)	愛知芸術文化センター アートスペース H	77 人
横山裕一	10 月 5 日(土)	長者町会場	65 人
岡本信治郎	10 月 12 日(土)	愛知芸術文化センター アートスペース G	83 人

■イン・ディスカッション

・会期中にプロジェクト形式で作品を制作する参加アーティストによる、制作過程の報告や制作体験についてのディスカッションを実施した。

行事名	開催日	会場	参加者数
藤村龍至／あいちプロジェクト		愛知芸術文化センター アートスペースＥＦ	
中間発表	9 月 21 日(土)		50 人
最終発表	10 月 6 日(日)		82 人

■クロス・キーワード

・分野を越えたアーティストや専門家によるトークセッションで、この地域の特性や魅力を、現代アートや喫茶店文化、考現学などさまざまな切り口から探るプログラムを実施した。

行事名	開催日	会場	参加者数
「名古屋のオルタナティブスペース」	8 月 16 日(金)	愛知芸術文化センター アートスペース G	65 人
「ベロタクシーを利用したトリエンナーレの楽しみ方」	8 月 18 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース G	50 人
「喫茶店文化にみるあいち気質」	9 月 8 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース G	71 人
「オフィシャルグッズ・学生コンペティションの裏側」	9 月 15 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース G	69 人
「建築から名古屋をおもしろく！若手建築家と学生の挑戦」	9 月 20 日(金)	愛知芸術文化センター アートスペース G	78 人
「79 のキーワードの裏側」	9 月 21 日(土)	愛知芸術文化センター アートスペース G	80 人
「考現学で見るあいちのまちと暮らし」	9 月 22 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース G	72 人
「さまたげではない障がい：サスティナブルなコミュニティを育むには？」	10 月 11 日(金)	愛知芸術文化センター アートスペース G	39 人
「ICA,Nagoya と名古屋の現代アート」	10 月 13 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース G	92 人
「ベケットへ／ベケットから」	10 月 14 日(月・祝)	愛知芸術文化センター アートスペース G	63 人
「大震災と文化財 場所、記憶、そして…」	10 月 19 日(土)	愛知芸術文化センター アートスペース A	97 人
「あいちの結婚式“ハデ婚”でデフレ脱却めざせ」	10 月 20 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース G	50 人

■ガイドツアー

・キュレーターとしての専門性やボランティアならではの視点を生かして作品を紹介するガイドツアーを実施した。

キュレーターガイドツアー	開催日	会場	参加者数
住友文彦	8 月 18 日(日)	愛知芸術文化センター	28 人
飯田志保子	8 月 24 日(土)	愛知芸術文化センター	30 人
五十嵐太郎	9 月 23 日(月・祝)	愛知芸術文化センター	50 人

※この他、ボランティアによるガイドツアーを各会場にて実施

■視覚に障がいのある方との鑑賞会

・視覚に障がいのある方が、ボランティアスタッフと一緒に作品について話したり、触ったりして現代アートを鑑賞した。

行事名	開催日	会場	参加者数
視覚に障がいのある方との鑑賞会（主催：愛知県鑑賞学習普及事業実行委員会）	9 月 28 日(土)、10 月 3 日(木) ※2 回	愛知芸術文化センター	86 人

【クロス・キーワード】

【クロージングイベント】

■連携プログラム

・トリエンナーレという機会をきっかけに、愛知県内外の団体と連携し、地域や分野を越えた交流を図ることを目指したプログラムを実施した。

行事名	開催日	会場	参加者数
クロス・キーワード特別企画「あいちトリエンナーレを支える名古屋のデザイン力」（主催：クリエイティブ・デザインシティなごや推進事業実行委員会）	8 月 17 日(土)	ナディアパーク 2 階 アトリウム	110 人
「露呈される大地 ／エネルゲイア―青森 EARTH への返信」（主催：青森県立美術館）	8 月 25 日(日)	愛知芸術文化センター アートスペース A	111 人
せんだいスクール・オブ・デザインあいちトリエンナーレ分校（主催：せんだいスクール・オブ・デザイン（東北大学＋仙台市)）		愛知芸術文化センター アートスペース G 他	156 人
ワークショップオープニングトークイベント「せんだいスクール・オブ・デザインとは」	10 月 5 日(土)		
ワークショップ 1：メディア軸「スローウォークで街を観察する」	10 月 5 日(土)、 6 日(日)		
ワークショップ 2：環境軸「名古屋凹凸地形探索」	10 月 5 日(土)、 6 日(日)		
ワークショップ 3：社会軸「復興のアーカイブ」	10 月 5 日(土)、 6 日(日)		
ワークショップ 4：コミュニケーション軸「3.11 シンサイカルタ」	10 月 5 日(土)、 6 日(日)		
クロージングトークイベント「デザインとローカリティ」	10 月 6 日(日)		
公開コロキウム「アートによって何が始まったのか－越後-瀬戸内/神戸/あいち」（主催：科学研究費（基盤Ａ）共同研究「社会システム＜芸術＞とその変容－理論構築」）	10 月 19 日（土）	愛知芸術文化センター アートスペース A	210 人

■アクセスプログラム

・新たな視点から作品の魅力を捉えるためのワークショップなどを通じて、アートを楽しむための新しい考え方や手段を提供した。

行事名	開催日	会場	参加者数
ベクトルワークショップ	8 月 23 日(金)	愛知芸術文化センター アートスペース G	5 人
アクセスプログラム基調講演	8 月 31 日(土)	愛知芸術文化センター アートスペース G	47 人
オペラ「蝶々夫人」関連事業 大人も！ワクワク！オペラ体験！ ※	9 月 13 日(金)	愛知芸術文化センター 大ホール	386 人

※プロデュースオペラ関連事業（21 ページ）と同一事業

■クロージングイベント

・トリエンナーレの締めくくりとして、芸術監督やトリエンナーレに携わった各分野のスタッフが来場者の質問に答える「Q&A 方式」のトークセッションを行った。

行事名	開催日	会場	参加者数
あいちトリエンナーレ 2013 に関する「Q&A」	10 月 25 日(金)	名古屋市美術館 講堂	191 人

(4) その他

■ボランティアによるガイドツアー

・ボランティアが 2～4 人体制で、1 回あたり 45 分程度のガイドツアーを愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、岡崎の康生会場の 5 か所で行った（事前予約なし、参加無料）。

・愛知芸術文化センターでは休館日を除く毎日、それ以外の会場では週末を中心に、計 459 回のガイドツアーを実施し、8,242 人が参加した。

会場	日程（所要時間 45 分程度）	実施回数	参加人数
愛知芸術文化センター10 階	毎日（各 2 回、金曜のみ 3 回）	146 回	2, 889 人
愛知芸術文化センター8 階	毎日（各 2 回、金曜のみ 3 回）	148 回	2, 404 人
名古屋市美術館	会期中の木・土・日曜日と祝日（各 2 回）	65 回	1, 165 人
長者町会場	会期中の土・日曜日と祝日（各 2 回）	50 回	691 人
納屋橋会場	会期中の土・日曜日と祝日（各 1 回）	25 回	521 人
康生会場	会期中の土・日曜日と祝日（各 1 回）	25 回	572 人
計		459 回	8, 242 人

■一般向け団体鑑賞プログラム

・ガイダンスや作品解説を希望する 20 人以上の団体を対象に、愛知芸術文化センターにおいてボランティア等による一般向け団体鑑賞プログラム（要事前申し込み）を実施し、20 団体 557 人が参加した。

■聴覚障がい者を対象としたガイドツアー

・聴覚に障害のある方を対象に、要約筆記によるボランティアガイドツアーを 2 回実施し、12 人が参加した。

■普及教育リーフレットの発行

・参加アーティストであるオノ・ヨーコの作品をメインビジュアルとして掲載したリーフレットや、国際美術展チケットの割引券を付けたキッズトリエンナーレの参加者募集チラシを作成し、愛知県内の小中学校、高等学校及び特別支援学校の全児童・生徒に配布した。

・参加アーティストのメッセージ等を折り紙にして楽しみながら読める普及チラシを発行し、美術館や図書館等の公共施設やショッピングセンターなどで配布した。

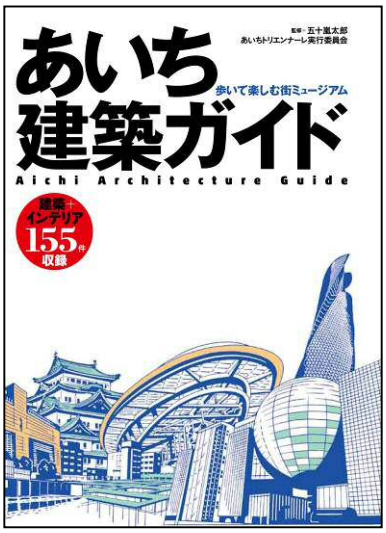
Yoko Ono ©2012

4　建築関連プロジェクト

(1) あいち建築ガイド

・建築の視点からまちの魅力を再発見する機会を提供するため、まちなかの建築物等を解説するガイドブック「あいち建築ガイド」を作成した。

発売日	7 月 27 日(土)
販売額	840 円（税込）
発行部数	17,000 部
販売場所	・全国の主要書店及びオンライン書店 ・トリエンナーレオフィシャルショップ　等
内容	・トリエンナーレ会場周辺の「栄」、「伏見」、「岡崎」を中心とした 8 つのエリアにある建築物やインテリアの主要スポット 155 件について、その魅力をマップ付きで紹介 ・まちの魅力を再発見するヒントとなるコラムなどを掲載
監修	・五十嵐太郎(あいちトリエンナーレ 2013 芸術監督) ・あいちトリエンナーレ実行委員会
制作・発行	株式会社美術出版社



(2) オープンアーキテクチャー

・普段一般公開されていない建築物等をガイドツアー形式で紹介する「オープンアーキテクチャー」を実施した（14 件)。

・「オープンアーキテクチャー推進チーム」を設置し、企画・運営を行った。

■スケジュール

	会場	開催日	備考	参加者数
1	愛知芸術文化センター（名古屋市東区）	8 月 15 日(木)		372 人
2	愛知産業大学言語・情報共育センター（岡崎市）	8 月 21 日(水)	設計＝栗原健太郎＋岩月美穂／studio velocity★	73 人
3	珈琲エーデルワイス（名古屋市東区） ボンボン桜山店（名古屋市昭和区）	8 月 24 日(土)	「名古屋の喫茶店」の著者大竹敏之によるガイド	28 人
4	爲三郎記念館（古川美術館分館）（名古屋市千種区）	8 月 28 日(水)		26 人
5	四間道・伊藤家住宅（名古屋市西区）※個人邸	9 月 1 日(日)		30 人
6	CmSOHO/The Garden 覚王山（名古屋市千種区）※個人邸	9 月 7 日(土)	設計＝吉村昭範＋吉村真基／D.I.G Architects	27 人
7	M House（名古屋市千種区）※個人邸	9 月 7 日(土)	設計＝吉村昭範＋吉村真基／D.I.G Architects	20 人
8	丸栄（名古屋市中区）	9 月 8 日(日)	設計＝村野藤吾／村野・森建築事務所	28 人
9	名古屋市美術館（名古屋市中区）	9 月 14 日(土)	設計＝黒川紀章建築都市設計事務所、名古屋市建築局	270 人
10	都市に開いていく家（名古屋市瑞穂区）※個人邸	9 月 15 日(日)	設計＝栗原健太郎＋岩月美穂／studio velocity★	68 人
11	名古屋陶磁器会館（名古屋市東区）	9 月 27 日(金)、28 日(土)	田尾下哲の書き下ろしによる朗読劇を実施	166 人
12	コルゲートハウス（豊橋市）※個人邸	10 月 5 日(土)	設計＝川合健二	34 人
13	透明な地形（岡崎市）※個人邸	10 月 12 日(土)	設計＝南川祐輝建築事務所	27 人
14	bird house（名古屋市）※個人邸	10 月 13 日(日)	設計＝宮本佳明建築設計事務所★	25 人

★あいちトリエンナーレ 2013 参加アーティスト

５　モバイル・トリエンナーレ（移動型展示）

・トリエンナーレ会期中の週末を中心に、参加アーティスト 17 名の作品 47 点を、愛知県内 4 か所の文化施設等において巡回展示した（入場無料）。
・トリエンナーレ本展で展示される作品とは異なる作品を展示した。
・作品展示に併せ、ワークショップや作品ガイドツアーなどを開催した。

■出品アーティスト

現代美術	青木野枝、青野文昭、池田剛介、岡本信治郎、オノ・ヨーコ、國府 理、竹田尚史、丹羽良徳、彦坂尚嘉、藤森照信、ヤノベケンジ、山下拓也、横山裕一、渡辺 豪
映像プログラム	川口恵里、姫田真武、ひらのりょう

■開催地及び日程

開催市町	会場	日程	日数	入場者数
豊橋市	穂の国とよはし芸術劇場プラット	8 月 23 日(金) ～25 日(日)	3 日	2,186 人
知多市	知多市歴史民俗博物館	9 月 13 日(金) ～16 日(月・祝)	4 日	1,120 人
春日井市	文化フォーラム春日井	9 月 20 日(金) ～23 日(月・祝)	4 日	3,569 人
東栄町	旧東部小学校	9 月 27 日(金) ～29 日(日)	3 日	350 人

■ワークショップ

開催市町	タイトル	開催日	参加者数
豊橋市	山下拓也「かぶると頭がグィーンと回る君だけ!の面」	8 月 24 日(土)	46 人
知多市	國府 理「動く消しゴム、空飛ぶ色鉛筆をつくろう」	10 月 5 日(土)	12 人
春日井市	池田剛介「作品について作家とともに考え・話す」	9 月 21 日(土)	11 人
東栄町	竹田尚史「コンセプチュアル・アート??」	9 月 28 日(土)	22 人

■プレ・ワークショップ（公益財団法人かすがい市民文化財団主催）

開催市町	タイトル	開催日	参加者数
春日井市	竹田尚史「アート作品にみんなの村をつくろう!」	8 月 30 日(金)	138 人

■主催

・あいちトリエンナーレ実行委員会
・豊橋市、公益財団法人豊橋文化振興財団（豊橋会場）
・公益財団法人かすがい市民文化財団、春日井市（春日井会場）
・知多市、知多市教育委員会（知多会場）
・東栄町、東栄町教育委員会（東栄会場）

【豊橋会場】

【知多会場】

【春日井会場】

【東栄会場】

６　共催・連携事業

(1) 国際交流基金との共催事業

・「揺れる大地」をテーマに、建築的な要素を強く打ち出しているトリエンナーレの関連イベントとして、国際交流基金と共催で国際シンポジウムを開催した。

行事名	会場	開催日	入場者数
国際シンポジウム「現代ケンチクの日本」	愛知芸術文化センター アートスペース A	8 月 11 日(日)	180 人

(2) 祝祭ウィーク事業

・会期中に祝祭ウィークを設け（9 月 30 日（月）～10 月 6 日（日）の 7 日間)、愛知芸術文化センターの大ホール、コンサートホール及び小ホールで、企画公募により選考した 14 の地元文化芸術団体等と共催で舞台公演を行った（応募数：25 の団体・個人)。

・全 23 公演の総入場者数は 12,050 人であった。

■事業一覧

会場	団体名	公演日	公演名	入場者数
大ホール	松本道子バレエ団	10 月 1 日(火)	Aichi Triennale 2013「トリプル・ビル」公演 レ・シルフィード／火の鳥／ダッタン人の踊り	1,456 人
	名古屋芸術大学	10 月 3 日(木)	あいちトリエンナーレ 2013 祝祭ウィーク　ショービジネスに乾杯!	1,350 人
	Yoko Tsukamoto　テアトル・ド・バレエ カンパニー	10 月 5 日(土)	NEXT SPRING〈オアシス／火の鳥〉	2,039 人 (2 公演)
	ジャズ・ラブ・オーケストラ	10 月 6 日(日)	ジャズ・ラブ・オーケストラと素敵な仲間達	1,370 人
コンサートホール	「NEXT」くりもとようこ＆野々村明子	9 月 30 日(月)	くりもとようこ＆野々村明子 企画・構成 静かなる大地	410 人
	Groupe Créatif K ～ Kae KURACHI & Tamami KODAMA	10 月 2 日(水)	光の記憶 第二章～KAGUYA～	980 人 ※1
	一般社団法人 セントラル愛知交響楽団	10 月 4 日(金)	モーツァルト～3 台のグランドピアノの祝典	1,059 人 ※2
	長屋弘子	10 月 5 日(土)	あいちの声楽家たちによる “異人たちの響演”	1,058 人
	奥村晃平	10 月 6 日(日)	オペラティックな現代日本歌曲とブラームス歌曲集「マゲローネのロマンス」演奏会	617 人
小ホール	「Re:」製作実行委員会	9 月 30 日(月)	ART IN WONDERLAND　Re：ALICE リ・アリス	816 人 (6 公演)
	SOM 企画	10 月 2 日(水)	サ××ド・オブ・ミュージック	228 人
	水野みか子	10 月 3 日(木)	音楽の未来形 vol.1～gendai-ongaku～～新作室内楽・電子音響音楽フェスト～～	112 人
	社団法人 現代舞踊協会中部支部	10 月 5 日(土)	コンテンポラリーダンス 2013「空間飛行」	404 人 (2 公演)
	三代舞踊団	10 月 6 日(日)	Anthology of American Jazz Dance	151 人

※1　公開ゲネプロを含む

※2　プレ公演を含む

(3) 地元大学等との連携

・地元大学等と連携して、芸術大学連携プロジェクトとして展覧会や講座を実施したほか、作品制作や作品運営などにおいても多くの協力を得た。

■芸術大学連携プロジェクト

・愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学と連携し、「大学連携プロジェクト」として、長者町会場にある「アートラボあいち」2、3階で、展覧会を実施した。
・展覧会は、３つの芸術大学から１名ずつ選ばれたキュレーターが、それぞれにテーマを決めて企画。大学を横断して、在校生、卒業生を中心とした作品を展示した。
・また、愛知芸術文化センターで、３つの芸術大学の先生方による座学、体験講座を実施した。

○アートラボあいちでの展覧会

展覧会名	企画者	日程	入場者数
Draw the World ー世界を描く	小西信之(愛知県立芸術大学准教授)	8月9日(金) ～ 9月1日(日)	7,826人
造形プロセッシング	吉岡俊直(名古屋造形大学准教授)	9月7日(土) ～ 29日(日)	13,096人
Primordial Essence ー根源と本質	須田真弘(名古屋芸術大学准教授)	10月4日(金) ～ 27日(日)	15,204人

※入場者数はアートラボあいちの入館者数

【アートラボあいち】

○座学・体験講座

区分	会場	講座名	講師	日程	参加者数※
座学	愛知芸術文化センターアートスペースE・F	アートとはじめる／何かがかわる	長田謙一(名古屋芸術大学美術学部教授)	8月30日(金)	27人
		そもそも公共の芸術コンペは何を目指していたのか？	高梨光正(愛知県立芸術大学美術学部准教授)	9月6日(金)	19人
		ポストモダンの歩き方	三頭谷鷹史(名古屋造形大学造形学部特任教授)	9月13日(金)	29人
体験講座	愛知芸術文化センターアートスペースH	絵画の筆法を学んで体感しよう	吉本作次(名古屋芸術大学美術学部教授)	8月20日(火)	17人
		オリジナルの昆虫をデザインする	水内智英(名古屋芸術大学デザイン学部講師)	8月21日(水)	8人
		国宝を写すー鳥獣戯画の線描表現	阪野智啓(愛知県立芸術大学美術学部講師)	8月22日(木)	24人
		金属彫刻入門ースチレンボードによるマケット作り	村尾里奈(愛知県立芸術大学美術学部講師)	8月27日(火)	7人
		自分のデザインで缶バッジを作ろう	東仲雅明(名古屋造形大学造形学部教授)	8月28日(水)	9人
		カメラオブスクラを作ろう	小林亮介(名古屋造形大学学長)	8月29日(木)	11人

※参加者数には見学者を含む

■作品制作やキッズトリエンナーレのサポート等

・出品作家の作品制作や会期中の作品運営等に際して、作業スタッフなどで協力を得た。

区分	学校名
大学	愛知学泉大学、愛知県立芸術大学、大同大学、椙山女学園大学、名古屋大学、 名古屋学芸大学、名古屋芸術大学、名古屋工業大学、名古屋造形大学、南山大学
高等学校	愛知工業高等学校
中学校	愛知教育大学附属岡崎中学校、大府市立大府中学校、刈谷市立刈谷東中学校
小学校	名古屋市立大宝小学校、豊橋市立松山小学校

■芸術監督、キュレーターによる大学訪問

・学校主催の行事等において、トリエンナーレの概要説明などを行い、広報・PR の面で協力を得た。

学校名	内容
名古屋造形大学	平成 24 年 6 月 27 日(水) 五十嵐芸術監督による講話
名古屋大学	平成 25 年 6 月 29 日(土) キュレーター（拝戸雅彦)、出品作家（竹田尚史）による講話
名古屋芸術大学	平成 25 年 10 月 14 日(月・祝) 名古屋芸術大学ラジオ番組「ア”―ッ！ラジオ」に生出演 出演者：五十嵐芸術監督、キュレーター（拝戸雅彦）

■オープンアーキテクチャーにおける演奏会の実施支援

・普段公開されていない建築物等をガイドツアー形式で紹介する「オープンアーキテクチャー」において、演奏会の企画や実施の協力を得た。

学校名	内容
愛知県立芸術大学	平 25 年 8 月 15 日(木) 愛知芸術文化センター「親子で劇場探検」での卒業生による「ブレーメンの音楽隊」 （企画、ヴァイオリン、ヴィオラ、ピアノ、オーボエ、テノール）
名古屋音楽大学	平成 25 年 8 月 21 日(水) 愛知産業大学言語・情報共育センターでの在校生によるサクソフォンアンサンブル （企画、サクソフォン、パーカッション）
名古屋芸術大学	平成 25 年 9 月 8 日(日) 丸栄での在校生・卒業生による屋上の音楽会 （企画、ソプラノ、ピアノ、電子オルガン）

(4) 特別連携事業

・愛知県内の美術館やホール等において、あいちトリエンナーレ 2013 と同時期にトリエンナーレのテーマや企画と連携して実施される事業を「特別連携事業」とし、一体的かつ相互に広報展開を図った。

■展覧会

会場	会期	展覧会名
豊田市美術館	9 月 14 日(土) ～ 12 月 24 日(火)	反重力ー浮遊｜時空旅行｜パラレル・ワールド

■舞台公演

会場	公演日	公演団体「公演名」
穂の国とよはし芸術劇場プラット	8 月 17 日(土)、 18 日(日)	ままごと「日本の大人」

■オープンアーキテクチャー

会場	開催日	主催団体
名古屋大学（名古屋市千種区）	8 月 20 日(火)	クリエイティブ・デザインシティなごや推進事業実行委員会
南山大学 名古屋キャンパス（名古屋市昭和区）	10 月 6 日(日)	
名古屋市公会堂（名古屋市昭和区）	9 月 19 日(木)	名古屋市公会堂指定管理者 愛知県舞台運営事業協同組合
半田赤レンガ建物（半田市）	9 月 21 日(土)～23 日(月・祝)、9 月 28 日(土)、29 日(日)、10 月 5 日(土)、6 日(日)	赤煉瓦倶楽部半田、半田市
八丁味噌カクキュー本社事務所・蔵（資料館）（岡崎市）	9 月 23 日(月・祝)	愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
田園オフィス／株式会社都工業（豊田市）	9 月 29 日(日)	日本建築学会東海支部（設計計画委員会）
白雲閣（名古屋市緑区）	10 月 13 日(日)	なごや歴まちびとの会、（公財）名古屋まちづくり公社
名古屋テレビ塔（名古屋市中区）	10 月 19 日(土)、 20 日(日)	ソーシャルタワープロジェクト実行委員会

(5) 並行企画事業

・あいちトリエンナーレ 2013 と同時期に開催される先端的な現代美術展や舞台芸術を「並行企画事業」として紹介し、一体的かつ相互に広報展開を図った。

■事業一覧

会場	会期・公演日	展覧会名・公演名
愛知県陶磁美術館	8 月 3 日(土) ～ 9 月 29 日(日)	2013 アジア現代陶芸―新世代の交感展
愛知県立芸術大学芸術資料館 愛知県立芸術大学サテライトギャラリー	8 月 25 日(日) ～ 9 月 8 日(日)	国際交流展『ななないろ』
愛知県立芸術大学サテライトギャラリー	8 月 9 日(金) ～ 19 日(月)	グラハム・エラード＆ステファン・ジョンストン『EVERYTHING MADE BRONZE』
岡崎市美術博物館	8 月 17 日(土) ～ 10 月 20 日(日)	ユーモアと飛躍 そこにふれる
豊田市美術館	6 月 8 日(土) ～ 9 月 1 日(日)	フランシス・ベーコン展
豊田市美術館	7 月 20 日(土) ～ 8 月 18 日(日) 10 月 12 日(土) ～ 27 日(日)	高橋匡太―ひかりのプロジェクト@豊田―
碧南市藤井達吉現代美術館	7 月 17 日(水) ～ 9 月 1 日(日)	記憶のモニュメント その軌跡の展開 石黒鏘二展
阿久比町立中央公民館南館	10 月 1 日(火) ～ 31 日(木)	栗本百合子 異空間プロジェクト『記憶の遊園地』
三重県立美術館	7 月 13 日(土) ～ 9 月 23 日(月・祝)	三沢厚彦 ANIMALS 2013 in 三重
ヤマザキマザック美術館	7 月 19 日(金) ～ 9 月 29 日(日)	夏の思い出 森の夢―不思議ないきものたち―
古川美術館 分館爲三郎記念館	8 月 10 日(土) ～ 10 月 6 日(日)	高北幸矢インスタレーション Vol.2『落花、夏の夢。』
中京大学アートギャラリーC・スクエア	9 月 23 日(月・祝) ～ 10 月 12 日(土)	第 114 回企画 楢橋朝子展『―堀川(horikawa horizon)―』
名古屋芸術大学 アート＆デザインセンター	8 月 10 日(土) ～ 9 月 18 日(水)	桑山忠明『Titanium-Art as Space, Space as Art』
七ツ寺共同スタジオ	10 月 12 日(土) ～ 14 日(月・祝) 10 月 17 日(木) ～ 20 日(日) 10 月 24 日(木) ～ 27 日(日)	クール・ガイア―ベケットの路地裏から―
七ツ寺共同スタジオ	9 月 12 日(木) ～ 17 日(火)	御空羅供の晩餐―纐纈敏郎＆ノロ燐展
うりんこ劇場	8 月 10 日(土)、 11 日(日)	アルヴィン・スプートニクの深海探検

(6) パートナーシップ事業

・民間企業や自治体、地元文化芸術団体等が原則として愛知県内で行う文化芸術事業を「パートナーシップ事業」として募集し、相互の広報協力や相互の入場料金の割引を行った。
・平成 24 年 8 月から募集を行い、364 件を決定した。
・応募分野は、全体の 3 分の 2 を占める美術のほか、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能など多岐に渡った。地域別では、全体の 3 分の 2 を占める名古屋のほか、愛知県内の各地域から幅広く応募があった。

■分野別内訳

美術	音楽	演劇	舞踊	伝統芸能	その他	合計
231 件 (63.5%)	60 件 (16.5%)	11 件 (3.0%)	12 件 (3.3%)	9 件 (2.5%)	41 件 (11.3%)	364 件 (100.0%)

■地域別内訳

名古屋	尾張	西三河	東三河	その他	合計
232 件 (63.7%)	54 件 (14.8%)	66 件 (18.1%)	9 件 (2.5%)	3 件 (0.8%)	364 件 (100.0%)

■事業一覧

No.	事業名
1	ジルダールギャラリー andrew vorland 展
2	学校法人安城学園創立 100 周年記念 愛知学泉ウィンドオーケストラ メモリアルコンサート
3	ワーグナープロジェクト名古屋 リヒャルト・ワーグナー作曲 舞台神聖祝祭劇「パルジファル」全三幕
4	いのちのひびき ～銀河系 R49～
5	三河・佐久島アートプラン 21 「佐久島体験 2012 祭りとアートに出会う島」
6	第 13 回コンテンポラリーミュージックコンサート
7	めいおんジャズコンサート
8	名古屋音楽大学 第 36 回 オーケストラ定期演奏会
9	名古屋音楽大学 第 10 回 邦楽演奏会
10	すくいとられたカタチ FORMS IN FLUX:ボストン美術館芸術大学×愛知県立芸術大学
11	第 12 回長者町ゑびす祭り
12	いけばなスペース第 5 回いけばな展 －有松町並み保存地区町屋にいける－
13	広ぶら芸ぶら文化祭 広小路アートストリート
14	第 20 回記念 紅の会書展 併催個展 紅琳の世界
15	天使の森プロジェクト展 KIMIO TSUCHIYA ART PROJECT TEAM
16	平成 25 年度 古川美術館特別展「愛知県立芸術大学退任記念 松村公嗣」
17	平成 25 年度 爲三郎記念館 特別展「7 つの旅～現代作家による饗宴(コラボレーション)」
18	第 3 回 JSGaA 日本ステンドグラス作家協会展 2013 名古屋 "EMOTION Ⅲ感動"
19	名古屋音楽大学 めいおん新春コンサート 室内楽・アンサンブルのタベ XIII
20	名古屋音楽大学 MUSICA DA CAMERA ～イタリアのしらべ～
21	モリコロパーク大道芸フェスティバル
22	第 3 回昂光書展
23	スタジオドッグラン写真展
24	「新しいうたを創る会」第 8 回名古屋初演演奏会
25	第 2 回 AYA EXHIBITION-Ⅱ
26	UNO セレクション かりやでおさんぽ展＆スタンプラリー
27	UNO セレクション ヨウジ no ゴヨウ 葉山亮三展
28	韻と響
29	Prima Wehler2
30	鷹取貴美子 油彩画展
31	松本 茂樹 展
32	小室匡毅・林 幹久 展
33	津田 勝利 展 ～ギリシャ神話への旅・V～
34	「吉村靖孝 Re:Public」展
35	豊田文化フォーラム 遊学 3 「至宝と至芸 2」
36	青流 2013－発送×発信－
37	新春・第 16 回 創春会展
38	セントレア アートキルトミュージアム 2013「そら」
39	セントレア キルト＆クラフトフェア 2013
40	公募みよし美術展
41	春の文化展
42	幸苑会
43	第 20 回紫陽会展
44	春を呼ぶミニミニコンサート
45	美術鑑賞講座「いろんな美術にふれてみよう」
46	栗木清美絵画展
47	Day Dream 展
48	第三回さわやか瀬戸カラオケ芸能祭(1 部) 第六回バイマーヤンジントーク＆コンサート(2 部)
49	KEI 作品展（ポーセリンドール展、モノクロ写真展「イタリアのねこ達」合同展）
50	第 38 回中日いけばな芸術展
51	知的な障害のある人の作品展 第 1 回 「アート i」展
52	名美アートフェア 2013
53	アートミラ’21 展
54	とよたアートナウ 2012 「視覚のコミュニケーション」
55	古典戯曲を読む会@名古屋
56	The house of path －みちの家－ 栗本百合子展
57	アースデイ尾張木曽川 2013
58	三沢厚彦 ANIMALS 2013 in 三重
59	♥+8 HEART PLUS EIGHT
60	Book art 展
61	第 41 回全国アマチュアオーケストラフェスティバル豊橋大会
62	第 13 回 奥三河アートフェスティバル
63	名美アートアリウム 青美展
64	中部フィルハーモニー交響楽団 第 6 回犬山定期演奏会 大地を讃えて
65	春の特別展「赤羽雲庭展～驥山館収蔵品を中心に～」
66	第 1 回世界バレエ＆モダンダンスコンペティション 「第 2 回豊田全国バレエコンクール」
67	第 9 回 次世代の洋画家たち
68	アートパッション Vol.2

69	第 11 回 明日への飛翔 日本画展
70	木村順一 展
71	3sentiment
72	TORIDE ポストカード展
73	September の風 展
74	杜の宮市
75	第 31 回岡崎第九演奏会
76	木工家ウィーク NAGOYA・2013
77	平成 25 年度音楽鑑賞講座
78	森、道、市場 2013
79	瀬川麻衣子展 Garden and Laundry
80	MOKA 展
81	日本画家 楚里勇己 個展
82	古川美術館企画展「水と光の表情」
83	安芸真奈展 －木版画－
84	浅野祥雲作品再生プロジェクト
85	NPO 法人 豊田シティバレエ団「くるみ割り人形」全幕公演
86	第 36 回豊田洋舞合同フェスティバル 2013（第 38 回エトワールバレエシアター定期公演）
87	日本舞踊 瑞鳳流 瑞鳳澄依リサイタル
88	森田暁子 展
89	加藤厚生 第 7 回作品展 －黒い画集－
90	岩本真希子 展
91	小島義明展
92	Bounding Stones 展
93	ドイツ人・日本人クリエーターによる作品展 名古屋近代建築散歩
94	第 4 回桜まつり「岡崎五万石のつどい」
95	平成 25 年度 古川美術館主催 第 17 回こども絵画コンクール「ぼく・わたしの顔(自画像)」
96	第 13 回 日本チェンソーアート競技大会 IN 東栄 2013
97	山口雅英 －版画展－
98	新・楽しい音楽講座 親子で聴くチェロ
99	中木健二チェロ・リサイタル
100	草間 彌生 版画・油彩小品展 －未来はわたしのもの－
101	第 4 回三好ソーランボンバーズ自主事業 518 ライヴ「 i(アイ)-会い・相・愛… 」 － 虹 －
102	笠井誠一展
103	第 13 回 G.A.M 展
104	卒業設計展「ディプコレ」
105	織田信長公 小牧山城築城 450 年記念事業 和洋楽器アンサンブル・リベルタ＆和太鼓奏者アート・リー ジョイントコンサート
106	田んぼアート南陽
107	2013 アジア現代陶芸－新世代の交感展
108	鬼頭 鍋三郎 展 －舞妓、秀麗の一瞬－
109	鳥居守／足跡展
110	滝川 英明 展 ”Labyrinth in Blue(青い迷宮)”
111	成田 淑恵 展 －わたしの動物たち－
112	へきなん芸術文化村 20 周年記念事業
113	a ホルン会 第 9 回アンサンブルコンサート
114	常懐荘アートマルシェ
115	LIFE WORK 展
116	まなざしのはこ
117	2013 ATSUSHI YAMADA 展
118	Arts Audience Tables ロプロプ 『観る・書く・伝える アートレビュー筋トレテーブル』
119	名古屋芸術の杜 アートギャラリー ひまわりフェスタ 2013「ひまわり展」
120	平成 25 年度岡崎市文楽事業 文楽公演
121	第 21 回岡崎市民クラシックコンサート チャイコフスキー交響曲 3 回シリーズ 第 3 回
122	平成 25 年度市町村立美術館活性化事業 第 14 回共同巡回展 岐阜県美術館所蔵 コレなんだ？佐藤慶次郎のつくった不思議なモノたち
123	短編演劇バトル T－1 Round.3
124	ハンガリーフェスティバル in 愛知 “ハンガリーの音と色を楽しもう！”
125	吉岡弘昭展 －新作銅版画－
126	コロネットリレーコンサート
127	エベーヌ弦楽四重奏団 ～世界が熱狂する新世代カルテット～
128	若き日の杉本健吉
129	杉山 寧展 －悠久なる刻を求めて－
130	Share3 高田裕大・前畑裕司
131	熊谷曜志展
132	鈴木伸治 作陶展
133	生きている ～ 今井美圭 鵜飼義丈 出口友佳子 山田雅哉 ～
134	名古屋イラストレーターズクラブ 40 周年記念展
135	SPACE OUT DISCO @ Department Store CIBICO
136	遠島真澄絵画展
137	公募写真展 2013 年第 38 回「視点」名古屋展
138	魔法にかけられて －花＆キャンドルアートの不思議の国－
139	名古屋能楽堂平成 25 年度定例公演 「世阿弥 生誕 650 年 －今、世阿弥を観る－」 九月定例公演〈能楽普及公演〉
140	名古屋能楽堂平成 25 年度 中級講座 「世阿弥 生誕 650 年」 －今、世阿弥を観る－
141	名古屋能楽堂平成 25 年度 能面彩色ワークショップ
142	文化小劇場 芸術三昧シリーズ SUGITETSU SUPER EXPRESS～スギテツとゆかいな“鉄”仲間達コンサート～
143	文化小劇場 芸術三昧シリーズ 三浦一馬バンドネオンコンサート
144	文化小劇場 芸術三昧シリーズ 山本光洋マイムライブ～かかしになるために～
145	文化小劇場 芸術三昧シリーズ 田村響ピアノリサイタル
146	名古屋市芸術創造センターサポート公演 音楽劇「廓鬼灯いろは唄」
147	あつたらしっくコンサート 2012-2013 Love to Music Vol.7「ファイナルコンサート」
148	あつたモーニングコンサート Op.49
149	名古屋アカデミックウィンズ～室内楽シリーズ Vol.3～
150	名古屋の演劇人が贈る名作劇場「國語元年」
151	RYOUHEI SUGIURA SOLO EXHIBITION
152	森 恵美 個展 「だって女の子だもん！」展
153	Team ボクナナ!2 Produce「COSMIC MIND!」
154	ゆかりバレエ定期発表公演 Vol.ⅩⅢ
155	波多の明翠展 ～KIZUNA～
156	三河・佐久島アートプラン 21
157	『重ねる昨日と明日展』 赤木さゆり写真コラージュ作品展
158	メナード美術館 開館 25 周年記念コレクション名作展Ⅳ 西洋美術 -世界の名画を見ませんか？-
159	6 つの視点；⇔Stage5
160	第 13 回 それぞれの表現展
161	ナカムラミオ 個展 flower
162	平成 25 年度サンデーコンサート〈フランスからの贈り物〉
163	平成 25 年度サンデーコンサート〈サマーコンサート〉
164	平成 25 年度サンデーコンサート〈クラシックナイトコンサート〉
165	DRAGON76 solo exhibition-Touch Your Soul in NAGOYA vol.2-
166	WHY NOT?
167	中部ぺんを読み文学を語る
168	近藤幸展 －木版画－
169	古川美術館企画展「放課後美術(アート)」『あ～』と納得！画中の教科。
170	よつば展
171	飯塚麻衣 日本画展 -霧・夢-

172	平成 25 年度県文連西三河部芸能大会
173	～平戸焼～ 横石嘉助展
174	沖仁 CONCERT TOUR 2013-14 Guitarra Flamenca ～Dialogo～
175	黄昏からまほろばへの誘い～コントラバス～
176	愛知、近代洋画から現代洋画へ－移動美術展 in 福島
177	写真の散歩道 2013
178	PEACE CARD 2013 NAGOYA 展
179	名古屋音楽大学 めいおんピアノ・声楽演奏会
180	名古屋音楽大学 第 15 回 大学院定期演奏会
181	名古屋音楽大学 第 35 回 定期演奏会
182	名古屋音楽大学 第 16 回 オーケストラとソリストたちの夕べ
183	名古屋フィルムミーティング 2013
184	ラファエル ナバス展
185	クミコ アコースティックコンサート 2013 小牧 ～クミコが唄うシャンソン、そして歌謡曲…～
186	第 27 回パティオ入会地ギャラリー展 特別展示 知立出身の画家 安藤幹衛展 －アトリエに遺されたメキシコ作品から－
187	染色アーティスト 奥田祐斎 染色アート展
188	新海文子 展「weather」
189	米澤寛子 作品展 「35.168,136.892」
190	第 3 回『W3』展
191	moca @ mocamoca
192	知多に始まる近代絵画パートⅣ 森岡完介展 －創造の原点は知多半島－
193	2013 年度アート＆デザインセンター企画展 桑山忠明 Titanium-Art as Space,Space as Art
194	写真家 森一生、書家 渡部裕子『色 －その存在－』
195	アートな木の家具展
196	小牧市自主文化事業「ノンタンうたってあそぼう！」
197	8 るつぼ展
198	Marche de Marunouchi
199	YAHAGI JAZZ NIGHT ‘13
200	泥象 鈴木治の世界 －「使う陶」から「観る陶」、そして「詠む陶」へ－
201	3 人展
202	群れる羊
203	わたしのアトリエ展 石垣 佳子
204	2013 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展
205	山本近子展
206	市橋安治展 －私の曼荼羅－
207	梅田恭子 霧と爪
208	森からのメッセージ 2013
209	ナゴヤコドモアートビレッジ
210	第 1 回 個の存在展
211	未来への波涛 Vol.12
212	まちの音楽家シリーズコンサート
213	名古屋 YWCA WISH JAZZ FESTA
214	MO-YA-CO アートプロジェクト 2013 ～あなたの夢を聞きとりえんなーれ～
215	妖怪道五十三次 鬼太郎たちとめぐる東海道の旅
216	愛知県図書館企画展示「トリエンナーレと現代アートを楽しむ！」
217	市民ギャラリー開館 10 周年 新美南吉生誕百年 南吉童話絵本原画展 「ごんぎつねの世界」
218	葵丘企画展－画家のまなざし
219	第一回「未来の風景をつくる学生実施コンペ」公開プレゼン
220	伝統文化シネマ鑑賞会
221	刈谷城築城 480 年記念展
222	インスタレーションゼミ制作展
223	山本昌男展
224	第 6 回 ふれあいアート展 Heart contact art exhibition
225	ミュージカル「レ･ミゼラブル」
226	10 EXHIBITION
227	小牧市自主文化事業「駒来寄席プリンス競演会」
228	～版画・現代アート～ 松坂屋アートセレクション
229	Gen 2013 －タビ スル カイガ－
230	Gen －キャラバン－ [5/R Hall&Gallery 特別企画]
231	愛岐トンネル群アートプロジェクト 2013 荒野ノヒカリ
232	四間道・円頓寺まちかど芸術祭 ～れとろ・でら・あーと～
233	鈴木律子 展
234	ホ eighteen 展
235	篠原奈穂子 展 －風の色－
236	石原富夫 日本画 展
237	鳥山 明 The World of DRAGON BALL
238	知られざるミュシャ展 －故国モラヴィアとパリー
239	ダンス専科 vol.3
240	あいち国際女性映画祭 2013
241	馬場陽子イラストレーション展「色えんぴつとブラウス」
242	100 万人のキャンドルナイトおかざき
243	“昭和”名作キネマ鑑賞会
244	第 25 回 渡部花奈バレエアカデミー発表会
245	陶の魅力再発見事業Ⅱ「愛知県陶磁美術館にチョッカイをかけてみる」
246	『オディロン・ルドン 夢の起源』展
247	壁 絵 錦 三(かべえ きんさん) 2013
248	PARTY JAM
249	MORNING FLAVOR
250	MORNING FLAVOR
251	昭和初期にタイムスリップ デザインツアー：揚輝荘「聴松閣」でクラシックを楽しむ」
252	虚構オメガ#04『無限遠点』
253	4hon210 函～岩瀬文庫でたのしむアートな 3 日間～
254	第 6 回新城ムービングイメージフェスティバル
255	第 2 回 ぞくぞく展
256	第 2 回アポカリーアート絵画展
257	蓮馨寺あかりアート
258	アート作品グループ展「LOOK ART IN OKAZAKI！」
259	農村舞台アートプロジェクト 2013
260	稲沢サンドフェスタ 2013
261	青木鵬磨 作陶展 －文月によせて－
262	－Iron Work－ 山本卓見 作品展
263	村上敏子 布のアート展
264	ガレリア・デ・アルテ 常設展
265	exhibition Kosei Naka
266	「山下保博×アトリエ・天工人展 Tomorrow-建築の冒険-」愛知巡回展
267	きてみん！奥三河 Heart to Heart ！
268	ぬQ さよちゃんとエビ天の大陸トーヒコー
269	共同図書環事業 共同図書巡回展示企画
270	共同図書環事業 変化の時代を生き抜くための読書
271	秋の小旅行 2013
272	あいちトリエンナーレ 2013 ビジュアルコミュニケーション展 あいちトリエンナーレを支える名古屋のデザイン力
273	不思議な世界と影のおしゃべり展覧会
274	現代いけばなアート展
275	真夏の長者町大縁会 2013
276	劇団福祉座公演
277	大石未貴・井本由加 展
278	移動美術館「もののふの絵画と茶の湯のうつわ」
279	いくいくみしる いっしょに探検！体験！発見！
280	que de je？ ～すべての人が参加できるアート～
281	大幸村展プロジェクト 幸村真佐男展/プラトンの洞窟をぶら下げて ～ピンホールカメラとその写真群～

282	大橋香 個展 / ここに地果て海始まる ～Onde a terra acaba e o marcomeça～
283	松尾 藤代 展 －自らの光を探すー
284	庄司 達 展 －空間との出会いー
285	CANTUSNOVA CONCERT 2013
286	アーキエイドの活動展 「東日本大震災 ～3月11日と今日～」
287	秋の特別展「藤井文庫 消息名品展」
288	彩り・紬ぐ -名古屋展-
289	GARAXTER
290	ピカソ、ミロ、ダリ、マティス、シャガール… 巨匠たちの版画展
291	NUAS Selected Movies for Triennale 名古屋学芸大学映像メディア学科トリエンナーレセレクション
292	成田郷子木版画展 『私の水族館 Part24』
293	第一回 豊田市立西保見小学校特別支援学級 アートコミュニケーションワークショップ「みずにみずを」
294	生命の海科学館 2013年 夏の企画展 「SAISEI 再生・最盛・彩醒 ～融合するアート＆テクノロジー 杉森順子＋小沢愼治～」
295	常滑フィールド・トリップ2013
296	加藤由紀 個展
297	豊田市美術館ミュージアムフェスタ 2013 演劇プロジェクト スローモーション＆群読 創作野外劇「銀河鉄道の夜」
298	奥州梁川松平家と尾張徳川宗春展
299	陶磁器上絵付け実演 in 橦木館
300	Art Gallery FINGER FORUM
301	犬山芸術祭2013
302	ゆきこ×Natsuko 二人展「ときめきトリップ」
303	切り絵師・俊寛 ～イタリアの職人たち～
304	梅と桜と布絵の里散策 －海老布絵教室20周年事業－
305	第一回「未来の風景をつくる学生実施コンペ」作品展示会
306	和紙でグラスアート at おばら
307	「戦中戦後の時代」 杉本健吉が描いた奈良・名古屋
308	櫻井伸也展 My Favorite Colors
309	名古屋港アートフェスティバル Vol.4 ～船を待つ～ －名古屋港でアートを考えるプロジェクト及び若手アーティストの展覧会－
310	川村友紀展
311	－鍛鉄空間－ 戸谷真也 作品展
312	大久保強嗣 個展 『メッセージ・シリーズ』
313	みんなで「わの舞」in 納屋橋
314	こども アーティストフェスティバル
315	社会学士のパフォーマンス 映像人類学会 ドキュメンタリー映画の可能性『シネマ蔵』という手法
316	マチナカ・アート小旅行 I
317	第2回 拝啓 愛知トリエンナーレ監督、地元彫金作家もがんばってます 敬具
318	長者町 BEER ジャンボリーぷらす
319	アンリアレイジ展 A REAL UN REAL AGE
320	没後40年記念 ピカソ 愛と芸術の版画展
321	セリオ株式会社45周年記念 アール・ブリュット展
322	語りと音楽の会
323	第42回岡崎市老人クラブ作品展
324	久野周一模型展「あおっちょろい」
325	藤永智子展「たもち保たれるもの」
326	Relay Exhibition [Answer]
327	桃太郎神社第2回修復活動
328	『まいこさん と お花』莞奈の作品展と莞奈の舞妓おどり
329	岡崎アート・コネクション －市内大学所属の作家による作品展－
330	アートあそびプロジェクト「森はアトリエ」
331	「on/off」展 デザイン七色の繋がり
332	みんなでつくる くうちゅう美術館 CLOUD MUSEUM 2013 ～未来へのつながりのはじまり～
333	北名古屋市彫刻ガイドブックしむしむイベント ～彫刻と親しむワークショップ～
334	自由きままに…展
335	「揺れる大地」から「ベニスに死す」へ ～ アートする帽子
336	dbcd013(デシベルカンデラ013)
337	お寺で演劇公演★京都の演劇ユニット「このしたやみ」による『紙風船(脚本：岸田國士)』公演×紙風船工作ワークショップ
338	お月見フィドルナイト
339	平島 毅 個展 tone of a little green
340	田中 一美・坂東 美佳 ピアノコンサート 音に触れ 音を味わう 母娘で織りなす秋宵の調べ
341	熱中凝歴人倶楽部 代表 鉄腕アトムコレクター 小池信純コレクション展 鉄腕アトムおもちゃ博物館(コレクション)<同時開催>手塚治虫コレクションシアター
342	RE:LIC THE FIRST
343	山崎英明 トーク＆コンサート ～エピソードで綴る日本の名曲～
344	吉岡弘昭 - 解き放たれた約束 『全版画 1967～2013』 出版記念展
345	『studio velocity「庭と公園と部屋」展』及び『ina takayuki「triangle squre」展』
346	フィリップ食品実験講座
347	市民ギャラリーコレクション展「風景」－季節の彩－
348	愛知めがね組合青年部設立25周年記念 『愛知の眼鏡今昔物語』展
349	BAtoMA INTERIOR EXHIBITON in NAGOYA
350	名月とサウンド樹
351	Kids Art Festa 2013 キッズ・アートフェスタ2013
352	西岳拡貴 展
353	名古屋造形大学小林ゼミ
354	KAIDAN
355	名古屋市民ギャラリー栄 平成25年度主催事業 ミュージアムコレクション
356	ラブレターズ コンサート
357	津島音さんぽ
358	citizen of the world
359	まちづくり講演会2013 五十嵐太郎氏講演会 『震災復興活動から、JR岡崎駅周辺のまちづくりを考える』
360	第5回松應寺横丁にぎわい市
361	宇都宮豊和 写真展
362	森、道、市場
363	髙橋漠 個展
364	JIA愛知 建築家フェスティバル

※決定順
※事業名は応募時のもの

7　サポート体制

ボランティア

・トリエンナーレの会場運営（来場者の案内・誘導等)、ガイドツアー（ツアー形式による作品鑑賞）などを多くのボランティアに担ってもらい、トリエンナーレを盛り上げていただいた。
・ガイドツアーボランティアについては、今回新たに、書類及び面接による選考を行った。
・ボランティア登録者にはトリエンナーレの概要や接遇に関する研修を実施したほか、ガイドツアーボランティア登録者については、ガイドツアーに関する研修を実施した。
・活動に伴う交通費相当分として、半日あたり 500 円相当の記念品（500 円分クオカード等）を支給した。

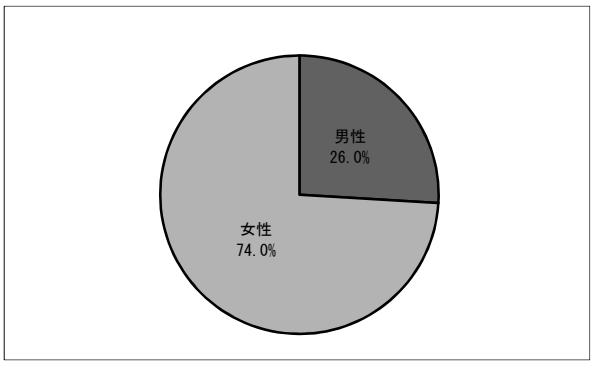
■ボランティアの登録者数及び活動実績

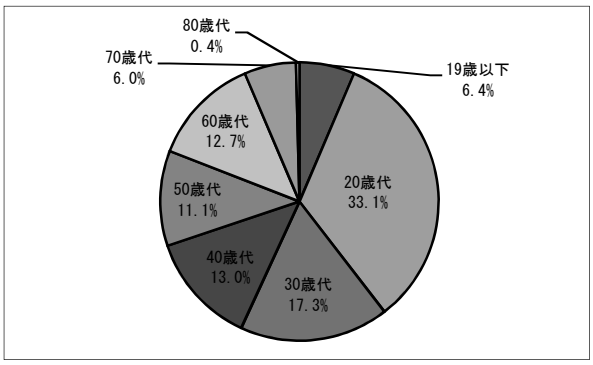
活動区分	活動内容	登録者数（名）			活動回数（回）		
		名古屋	岡崎	計	名古屋	岡崎	計
ボランティアリーダー	会場運営ボランティアが円滑に活動するためのサポートなど	179	45	224	742	220	962
		12.0%	3.0%	15.1%	11.0%	3.2%	14.2%
会場運営ボランティア	来場者の案内や誘導など	980	161	1,141	3,718	1,151	4,869
		65.9%	10.8%	76.7%	54.9%	17.0%	71.9%
ガイドツアーボランティア	子どもや一般を対象とした展示作品の解説など	110	12	122	862	77	939
		7.4%	0.8%	8.2%	12.7%	1.1%	13.9%
計		1,269	218	1,487	5,322	1,448	6,770
		85.3%	14.7%	100.0%	78.6%	21.4%	100.0%
		実登録者数　1,310 名			実活動者数　964 名		

※複数の活動区分への応募が可能なため、登録者数の計と実登録者数は一致しない。

○登録者の年代別・男女別割合

区分	19 歳以下	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	計
男性	10 名	69 名	52 名	41 名	43 名	76 名	46 名	4 名	341 名
	0.8%	5.3%	4.0%	3.1%	3.3%	5.8%	3.5%	0.3%	26.0%
女性	74 名	365 名	175 名	129 名	102 名	90 名	33 名	1 名	969 名
	5.6%	27.9%	13.4%	9.8%	7.8%	6.9%	2.5%	0.1%	74.0%
計	84 名	434 名	227 名	170 名	145 名	166 名	79 名	5 名	1,310 名
	6.4%	33.1%	17.3%	13.0%	11.1%	12.7%	6.0%	0.4%	100.0%





■研修会

行事名	開催日	会場
ボランティア活動説明会	6 月 22 日(土)、26 日(水) ※各日 2 回、計 4 回開催	愛知芸術文化センター アートスペース A
全体研修会	7 月 15 日(月・祝)	愛知芸術文化センター 大ホール
	7 月 17 日(水) ※2 回開催	愛知芸術文化センター アートスペース A
ボランティアリーダー研修会	7 月 21 日(日)、23 日(火)	愛知芸術文化センター アートスペース A
	7 月 23 日(火)	岡崎市図書館交流プラザ Libra
会場運営ボランティア研修会	8 月 2 日(金)、3 日(土) ※各日 2 回、計 4 回開催	愛知芸術文化センター アートスペース A
	8 月 5 日(月)	岡崎市図書館交流プラザ Libra
ガイドツアーボランティア基礎研修	（平成 24 年）10 月～5 月 ※計 9 回開催（3 期×各 3 回）	愛知芸術文化センター アートスペース A 他
ガイドツアーボランティア全体研修	1 月～10 月 ※15 回開催	愛知芸術文化センター アートスペース A 他

■アーティストサポートの登録者数

活動区分	活動内容		登録者数	
アーティストサポート	アーティストの作品制作のサポートなど	現代美術	469 名	87.7%
		パフォーミングアーツ	47 名	8.8%
		オープンアーキテクチャー	19 名	3.6%
計			535 名	100.0%

8　その他

(1) その他のイベント・プログラム

■オープニングイベント

開催日	内容	実施場所
8 月 9 日(金)	内覧会、プレスツアー (岡崎地区プレスツアーは 8 月 10 日(土))	愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、東岡崎駅会場、康生会場、松本町会場等
	記者会見	愛知芸術文化センターアートスペースＡ
	やなぎみわ 案内嬢プロジェクト『案内嬢パフォーマンス』プレビュー公演	愛知芸術文化センター2 階フォーラム
	ままごと『日本の大人』プレビュー公演	愛知芸術文化センター小ホール
	オープニングセレモニー及びレセプション	愛知芸術文化センター2 階フォーラム

■ヤノベケンジ《太陽の結婚式》

開催日	8 月 10 日(土)、20 日(火)、9 月 7 日(土)、15 日(日)、10 月 13 日(日)、15 日(火)、19 日(土)、20 日(日)[2 回]、22 日(火)、26 日(土)、27 日(日)
場所	愛知芸術文化センター10 階 愛知県美術館
内容	トリエンナーレでヤノベケンジが展開する新プロジェクト《太陽の結婚式》の展示空間で、挙式を希望するカップルが実際に結婚式を行った。
参加者数	777 人[12 回]

■ウィッシュ・ツリー

期間	8 月 10 日(土) ～10 月 27 日(日)
場所	19 か所：名古屋テレビ塔下、愛知芸術文化センター、松應寺境内（松本町会場）、モバイル・トリエンナーレ会場、県内の小・中学校等（名古屋市立筒井小、安城市立新田小、西尾市立一色南部小、小牧市立北里小、あま市立甚目寺中、阿久比町立東部小、同英比小、同草木小、同南部小）、阿久比町立中央公民館本館、あいち小児保健医療総合センター ※この他、愛知芸術文化センターでプレイベントを実施し名古屋市立東桜小学校が参加
内容	オノ・ヨーコの出品作品の一つ。彼女のインストラクションに従い、願いごとやメッセージなどを短冊に込め、木に結ぶという参加型作品。
参加者数	22,148 人

■マーロン・グリフィス《太陽のうた》パレード

開催日	①8 月 11 日(日)　②10 月 19 日(土)
場所	①長者町～愛知芸術文化センター　②愛知芸術文化センター～長者町（ゑびす祭り会場）
内容	トリニダード・トバゴ生まれのマーロン・グリフィスが、3.11 以降の日本の再生と復活をテーマに、復活のシンボルである不死鳥をモチーフにしたパレードを発表した。
参加者数	①250 人　②350 人

■高橋匡太《Glow with City Project》

開催日	①9 月 21 日(土)　②22 日(日)
場所	白川公園→長者町→オアシス２１→愛知芸術文化センター
内容	都市の建築物と参加者の持つ提灯の光をシンクロさせるプロジェクト。参加者が 1,000 個にも及ぶ提灯を持ちながらルートを行列になって歩くことで、いつも光に彩られている夜の名古屋を、特別な光の風景に変貌させた。
参加者数	①2,300 人　②3,500 人

■来場者 50 万人達成記念セレモニー

開催日	10 月 17 日(木)《開幕 69 日目》
場所	愛知芸術文化センター10 階 愛知県美術館ロビー
内容	50 万人目の来場者に実行委員会会長（愛知県知事）から記念品を贈呈

(2) 会場運営

・展示室やインフォメーション等にスタッフを配置したほか、来場者案内等においてはボランティアの協力を得るなどにより、会場内の利便性向上に努めた。また、混雑時にはスタッフの増員や順路の変更等により、会場内の安全確保を図った。
（※主な会場の開館時間、休館日は 8 ページ「主な会場」を参照）
（※ボランティアについては、42 ページ「ボランティア」を参照）
・会場間交通として、緊急雇用創出事業基金事業を活用したベロタクシーを運行し、来場者へのサービス向上を図った。
（※ベロタクシーについては、58 ページ「ベロタクシー運行事業」を参照）
・乳児をお連れの方にも気軽に御来場いただけるよう、愛知芸術文化センター8 階に臨時の授乳スペースを設置したほか、各会場においても対応可能なスペースを用意した。

■インフォメーション

・愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、東岡崎駅会場、康生会場にインフォメーションを設置し、トリエンナーレに関するチラシやマップを配架したほか、当日のイベント情報を掲出するなど情報発信を行った。また、来場者からの様々な問い合わせに対応した。

■チケット販売

・国際美術展の主要会場にチケット販売所を設け、国際美術展当日券の販売を行った。

■バリアフリー対応

・身体に障がいをお持ちの方にも御来場いただき、現代美術に触れていただくため、会場内のバリアフリー対応策を講じたほか、鑑賞会などを実施した。
・会場内におけるバリアフリー対策等について公式ホームページに掲載し、来場者への周知を図った。

会場内のバリアフリー対策	・会場内段差を解消するための簡易スロープ及び移動に使用する手動車椅子を配備した。 ※スロープ：長者町会場（中部電力(株)本町開閉所跡地）、納屋橋会場、松本町会場 手動車椅子：長者町会場（アートラボあいち）、納屋橋会場、康生会場 ・長者町会場及び岡崎地区において、会場間の移動に介助や案内を必要とする方に対応するため、土日及び祝祭日を中心に介助スタッフを派遣した。 ・上下移動の手段が階段しかなく、車椅子等を御利用の方の鑑賞が難しい会場では、タブレット端末の映像や写真で作品の概要を御案内した。 ・弱視の方のためのラージフォント（作品のタイトルや解説を大きなフォントで印刷したもの）を各会場に配備した。 ※長者町会場は八木兵丸の内八号館のみ、岡崎地区は松本町会場を除く各会場
鑑賞会等	・視覚に障がいのある方に、ボランティアガイドの作品解説を聞いたり作品に触れて現代美術を鑑賞していただける鑑賞会を実施した。 ※9 月 28 日（土）：1 回　10 月 3 日（木）：2 回　　計 3 回 ・聴覚に障がいのある方を対象に、要約筆記によるボランティアガイドツアーを実施した。 ※9 月 11 日（水）：1 回　10 月 9 日（水）：1 回　　計 2 回
その他	・携帯用のガイドブックとして無料で配布した「ポケットマップ」に、身体障がい者用トイレの案内を掲載した。

■会場サイン

・メインビジュアルを活用したサイン計画を策定し、各会場の屋内外に来場者誘導のためのサインを設置するとともに、気運醸成のためのフラッグ等を名古屋地区及び岡崎地区のまちなかにある街路灯等に設置した。

【屋内誘導サイン（愛知芸術文化センター8 階）】

【屋外誘導サイン（名古屋市美術館）】

【イメージサイン（愛知芸術文化センター地下 2 階）】

【街路灯フラッグ（広小路通）】

■ユニフォーム

・まちなか会場のスタッフ、ボランティアスタッフ、ベロタクシースタッフ等、服装にレギュレーションのないスタッフについては、同じデザインのＴシャツ及びスタッフ証を着用し、国際芸術祭としての統一感を図った。

(3) 広報・ＰＲ

■パブリシティ実績

・多くの新聞、テレビ等のメディアを通じて広く情報が発信され、確認できたパブリシティ件数は 1,212 件であった。

種別	掲載・放映件数	内訳		
		全国	地方	海外
新聞	731 件	38 件	683 件	10 件
雑誌	286 件	155 件	110 件	21 件
テレビ	134 件	9 件	123 件	2 件
ラジオ	61 件	1 件	60 件	0 件
計	1,212 件	203 件	976 件	33 件

※新聞については、平成 23 年 7 月から平成 25 年 12 月までの件数
※雑誌については、平成 23 年 8 月から平成 26 年 1 月までの件数
※テレビについては、平成 24 年 7 月から平成 25 年 11 月までの件数
※ラジオについては、平成 24 年 6 月から平成 25 年 10 月までの件数

■記者等への情報提供

・企画内容や参加アーティスト等の主要な情報が決定した際に記者発表会を開催したほか、海外での情報発信や、記者クラブへの情報提供を行った。

○記者発表会

・愛知県内で 7 回、東京都内で 2 回の記者発表会を開催した。
・記者発表会では、芸術監督やキュレーターによる企画概要の説明のほか、参加アーティストの出演やビデオメッセージの放映などを行った。記者発表会はユーストリームによる中継も行った。

区分	開催日	会場	主な発表内容	入場者数
愛知	平成 23 年 8 月 4 日(木)	愛知芸術文化センター アートスペース A	芸術監督の決定	33 人
	平成 23 年 10 月 21 日(金)	愛知芸術文化センター アートスペース A	テーマ・コンセプト、出品作家、ロゴマーク	40 人
	平成 24 年 3 月 29 日(木)	愛知芸術文化センター アートスペース A	開催概要、企画体制、展開概要、参加アーティスト	70 人
	平成 24 年 7 月 25 日(水)	愛知芸術文化センター アートスペース A	デザイナー、参加アーティスト	50 人
	平成 25 年 3 月 22 日(金)	愛知芸術文化センター アートスペース A	分野ごとの展開内容、主な特徴、参加アーティストの全容	87 人
	平成 25 年 7 月 10 日(水)	愛知芸術文化センター アートスペース A	主な特徴、参加アーティストの具体的展示内容・公演内容	63 人
	平成 25 年 8 月 9 日(金)	愛知芸術文化センター アートスペース A	作品の見どころの説明	54 人
東京	平成 24 年 12 月 4 日(火)	日本プレスセンタービル プレスセンターホール	企画概要	96 人
	平成 25 年 7 月 11 日(木)	建築会館 ホール	主な特徴、参加アーティストの具体的展示内容・公演内容	97 人

○海外での情報発信

・海外での芸術祭やアートフェア（「ドクメンタ 13 ドイツ・カッセル」「アート・バーゼル香港」「ヴェネチア・ビエンナーレ」等）の会場においてプレゼンテーションや、ポスター・チラシの設置などの PR 活動を行った。

○記者クラブへの情報提供

・平成 23 年 7 月から平成 25 年 10 月までに、愛知県政記者クラブ及び中部芸術文化記者クラブを中心に、計 88 回の資料配付を行った。
・企画内容や参加アーティスト等の主要な情報が決定した際に、プレスリリースを作成し、記者発表会において配布した。
・会期中の原則毎週金曜日に、翌週末までのイベントスケジュールや主なトピックスを掲載した「ウィークリーリリース」を発行し、愛知県政記者クラブ及び中部芸術文化記者クラブを中心に 12 回配布した。

■取材への対応

・内覧会開催日から閉幕日まで、1,105 件の取材に対応した。
・報道関係者に対しては、プレス証の発行、プレスツアーの実施、プレスルームの設置などのサービスを提供した。

○取材件数

・内覧会開催日から閉幕日まで、国内外から 1,105 件（電話取材を含む）の取材に対応した。そのうち会場等での取材は 788 件であった。

種別	取材件数	内訳		
		愛知県内	愛知県外	海外
新聞	251 件(31.9%)	201 件	34 件	16 件
雑誌	146 件(18.5%)	67 件	59 件	20 件
テレビ	129 件(16.4%)	117 件	11 件	1 件
ラジオ	24 件(3.0%)	12 件	11 件	1 件
WEB	86 件(10.9%)	55 件	26 件	5 件
その他	152 件(19.3%)	50 件	89 件	13 件
計	788 件(100.0%)	502 件(63.7%)	230 件(29.2%)	56 件(7.1%)

○プレス証の発行

・会場への入場が必要となる取材にはプレス証を発行した。
・内覧会開催日から閉幕日まで、プレス証を発行した報道関係者は 612 人であった。

種別	発行件数	内訳		
		愛知県内	愛知県外	海外
新聞	130 件(21.2%)	103 件	16 件	11 件
雑誌	104 件(17.0%)	42 件	51 件	11 件
テレビ	236 件(38.6%)	210 件	25 件	1 件
ラジオ	28 件(4.6%)	11 件	16 件	1 件
WEB	36 件(5.9%)	12 件	19 件	5 件
その他	78 件(12.7%)	20 件	47 件	11 件
計	612 件(100.0%)	398 件(65.0%)	174 件(28.4%)	40 件(6.5%)

※同一の報道関係者に対して複数回プレス証を発行した場合は、初回の発行のみをカウント

○プレスツアーの実施

・報道関係者が最も集中する内覧会開催日及び開幕日に、芸術監督はじめキュレーター等が各会場で作品を解説するプレスツアーを実施し、延べ 269 人が参加した。
・8 月 9 日、10 日と、10 月 5 日、6 日に、独立行政法人国際交流基金主催の海外記者プレスツアーを実施し、延べ 19 人が参加した。
・内覧会開催前の 8 月 7 日に、地元報道関係者向けにプレスツアーを実施し、18 人が参加した。

○プレスルームの設置

・8 月 9 日から 16 日までの 8 日間、愛知芸術文化センター12 階のアートスペース F にプレスルームを設置した。
・プレスルームにはスタッフが常駐し、プレス証の発行、プレスキットの配付、イベント告知や会場速報案内、画像提供、打合せスペースの提供、Wi-Fi 通信環境の提供、荷物一時預かりなどのサービスを提供した。

■広報用印刷物

・チラシ、ポスター等の広報用印刷物は、トリエンナーレ全体を広報するものから、現代美術、舞台芸術、普及・教育などそれぞれの分野を広報するものまで、計 98 種類を作成した。
・作成した印刷物は、国内主要美術館、ホール、ギャラリー、芸術系大学、公共機関等へ配布した（2,000 か所以上）。会期中は各会場のインフォメーション等に設置した。

種別	種類	制作数
チラシ	68 種	4,084,750 枚
プログラム	11 種	12,590 部
ポスター	18 種	18,666 枚
ポケットマップ	1 種	400,000 部

【ポスター】

■ＰＲ動画

・トリエンナーレの PR 動画を制作し、公式ホームページやケーブルテレビなどで放映した。
・5 分バージョン（7 本）、1 分バージョン（2 本）、15 秒バージョン（3 本）を制作し、放映する場所や放送可能時間などによって使い分けた。

区分	内容
ホームページ	トリエンナーレ公式ホームページ、愛知県公式ホームページ等
ケーブルテレビ	知多メディアスネットワーク等（延べ 5,523 回放映）
街頭ビジョン	名古屋駅周辺、栄駅周辺、中部国際空港セントレア等
ホテル、施設等のモニター	市町村役場窓口、アイリス愛知、公益財団法人愛知県国際交流協会等
その他	各種イベントの PR ブース等

■インターネットを用いた広報

・公式ホームページを中心に、ツイッター、フェイスブックでも即時性の高い情報発信を行った。

○公式ホームページ

・会期中には 100 の国と地域からアクセスがあり、その総数は 2,682,941 ページビュー※（576,249 セッション※）であった。

※ページビュー数：ページへのアクセス数（クリック単位）、セッション数：公式ホームページへ訪れたユーザー数（人単位）

○トップページ

○今日のスケジュール

○メールニュース

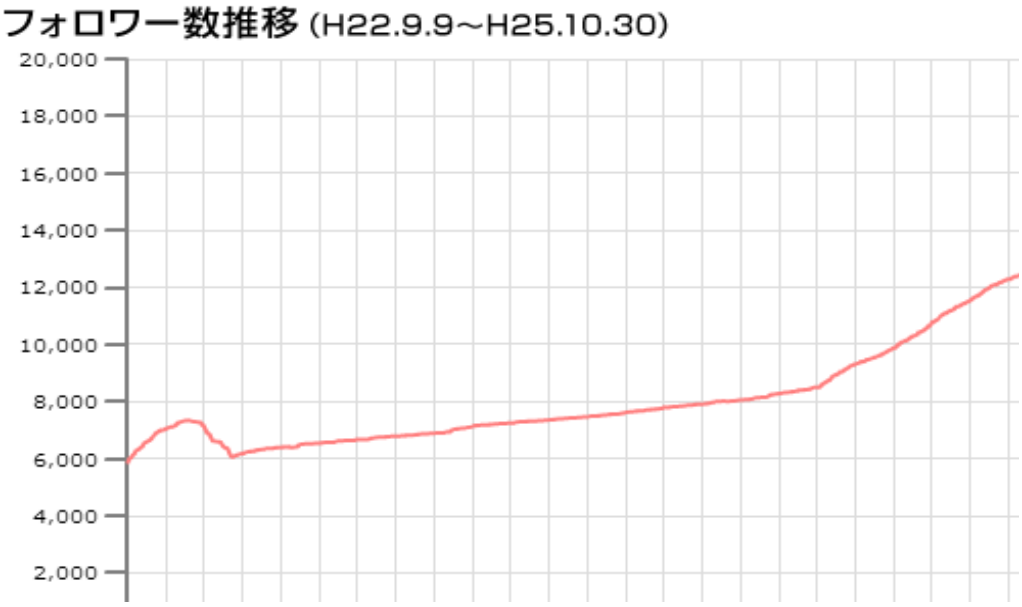
・平成 25 年 4 月から 11 月までアーティストの作品制作に関する情報やイベント情報等を「あいちトリエンナーレニュース」としてメールニュースの登録者（1,642 人）へ配信した。

・会期前は隔週（7 月は毎週）のペースで配信し、会期中は必要に応じて配信した。

〇ツイッター

・準備の様子や開幕後のニュース、お知らせや緊急情報などをリアルタイムで配信した。
・公式アカウント「@Aichi_Triennale」のツイートを漏らさずチェックしようと「フォロー」を行った人は、閉幕時で 14,596 人にのぼった。

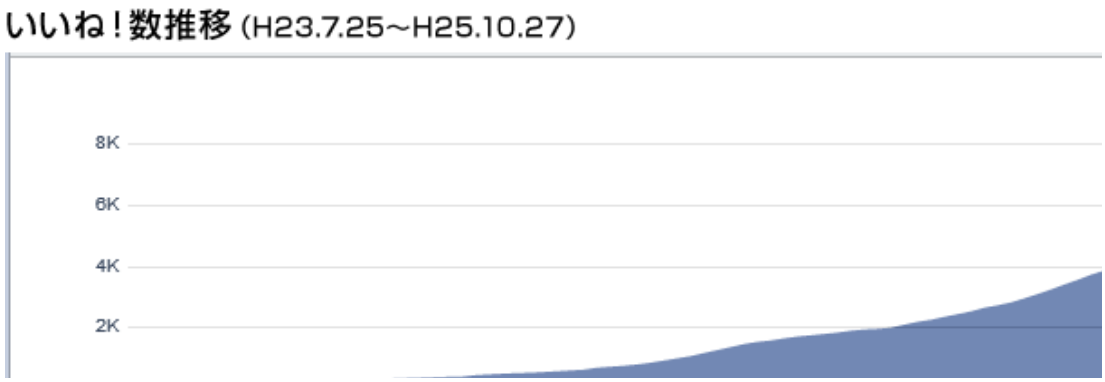
Twitter 基本概要（平成 25 年 10 月 27 日現在）
アカウント名：Aichi_Triennale（平成 22 年 2 月 24 日開設）
フォロー数：2,256 件
フォロワー数：14,596 件
つぶやき総数：5,371 件



〇フェイスブック

・国内での利用者が大幅に増加し始めた Facebook にアカウントを開設した。
・公式 Facebook「AICHI TRIENNALE」に関連するコンテンツを見た人は、最も多かった日で 27,101 人にのぼった。

Facebook 基本概要（平成 25 年 10 月 27 日現在）
アカウント名：AICHI TRIENNALE（平成 23 年 7 月 25 日開設）
合計いいね！数: 7,415
最大合計リーチ数※：27,101
※1 日当たりにコンテンツを見た人の数で最大の日（平成 25 年 8 月 21 日）



■愛知県、市町村、交通機関等と連携した広報・PR

・愛知県、愛知県内の市町村、交通機関、その他団体等と連携し、各種広報活動を行った。

○愛知県、市町村との連携

区分	主な内容
愛知県	・新聞内「広報あいち」への掲載（11 回） ・テレビ番組「クリック!あいち」「SKE48 のあいちテル!」等での放送（15 回） ・ラジオ番組「あいち県政リポート」「こんにちは愛知県です」「情報発信!愛知県」「AICHI SATURDAY TOPICS」での放送（4 回） ・県公式ホームページのトップページへのトリエンナーレバナーの掲出のほか、「Ai 県 Web マガジン」「インターネット情報局」等への掲載 ・児童・生徒の保護者向け広報誌「パレット～あいち発きょういく通信」への掲載 ・愛知県図書館で企画展「トリエンナーレと現代アートを楽しむ！」を開催
名古屋市	・広報誌「広報なごや」への掲載（8 回）、「わくわくキッズナビ」への掲載（1 回） ・テレビ番組「名古屋しゃちほこ学園」での放送（2 回） ・ラジオ番組「PEACHY.（I LOVE NAGOYA)」「聞けば聞くほど（名古屋市だより)」での放送（2 回）
岡崎市	・広報誌「広報おかざき」への掲載（20 回） ・ラジオ番組「市政情報 763」での放送（18 回） ・岡崎アート広報大臣「オカザえもん」による PR 活動を実施 ・岡崎会場及び岡崎公園を巡るスタンプラリーを実施
その他市町村	・市町村広報誌への掲載（26 市町村、計 59 回）

○交通機関との連携

区分	主な内容
名古屋鉄道(株)	・駅構内及び電車内にポスター等を掲出（ポスター2,700 枚、チラシ 20,000 枚） ・名鉄東岡崎駅でトリエンナーレ開幕記念出発式を実施 ・「名鉄のハイキング」にトリエンナーレ岡崎会場を組み込んで実施
名古屋市交通局	・駅構内及び地下鉄車内にポスターを掲出（ポスター364 枚） ・「トリエンナーレスタンプラリー」を実施（ポスター3,600 枚、チラシ 10,000 枚掲出） ・「トリエンナーレオリジナルドニチエコきっぷ」を発売（10,000 枚） ・「駅ちかウォーキング 2013 AUTUMN」にトリエンナーレ会場を組み込んで実施
東海旅客鉄道(株)	・駅構内にポスターを掲出（68 駅、115 枚）
中部国際空港(株)	・セントレアターミナルビル内の大型映像装置で PR 動画を放映（15 回／日）
県営名古屋空港	・空港内の手荷物受取所及び待合室にポスターを掲出（140 枚）
名鉄交通(株)	・タクシーにチラシを設置（約 800 台、10,000 枚）

○その他団体等との連携

区分	主な内容
商店街組合等	・名古屋地区と岡崎地区のまちなかの街路灯にフラッグ広告を掲出（愛知芸術文化センターから納屋橋会場までの商店街 278 枚（街路灯 142 基)、東岡崎駅会場から松本町会場まで及びその周辺商店街 437 枚（街路灯 437 基)）
(公財)愛知県国際交流協会	・機関紙「あいち国際プラザ」への掲載（5 回） ・ラジオ番組「GLOBAL VOICE」での放送（3 回）
(公財)名古屋市文化振興事業団	・「アートギャラリー・画廊スタンプラリー」にトリエンナーレ会場を組み込んで実施
(一社)愛知県観光協会	・旅行会社への PR やツアー造成の働きかけ ・MAP 型観光サイト「あいコンシェルジュ」において特集ページを制作
(公財)名古屋観光コンベンションビューロー	・財団公式サイトのトップページにトリエンナーレのバナーを掲出
関東・中部・東北自治宝くじ事務協議会	・「第 2287 回関東・中部・東北自治宝くじ」の証票図柄にトリエンナーレのメインビジュアル等を掲載
知多メディアスネットワーク(株)	・知多メディアスネットワークを始めケーブルテレビ 11 局での放送（延べ 208 回）
(株)名古屋三越栄店	・トリエンナーレオフィシャルショップにて五十嵐芸術監督とオカザえもんとの対談イベントを実施したほか、バナー広告等を掲出

スーパー、コンビニエンスストア	・愛知県と流通業者との包括協定などを活用し、愛知県内のスーパーやコンビニエンスストアにポスター掲出やチラシ設置（計約 1,600 店舗）
書店	・リブロ（名古屋 PARCO 内）やナディッフ愛知（愛知芸術文化センター内）にて「トリエンナーレコーナー」を設置
チケットプレゼント企画	・雑誌、テレビ、ラジオ等のタイアップ企画において、チケットプレゼント企画を実施（23 企画）

■広告

・主に国際美術展特別先行前売券発売日、開幕日直前及び会期中に、各種メディアへの広告や交通広告を展開した。

○各種メディア広告

・新聞、雑誌、ラジオに計 136 件の出稿を行った。

種別	広告出稿件数	内訳		
		全国	地方	海外
新聞	64 件	0 件	64 件	0 件
雑誌	52 件	21 件	31 件	0 件
テレビ	0 件	0 件	0 件	0 件
ラジオ	20 件	0 件	20 件	0 件
計	136 件	21 件	115 件	0 件

【中日新聞：平成 25 年 8 月 6 日朝刊】

○交通広告

・地下鉄駅構内・車内、JR 駅構内、名鉄駅構内、近鉄駅構内、リニモ駅構内、市バス停留所等にポスター等を掲出した。

・開幕日付近に、特に乗降客の多い名古屋駅、栄駅、金山駅を中心に広告掲出を行った。

区分	内容
ポスター	404 枚（地下鉄 223 枚、名鉄 20 枚、JR8 枚、近鉄 8 枚、リニモ 5 枚、市バス 140 枚）
電照広告	60 枠（近鉄名古屋駅 1 枠、リニモ藤が丘駅 1 枠、市バス停留所 58 枠）
その他	動画広告 12 面（JR 名古屋駅）、懸垂幕 2 枚（金山総合駅）、フラッグ 50 枚（JR 名古屋駅）、ステッカー30 枚（市バス車内）、吊革広告 2 車両（地下鉄東山線、名城線）、チラシ 1,000 部（名鉄金山駅チラシラック）

【JR 名古屋駅】

【地下鉄栄駅】

(4) ガイドブック、カタログ

■公式ガイドブック

・トリエンナーレをより楽しむための情報を掲載した「あいちトリエンナーレ 2013 公式ガイドブック（美術手帖 2013 年 9 月号増刊)」を発行した。

発売日	7 月 20 日（土）
判型等	A5 版、202 ページ（別冊ポケットマップ付き）
言語	バイリンガル（日本語・英語）
発行部数	29,000 部
販売額	1,260 円（税込）
販売場所	・全国の主要書店及びオンライン書店 ・トリエンナーレオフィシャルショップ　等
内容	・トリエンナーレに参加する全 122 組のアーティストを完全ガイド ・アーティストインタビューや会場別マップ、会場周辺の飲食店情報など、トリエンナーレを楽しむための様々な情報を紹介
制作・発行	株式会社美術出版社

■公式カタログ

・トリエンナーレに出品された国内外 107 組のアーティストによる現代美術作品の全てを網羅した公式カタログを発行した。

発行日	10 月 11 日（金）
判型等	A4 変形（215mm×285mm)、300 ページ
言語	バイリンガル（日本語・英語）
発行部数	9,000 部
販売額	2,500 円（税込）
制作	株式会社アイメックス・ファインアート
発行	あいちトリエンナーレ実行委員会
内容	・芸術監督及びキュレーターエッセイ ・国際美術展出品作+アーティストページ ・トリエンナーレ出品作品リスト

(5) オフィシャルグッズ

・公式デザインのデザイナーによる「公式デザイナーグッズ」、出品アーティストとのコラボレーションによる「アーティストグッズ」、地元企業とのコラボレーションによる「企業コラボグッズ」等を作成し、オフィシャルショップ等で販売した。
・また、愛知県内の学生チームからデザイン案を募った公式グッズ・デザインコンペティション（共催：クリエイティブ・デザインシティなごや推進事業実行委員会、株式会社国際デザインセンター）の最優秀作品等について、オフィシャルグッズとして商品化した。
・愛知県内の授産施設が作製したグッズ 7 品目（12 種類）を、オフィシャルグッズとして販売した。

■オフォシャルグッズ

区分	品目数	備考
公式デザイナーグッズ	11 品目（ 16 種類）	T シャツ、トートバッグ、チケットホルダー、バスタオル、マグカップ（2 種）、ノート、ブロックメモ等
アーティストグッズ	11 品目（ 97 種類）	クッション（4 種類）、クリアファイル（3 種）、ポストカード（20 種）、携帯ケース（21 種）、キーホルダー（19 種）、缶バッジ（17 種）、『サンチャイルド』フィギュア等
企業コラボグッズ等	49 品目（ 96 種類）	衣料品（10 品目）、身の回り品（7 品目）、家庭用品（8 品目）、雑貨（18 品目）、食料品（6 品目）
学生コンペグッズ	3 品目（ 4 種類）	・バッグ「絞×染 Bag」（名古屋芸術大学） ・カードスタンド「AIMOKKU A・B」（愛知淑徳大学） ・ループバンド「TRIEN LOOP」（椙山女学園大学）
授産施設グッズ	7 品目（ 12 種類）	フェイスタオル、ハンカチ（3 種）、ブックカバー（3 種）、ペンケース等
計	81 品目（225 種類）	

【公式デザイナーグッズ】

【アーティストグッズ】

【学生コンペグッズ】

■オフィシャルショップ

場所	開設期間	売上金額	備考
愛知芸術文化センター10 階	8 月 10 日(土) ～10 月 27 日(日)	22,786 千円	利用者数 15,985 人
名古屋三越栄店 7 階特設会場	6 月 10 日(月) ～10 月 21 日(月)	2,758 千円	

※上記以外の店舗及びインターネット販売サイトでも販売

(6) 旅行商品

・観光客を誘致するため、バスツアーを実施したほか、旅行会社・ホテル等との連携を行った。

■バスツアー

・観光客を誘致するため、愛知県内観光とトリエンナーレ鑑賞を結び付けた「あいちトリエンナーレ 2013 バスツアー」を実施した。

名称	ツアー内容	催行数	参加者数
あいちトリエンナーレ 2013 バスツアー「観光ツアー」	岡崎会場と三河地域の観光資源とを組み合わせたツアー	17 本	507 人

■旅行会社・ホテルとの連携

・旅行会社への旅行商品の催行を働きかけ、7 社により 20 本のバスツアーが催行された。愛知県内外から 604 人の参加者があった。

・名古屋市内の 30 ホテル及び岡崎市内の 5 ホテルと連携し、各種プランを造成した。チケット付き宿泊パック、チケット付き食事パックについては、445 件の利用があった。

(7) あいトリ写真部

・一般より公募を行った 111 名の部員が、トリエンナーレの各種関連イベント、会場風景等を撮影し、その写真を部員自身のブログ、ツイッター、フェイスブック等で発信することで、トリエンナーレを盛り上げた。また、部員が撮影した写真は、トリエンナーレ公式ホームページでも公開した。

・部員を対象とした講座を開催し、講師には愛知県出身で写真家の秦 義之氏を迎え、撮影に関する指導等を受けた。また、五十嵐芸術監督、拝戸キュレーター、鈴木芳雄氏（愛知県立芸術大学客員教授）を講師に迎えた関連講座も開催した。

(8) 企業・団体等からの協賛・協力

・企業、団体及び個人（以下、企業等）から、寄付、チケット購入、製品・場所の提供など、397 件の御支援を頂いた。
・協賛・協力の獲得に当たって、名古屋商工会議所及び一般社団法人中部経済連合会から次のような御支援を頂いた。

（・五十嵐芸術監督がそれぞれの役員等に対して、トリエンナーレの開催概要を説明する機会を提供（名商：平成 25 年 3 月、中経連：平成 24 年 12 月）。
・チケットの購入に関して、各会員あてに、「『あいちトリエンナーレ 2013 国際美術展』の特別先行前売券購入に対するご協力のお願い」と題する依頼文書を発出（名商、中経連とも平成 25 年 3 月）。）

■協賛等の内容

種類		対応等	支援を頂いた件数
協賛	寄付	・寄付の金額に応じて、ポケットマップ（40 万部作成し来場者に無償配布）の有償広告スペースの提供、愛知芸術文化センター会場での企業等広報資料等（パンフレット、グッズ等）の配布、新聞広告や愛知県内の全小中高生向けのチラシなどへの企業等名又はロゴタイプの掲載など、各種広報媒体等で企業等の PR を行った。また、オープニングレセプションの招待状など、金額に応じた特典も設けた。 ・トリエンナーレについて、特定公益増進法人である公益社団法人企業メセナ協議会の助成対象活動として認定を受け、企業等が同協議会を通じてトリエンナーレ実行委員会に寄付すると、法人税法上、一般の寄付金の損金算入限度額とは別枠で、下記の算式で損金限度額まで算入できるようにした。 【特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額】＝（資本等の金額(※)×0.375%＋所得の金額×6.25%）×1/2　(※)資本金と資本積立金額の合計額	40 件
	チケット購入	・100 枚以上まとめて購入の場合に、通常の前売り価格よりも廉価で提供した。 ・チケット購入価格の 4 分の 3 を「寄付金額」に当てはめて、PR 及び特典の対応を行った。	280 件
協力	作品展示や広告スペースの提供、製品やサービスの提供	・提供スペースの使用料や製品・サービスの料金を市場価格により現金換算し、換算価格の 2 分の 1 を「寄付金額」に当てはめて、PR 及び特典の対応を行った。	32 件
会場提供	まちなかの展示スペース等の提供	・一律に PR 及び特典の対応を行った。	30 件
有償広告掲載		・企業等と実行委員会が有償広告の掲載に係る契約を結び、ポケットマップの有償広告スペースに企業等の広告を掲載した。 ・企業等が広告宣伝費として処理すれば、法人税法上、損金に算入される。	15 件
計			397 件

【企業等ロゴタイプの掲示】

９　愛知県によるトリエンナーレ補完事業（緊急雇用創出事業基金事業）

・愛知県において、緊急雇用創出事業基金を活用した 6 事業を実施し、来場者サービス向上や PR 活動等において、トリエンナーレの開催を補完した。
・これにより延べ 91 人の雇用が新たに創出された。

事業名		事業費	新規雇用人数
平成 25 年度	(1) ベロタクシー運行事業	68,329,653 円	41 人
	(2) まちなか展開拡充事業	46,725,000 円	13 人
	(3) 開催効果調査分析業務	14,670,000 円	8 人
	(4) 顧客対応（コールセンター）業務	2,725,695 円	3 人
	計（4 事業）	132,450,348 円	65 人
平成 24 年度	(5) PR キャラバン隊事業	34,677,000 円	12 人
	(6) 携帯情報端末活用コンテンツ制作事業	17,313,979 円	14 人
	計（2 事業）	51,990,979 円	26 人
合計（6 事業）		184,441,327 円	91 人

(1) ベロタクシー運行事業（平成 25 年度）

・トリエンナーレのそれぞれの会場間の移動手段としてベロタクシーを運行し、来場者へのサービス向上を図った。
・車両にはアート性にあふれたラッピングを施し、動く広告塔としても PR 効果があった。
・16,529 人の方が乗車されたが、乗車された方からは、移動自体が楽しかったとの意見を多数頂き、非常に好評であった。一方で、なかなか予約が取れないため、台数を増やして欲しいとの意見も多かった。

運行期間	8 月 10 日(土) ～10 月 27 日(日)
運行台数	名古屋市内　16 台 岡崎市内　　3 台
運賃	無料（「国際美術展チケット」または「舞台公演チケット」にて乗車可）
利用者数	16,529 人 ・名古屋地区　12,172 人 ・岡崎地区　3,584 人 ・モバイル・トリエンナーレ会場　773 人

(2) まちなか展開拡充事業（平成 25 年度）

・トリエンナーレの会場となるまちの魅力を知ってもらい、より一層まちなかでの盛り上げをはかるため、まちの人々を巻き込みながら、まちなか展開拡充事業（通称：まちトリ）を実施した。

■まちなかガイド「みちくさ」

・トリエンナーレの会期中、会場間の移動の際に、まちの歴史やみどころなどを紹介するまちなかガイド「みちくさ」を実施した（参加無料）。

地区	コース名		実施回数	参加者数
名古屋地区	基本ガイド	ちょっとみちくさコース	46 回	191 人
		弾丸ツアー	15 回	71 人
	テーマガイド	切り撮る、街撮る、歩い撮るコース	7 回	32 人
		古地図・古写真片手にまちの移ろい体感コース	4 回	38 人
		大名行列 de MISONO コース	2 回	20 人
		本日もパワースポットコース	7 回	36 人
	計		81 回	388 人
岡崎地区	基本ガイド	いしずえコース	23 回	234 人
		まほろばコース	16 回	114 人
		逆まほろばコース	6 回	66 人
	テーマガイド	十人十景ツアー	3 回	16 人
		ゆる運ツアー	2 回	15 人
		オカザえもんグッズ巡り	3 回	23 人
		オカザえもんでダウト	1 回	30 人
		石満喫	1 回	2 人
		オカザえもんと歩く提灯行列	1 回	100 人
	計		56 回	600 人
計			137 回	988 人

■まちトリ アーティストトーク＆ワークショップ

・まちなか展開の気運を高めるため、参加作家によるアーティストトークやワークショップ、作品ツアーのほか、会場となるまちを知るワークショップなどを行った（参加無料）。

開催日	行事名	参加者数
6 月 18 日（火）	岡崎ワークショップ　延藤安弘 幻燈会　まちとアートの出会い～人々の「やる気」が育まれるまち育て～	45 人
7 月 6 日（土）	岡崎ワークショップ　おもてなし座談会	20 人
7 月 20 日（土）	名古屋ワークショップ　名古屋「百人百景」－わたしが見つけたまちの新名所 100 人撮影会	111 人
7 月 21 日（日）	名古屋アーティストトーク　ウィット・ピムカンチャナポン	85 人
7 月 27 日（土）	名古屋ツアー　あいちトリエンナーレ 2013 長者町会場先取りツアー	19 人
7 月 28 日（日）	岡崎ワークショップ　岡崎「百人百景」－わたしが見つけたまちの新名所 100 人撮影会	107 人
8 月 10 日（土）	岡崎アーティストトーク　向井山朋子	44 人
8 月 17 日（土）	岡崎アーティストトーク　studio velocity／栗原健太郎＋岩月美穂	33 人
	岡崎アーティストワークショップ　studio velocity／栗原健太郎＋岩月美穂 瞬間を閉じこめるブローチ	30 人
8 月 19 日（月）	岡崎ワークショップ　こども工場見学 反毛（はんもう）工場へ行こう!	12 人
8 月 23 日（金）	名古屋ワークショップ　まちとアートの響きあう星空幻燈会	100 人
8 月 24 日（土）	名古屋アーティストトーク　マーロン・グリフィス	46 人
8 月 31 日（土）	名古屋アーティストトーク　菅沼朋香	30 人
	名古屋アーティストトーク　Nadegata Instant Party（中崎透＋山城大督＋野田智子）	30 人
9 月 1 日（日）	岡崎アーティストトーク　丹羽良徳	39 人
9 月 8 日（日）	名古屋トーク　トリエンナーレの裏側 名古屋編	87 人
9 月 15 日（日）	名古屋ツアー　長者町くんとまわる!あいちトリエンナーレ 2013 企画コンペ作品ツアー（A 日程）	17 人
9 月 16 日（月・祝）	岡崎アーティストトーク　青木野枝	85 人

9 月 21 日（土）	名古屋ワークショップ　こどものまちとアートー長者町まち探検と布絵ワークショップ	22 人
	名古屋アーティストトーク　ほうほう堂	64 人
9 月 22 日（日）	岡崎ツアー　キュレーターとまわる!あいちトリエンナーレ 2013 岡崎会場ツアー	20 人
9 月 25 日（水）	名古屋ワークショップ　名古屋百人百景トーク会	50 人
10 月 4 日（金）	岡崎ワークショップ　岡崎百人百景シンポジウム	73 人
10 月 5 日（土）	岡崎トーク　トリエンナーレの裏側 岡崎編	44 人
10 月 6 日（日）	名古屋ツアー　長者町くんとまわる!あいちトリエンナーレ 2013 企画コンペ作品ツアー（B 日程）	20 人
10 月 13 日（日）	岡崎ワークショップ　ダイジェスト版・岡崎三十六地蔵巡り	14 人
10 月 14 日（月・祝）	岡崎アーティストワークショップ　下道基行 見えない風景	5 人
10 月 19 日（土）	名古屋アーティストワークショップ　山下拓也 被ると頭がグィーンと回る君だけ!の面	63 人
10 月 20 日（日）	名古屋アーティストワークショップ　山下拓也 被ると頭がグィーンと回る君だけ!の面	8 人
10 月 26 日（土）	岡崎アーティストトーク　志賀理江子	78 人
計（30 回）		1,401 人

(3) 開催効果調査分析業務（平成 25 年度）

・次回「トリエンナーレ 2016」開催に向けての検討基礎資料とするため、「あいちトリエンナーレ 2013」の開催効果について、調査及び分析を行った。

■来場者等アンケート調査及び有識者ヒアリングの実施

・トリエンナーレ来場者の満足度や要望・意見等を把握するため、国際美術展、舞台公演、キッズトリエンナーレ等の来場者へのアンケート調査を行った。
・会期終了後は、文化芸術関係者・団体（ボランティア、パートナーシップ事業参加団体、愛知県内学校等）に対するアンケート調査を実施した。
・文化芸術に関する専門的な知識・見識を有する者に、トリエンナーレに対する評価、実施結果を踏まえた今後の方向性等についてヒアリングを行った。

■経済波及効果及びパブリシティ効果の算出

・トリエンナーレの開催によって、どの程度の経済的な効果があったのかを客観的に推計するため、愛知県及び実行委員会の調達に伴う需要及び来場者の消費活動による経済波及効果を算出した。
・トリエンナーレが新聞、雑誌等の媒体に採り上げられたことによる広告宣伝効果を、広告料金によって金額換算したパブリシティ効果を算出した。

(4) 顧客対応（コールセンター）業務（平成 25 年度）

・トリエンナーレに関し愛知県に寄せられる様々な問い合わせに対応するため、国際芸術祭推進室内にコールセンターを設置し、民間の顧客対応のノウハウを活用した一元的な電話対応を行った。
・期間中、4,715 件の問い合わせがあったが、内訳としては、チケットに関すること（402 件）、美術展の作品・内容に関すること（364 件）、会場の休館日・時間に関すること（361 件）、会場の場所・アクセスに関すること（357 件）が多かった。

設置期間	7 月 16 日(火) ～10 月 31 日(木)　※会期外の土日祝は休み
対応時間	午前 9 時～午後 8 時（会期外は午前 9 時～午後 5 時）
電話番号	052-971-6111
問い合わせ件数	4,715 件

(5) PR キャラバン隊事業（平成 24 年度）

・トリエンナーレの開催を PR するため、子ども達によるダンスユニット「K☆DAT（ケーダット)」のパフォーマンスによる PR 活動とキャラバン隊によるチラシ等の配布を実施した。

活動期間	平成 24 年 8 月 11 日(土）～平成 25 年 2 月 28 日（木）
場所	愛知芸術文化センターを中心とした愛知県内外の集客施設やイベント会場
公演実績	・公演数　101 回 ・観覧者数　37,810 人 ・チラシ等配布枚数　108,810 枚
楽曲提供	SEAMO（HIPHOP アーティスト）等

(6) 携帯情報端末活用コンテンツ制作事業（平成 24 年度）

・トリエンナーレ国際美術展チケットの特別先行前売りに向けた PR として、AR（拡張現実）の技術を活用したスタンプラリーを実施した。

実施期間	平成 25 年 2 月 9 日(土）～3 月 31 日(日)
場所	愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町、納屋橋、オアシス２１
内容	愛知芸術文化センター等に設置されたマーカーにスマートフォン等をかざすと、あいちトリエンナーレ 2010 の画像や 3D のメディアアート等を見ることができ、それらを集めるスタンプラリー
参加者数	794 人

【あいちトリエンナーレ 2013 の主な特徴】

あいちトリエンナーレ 2013 では、「揺れる大地―われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活」をテーマに掲げ、国内外の先端的な現代美術、パフォーミングアーツ、オペラを展開した。

■象徴的なテーマ展開

○現代美術では、このテーマを受け、多くのアーティストがそれぞれの表現方法で、「場所」「記憶」「復活」に繋がる作品を発表した。

・ヤノベケンジは、希望の復活のシンボルともいえる《サン・チャイルド》の展示に加え、美術館の展示室内に華やかな結婚式場を創り出し、そこで実際に挙式が行える《太陽の結婚式》を発表した。また、このプロジェクトの作品の一部としてビートたけし原画のステンドグラスやマティスの版画を展示した神殿を構築した。
・オノ・ヨーコは、祈りをこめたメッセージとして《生きる喜び》というフレーズをまちなかで展開し、名古屋テレビ塔にネオンサインを掲出した。そのほか、誰もが自分自身の愛や願いを表現することができる《マイ・マミー・イズ・ビューティフル》や《ウィッシュ・ツリー》、光に満ちた空間を生み出す《光の家の部分》など合計 5 つのプロジェクトを発表した。
・アルフレッド・ジャーは、東北の被災地をリサーチし、閉校する学校から黒板を譲り受け、メモリアルとしてのインスタレーションを制作した。

○パフォーミングアーツでは、舞台美術と視覚造形美術を架橋する作品を重視し、テーマに沿ったプログラムを上演した。

・現代の代表的振付家の一人イリ・キリアンは、東日本大震災に心を痛め、ベケットの哲学から着想された新作ダンスを発表した。映像は米国のジェイソン・アキラ・ソンマ、作曲・ピアノはアムステルダム在住の向井山朋子が担当し、ジャンルを超えて被災者への共感を表した。
・やなぎみわは、ベケットの戯曲「クラップの最後のテープ」を織り込んだ新作「ゼロ・アワー東京ローズ最後のテープ」を上演した。

○プロデュースオペラでは、新進気鋭の演出家が、「蝶々夫人」を揺れるアイデンティティーの問題として描いた。

■建築の視点の導入

○作家や作品の選定において、「建築」の視点を取り入れた。

・建築に大胆に介入する作品で知られるリチャード・ウィルソンは、納屋橋の、かつてボウリング場だった建物で、レーンが屋外へ飛び出すというダイナミックな作品を発表した。
・青木淳は、杉戸洋との創造的な対話を通じた共同作業によって、黒川紀章設計による名古屋市美術館の空間を再構築し、新しい解釈によって空間や動線の一時的なリノベーションを行った。
・studio velocity は岡崎会場のシビコの屋上を白く塗り、日差しの照り返しによって圧倒的な身体体験をもたらし、上部には細い糸を張りめぐらせ、空を背景に透明な大屋根をつくる空間を生み出した。

○普段公開されていない建物をガイドツアー形式の「オープンアーキテクチャー」で紹介した。

・エンジニアであった故・川合健二が考案した大地に転がるドラム缶のような家「コルゲートハウス」（豊橋市）、愛知県指定文化財である「四間道・伊藤家住宅」（名古屋市西区）など、普段公開されていない建物をガイドツアー形式の「オープンアーキテクチャー」で紹介し、その魅力を共有した。

■まちなか展開の拡大

○前回のトリエンナーレでも賑わった名古屋市内のまちなか会場に加えて、今回は岡崎市内のまちなかも会場となった。

・長者町会場では、28 組のアーティスト（企画コンペ含む）が作品展示やパフォーマンスを行った。前回のトリエンナーレに引き続き、長者町ゑびす祭りがトリエンナーレの会期に合わせて開催されるなど、まちとトリエンナーレが一体となって盛り上がった。
・岡崎の康生会場では、同市出身の志賀理江子が、仙台で開催した個展「螺旋海岸」を、会場となる岡崎シビコ 6 階の空間にあわせた新たな構成で発表。地元では初めての大規模な展示となった。
・松本町会場では、青木野枝が、松應寺の前に作られた木造のアーケードに隣接する旧美容室を利用して展示を行った。

■普及・教育の充実

○子どもたちがアートを体感できる場として「キッズトリエンナーレ」を実施した。

・いつでも誰でも自由に創作活動ができるスタジオを愛知県美術館 8 階ギャラリー J 室に開設した。週末や夏休み期間中には参加アーティスト自ら講師となる企画をはじめ、子どもや親子を対象としたワークショップ（27 企画）を実施した。
・ワークシートやグッズが入ったキットを会場で貸し出し、愛知芸術文化センターの展示会場で子どもや親子が楽しみながら現代美術の作品を鑑賞するプログラムを実施した。

○アートとの出会いを通じて、より多くの子どもたちの感性や創造性の成長に働きかけるため、学校向けプログラムを実施した。

・授業、校外学習、部活動など様々な学校行事を活用して、児童・生徒に世界最先端の現代美術に触れてもらうため、学校向け団体鑑賞プログラムを実施した。
・子どもたちが授業等の中で現代アートに身近に触れる機会を作るため、学校に参加アーティストを派遣し、子どもたちと一緒に作品制作やワークショップを行った。

○トリエンナーレをより身近に感じてもらうため、「パブリック・プログラム」を実施した。

・参加アーティストによるトークやディスカッションなどを通してトリエンナーレに深くアプローチし、考え方の広がりや変化を促すとともに、現代社会とアートとの関係について考える機会を提供した（42 企画）。

【会期中のイベント・プログラム】

・トリエンナーレの会期中は、多彩なイベント・プログラムを開催し、多くの方に参加していただいた。
・最も参加者が多かったのは、プロジェクト FUKUSHIMA!『フェスティバル FUKUSHIMA in AICHI!』（9 月 7 日（土）8,000 人、8 日（日）7,000 人）で、高橋匡太≪Glow with City Project≫（9 月 22 日（日）3,500 人、21 日（土）2,300 人）がそれに続いた。

■8 月

日	場所	時間	ジャンル	イベント名	入場	人数
9 日（金）	全会場	9:30-20:00	その他	記者内覧	報道関係者	305 人
		13:30-20:00	その他	一般内覧会	招待者	2,500 人
	芸文	10:30-11:20	その他	プレスツアー(愛知県美術館 10F)	報道関係者	63 人
		11:30-12:30	その他	プレスツアー(愛知県美術館 8F)	報道関係者	68 人
		13:30-14:30	その他	記者会見	報道関係者	54 人
		15:00-15:40	現代美術	やなぎみわ 案内嬢プロジェクト『案内嬢パフォーマンス』プレビュー公演	招待者	―
		16:30-18:10	PA	ままごと『日本の大人』プレビュー公演	招待者	112 人
		18:30-20:30	その他	オープニングレセプション	招待者	1,500 人
	市美	16:10-16:50	その他	プレスツアー	報道関係者	23 人
	長者町・広小路	17:00-18:20	その他	プレスツアー	報道関係者	20 人
	納屋橋	15:10-16:20	その他	プレスツアー	報道関係者	15 人
	康生	14:00-14:20	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』プレビュー公演	招待者	―
10 日（土）	芸文	11:00-12:40 15:00-16:40	PA	ままごと『日本の大人』	要チケット	247 人
		11:00-11:40 14:00-14:40 16:30-17:10	現代美術	やなぎみわ 案内嬢プロジェクト『案内嬢パフォーマンス』	要美術展券	120 人
		14:00-16:00	キッズ	特別ワークショップ「マーキング・リレー」	無料	70 人
		16:00-16:30	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	80 人
	広小路	13:00-15:00	その他	藤村龍至/あいちプロジェクト パブリックミーティング第 1 回	要美術展券	―
	東岡崎駅	10:00-10:30	その他	開幕記念列車出発式	無料	300 人
		11:00-11:30	その他	プレスツアー	報道関係者	30 人
	康生	12:55-14:40	その他	プレスツアー	報道関係者	25 人
		13:00-13:20 14:00-14:20 15:00-15:20	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』	要美術展券	―
		16:00-16:30	まちトリ	アーティストトーク 向井山朋子	要美術展券	44 人
	松本町	12:00-12:45	その他	プレスツアー	報道関係者	25 人
11 日（日）	芸文	11:00-12:40 15:00-16:40	PA	ままごと『日本の大人』	要チケット	269 人
		11:00-11:40 14:00-14:40 16:00-16:40	現代美術	やなぎみわ 案内嬢プロジェクト『案内嬢パフォーマンス』	要美術展券	119 人
		13:00-15:00	パブリック	国際シンポジウム「現代ケンチクの日本」	無料	180 人
		14:00-16:00	キッズ	特別ワークショップ「マーキング・リレー」	無料	153 人
		15:00-15:30	パブリック	ミハイル・カリキス パフォーマンス	無料	160 人
		16:00-18:00	パブリック	オープニングシンポジウム「カタストロフという機会 -The Opportunity of Catastrophe-」	無料	140 人
		18:30-20:00	パブリック	スポットライト:やなぎみわ	無料	111 人
	長者町	18:00-19:00	現代美術	マーロン・グリフィス≪太陽のうた≫パレード	無料	250 人
	康生	13:00-13:20 14:00-14:20 15:00-15:20	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』	要美術展券	―
12 日（月）	芸文	10:00-17:00	キッズ	ケーシー・ウォン「からだとけんちく!まちの発見ワークショップ」	無料	40 人
		19:00-20:40	PA	ままごと『日本の大人』	要チケット	155 人

13日 (火)	芸文	10:00-17:00	キッズ	ケーシー・ウォン「からだとけんちく!まちの発見ワークショップ」	無料	26人
		15:00-16:40 19:00-20:40	PA	ままごと『日本の大人』	要チケット	288人
14日 (水)	芸文	14:00-16:00	キッズ	トリエンナーレスタッフ「ちいさなものをおおきくすると」	無料	24人
		19:00-20:40	PA	ままごと『日本の大人』	要チケット	154人
15日 (木)	芸文	11:00-12:40 15:00-16:40	PA	ままごと『日本の大人』	要チケット	312人
		13:00-15:30	建物公開&キッズ	愛知芸術文化センター	無料	372人
		14:00-16:00	キッズ	トリエンナーレスタッフ「ちいさなものをおおきくすると」	無料	23人
16日 (金)	芸文	14:00-16:00	キッズ	トリエンナーレスタッフ「ちいさなものをおおきくすると」	無料	22人
		18:30-20:00	パブリック	クロス・キーワード「名古屋のオルタナティブスペース」	無料	65人
17日 (土)	芸文	14:00-16:30	キッズ	藤村和成(ハウス・パブリッシング福祉デザイン研究所)+トリエンナーレスタッフ「ダンボールでサバイバル!」	無料	27人
	康生	11:30-12:30	まちトリ	アーティストトーク studio velocity / 栗原健太郎+岩月美穂	要美術展券	33人
		13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	ー
		15:00-16:30	まちトリ	アーティストワークショップ studio velocity / 栗原健太郎+岩月美穂「瞬間を閉じ込めるブローチ」	無料	30人
	名古屋市内	14:00-16:00	パブリック	クロス・キーワード特別企画「あいちトリエンナーレを支える名古屋のデザイン力」	無料	110人
18日 (日)	芸文	14:00-16:30	キッズ	藤村和成(ハウス・パブリッシング福祉デザイン研究所)+トリエンナーレスタッフ「ダンボールでサバイバル!」	無料	27人
		14:30-15:30	パブリック	キュレーターガイドツアー 住友文彦	要美術展券	28人
		16:00-17:30	パブリック	クロス・キーワード「ベロタクシーを利用したトリエンナーレの楽しみ方」	無料	50人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	ー
19日 (月)	東岡崎駅	14:30-16:00	まちトリ	ワークショップ こども工場見学 反毛(はんもう)工場へ行こう!	無料	12人
20日 (火)	芸文	12:30-13:00	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	24人
		13:30-15:30	大学連携	体験講座「絵画の筆法を学んで体感しよう」	要参加費	17人
		14:00-16:00	キッズ	河村るみ「my trace - 「私」をなぞって壁画を描く - 」	無料	38人
21日 (水)	芸文	13:30-16:30	大学連携	体験講座「オリジナルの昆虫をデザインする」	要参加費	8人
		14:00-16:00	キッズ	河村るみ「my trace - 「私」をなぞって壁画を描く - 」	無料	37人
	岡崎市内	13:30-16:00	建物公開	愛知産業大学 言語・情報共育センター	無料	73人
22日 (木)	芸文	13:30-15:30	大学連携	体験講座「国宝を写すー鳥獣戯画の線描表現」	無料	24人
		13:45-16:00	キッズ	平成 25 年度愛知県高等学校文化連盟実技講習会「高校生とトリエンナーレで見て知り考えるトーク」	無料	208人
		14:00-16:30	キッズ	たむらひろし「海の音をつくり、感じてみる。」	無料	20人
23日 (金)	芸文	10:00-16:00	パブリック	アクセスプログラム「ベクトルワークショップ」	要美術展券	5人
		19:00-21:00	PA	藤本隆行+白井剛『Node/砂漠の老人』	要チケット	152人
		14:00-16:30	キッズ	たむらひろし「海の音をつくり、感じてみる。」	無料	15人
	長者町	19:30-20:15	まちトリ	ワークショップ まちとアートの響きあう星空幻燈会	無料	100人
	豊橋市内	10:00-19:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 豊橋	無料	519人

24日（土）	芸文	13:00-17:30	キッズ	池田剛介「作品をよく観察し、分析して言葉にする」	無料	5人
		14:00-16:00	PA	藤本隆行+白井剛『Node/砂漠の老人』	要チケット	150人
		15:45-16:45	パブリック	キュレーターガイドツアー 飯田志保子	要美術展券	30人
	広小路	14:00-16:00	その他	藤村龍至/あいちプロジェクト パブリックミーティング第2回	要美術展券	―
	市美	13:00-14:30	まちトリ	アーティストトーク マーロン・グリフィス	無料	46人
	長者町	19:00-20:30	大学連携	アーティスト+企画者によるトーク「Draw the World - 世界を描く」(愛知県立芸術大学)	無料	45人
	名古屋市内	9:00-11:30	建物公開	珈琲エーデルワイス、ボンボン桜山店	無料	28人
	豊橋市内	10:00-19:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 豊橋	無料	895人
		13:00-17:00	モバイル	ワークショップ 山下拓也「かぶると頭がグィーンと回る君だけ!の面」	無料	46人
25日（日）	芸文	13:00-17:30	キッズ	池田剛介「作品をよく観察し、分析して言葉にする」	無料	5人
		14:00-15:30	パブリック	連携プログラム「露呈される大地/エネルゲイアー青森EARTHへの返信」	無料	111人
		14:00-15:30	PA	藤本隆行＋白井剛『Node/砂漠の老人』	要チケット	128人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	豊橋市内	10:00-19:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 豊橋	無料	772人
26日（月）	芸文	14:30-16:00	キッズ	トリエンナーレスタッフ「はかってジャスト!」	無料	10人
27日（火）	芸文	10:30-12:00 14:00-15:30	キッズ	日笠保「WA2013」	無料	314人
		13:30-15:30	大学連携	体験講座「金属彫刻入門～スチレンボードによるマケット作り」	要参加費	7人
28日（水）	芸文	10:30-12:00 14:00-15:30	キッズ	日笠保「WA2013」	無料	233人
		13:30-16:30	大学連携	体験講座「自分のデザインで缶バッジを作ろう」	要参加費	9人
	名古屋市内	14:00-16:00	建物公開	爲三郎記念館(古川美術館分館)	無料	26人
29日（木）	芸文	13:30-15:30	大学連携	体験講座「カメラオブスクラを作ろう」	無料	11人
		14:00-16:00	キッズ	758 でまえワークショッパーズ「積んで作ろう☆紙コップランド」	無料	286人
30日（金）	芸文	14:00-16:00	キッズ	758 でまえワークショッパーズ「積んで作ろう☆紙コップランド」	無料	290人
		18:30-20:00	大学連携	座学「アートとはじめる/何かがかわる」(名古屋芸術大学)	無料	27人
		19:00-21:00	PA	やなぎみわ『ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテープ』	要チケット	155人
	春日井市内	13:00-16:00	モバイル	モバイル・プレワークショップ in 春日井	無料	138人
31日（土）	芸文	10:00-13:00	キッズ	30 秒に一回みっける写真道場!!「みっける!町のあそびの天才!みっけるキッズフェス!!」	無料	20人
		13:30-15:00	キッズ	大友良英「親子オーケストラ」ワークショップ	無料	49人
		14:00-15:30	パブリック	アクセスプログラム基調講演(トリエンナーレ2013コミュニティ・デザイナー菊池宏子)	無料	47人
		14:00-16:30 18:00-20:00	PA	やなぎみわ『ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテープ』	要チケット	325人
		18:00-20:30	PA	大友良英「オーケストラ AICHI!」ワークショップ	無料	135人
	名古屋市内	14:00-15:30	まちトリ	アーティストトーク 菅沼朋香	無料	30人
		18:00-19:30	まちトリ	アーティストトーク Nadegata Instant Party	要美術展券	30人

■9 月

日	場所	時間	ジャンル	イベント名	入場	人数
1 日（日）	芸文	13:30-15:00	キッズ	大友良英「親子オーケストラ」ワークショップ	無料	37 人
		14:00-17:00	キッズ	30 秒に一回みっける写真道場!!「みっける!町のあそびの天才!みっけるキッズフェス!!」	無料	19 人
		14:00-16:00	PA	やなぎみわ『ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテープ』	要チケット	153 人
		17:00-19:30	PA	大友良英「オーケストラ AICHI!」ワークショップ	無料	110 人
	芸文・市美・長者町等	10:30-16:30	その他	オカザえもんによる PR	無料	570 人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	松本町	16:00-17:30	まちトリ	アーティストトーク 丹羽良徳	無料	39 人
	名古屋市内	9:45-11:45	建物公開	四間道・伊藤家住宅	無料	30 人
5 日（木）	芸文	13:00-14:30	PA	梅田宏明①「梅田宏明による姿勢ワークショップ」	無料	19 人
		15:00-16:30	PA	梅田宏明②「伝統舞踊ダンサーによるインド&カンボジア舞踊ワークショップ」	無料	11 人
6 日（金）	芸文	18:30-20:00	大学連携	座学「そもそも公共の芸術コンペは何を目指していたのか?」(愛知県立芸術大学)	無料	19 人
		19:00-20:30	PA	梅田宏明『4.temporal pattern』/『Holistic Strata』	要チケット	122 人
7 日（土）	芸文	12:30-13:00	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	70 人
		14:00-15:30	パブリック	スポットライト:ヤノベケンジ	無料	220 人
		14:00-16:00	キッズ	外山晴菜「ダンスでピチピチ★われら「おのまとぺていすた」!」	無料	20 人
		14:00-15:00 19:00-20:30	PA	梅田宏明『4.temporal pattern』/『Holistic Strata』	要チケット	181 人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	名古屋市内	10:15-11:45	建物公開	CmSOHO/The Garden 覚王山	無料	27 人
		13:30-14:30 14:30-15:30 15:30-16:30	建物公開	M House	無料	20 人
	オアシス 21	15:00-20:00	PA	プロジェクト FUKUSHIMA!(総合ディレクション:大友良英)『フェスティバル FUKUSHIMA in AICHI!』	無料	8,000 人
8 日（日）	芸文	10:00-12:00	キッズ	外山晴菜「ダンスでピチピチ★われら「おのまとぺていすた」!」	無料	12 人
		14:00-15:30	パブリック	クロス・キーワード「喫茶店文化にみるあいち気質」	無料	71 人
		14:00-15:30	PA	梅田宏明『4.temporal pattern』/『Holistic Strata』	要チケット	109 人
	市美	13:00-14:30	まちトリ	トーク トリエンナーレの裏側 名古屋編	無料	87 人
	広小路	14:00-16:00	その他	藤村龍至/あいちプロジェクト パブリックミーティング第 3 回	要美術展券	―
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	オアシス 21	11:00-17:00	PA	プロジェクト FUKUSHIMA!(総合ディレクション:大友良英)『フェスティバル FUKUSHIMA in AICHI!』	無料	7,000 人
	名古屋市内	14:30-16:30	建物公開	丸栄	無料	28 人
12 日（木）	芸文	17:00-20:00	オペラ	オペラ『蝶々夫人』中学・高校生のためのゲネプロ公開	無料	95 人
13 日（金）	芸文	18:30-20:00	オペラ&パブリック	大人も!ワクワク!オペラ体験!	無料	386 人
		18:30-20:00	大学連携	座学「ポストモダンの歩き方」(名古屋造形大学)	無料	29 人
	知多市内	9:00-17:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 知多	無料	268 人

14日（土）	芸文	9:30-12:00	キッズ	ほうほう堂 ダンス・ワークショップ	無料	24人
		10:00-12:00	キッズ	NPO法人デジタルポケット+トリエンナーレスタッフ「プログラミングで作品鑑賞? Viscuit でつくるトリエンナーレ」	無料	109人
		15:00-18:00	オペラ	プロデュースオペラ『蝶々夫人』	要チケット	2,180人
		19:00-20:00	PA	イリ・キリアン『EAST SHADOW』	要チケット	198人
	市美	13:00-14:30	建物公開&パブリック	名古屋市美術館 スポットライト:青木淳 杉戸洋(スパイダース)	無料	270人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	知多市内	9:00-17:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 知多	無料	354人
15日（日）	芸文	9:30-12:00	キッズ	ほうほう堂 ダンス・ワークショップ	無料	28人
		10:00-12:00	キッズ	NPO法人デジタルポケット+トリエンナーレスタッフ「プログラミングで作品鑑賞? Viscuit でつくるトリエンナーレ」	無料	112人
		11:00-11:30	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	80人
		14:00-15:30	パブリック	クロス・キーワード「オフィシャルグッズ・学生コンペティションの裏側」	無料	69人
		15:00-16:30	オペラ&キッズ	ワクワク!オペラ体験!	無料	490人
		19:00-20:00	PA	イリ・キリアン『EAST SHADOW』	要チケット	202人
	長者町	16:00-18:00	まちトリ	ツアー 長者町くんとまわる!あいちトリエンナーレ2013企画コンペ作品ツアー(A日程)	要美術展券	17人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	名古屋市内	10:45-12:15 14:45-16:15 16:30-18:00	建物公開	都市に開いていく家	無料	68人
	知多市内	9:00-17:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 知多	無料	311人
16日（月祝）	芸文	10:00-12:00	キッズ	NPO法人デジタルポケット+トリエンナーレスタッフ「プログラミングで作品鑑賞? Viscuit でつくるトリエンナーレ」	無料	118人
		15:00-18:00	オペラ	プロデュースオペラ『蝶々夫人』	要チケット	2,105人
		19:00-20:00	PA	イリ・キリアン『EAST SHADOW』	要チケット	185人
	長者町	18:00-19:30	大学連携	レクチャーと実演「ジェネラティブに使う 3D プリンター」(名古屋造形大学)	無料	35人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	岡崎市内	15:00-16:30	まちトリ	アーティストトーク 青木野枝	無料	85人
	知多市内	9:00-17:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 知多	無料	187人
20日（金）	芸文	18:30-20:00	パブリック	クロス・キーワード「建築から名古屋をおもしろく！若手建築家と学生の挑戦」	無料	78人
	春日井市内	10:00-20:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 春日井	無料	485人
21日（土）	芸文	10:00-11:30 14:00-15:30	キッズ	愛知県美術館鑑賞学習ワーキンググループ「現代アートとあくしゅ アートにはくしゅ」	無料	79人
		14:00-16:00	キッズ	トリエンナーレスタッフ「だいちのルール」	無料	22人
		13:00-14:30	パブリック	クロス・キーワード「79のキーワードの裏側」	無料	80人
		16:00-18:00	パブリック	藤村龍至/あいちプロジェクト パブリックミーティング第4回中間発表	無料	50人
	長者町	10:00-14:00	まちトリ	ワークショップ こどものまちとアート 長者町まち探検と布絵ワークショップ	無料	22人
		15:30-17:30	PA	ほうほう堂『ほうほう堂@おつかい』	無料	1,084人
		18:00-18:30	まちトリ	アーティストトーク ほうほう堂	無料	64人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	名古屋市内	18:30-19:30	現代美術	高橋匡太≪Glow with City Project≫	無料	2,300人
	春日井市内	10:00-20:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 春日井	無料	1,052人
		13:30-15:30 17:00-19:00	モバイル	ワークショップ 池田剛介「作品について作家とともに考え・話す」	無料	11人

22日（日）	芸文	13:00-16:00	キッズ	田尾下哲「音楽劇ワークショップ～音楽を使ってストーリーを作ろう！～」	無料	37人
		15:00-16:30	パブリック	クロス・キーワード「考現学で見るあいちのまちと暮らし」(岡本信也)	無料	72人
		19:00-20:00	PA	アルチュール・ノジシエル(オルレアン国立演劇センター)『L'IMAGE』	要チケット	131人
	長者町	15:30-17:30	PA	ほうほう堂『ほうほう堂@おつかい』	無料	865人
	広小路	11:00-12:00	その他	藤村龍至/あいちプロジェクト フロアートーク	要美術展券	人
	名古屋市内	18:30-19:30	現代美術	高橋匡太≪Glow with City Project≫	無料	3,500人
	東岡崎駅	13:00-16:00	まちトリ	ツアー キュレーターとまわる! あいちトリエンナーレ2013 岡崎会場ツアー	要美術展券	20人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	松本町	18:00-19:30	映像	<オープニング上映>パールフィ・ジョルジ『ファイナル・カット』	無料	43人
	春日井市内	10:00-20:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 春日井	無料	1,224人
23日（月祝）	芸文	10:30-11:30	パブリック	キュレーターガイドツアー 五十嵐太郎	要美術展券	50人
		13:00-16:00	キッズ	田尾下哲「音楽劇ワークショップ～音楽を使ってストーリーを作ろう!～」	無料	39人
		14:00-15:30	パブリック	スポットライト:ミッチ・エプスタイン	無料	108人
		14:00-15:00	PA	アルチュール・ノジシエル(オルレアン国立演劇センター)『L'IMAGE』	要チケット	104人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	春日井市内	10:00-17:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 春日井	無料	808人
25日（水）	芸文	17:00-19:00	映像	三宅唱『Playback』	要美術展券	52人
		19:00-20:30	映像	ミケランジェロ・フランマルティーノ『四つのいのち』	要美術展券	51人
	名古屋テレビ塔	18:30-20:30	まちトリ	名古屋百人百景トーク会	無料	50人
26日（木）	芸文	17:00-17:45	映像	土本典昭『原発切抜帖』	要美術展券	29人
		18:00-20:30	映像	濱口竜介+酒井耕『なみのおと』	要美術展券	19人
27日（金）	芸文	17:00-18:40	映像	チャオ・イエ『ジャライノール』	要美術展券	44人
		19:00-20:10	映像	短編2「若人の大地」	要美術展券	54人
	名古屋市内	17:00-21:00	建物公開	名古屋陶磁器会館	無料	83人
	東栄町内	9:00-17:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 東栄町	無料	53人
28日（土）	芸文	10:00-16:00	キッズ	石上和弘「私の心が雲に乗る!」	無料	219人
		10:30-12:00	パブリック	視覚に障がいのある方との鑑賞会	無料	40人
		17:00-18:10	映像	ビル・モリソン『トリビュート-パルス』	要美術展券	58人
		19:00-20:10	映像	短編1「復活の物語」	要美術展券	43人
		18:00-19:30	PA	清水靖晃+カール・ストーン『Just Breathing』	要チケット	196人
	名古屋市内	14:00-18:00	建物公開	名古屋陶磁器会館	無料	83人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	東栄町内	9:00-17:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 東栄町	無料	124人
		13:30-16:30	モバイル	ワークショップ 竹田尚史「コンセプチュアル・アート??」	無料	22人
29日（日）	芸文	10:00-16:00	キッズ	石上和弘「私の心が雲に乗る!」	無料	224人
		14:00-15:30	パブリック	スポットライト:名和晃平	無料	315人
		16:00-18:00	映像	土本典昭『原発切抜帖』+ゲストトーク（正木基）	要美術展券	93人
		18:00-20:30	映像	濱口竜介+酒井耕『なみのおと』	要美術展券	36人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
	東栄町内	9:00-17:00	モバイル	モバイル・トリエンナーレ in 東栄町	無料	173人
30日（月）	芸文	11:30- 13:00- 14:30- 16:00- 18:00- 19:30-	祝祭	ART IN WONDERLAND Re:ALICE リ・アリス	要チケット	816人
		19:00-20:30	祝祭	くりもとようこ&野々村明子 企画・構成 静かなる大地	要チケット	410人

■10 月

日	場所	時間	ジャンル	イベント名	入場	人数
1 日 (火)	芸文	17:00-18:10	映像	短編 1「復活の物語」	要美術展券	47 人
		18:00-21:00	祝祭	Aichi Triennale 2013「トリプル・ビル」公演 レ・シルフィード/火の鳥/ダッタン人の踊り	要チケット	1,456 人
		19:00-20:40	映像	チャオ・イエ『ジャライノール』	要美術展券	28 人
2 日 (水)	芸文	17:00-18:30	映像	ミケランジェロ・フランマルティーノ『四つのいのち』	要美術展券	21 人
		19:00-21:00	映像	三宅唱『Playback』	要美術展券	38 人
		19:00-20:45	祝祭	光の記憶 第二章 ～KAGUYA～	要チケット	840 人
		19:00-21:00	祝祭	サ××ド・オブ・ミュージック	要チケット	228 人
3 日 (木)	芸文	10:30-12:00 14:00-15:30	パブリック	視覚に障がいのある方との鑑賞会	無料	46 人
		17:00-18:10	映像	ビル・モリソン『トリビュート-パルス』	要美術展券	46 人
		18:30-20:30	祝祭	あいちトリエンナーレ 2013 祝祭ウィーク ショービジネスに乾杯!	要チケット	1,350 人
		18:30-21:15	祝祭	音楽の未来形 vol.1～geidai-ongaku ～～新作室内楽・電子音響音楽フェスト～～	要チケット	112 人
		19:00-20:10	映像	短編 2「若人の大地」	要美術展券	35 人
4 日 (金)	芸文	17:00-19:00	映像	土本典昭『原発切抜帖』+ゲストトーク(津田大介)	要美術展券	96 人
		18:45-20:35	祝祭	モーツァルト ～3 台のグランドピアノの祝典	要チケット	857 人
		19:00-20:10	映像	短編 1「復活の物語」	要美術展券	56 人
	岡崎市内	18:00-20:00	まちトリ	岡崎百人百景シンポジウム	無料	73 人
5 日 (土)	芸文	14:00-15:30	パブリック	スポットライト:ダン・ペルジョヴスキ	無料	77 人
		14:00-16:00	キッズ	宮田篤「微分帖/ビブンマンガ/びぶんえほん」	無料	126 人
		14:00-16:00 18:00-20:00	祝祭	NEXT SPRING〈オアシス/火の鳥〉	要チケット	2,039 人
		14:30-16:30 18:30-20:30	祝祭	コンテンポラリーダンス 2013「空間飛行」	要チケット	404 人
		15:00-16:00	パブリック	せんだいスクール・オブ・デザイン あいちトリエンナーレ分校 オープニングレクチャー「せんだいスクール・オブ・デザインとは」	無料	57 人
		15:00-17:30	祝祭	あいちの声楽家たちによる“異人たちの響演”	要チケット	1,058 人
		16:00-18:00	パブリック	せんだいスクール・オブ・デザイン あいちトリエンナーレ分校 ワークショップ	無料	―
		16:00-18:00	映像	短編 1「復活の物語」+キュレータートーク	要美術展券	106 人
		19:00-20:10	映像	ビル・モリソン『トリビュート-パルス』	要美術展券	44 人
	長者町	17:00-18:00	パブリック	横山裕一 フロアトーク	無料	65 人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
		15:00-16:30	まちトリ	トーク トリエンナーレの裏側 岡崎編	無料	44 人
	知多市内	13:30-16:30	モバイル	ワークショップ 國府理「動く消しゴム、空飛ぶ色鉛筆をつくろう」	無料	12 人
	豊橋市内	14:15-15:45	建物公開	コルゲートハウス	無料	34 人
6 日 (日)	芸文	8:50-16:00	パブリック	せんだいスクール・オブ・デザイン あいちトリエンナーレ分校 ワークショップ	無料	―
		14:00-16:00	キッズ	宮田篤「微分帖/ビブンマンガ/びぶんえほん」	無料	181 人
		15:00-16:00	祝祭	Anthology of American Jazz Dance	要チケット	151 人
		16:00-18:00	パブリック	藤村龍至/あいちプロジェクト パブリックミーティング第 5 回 最終発表	無料	82 人
		17:00-20:15	祝祭	ジャズ・ラブ・オーケストラと素敵な仲間達	要チケット	1,370 人
		17:00-18:30	映像	ミケランジェロ・フランマルティーノ『四つのいのち』	要美術展券	38 人
		17:30-19:30	祝祭	オペラティックな現代日本歌曲とブラームス歌曲集「マゲローネのロマンス」演奏会	要チケット	617 人
		19:00-21:00	映像	三宅唱『Playback』	要美術展券	36 人
	長者町	13:00-15:00	まちトリ	ツアー 長者町くんとまわる!あいちトリエンナーレ 2013 企画コンペツアー(B 日程)	要美術展券	20 人
	名古屋テレビ塔	19:00-20:30	パブリック	せんだいスクール・オブ・デザイン あいちトリエンナーレ分校 クロージングトークイベント「デザインとローカリティ」	無料	99 人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―

8日（火）	芸文	17:00–18:00	映像	土本典昭『原発切抜帖』	要美術展券	38人
		18:00–20:30	映像	濱口竜介+酒井耕『なみのおと』	要美術展券	48人
9日（水）	芸文	17:00–18:40	映像	チャオ・イエ『ジャライノール』	要美術展券	52人
		19:00–20:10	映像	短編2「若人の大地」	要美術展券	44人
10日（木）	芸文	17:00–18:00	映像	土本典昭『原発切抜帖』	要美術展券	28人
		18:00–20:30	映像	濱口竜介+酒井耕『なみのおと』	要美術展券	24人
11日（金）	芸文	17:00–19:00	映像	三宅唱『Playback』	要美術展券	46人
		18:30–20:00	パブリック	クロス・キーワード「さまたげではない障がい:サスティナブルなコミュニティを育むには?」	無料	39人
		19:00–20:30	映像	ミケランジェロ・フランマルティーノ『四つのいのち』	要美術展券	57人
12日（土）	芸文	11:00–16:00	キッズ	愛知県児童総合センター「せんのとりで」	無料	168人
		14:00–15:30	パブリック	スポットライト:岡本信治郎	無料	83人
		16:00–18:30	映像	短編2「若人の大地」+ゲストトーク(宮崎夏次系)	要美術展券	148人
		18:00–20:15	PA	ARICA+金氏徹平『しあわせな日々』	要チケット	172人
		19:00–20:30	映像	パールフィ・ジョルジ『ファイナル・カット』	要美術展券	186人
	長者町	19:00–20:30	大学連携	アーティスト+企画者によるトーク「Primordial Essence ー根源と本質」(名古屋芸術大学)	無料	42人
	名古屋市内	18:00–18:30	その他	五十嵐芸術監督とオカザえもんとの対談	無料	350人
	康生	13:00–15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	ー
	岡崎市内	14:45–16:15	建物公開	透明な地形	無料	27人
13日（日）	芸文	11:00–16:00	キッズ	愛知県児童総合センター「せんのとりで」	無料	273人
		12:30–13:00	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	20人
		14:00–15:30	パブリック	クロス・キーワード「ICA,Nagoya と名古屋の現代アート」	無料	92人
		15:00–16:10	映像	ビル・モリソン『トリビュート-パルス』	要美術展券	171人
		17:00–18:10	映像	短編1「復活の物語」	要美術展券	88人
		18:00–20:15	PA	ARICA+金氏徹平『しあわせな日々』	要チケット	128人
		19:00–20:40	映像	チャオ・イエ『ジャライノール』	要美術展券	35人
	名古屋市内	10:45–12:15	建物公開	bird house	無料	25人
	康生	13:00–15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	ー
	岡崎市内	13:30–16:00	まちトリ	ワークショップ ダイジェスト版・岡崎三十六地蔵巡り	無料	14人
14日（月祝）	芸文	11:00–16:00	キッズ	愛知県児童総合センター「せんのとりで」	無料	308人
		14:00–15:45	PA	ARICA+金氏徹平『しあわせな日々』	要チケット	167人
		16:00–19:00	映像	三宅唱『Playback』+ゲストトーク(三宅唱)	要美術展券	162人
		19:00–20:00	パブリック	クロス・キーワード「ベケットへ/ベケットから」	無料	63人
		19:00–20:30	映像	ミケランジェロ・フランマルティーノ『四つのいのち』	要美術展券	53人
	康生	13:00–15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	ー
	東岡崎駅	10:00–16:00	まちトリ	アーティストワークショップ 下道基行「見えない風景」	無料	5人
15日（火）	芸文	12:30–13:00	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	60人
16日（水）	芸文	17:00–18:10	映像	短編2「若人の大地」	要美術展券	43人
		19:00–20:40	映像	チャオ・イエ『ジャライノール』	要美術展券	42人
17日（木）	芸文	16:00–18:30	映像	濱口竜介+酒井耕『なみのおと』	要美術展券	79人
		19:00–20:10	映像	ビル・モリソン『トリビュート-パルス』	要美術展券	55人
18日（金）	芸文	19:00–19:50	PA	ジェコ・シオンポ『Terima Kos (Room Exit)』	要チケット	131人

19日（土）	芸文	11:00-11:30	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	40人
		13:00-16:00	キッズ	伊奈章之「えーい!とポーズをなぞって、どーん!とおおきな街をえがくよ!」	無料	106人
		14:00-15:20	PA	ジェコ・シオンポ『Terima Kos (Room Exit)』	要チケット	108人
		15:00-17:00	パブリック	クロス・キーワード「大震災と文化財 場所、記憶、そして…」	無料	97人
		15:30-16:30	現代美術	マーロン・グリフィス《太陽のうた》パレード	無料	350人
		18:00-20:30	パブリック	公開コロキウム「アートによって何が始まったのか―越後-瀬戸内/神戸/あいち」	無料	210人
	長者町	10:00-17:00	その他	長者町ゑびす祭り	無料	―
		10:00-17:00	まちトリ	アーティストワークショップ 山下拓也「被ると頭がグィーンと回る君だけ!の面」	無料	63人
		19:30-20:15	映像	SjQ++『arc』ライブパフォーマンス	無料	651人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
20日（日）	芸文	12:30-13:00	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	20人
		13:00-16:00	キッズ	伊奈章之「えーい!とポーズをなぞって、どーん!とおおきな街をえがくよ!」	無料	119人
		14:00-14:50	PA	ジェコ・シオンポ『Terima Kos (Room Exit)』	要チケット	123人
		14:00-15:30	パブリック	クロス・キーワード「あいちの結婚式“ハデ婚”でデフレ脱却をめざせ」	無料	50人
		15:00-15:30	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	200人
	長者町	10:00-16:00	その他	長者町ゑびす祭り	無料	―
		10:00-16:00	まちトリ	アーティストワークショップ 山下拓也「被ると頭がグィーンと回る君だけ!の面」	無料	8人
		10:00-16:00	現代美術	現代美術展企画コンペ アーティストワークショップ タムラサトル「100gをつくる」	無料	11人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
22日（火）	芸文	14:00-14:30	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	73人
24日（木）	名古屋市内	14:00-14:45	その他	田尾下哲トークイベント	無料	20人
		17:00-17:45	その他	田尾下哲トークイベント	無料	40人
25日（金）	市美	18:00-20:00	パブリック	クロージングイベント「あいちトリエンナーレ2013に関する『Q&A』」	無料	191人
26日（土）	芸文	10:00-10:30	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	60人
		10:00-13:00	キッズ	西岳拡貴「『壊すこと』もアートなこと」	無料	21人
		14:00-15:00	キッズ	ジェコ・シオンポ「アニマル・ポップ・ダンスワークショップ」	無料	21人
		18:00-19:30	PA	マチルド・モニエ『ピュディック・アシッド』/『エクスタシス』	要チケット	162人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―
		15:00-16:30	まちトリ	アーティストトーク 志賀理江子	無料	78人
27日（日）	芸文	10:00-13:00	キッズ	西岳拡貴「『壊すこと』もアートなこと」	無料	29人
		13:00-13:30	その他	ヤノベケンジ《太陽の結婚式》	参列者	50人
		14:00-15:30	PA	マチルド・モニエ『ピュディック・アシッド』/『エクスタシス』	要チケット	164人
	康生	13:00-15:30	PA	向井山朋子+ジャン・カルマン『FALLING』パフォーマンス	要美術展券	―

〈場所〉
芸文＝愛知芸術文化センター／市美＝名古屋市美術館／長者町＝長者町会場／納屋橋＝納屋橋会場／広小路＝中央広小路ビル／東岡崎駅＝東岡崎駅会場／康生＝康生会場／松本町＝松本町会場
〈ジャンル〉
映像＝映像プログラム／PA＝パフォーミングアーツ／オペラ＝プロデュースオペラ／キッズ＝キッズトリエンナーレ／パブリック＝パブリック・プログラム／建物公開＝オープンアーキテクチャー／モバイル＝モバイル・トリエンナーレ／祝祭＝祝祭ウィーク事業／大学連携＝芸術大学連携プロジェクト
〈入場〉
要美術展券＝国際美術展チケットが必要
〈人数〉
「ー」は人数をカウントしていないもの

Ⅵ　来場者の状況等

1　来場者数

■プログラム別、会場別

・総来場者数は、前回トリエンナーレ 2010 の 572,023 人を超え 626,842 人となった。
・プログラム別では、国際美術展の来場者（479,847 人）が最も多く、全体の 76.5%を占めている。
・国際美術展の来場者数を会場別で比較すると、メイン会場である愛知芸術文化センターが 143,913 人で最も多くなっている。
・今回から新たに展開した岡崎地区の来場者数は 81,399 人となり、来場者全体の 13.0%に達した。

プログラム	来場者数	割合	内訳		
国際美術展	479,847 人	76.5%	愛知芸術文化センター	143,913 人	(30.0%)
			名古屋市美術館	74,739 人	(15.6%)
			長者町会場	84,838 人	(17.7%)
			納屋橋会場	43,962 人	(9.2%)
			その他会場	60,614 人	(12.6%)
			名古屋地区計	408,066 人	(85.0%)
			東岡崎駅会場	18,611 人	(3.9%)
			康生会場	30,596 人	(6.4%)
			松本町会場	22,574 人	(4.7%)
			岡崎地区計	71,781 人	(15.0%)
			計	479,847 人	(100.0%)
映像プログラム	3,163 人	0.5%			
パフォーミングアーツ	22,779 人	3.6%			
プロデュースオペラ	5,256 人	0.8%			
キッズトリエンナーレ	60,803 人	9.7%			
パブリック・プログラム	3,328 人	0.5%			
オープンアーキテクチャー	1,194 人	0.2%			
モバイル・トリエンナーレ	7,316 人	1.2%	豊橋市	2,232 人	
			知多市	1,132 人	
			春日井市	3,580 人	
			東栄町	372 人	
その他	30,955 人	4.9%	・ウィッシュ・ツリー		22,148 人
			・高橋匡太《Glow with City Project》		5,800 人
			・ヤノベケンジ《太陽の結婚式》(12 回)		777 人
			・マーロン・グリフィス《太陽のうた》パレード		600 人
			・その他(トークイベント等)		1,630 人
共催事業	12,201 人	1.9%	・祝祭ウィーク事業		12,050 人
			・芸術大学連携プロジェクト		151 人
計	626,842 人	100.0%			

(上記のうち岡崎地区来場者数)

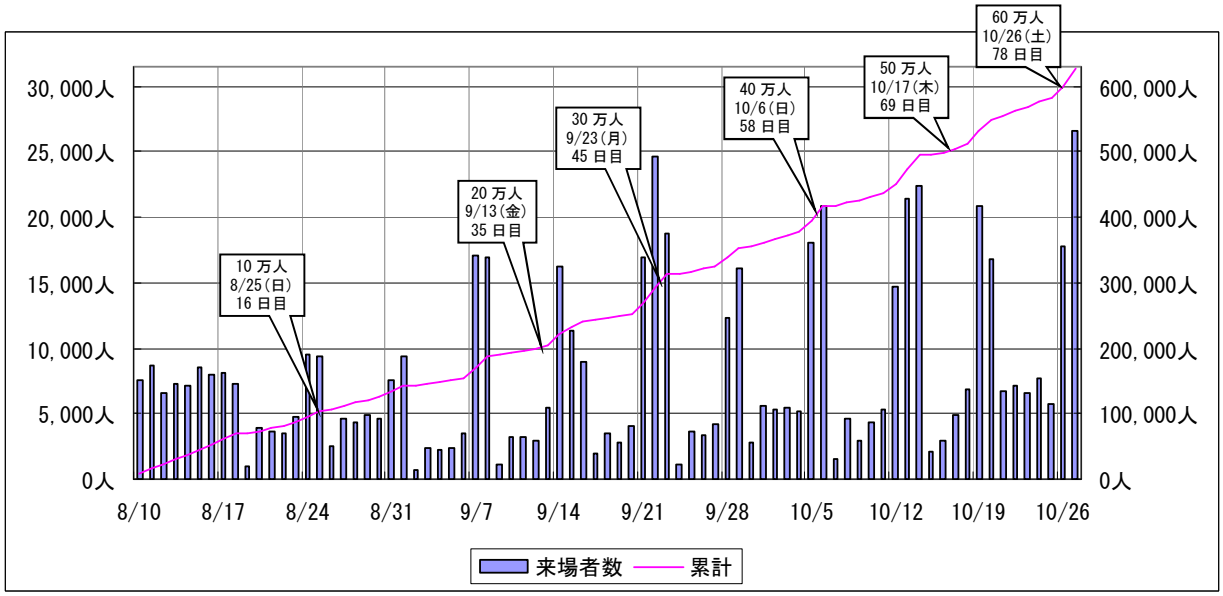
プログラム	来場者数	割合	内訳	
国際美術展	71,781 人	88.2%	・東岡崎駅会場	18,611 人
			・康生会場	30,596 人
			・松本町会場	22,574 人
その他	9,618 人	11.8%	・ウィッシュ・ツリー	8,748 人
			・その他(イベント等)	870 人
計	81,399 人	100.0%	(来場者全体の 13.0%)	

■開催日別

・一日あたりの平均来場者数は 7,935 人（平日 4,241 人、土日祝 15,048 人）で、会期末に向かって増加した（8 月 6,063 人、9 月 7,435 人、10 月 10,016 人）。

・会期中で来場者が最も多かったのは、最終日 10 月 27 日（日）の 26,541 人であり、高橋匡太≪Glow with City Project≫を開催した 9 月 22 日（日）の 24,588 人がそれに続いた。

8 月				9 月				10 月			
日目	日	来場者数（人）	累計（人）	日目	日	来場者数（人）	累計（人）	日目	日	来場者数（人）	累計（人）
1	10(土)	7,527	7,527	23	1(日)	9,394	142,772	53	1(火)	5,589	362,002
2	11(日)	8,711	16,238	24	2(月)	692	143,464	54	2(水)	5,335	367,337
3	12(月)	6,628	22,866	25	3(火)	2,425	145,889	55	3(木)	5,439	372,776
4	13(火)	7,271	30,137	26	4(水)	2,180	148,069	56	4(金)	5,156	377,932
5	14(水)	7,132	37,269	27	5(木)	2,353	150,422	57	5(土)	18,084	396,016
6	15(木)	8,540	45,809	28	6(金)	3,496	153,918	58	6(日)	20,806	416,822
7	16(金)	7,960	53,769	29	7(土)	17,057	170,975	59	7(月)	1,557	418,379
8	17(土)	8,106	61,875	30	8(日)	16,962	187,937	60	8(火)	4,680	423,059
9	18(日)	7,313	69,188	31	9(月)	1,164	189,101	61	9(水)	2,969	426,028
10	19(月)	1,029	70,217	32	10(火)	3,266	192,367	62	10(木)	4,378	430,406
11	20(火)	3,883	74,100	33	11(水)	3,174	195,541	63	11(金)	5,347	435,753
12	21(水)	3,703	77,803	34	12(木)	2,900	198,441	64	12(土)	14,695	450,448
13	22(木)	3,462	81,265	35	13(金)	5,410	203,851	65	13(日)	21,442	471,890
14	23(金)	4,705	85,970	36	14(土)	16,294	220,145	66	14(月祝)	22,461	494,351
15	24(土)	9,569	95,539	37	15(日)	11,381	231,526	67	15(火)	2,082	496,433
16	25(日)	9,420	104,959	38	16(月祝)	8,898	240,424	68	16(水)	2,909	499,342
17	26(月祝)	2,547	107,506	39	17(火)	1,901	242,325	69	17(木)	4,878	504,220
18	27(火)	4,612	112,118	40	18(水)	3,446	245,771	70	18(金)	6,859	511,079
19	28(水)	4,343	116,461	41	19(木)	2,831	248,602	71	19(土)	20,809	531,888
20	29(木)	4,860	121,321	42	20(金)	4,003	252,605	72	20(日)	16,749	548,637
21	30(金)	4,563	125,884	43	21(土)	16,882	269,487	73	21(月)	6,701	555,338
22	31(土)	7,494	133,378	44	22(日)	24,588	294,075	74	22(火)	7,159	562,497
				45	23(月祝)	18,767	312,842	75	23(水)	6,553	569,050
				46	24(火)	1,178	314,020	76	24(木)	7,672	576,722
				47	25(水)	3,615	317,635	77	25(金)	5,735	582,457
				48	26(木)	3,305	320,940	78	26(土)	17,844	600,301
				49	27(金)	4,152	325,092	79	27(日)	26,541	626,842
				50	28(土)	12,367	337,459				
				51	29(日)	16,146	353,605				
				52	30(月)	2,808	356,413				



■国際美術展の来場者内訳

・国際美術展（キッズトリエンナーレを含む）の来場者については、一般来場者が 77.0%を占めているが、中学生以下の来場者も 11.7%と高くなっている。

・有料・無料の別でみると、有料来場者（一般・大学生・高校生）が 85.2%、無料来場者（高校生（学校行事観覧）・中学生以下・招待者）が 14.8%となっている。

一般	大学生	高校生	高校生 (学校行事観覧)	中学生以下	招待者	計
416,143 人 (77.0%)	31,538 人 (5.8%)	5,090 人 (0.9%)	4,439 人 (0.8%)	63,512 人 (11.7%)	19,928 人 (3.7%)	540,650 人 (100.0%)
（うちキッズトリエンナーレ）						
44,021 人 (72.4%)	－	－	－	16,782 人 (27.6%)	－	60,803 人 (100.0%)

（一般・学生・招待者別）

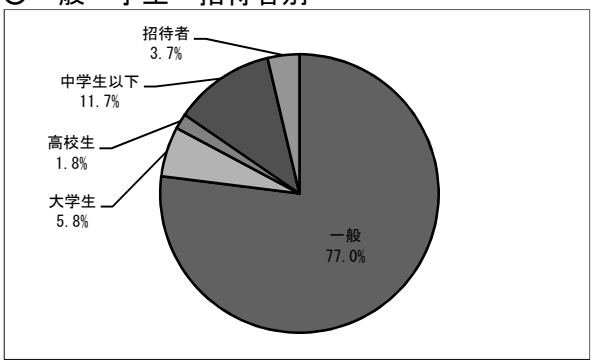
一般	大学生	高校生	中学生以下	招待者	計
416,143 人 (77.0%)	31,538 人 (5.8%)	9,529 人 (1.8%)	63,512 人 (11.7%)	19,928 人 (3.7%)	540,650 人 (100.0%)

（有料・無料別）

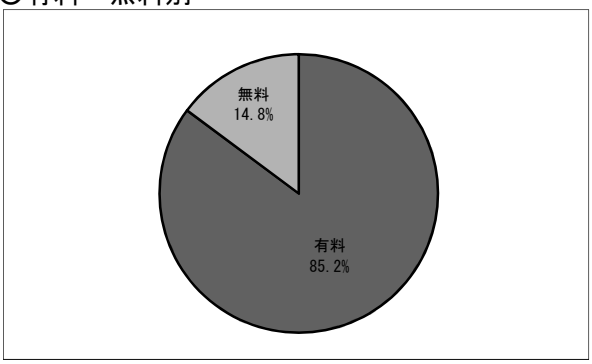
有料	無料	計
408,750 人 (85.2%)	71,097 人 (14.8%)	479,847 人 (100.0%)

※キッズトリエンナーレを除く

○一般・学生・招待者別



○有料・無料別

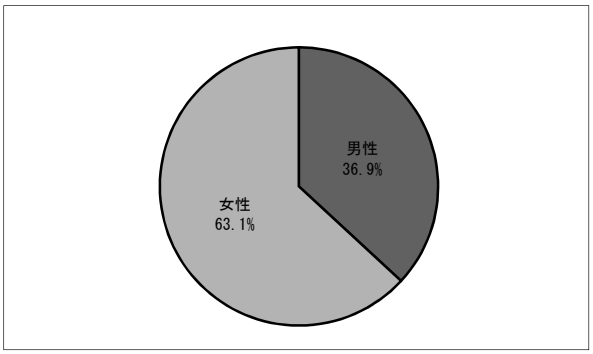


■国際美術展の来場者属性

・来場者アンケートによると、男女別では、女性が 63.1%、男性が 36.9%で女性の割合が高い。年代別では、10 代から 30 代までの比較的若い世代が 65.2%を占めている。
・住まいについては、名古屋市内 29.5%、愛知県内（名古屋市以外）34.3%、愛知県外 34.8%、海外 1.3%となっている。
・来場者アンケートの回答の中では、愛知県外からの来場者については、北海道から沖縄県まで 41 都道府県から来場があった。海外からは、21 の国と地域から来場があった。

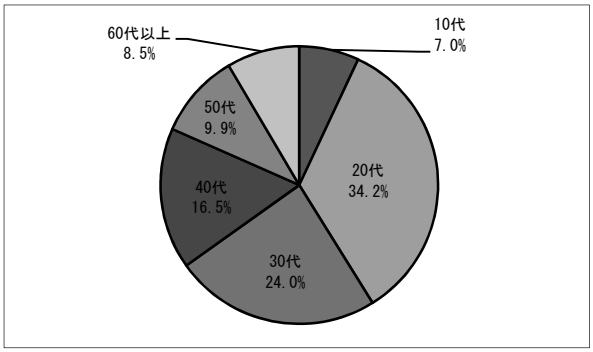
○性別

区分	比率
男性	36.9%
女性	63.1%
計	100.0%



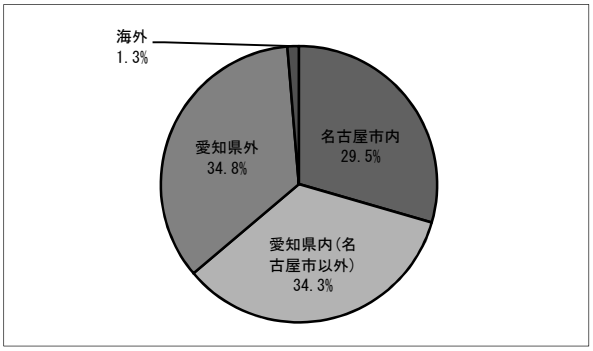
○年代別

区分	比率
10 代	7.0%
20 代	34.2%
30 代	24.0%
40 代	16.5%
50 代	9.9%
60 代以上	8.5%
計	100.0%



○お住まい

区分	比率
名古屋市内	29.5%
愛知県内(名古屋市以外)	34.3%
愛知県外	34.8%
海外	1.3%
計	100.0%



（愛知県外の内訳）

区分	比率
首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）	35.3%
京阪神（大阪府、京都府、兵庫県）	17.0%
東海（岐阜県、三重県、静岡県）	31.6%
その他	16.2%
計	100.0%

（海外の内訳）

・来場者調査（対象数 6,673 人）を行ったところ、21 の国と地域から 89 人（対象数の 1.3%）の来場があった。

（主な国と地域）
アメリカ 26 人、フランス 13 人、オーストラリア 8 人、韓国 7 人、イギリス 6 人、中国・台湾・ドイツ 各 3 人等

2　チケットの販売状況

■国際美術展

・国際美術展全体では、チケットの販売枚数は 134,439 枚となった。
・特別先行前売券は、販売期間 1 か月で 60,912 枚（全体の 45.3%）を販売し、トリエンナーレの PR にも効果があった。
・チケットの種類別では、普通チケット（118,035 枚、87.8%）が最も多いが、岡崎地区限定チケット（6,739 枚、5.0%）やフリーパス（6,644 枚、4.9%）も好評であった。

チケットの種類（販売期間）		特別先行前売券（4 月 1 日～4 月 30 日）	前売券（5 月 1 日～8 月 9 日）	当日券（8 月 10 日～10 月 27 日）	計
普通チケット	一般	56,279 枚	5,816 枚	42,698 枚	104,793 枚
	大学生	3,251 枚	748 枚	6,515 枚	10,514 枚
	高校生	1,382 枚	173 枚	1,173 枚	2,728 枚
ペアチケット	一般	―	2,427 枚	―	2,427 枚
団体割引チケット	一般	―	―	323 枚	323 枚
	大学生	―	―	270 枚	270 枚
	高校生	―	―	1 枚	1 枚
フリーパス	一般	―	3,229 枚	2,370 枚	5,599 枚
	大学生	―	501 枚	388 枚	889 枚
	高校生	―	88 枚	68 枚	156 枚
普通チケット（岡崎地区限定）		―	―	6,739 枚	6,739 枚
枚数計		60,912 枚（45.3%）	12,982 枚（9.7%）	60,545 枚（45.0%）	134,439 枚（100.0%）
販売金額		54,218,560 円	24,549,800 円	91,795,400 円	170,563,760 円
収入金額（手数料金額を除いたもの）		53,242,780 円	22,485,331 円	91,016,866 円	166,744,977 円

※チケット料金は 15 ページに掲載

○一般・大学生・高校生別

区分	普通チケット	ペアチケット	団体割引チケット	フリーパス	計
一般	104,793 枚	2,427 枚	323 枚	5,599 枚	113,142 枚（ 88.6%）
大学生	10,514 枚	―	270 枚	889 枚	11,673 枚（ 9.1%）
高校生	2,728 枚	―	1 枚	156 枚	2,885 枚（ 2.3%）
計	118,035 枚	2,427 枚	594 枚	6,644 枚	127,700 枚（100.0%）

※岡崎地区限定チケットを除く

■パフォーミングアーツ

・10 企画 35 公演を開催し、4,367 枚（15,970,000 円）のチケットを販売した。

	演目等	販売枚数（枚）	券種	枚数（枚）	単価（円）	販売金額（円）
1	ままごと 「日本の大人」 【小ホール／10 公演】	1,340	前売	855	3,000	2,565,000
			当日	150	3,500	525,000
			学生	283	1,000	283,000
			小学生以下	52	500	26,000
2	藤本隆行＋白井剛 「Node／砂漠の老人」 【小ホール／3 公演】	378	前売	287	4,000	1,148,000
			当日	42	4,500	189,000
			学生(前売)	49	2,500	122,500
3	やなぎみわ 「ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテープ」 【小ホール／4 公演】	556	前売	461	4,000	1,844,000
			当日	41	4,500	184,500
			学生(前売)	54	3,000	162,000
4	梅田宏明 「 4.temporal pattern 」 ／ 「 Holistic Strata」【小ホール／4 公演】	357	前売	290	4,000	1,160,000
			当日	34	4,500	153,000
			学生(前売)	33	2,500	82,500
5	イリ・キリアン 「EAST SHADOW」 【小ホール／3 公演】	516	前売	424	6,000	2,544,000
			当日	64	6,500	416,000
			学生(前売)	28	3,500	98,000
6	アルチュール・ノジシエル 「L'IMAGE」 【小ホール／2 公演】	185	前売	139	3,000	417,000
			当日	18	3,500	63,000
			学生(前売)	28	1,000	28,000
7	清水靖晃＋カール・ストーン 「Just Breathing」 【小ホール／1 公演】	175	前売	137	4,000	548,000
			当日	23	4,500	103,500
			学生(前売)	15	2,500	37,500
8	ARICA＋金氏徹平 「しあわせな日々」 【小ホール／3 公演】	363	前売	245	4,000	980,000
			当日	58	4,500	261,000
			学生(前売)	60	2,500	150,000
9	ジェコ・シオンポ 「Terima Kos(Room Exit)」 【小ホール／3 公演】	231	前売	143	4,000	572,000
			当日	21	4,500	94,500
			学生(前売)	55	2,500	137,500
			特別券	6	3,000	18,000
			特別券	6	500	3,000
10	マチルド・モニエ 「ピュディック・アシッド」／「エクスタシス」【小ホール／2 公演】	266	前売	221	4,000	884,000
			当日	29	4,500	130,500
			学生(前売)	16	2,500	40,000
計		4,367		4,367		15,970,000
		収入金額（手数料金額を除いたもの）				14,878,096

■プロデュースオペラ

・2 公演を開催し、4,277 枚（44,540,450 円）のチケットを販売した。

	演目等	販売枚数（枚）	券種	枚数（枚）	単価（円）	販売金額（円）
1	プッチーニ作曲 「蝶々夫人」 【大ホール／2 公演】	4,277	S 席	1,959	15,000	29,100,000
			A 席	581	12,000	6,868,200
			B 席	387	9,000	3,448,350
			C 席	476	6,000	2,825,400
			D 席	552	3,000	1,654,500
			D 席(学生)	322	2,000	644,000
計		4,277		4,277		44,540,450
		収入金額（手数料金額を除いたもの）				42,344,488

※先行予約等の割引があるため、枚数×単価は販売金額と一致しない。

3　アンケート調査結果

・トリエンナーレ来場者の満足度や要望・意見等を把握するため、緊急雇用創出事業基金事業を活用し、国際美術展、パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ、キッズトリエンナーレ等来場者へのアンケート調査を行った。
・また、会期後には、ボランティア等を対象にした関係者アンケートや、愛知県内小・中・高等学校等を対象とした文化芸術関係機関等アンケートも行った。

(1) 来場者アンケート

区分	来場者数	回収数	回収割合	該当ページ
国際美術展	479,847 人	3,428 人	0.7%	79
パフォーミングアーツ	22,779 人	897 人	3.9%	88
プロデュースオペラ	5,256 人	329 人	6.3%	91
キッズトリエンナーレ	16,782 人	1,058 人	6.3%	94
パブリック・プログラム	3,328 人	753 人	22.6%	98
オープンアーキテクチャー	1,194 人	297 人	24.9%	100
モバイル・トリエンナーレ	7,316 人	377 人	5.2%	102

■国際美術展

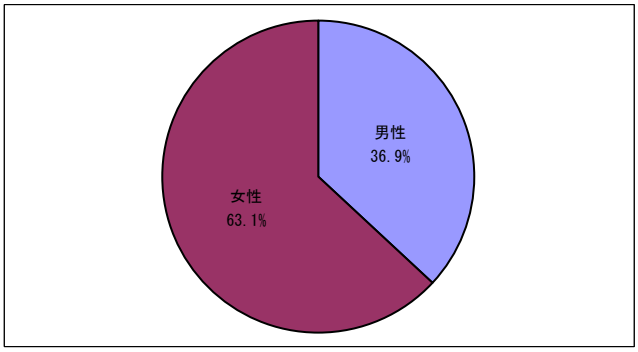
実施時期	8 月 10 日(土) ～10 月 27 日(日)
調査対象	国際美術展の来場者
配布・回収方法	会場出入口付近において、タブレット端末（アンケートシステム）を用いた対面式アンケートを実施
回収数/来場者数	3,428 人/479,847 人（0.7%）

【回答者の属性】

・性別では、女性が 63.1%、男性が 36.9%となっている。年齢別では、10 代から 30 代までの若い世代が 65.2%を占めている。
・回答者の住まいは、名古屋市内 29.5%、愛知県内（名古屋市以外）34.3%、愛知県外 36.2%となっている。
・これまでに訪れたことのある芸術祭を聞いたところ、「あいちトリエンナーレ 2010」と答えた方が 40.6%あった。一方で「訪れたことがない」方も 30.7%おり、トリエンナーレ 2013 をきっかけに初めて芸術祭に触れた方も多いと思われる。

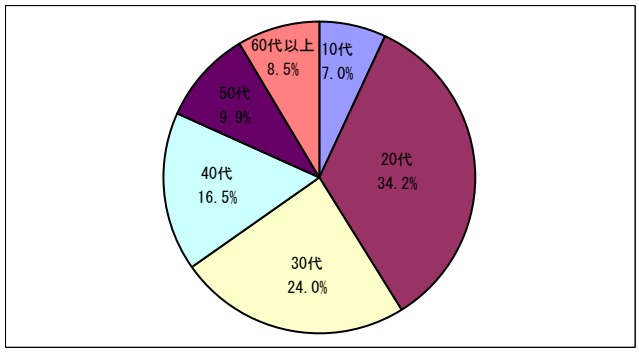
○性別

選択肢	数	比率
男性	1,263	36.9%
女性	2,161	63.1%
計	3,424	100.0%



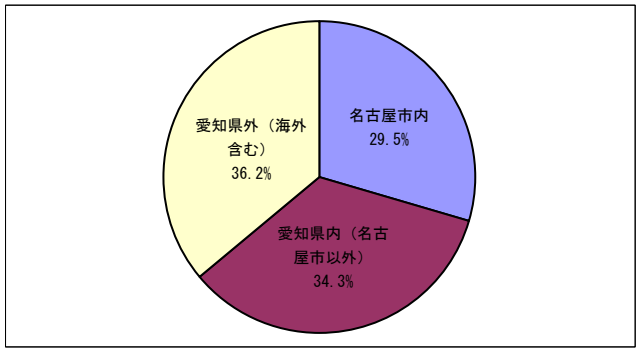
○年齢

選択肢	数	比率
10 代	238	7.0%
20 代	1,167	34.2%
30 代	820	24.0%
40 代	562	16.5%
50 代	338	9.9%
60 代以上	290	8.5%
計	3,415	100.0%



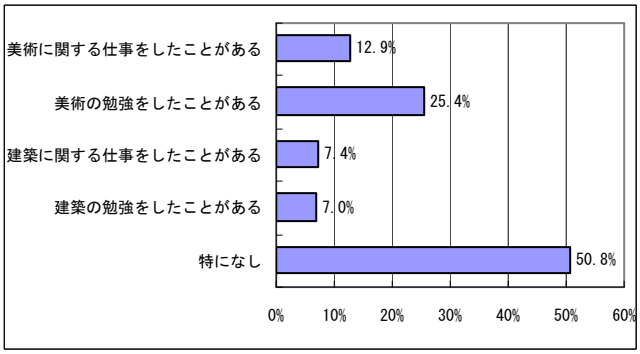
○お住まい

選択肢	数	比率
名古屋市内	1,006	29.5%
愛知県内（名古屋市以外）	1,172	34.3%
愛知県外（海外含む）	1,234	36.2%
計	3,412	100.0%



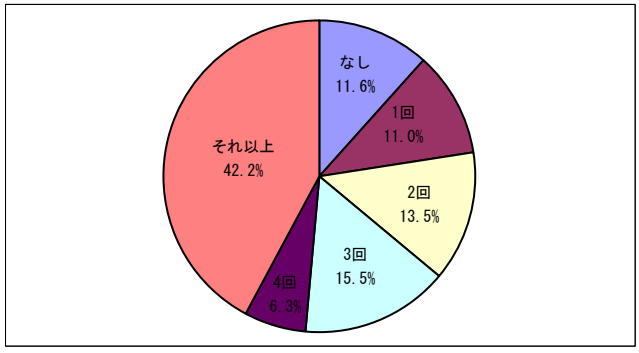
○美術・建築に関する仕事の経験の有無等（複数回答可）

選択肢	数	比率
美術に関する仕事をしたことがある	441	12.9%
美術の勉強をしたことがある	871	25.4%
建築に関する仕事をしたことがある	252	7.4%
建築の勉強をしたことがある	240	7.0%
特になし	1,741	50.8%
計	3,545	―



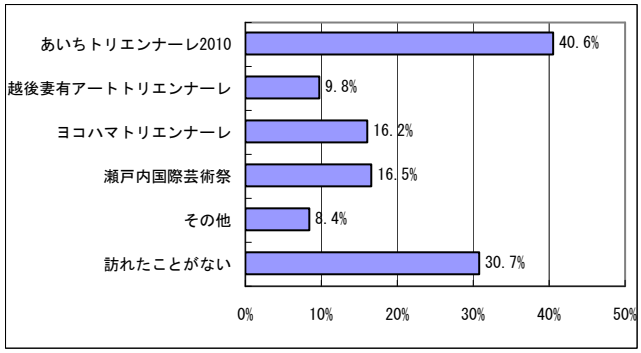
○過去１年間の美術館来訪頻度

選択肢	数	比率
なし	396	11.6%
1 回	376	11.0%
2 回	462	13.5%
3 回	529	15.5%
4 回	215	6.3%
それ以上	1,445	42.2%
計	3,423	100.0%



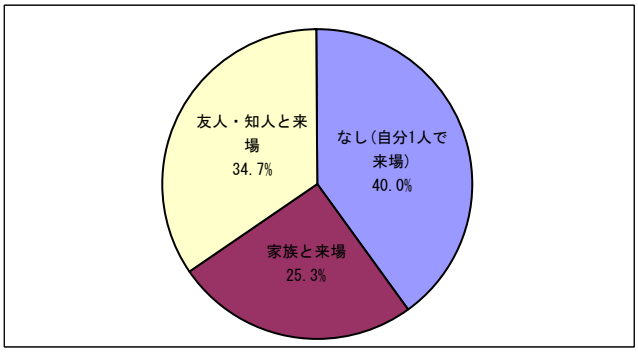
○これまでに訪れたことのある芸術祭（複数回答可）

選択肢	数	比率
あいちトリエンナーレ 2010	1,392	40.6%
越後妻有アートトリエンナーレ	335	9.8%
ヨコハマトリエンナーレ	554	16.2%
瀬戸内国際芸術祭	567	16.5%
その他	288	8.4%
訪れたことがない	1,051	30.7%
計	4,187	―



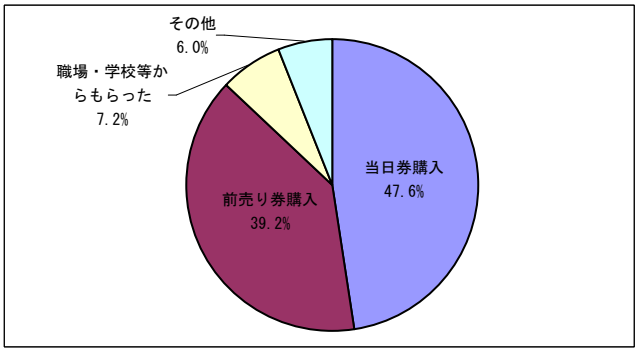
○本日の同伴者数

選択肢	数	比率
なし（自分１人で来場）	1,370	40.0%
家族と来場	865	25.3%
友人・知人と来場	1,187	34.7%
計	3,422	100.0%



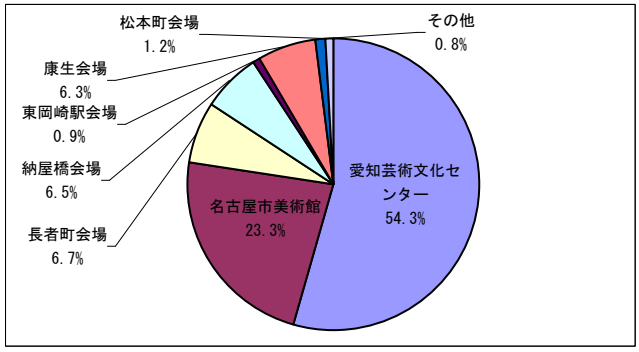
○チケットの入手方法

選択肢	数	比率
当日券購入	1,604	47.6%
前売り券購入	1,320	39.2%
職場・学校等からもらった	241	7.2%
その他	203	6.0%
計	3,368	100.0%



○アンケートの回答場所

選択肢	数	比率
愛知芸術文化センター	1,859	54.3%
名古屋市美術館	797	23.3%
長者町会場	229	6.7%
納屋橋会場	223	6.5%
東岡崎駅会場	30	0.9%
康生会場	217	6.3%
松本町会場	40	1.2%
その他	28	0.8%
計	3,423	100.0%



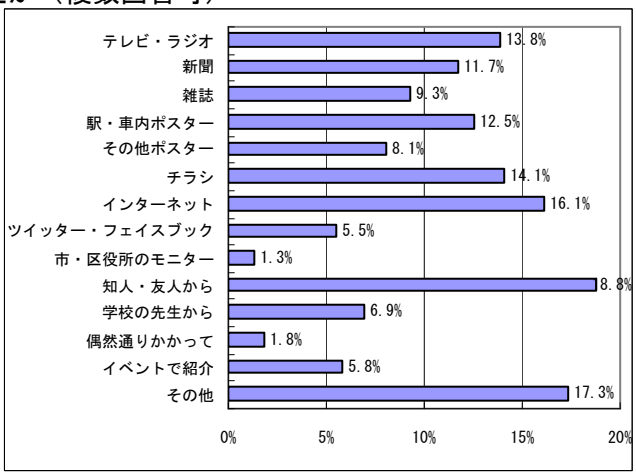
【来場理由】

・トリエンナーレを何で知ったか聞いたところ、「知人・友人から」18.8%、「その他」17.3%、「インターネット」16.1%の順となっている。「その他」は「前回 2010 から知っている」という内容が多かった。

・その中で、来場しようと思った効果的なものを聞いたところ、「その他」16.9%、「知人・友人から」15.9%、「インターネット」11.5%の順となっている。「その他」は「前回 2010 が面白かったから」という内容が多かった。

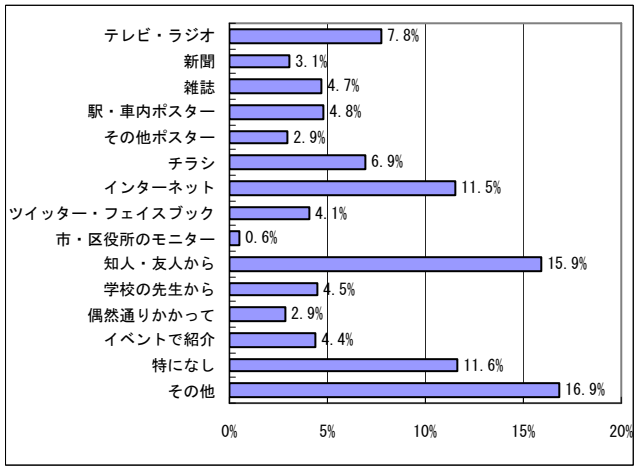
○あいちトリエンナーレ 2013 を何で知りましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
テレビ・ラジオ	474	13.8%
新聞	401	11.7%
雑誌	320	9.3%
駅・車内ポスター	430	12.5%
その他ポスター	277	8.1%
チラシ	482	14.1%
インターネット	553	16.1%
ツイッター・フェイスブック	188	5.5%
市・区役所のモニター	44	1.3%
知人・友人から	644	18.8%
学校の先生から	237	6.9%
偶然通りかかって	62	1.8%
イベントで紹介	198	5.8%
その他	594	17.3%
計	4,904	ー



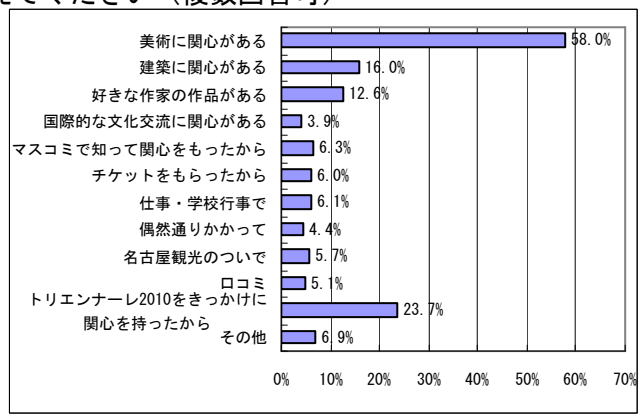
○「あなたが本日来場しよう」と思った効果的なものはどれでしたか（最大 2 つまで）

選択肢	数	比率
テレビ・ラジオ	267	7.8%
新聞	105	3.1%
雑誌	160	4.7%
駅・車内ポスター	163	4.8%
その他ポスター	100	2.9%
チラシ	238	6.9%
インターネット	394	11.5%
ツイッター・フェイスブック	139	4.1%
市・区役所のモニター	19	0.6%
知人・友人から	544	15.9%
学校の先生から	153	4.5%
偶然通りかかって	99	2.9%
イベントで紹介	151	4.4%
特になし	399	11.6%
その他	578	16.9%
計	3,509	ー



○あいちトリエンナーレ 2013 に来た理由を教えてください（複数回答可）

選択肢	数	比率
美術に関心がある	1,988	58.0%
建築に関心がある	549	16.0%
好きな作家の作品がある	431	12.6%
国際的な文化交流に関心がある	134	3.9%
マスコミで知って関心をもったから	217	6.3%
チケットをもらったから	207	6.0%
仕事・学校行事で	209	6.1%
偶然通りかかって	151	4.4%
名古屋観光のついで	196	5.7%
口コミ	174	5.1%
トリエンナーレ 2010 をきっかけに関心を持ったから	812	23.7%
その他	236	6.9%
計	5,304	―



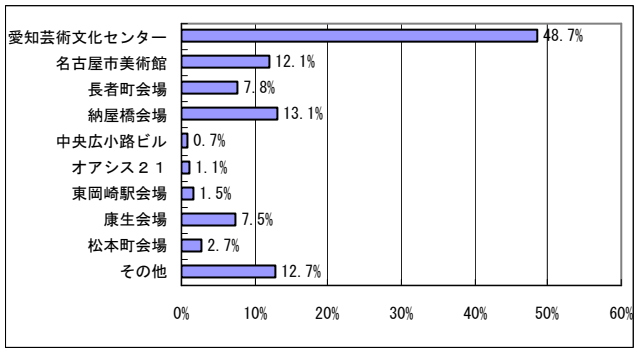
【国際美術展の感想】

・面白かった会場については、愛知芸術文化センターが 48.7%と最も高くなっている。岡崎地区については、来場者の人数が相対的に少ないため割合はそれほど高くなっていないが、自由意見欄には良かった旨の記述が多く見られた。

・美術展の展示作品の感想を聞いたところ、「大変良かった」「良かった」が合わせて 87.8%となっており、全体的に好評であった。なお、テーマについては、自由意見欄に賛否とも多くの意見が寄せられた。

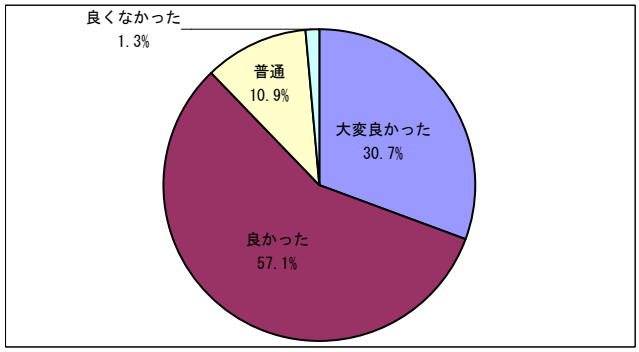
○最も面白かった会場はどこでしたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
愛知芸術文化センター	1,668	48.7%
名古屋市美術館	416	12.1%
長者町会場	266	7.8%
納屋橋会場	450	13.1%
中央広小路ビル	25	0.7%
オアシス２１	39	1.1%
東岡崎駅会場	53	1.5%
康生会場	256	7.5%
松本町会場	94	2.7%
その他	435	12.7
計	3,702	―



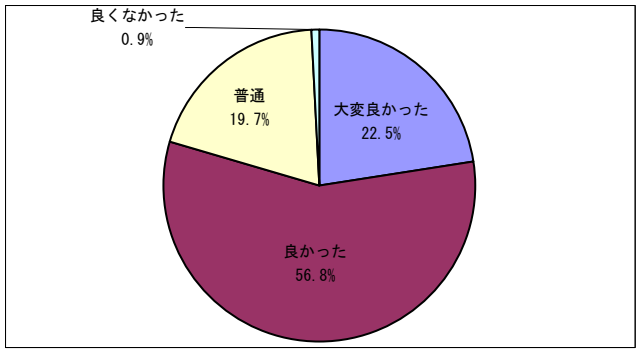
○美術展の展示作品の感想をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変良かった	1,045	30.7%
良かった	1,946	57.1%
普通	373	10.9%
良くなかった	43	1.3%
計	3,407	100.0%



○美術館の外での展示や劇場の外での公演があることについて、感想を教えてください

選択肢	数	比率
大変良かった	760	22.5%
良かった	1,915	56.8%
普通	665	19.7%
良くなかった	32	0.9%
計	3,372	100.0%

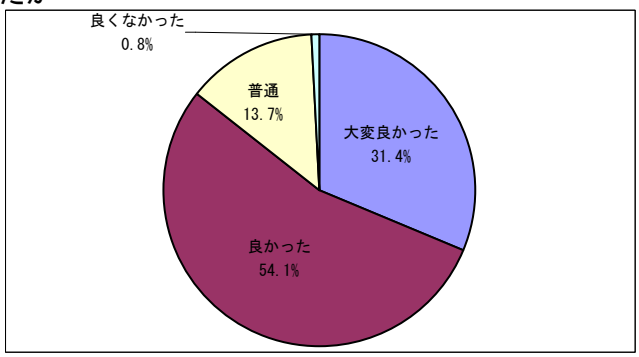


【運営について】

・運営面について、会場スタッフの対応については総じて高い評価（85.5%）が得られた。自由意見欄には、ボランティアガイドツアーやベロタクシーが良かった旨の記述が複数見られた。
・入場料金については、「安い」「適切」が 84.9%であった。
・開催時期については、「今の時期でよい」が最も多い（61.5%）が、「遅いほうがよい」も29.3%あった。自由記述欄には「暑過ぎるので時期を遅くして欲しい」旨の意見が、会期前半を中心に多数あった。

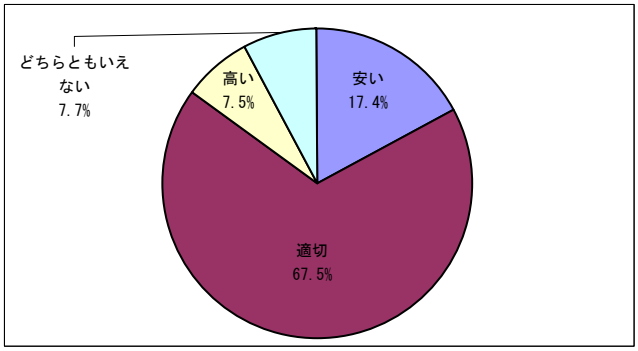
○会場スタッフの対応についてどう思われましたか

選択肢	数	比率
大変良かった	1,073	31.4%
良かった	1,852	54.1%
普通	468	13.7%
良くなかった	29	0.8%
計	3,422	100.0%



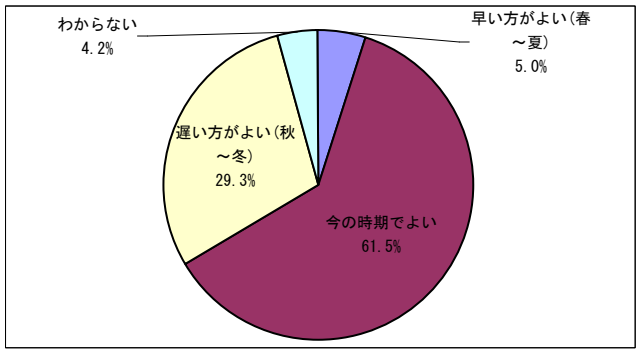
○入場料金についてどう思われましたか

選択肢	数	比率
安い	594	17.4%
適切	2,310	67.5%
高い	256	7.5%
どちらともいえない	262	7.7%
計	3,422	100.0%



○開催時期についてどう思われましたか

選択肢	数	比率
早い方がよい（春～夏）	170	5.0%
今の時期でよい	2,108	61.5%
遅い方がよい（秋～冬）	1,003	29.3%
わからない	145	4.2%
計	3,426	100.0%

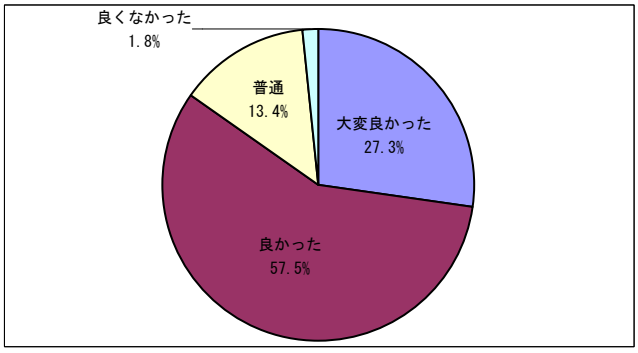


【トリエンナーレ全体について】

・トリエンナーレ全体の感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせると 84.8%であり、全般的に好評であった。
・芸術・文化に対する興味・関心が高まったか、という質問については、「大変高まった」「高まった」が 80.0%となっており、普及・教育効果は高かったと考えられる。
・トリエンナーレにはどんな効果があると思うか聞いたところ、「文化芸術の振興」が最も高くなっているが（57.0%）、「愛知・名古屋・岡崎の PR」（38.2%）や「都心や地域の活性化」（31.6%）も高くなっており、地域づくりへの効果も期待されていることが窺われる。
・次回 3 年後のトリエンナーレに行きたいかどうかという質問については、84.1%が「絶対行く」「たぶん行く」と回答した。

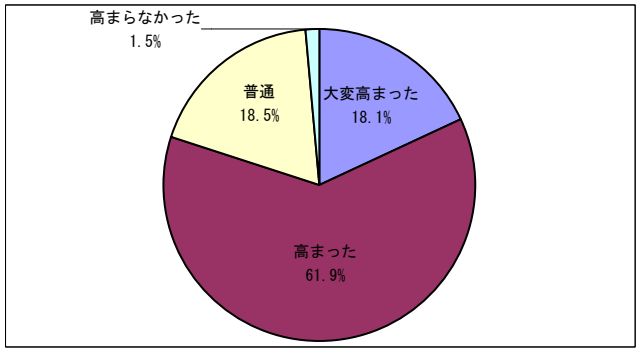
○あいちトリエンナーレ 2013 について、全体的な感想をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変良かった	928	27.3%
良かった	1,959	57.5%
普通	457	13.4%
良くなかった	60	1.8%
計	3,404	100.0%



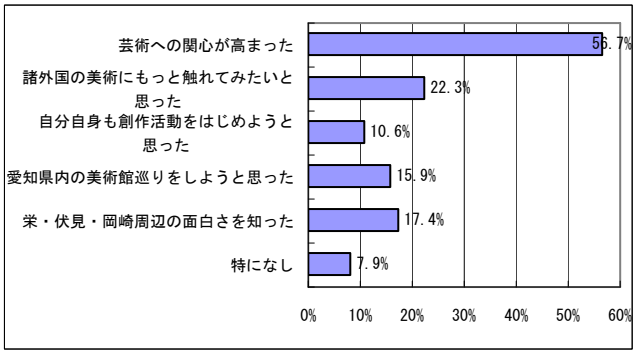
○あいちトリエンナーレ 2013 に来て、芸術・文化に対する興味・関心は高まりましたか

選択肢	数	比率
大変高まった	619	18.1%
高まった	2,118	61.9%
普通	634	18.5%
高まらなかった	51	1.5%
計	3,422	100.0%



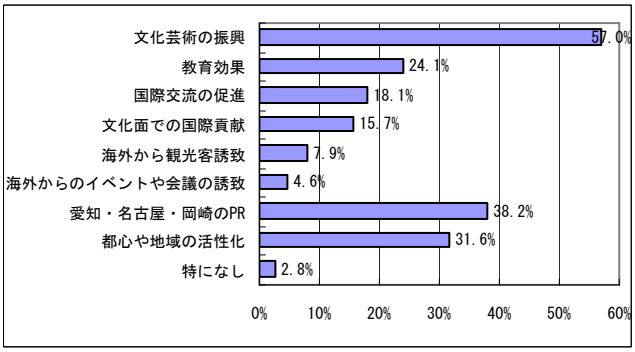
○あなた自身にとって、あいちトリエンナーレは、どんな効果があったと思いますか（複数回答可）

選択肢	数	比率
芸術への関心が高まった	1,943	56.7%
諸外国の美術にもっと触れてみたいと思った	766	22.3%
自分自身も創作活動をはじめようと思った	364	10.6%
愛知県内の美術館巡りをしようと思った	545	15.9%
栄・伏見・岡崎周辺の面白さを知った	595	17.4%
特になし	272	7.9%
計	4,485	―



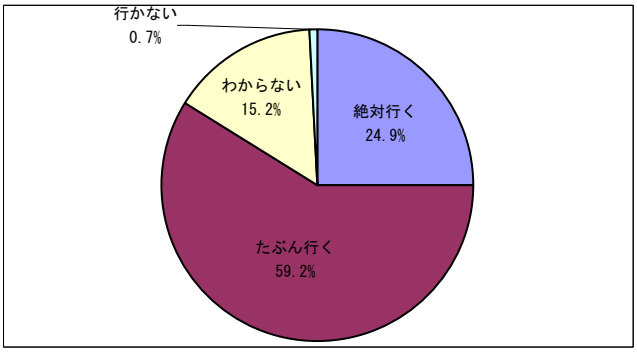
○あいちトリエンナーレには、どんな効果があると思いますか（複数回答可）

選択肢	数	比率
文化芸術の振興	1,953	57.0%
教育効果	826	24.1%
国際交流の推進	620	18.1%
文化面での国際貢献	539	15.7%
海外からの観光客の誘致	271	7.9%
海外からのイベントや会議の誘致	159	4.6%
愛知・名古屋・岡崎の PR	1,308	38.2%
都心や地域の活性化	1,083	31.6%
特になし	96	2.8%
計	6,855	―



○次回 3 年後のトリエンナーレに行きたいと思いますか

選択肢	数	比率
絶対行く	851	24.9%
たぶん行く	2,025	59.2%
わからない	522	15.2%
行かない	25	0.7%
計	3,423	100.0%



○自由意見抜粋

《テーマに関するもの》
・非常に明解なテーマがあったことが印象に残りました。
・重い内容が心に響いた。
・次回も明確なテーマでかつ幅広いジャンルの作品が展開されるとよいと思います。今回のテーマでアートと社会のつながりを意識している点は非常に興味深いです。
・震災を思い出させてくれた。社会的問題をアートの場に持ってきたことに時代がかわったんだなと思った。歴史館にあるようなものがアートの場にあることに驚いた。
・震災から 2 年経ち、被災者の方たちにとってこの 2 年間は早くはなかったと思うが私達には改めて思い返す事や色々考えるきっかけになる。現代アートには今回の震災のことや社会的な事などを訴える力があるという事をもっと知って貰いたい。
・今回震災のことを取り上げていたので、風化させないためにとてもいいと思った。
・テーマがよい。あえて愛知で震災をテーマにしているところが良かった。作品も震災をテーマにしながらも違う切り口で人に訴えているところがよい。
・震災がテーマなのが嫌だった。色んな国の人の作品もあり片寄って無くてよかった。
・テーマが今回重かったですが、世相や時事問題になると多様性が狭くなるので、広いテーマの方がよい。今回、建築の監督だったので建築に関心を持てた。
・テーマをもう少し明るいもの、みんなの関心が高まるものがいい。多角的な視点でテーマを考えられる作品が見たい。
・今回の展示がシビアだったので親子で楽しめるものがいい。
・明るい希望が持てる作品を増やして欲しい。
・今回のテーマが社会的主題になっていますが、大事なことですが気持ちが前向きな作品がいいです。
・震災にテーマが寄りすぎていた。ヘビーでした。次回はテーマがかわいいものからヘビーなものまでバラエティーに富んでいるものがよい。

《美術展全体に関するもの》
・現代アートにはあまり縁がないので触れるきっかけになった。
・美術に今まで関心がなく、現代美術の存在意義が分からなかったが、今回トリエンナーレを見に来て、その面白さが作品から伝わってきました。
・来場者に若い人が多いが、全ての年齢層が魅力を感じるものにして欲しい。現代美術を中高年も興味を持って育てていくくらいになって欲しい。
・もっとわくわくする作品、楽しかったといえるような体感的で美術館とは違うものがあるといい。
・ずっと継続して欲しい。継続することでもっと広まってその時その時の問題点を解決していって欲しい。
・2010 年の開催のときから盛り上がっていて、町の人やボランティアの交流が引き続いて 2013 年の開催に至っているところが素晴らしい。2016 年もこの感じを引き次いで欲しい。

《子どもに関するもの》
・子どもに分かりやすく興味が持てるプログラムがありすばらしい。キッズトリエンナーレはすごく楽しい。美術に興味がでた。
・子どもが触れるきっかけになる。親子で参加できていい。自分にとっても現代美術は新鮮でいい。
・子どもが無料なのはありがたい。教育的にとてもよいと思う。
・子どもが参加できる面白いものがもっとあるといい。

《地域展開に関するもの》
・岡崎会場の町をあげての盛り上がりはよかった。
・岡崎会場ができてよかった。三河の人なので来やすかった。
・愛知に住んでいるのに、岡崎に行ったのは初めてだった。トリエンナーレを通じて、会場だけではなくその街の良さを感じられるのが良い。
・愛知全体で会場を使っていて愛知の PR をしていることはとても良いと思う。
・もっと岡崎だけでなく、他の市町村も会場にして欲しい。
・街の中に色々作品があり、まちづくりとして盛んになっていていいなと思った。
・会場が散らばりすぎ。岡崎は負担。遠すぎる。

《広報・PR に関するもの》
・トリエンナーレを知らない人が多いのでもっと宣伝するべき。
・サイト、チラシ、パンフレット等が分かりにくい。デザイン重視で見にくい。

《運営に関するもの》
・ボランティアスタッフに助けてもらった。いつもいてくれると助かる。
・芸術文化センターのボランティアガイドツアーがとても良かった。これからも市民参加の企画を充実させていって欲しい。
・もう少し涼しい時期に開催を希望します。
・キャプションが小さくて見にくい。作品の説明が小さすぎる。
・長者町の展示で階段がキツくて、年寄りやからだの不自由な人には厳しい。次回は考えてほしい。
・ベロタクシーが無料なのがよい。ベロタクシーのスタッフは皆親切で楽しい。
・ベロタクシーの便を増やすか、無料のシャトルバスなどがあればもう少し行きやすい。
・会場間の移動手段を増やして欲しい。
・遠方から来ると、会場が点々としていて回りにくい。ベロタクシーも台数や速度が不便です。

■パフォーミングアーツ

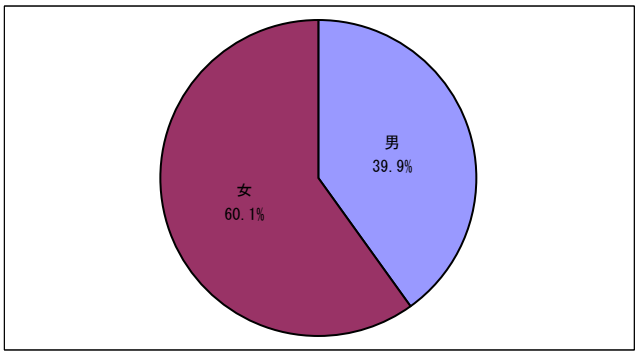
実施時期	8 月 10 日(土) ～10 月 27 日(日)
調査対象	パフォーミングアーツ（小ホール 10 演目 35 公演）の来場者
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、公演終了後に出口付近で回収
回収数/来場者数	897 人/22,779 人（3.9%）

・回答者の年齢をみると、20 代から 40 代が中心となっており全体の 70.8%を占めている。60 歳以上が 4.3%のみであり、他のプログラムに比べて少なくなっている。
・ご覧になった動機を聞いたところ、回答者の 68.3%が「出演者・作品への興味・関心」と答えているが、「トリエンナーレの催しに興味があるから」も 41.5%と多くなっている。
・催しの感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせて 93.4%を占め、大変好評であった。

【回答者の属性】

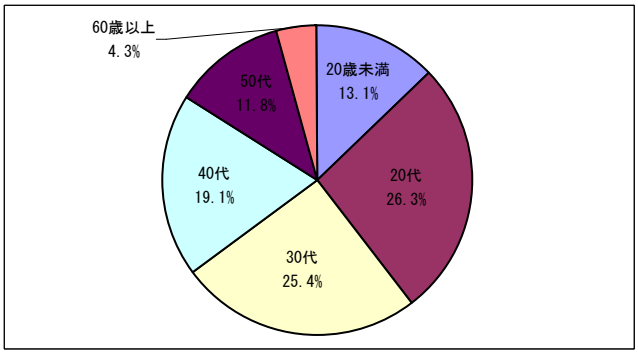
○性別

選択肢	数	比率
男	254	39.9%
女	382	60.1%
計	636	100.0%



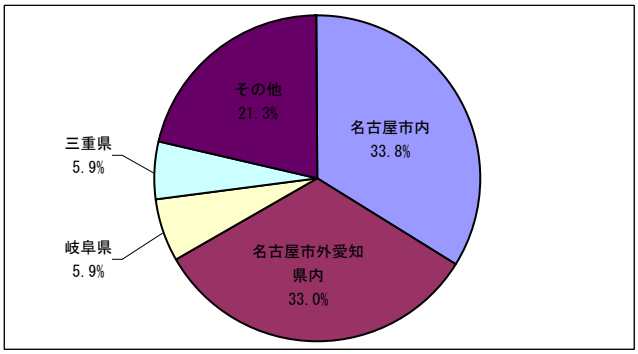
○年齢

選択肢	数	比率
20 歳未満	120	13.1%
20 代	241	26.3%
30 代	233	25.4%
40 代	175	19.1%
50 代	108	11.8%
60 歳以上	39	4.3%
計	916	100.0%



○お住まい

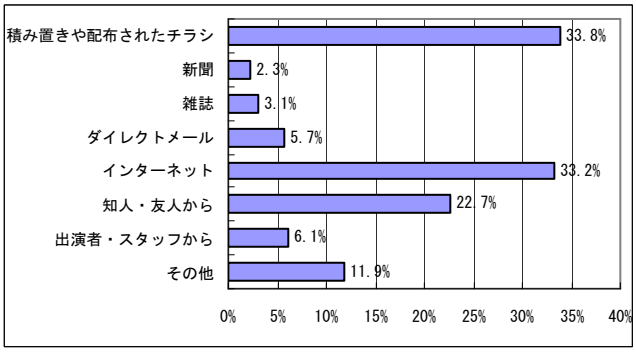
選択肢	数	比率
名古屋市内	307	33.8%
名古屋市外愛知県内	300	33.0%
岐阜県	54	5.9%
三重県	54	5.9%
その他	194	21.3%
計	909	100.0%



【来場理由】

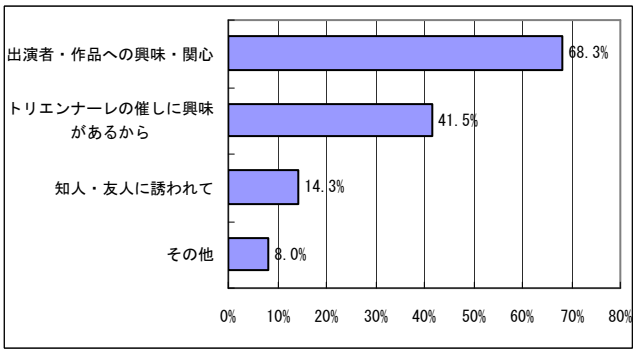
〇本日の催しはどこでお知りになりましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
積み置きや配布されたチラシ	303	33.8%
新聞	21	2.3%
雑誌	28	3.1%
ダイレクトメール	51	5.7%
インターネット	298	33.2%
知人・友人から	204	22.7%
出演者・スタッフから	55	6.1%
その他	107	11.9%
計	1,067	―



〇本日の催しをご覧になった動機は何ですか（複数回答可）

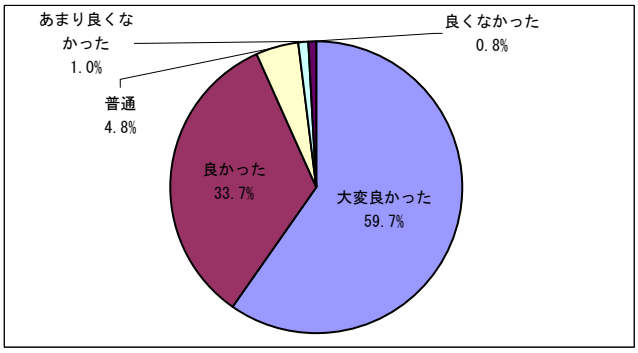
選択肢	数	比率
出演者・作品への興味・関心	613	68.3%
トリエンナーレの催しに興味があるから	372	41.5%
友人・知人に誘われて	128	14.3%
その他	72	8.0%
計	1,185	―



【催しの感想】

〇本日の催しはいかがでしたか

選択肢	数	比率
大変良かった	519	59.7%
良かった	293	33.7%
普通	42	4.8%
あまり良くなかった	9	1.0%
良くなかった	7	0.8%
計	870	100.0%



○自由意見抜粋

・すごく面白かったです。絵日記帳の板の動かし方や小道具の出し方が素敵でした。欲望に忠実に行動するプーさんにあこがれながら、奥田くんに気持ちがリンク。自分自身が大人になった実感や子どもから何が変わったのかなあと改めてよぎりました。心にイタイ言葉が多かったです。(ままごと『日本の大人』)

・ダンス、映像、音楽、照明は刻々と変化するにもかかわらずコラボしていて、見て飽きなかったし、濃厚な時間を過ごすことができた。いろんな技術と身体表現がひとつになって、素晴らしい作品でした。(藤本隆行＋白井剛『Node/砂漠の老人』)

・声（音声）へのこだわりが劇中ずっと感じられて…。その緊張感が作品全体に漂っていた。上品な衣裳、舞台装置、細やかに気が配られた場面転換。落ち着いた静かな気配が魅力的でした。(やなぎみわ『ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテープ』)

・空間が揺れていることで、生身の人間がその場にいないような感覚がありました。映像のスピードの変化によって、人の動きにも新しい視覚的な刺激がある点が面白かったです。全体のイメージがとにかくかっこよかったです。(梅田宏明『4. temporal pattern』／『Holistic Strata』)

・迫ってくる不安、避けられない災難、その後に浮かぶ穏やかな希望の光、心が洗われるような舞台でした。（イリ・キリアン『EAST SHADOW』)

・最初はプロジェクションされる詩を目で追うので大変だった。また読んでもなかなか自分で映像をイメージできない内容で混乱した。朗読、ダンスと別の方法でくり返し表現されるうちに何となくイメージが湧いたり、音（韻）の美しさに気づいたり、という発見があって新しい体験で楽しめた。(アルチュール・ノジシエル『L'IMAGE』)

・音のような、地の響きのような、あらわれては消えてしまうはかないものを、残していく、何とも不思議な体験ができました。(清水靖晃＋カール・ストーン『Just Breathing』)

・後半難解だったけど面白かったです。舞台装置が崩れる仕掛けはおどろきました。オブジェとして舞台装置をよく見たいです。(ARICA+金氏徹平『しあわせな日々』)

・エネルギーに満ち独創性もあって楽しく面白い作品ですね。自分の文化の身振りがダンスに繋がっていることを強く感じました。パワフルで素晴らしかった。(ジェコ・シオンポ『Terima Kos (Room Exit)』)

・ダンスについて解放なんて言葉、もう使うことはないと思っていましたが、心の底から震えるような気持ちを味わうことができました。(マチルド・モニエ『ピュディック・アシッド』／『エクスタシス』)

■プロデュースオペラ

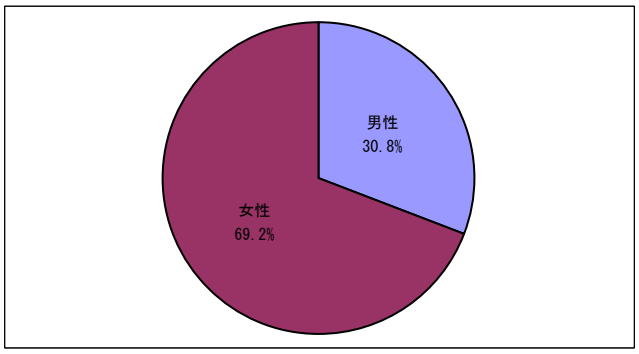
実施時期	9 月 14 日(土) 、9 月 16 日(月・祝)
調査対象	プロデュースオペラの来場者
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、公演終了後に出口付近で回収
回収数/来場者数	329 人/5,256 人 (6.3%)

・回答者の属性をみると、他のプログラムに比べ年齢層が高くなっており、60 歳代が 23.5%で一番多く、50 歳代と 70 歳代が 18.3%で続いている。
・来場理由を聞いたところ、回答者の 61.1%が「蝶々夫人という演目が観たかった」を選んでおり、「蝶々夫人」という演目の人気の高さが伺える。
・「トリエンナーレの美術展には行かれましたか」という質問については、「行った」と「行く予定」を合わせて 71.4%を占めており、オペラと美術展の両方を楽しんでいただく方が多い。一方で「行く予定はない」も 28.6%となっており、客層の違いも伺える。
・公演の感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせて 96.8%を占め、大変好評であった。
・自由記述欄には、「音楽と舞台が素晴らしかった」旨の意見が多数あった。

【回答者の属性】

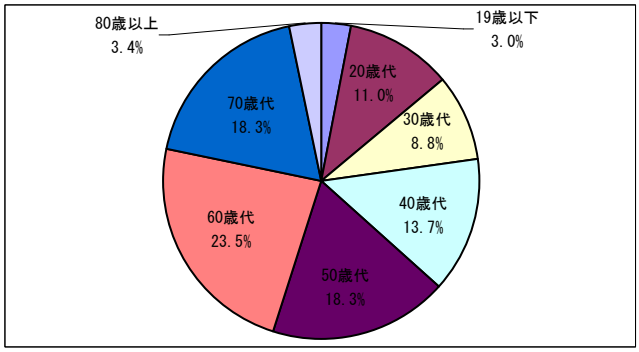
○性別

選択肢	数	比率
男性	101	30.8%
女性	227	69.2%
計	328	100.0%



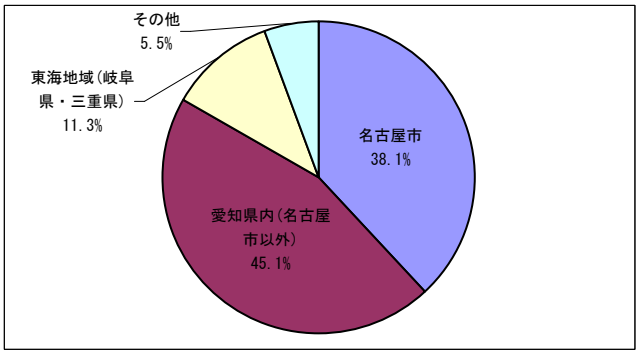
○年齢

選択肢	数	比率
19 歳以下	10	3.0%
20 歳代	36	11.0%
30 歳代	29	8.8%
40 歳代	45	13.7%
50 歳代	60	18.3%
60 歳代	77	23.5%
70 歳代	60	18.3%
80 歳以上	11	3.4%
計	328	100.0%



○どちらにお住まいですか

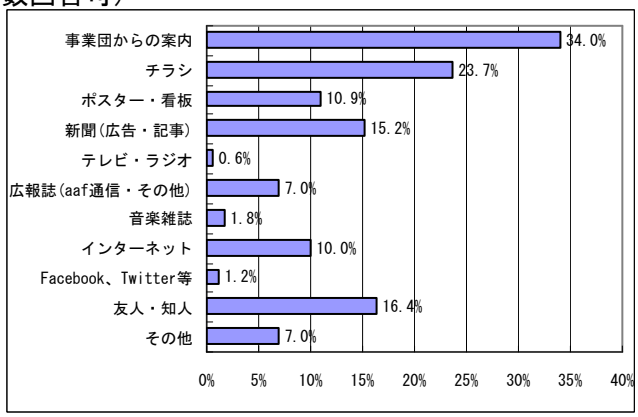
選択肢	数	比率
名古屋市	125	38.1%
愛知県内（名古屋市以外）	148	45.1%
東海地域（岐阜県・三重県）	37	11.3%
その他	18	5.5%
計	328	100.0%



【来場理由】

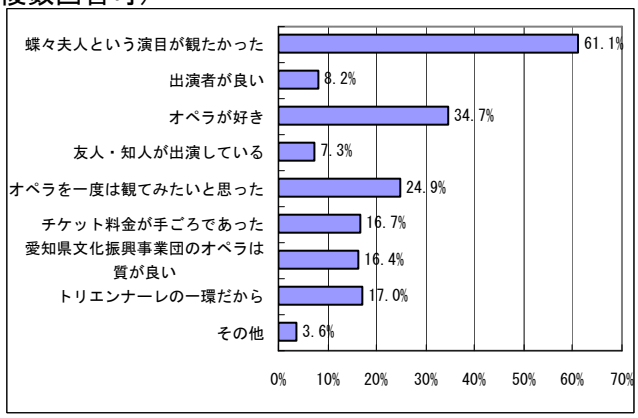
〇本日の公演を何でお知りになりましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
事業団からの案内	112	34.0%
チラシ	78	23.7%
ポスター・看板	36	10.9%
新聞（広告・記事）	50	15.2%
テレビ・ラジオ	2	0.6%
広報誌（aaf 通信・その他）	23	7.0%
音楽雑誌	6	1.8%
インターネット	33	10.0%
Facebook、Twitter 等	4	1.2%
友人・知人	54	16.4%
その他	23	7.0%
計	421	―



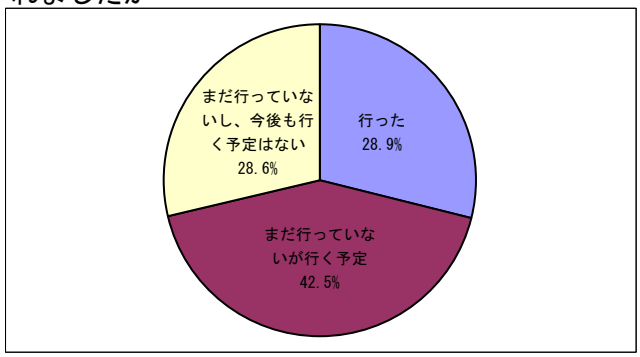
〇ご来場いただいた理由をおしえてください（複数回答可）

選択肢	数	比率
蝶々夫人という演目が観たかった	201	61.1%
出演者が良い	27	8.2%
オペラが好き	114	34.7%
友人・知人が出演している	24	7.3%
オペラを一度は観てみたいと思った	82	24.9%
チケット料金が手ごろであった	55	16.7%
愛知県文化振興事業団のオペラは質が良い	54	16.4%
トリエンナーレの一環だから	56	17.0%
その他	12	3.6%
計	625	―



〇あいちトリエンナーレ 2013 の美術展には行かれましたか

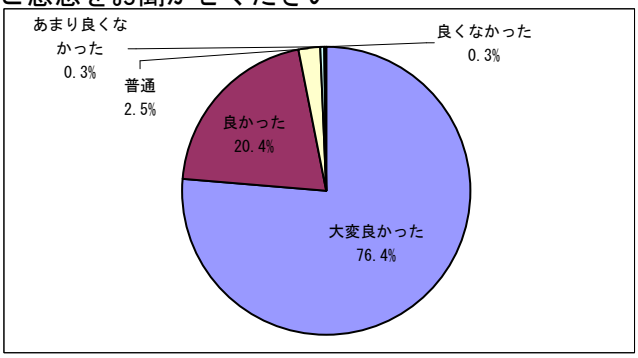
選択肢	数	比率
行った	89	28.9%
まだ行っていないが行く予定	131	42.5%
まだ行っていないし、今後も行く予定はない	88	28.6%
計	308	100.0%



【公演の感想】

〇本日の公演についての企画及び内容に関するご感想をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変良かった	240	76.4%
良かった	64	20.4%
普通	8	2.5%
あまり良くなかった	1	0.3%
良くなかった	1	0.3%
計	314	100.0%



○自由意見抜粋

《全般》
・歌手それぞれが上手く、舞台がまたとてもすばらしく世界一です。世界へ向けて放映してほしい。
・日本の細やかな伝統や所作など、イタリアだけど日本人の心にきらっと触れるものがあり、よかった。

《演出》
・多くの演出が、障子、柱、門扉など黒子が移動して場面を作りだす手法がとられているが、今回のものは違和感もなく、衣裳、所作がそれ以上によく考えられて、音楽の伝えるところを忠実に目に見させている。今まで映像も含め 10 本以上観ている中で、最高と感じた。
・演出、舞台美術が流れるようで、かつ、スケールが大きく、つらいテーマであるにもかかわらず、最後までひきつけられました。

《装置》
・今まで観たどの蝶々夫人よりも素晴らしいステージでした。特に装置、照明が愛の幻想と悲劇の物語を効果的に引き立ててくれました。
・日本的な雰囲気をよく伝えている。（演出演技とも）舞台装置の新しい試みとしては目を見張るものがある。ぜひこのまま外国でも上演して欲しい。

《振り付け》
・初めてのオペラがこの蝶々夫人でした。もう一度見るならと思っていたオペラ。前回の蝶々夫人とはガラリと違う舞台でしたが、とても所作（着物の）、立ち姿ともに絵のような美しい世界にうっとりと、一幕目（から）号泣です。つかの間でも happy な蝶々さんが美しくて・・・・演出がとても素敵でした。
・歌、演出のすばらしさに加え、「日本らしさ」を押さえた振付･所作が大きかったのでは。笑三郎丈の功績だろう。所作は特に蝶々さんはカーテンコールまで徹底していた。

《その他》
・13 日の舞台装置説明・見学に参加させていただいたので、セットの動きなどがより興味を持って見ることができた。

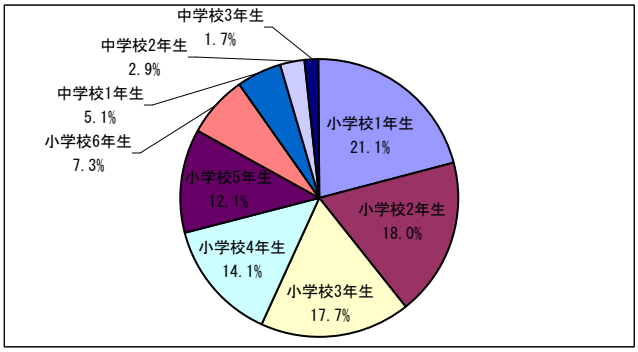
■キッズトリエンナーレ

実施時期	8 月 10 日(土) ～10 月 27 日(日)
調査対象	キッズトリエンナーレの参加者（小学生、中学生）
配布・回収方法	キッズトリエンナーレ会場の出入口付近において、退場時にアンケート用紙を配付し、その場で回収
回収数/参加者数	1,058 人/16,782 人（6.3%）

・「今日は楽しかったですか」という質問については、「とても楽しかった」と「楽しかった」を合わせて 91.4%を占め、大変好評であった。
・「今日体験したことをこれからもやってみたいですか」という質問については、「ぜひやってみたい」と「やってみたい」を合わせて 90.7%を占め、キッズトリエンナーレへの参加が、子どもたちの今後の創作のきっかけになることが期待される。
・また、「美術館へは良く行きますか」という質問において、「あまり行かない」と「はじめて来た」が合わせて 46.1%と半数近くとなっているが、キッズトリエンナーレはこれらの子どもたちに美術館へ足を運んでもらうきっかけになったと思われる。

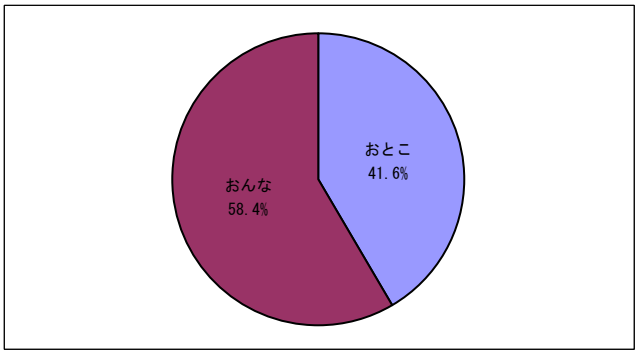
○あなたは何年生ですか

選択肢		数	比率
小学校	1 年生	222	21.1%
	2 年生	189	18.0%
	3 年生	186	17.7%
	4 年生	148	14.1%
	5 年生	127	12.1%
	6 年生	77	7.3%
中学校	1 年生	54	5.1%
	2 年生	30	2.9%
	3 年生	18	1.7%
計		1,051	100.0%



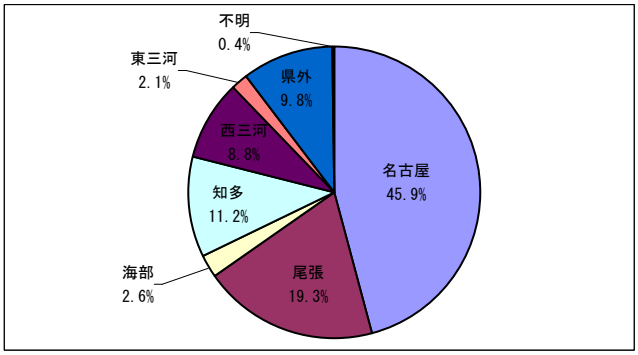
○性別は

選択肢	数	比率
おとこ	429	41.6%
おんな	603	58.4%
計	1,032	100.0%



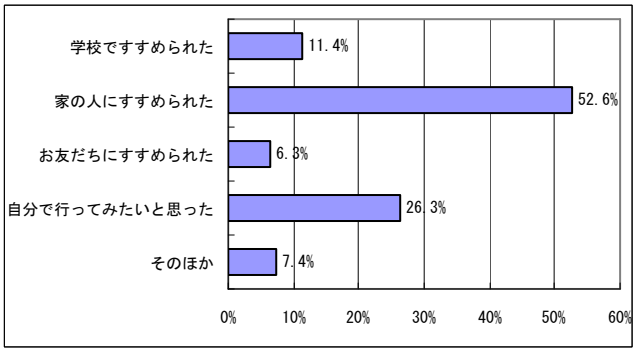
○どこに住んでいますか

選択肢	数	比率
名古屋	482	45.9%
尾張	203	19.3%
海部	27	2.6%
知多	118	11.2%
西三河	92	8.8%
東三河	22	2.1%
愛知県外	103	9.8%
不明	4	0.4%
計	1,051	100.0%



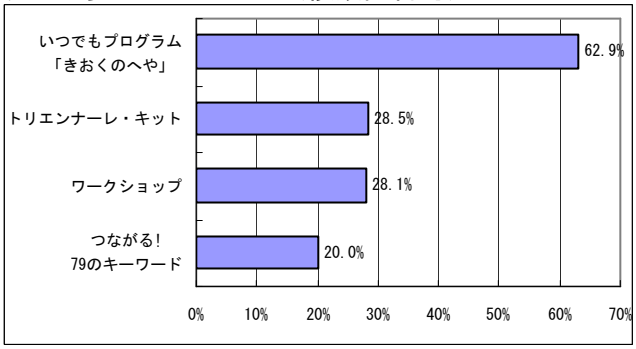
○今日、参加した理由は（複数回答可）

選択肢	数	比率
学校ですすめられた	121	11.4%
家の人にすすめられた	557	52.6%
お友だちにすすめられた	67	6.3%
自分で行ってみたいと思った	278	26.3%
そのほか	78	7.4%
計	1,101	―



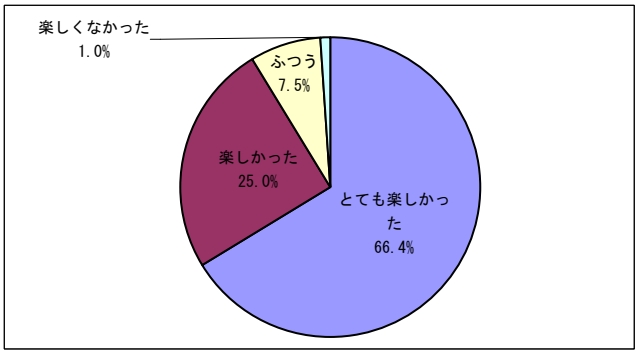
○今日は、キッズトリエンナーレのどのプログラムに参加しましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
いつでもプログラム「きおくのへや」	666	62.9%
トリエンナーレ・キット	302	28.5%
ワークショップ	297	28.1%
つながる!79 のキーワード	212	20.0%
計	1,477	―



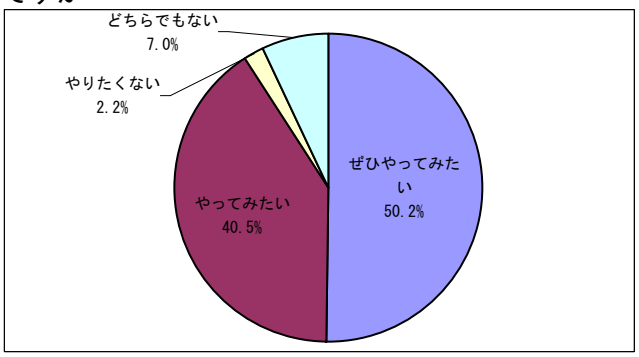
○今日は楽しかったですか

選択肢	数	比率
とても楽しかった	699	66.4%
楽しかった	263	25.0%
ふつう	79	7.5%
楽しくなかった	11	1.0%
計	1,052	100.0%



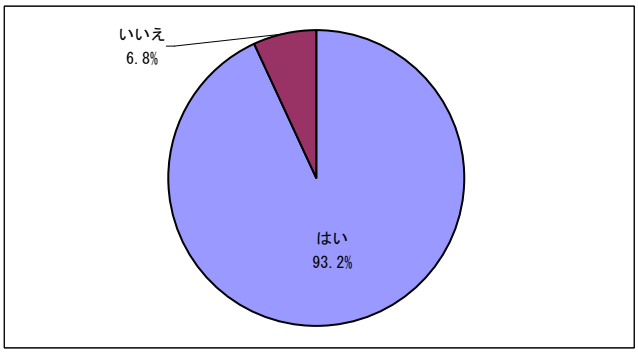
○今日体験したことをこれからもやってみたいですか

選択肢	数	比率
ぜひやってみたい	521	50.2%
やってみたい	420	40.5%
やりたくない	23	2.2%
どちらでもない	73	7.0%
計	1,037	100.0%



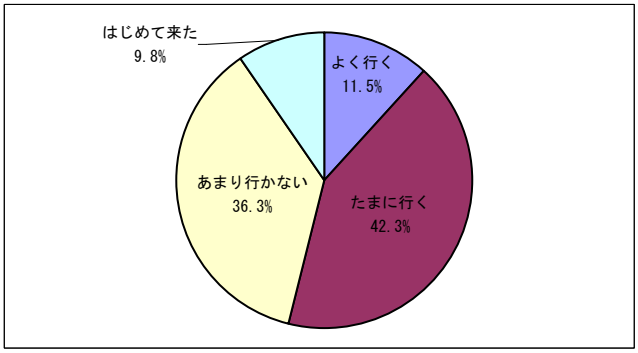
○絵をかいたり、モノをつくったりすることは好きですか

選択肢	数	比率
はい	966	93.2%
いいえ	71	6.8%
計	1,037	100.0%



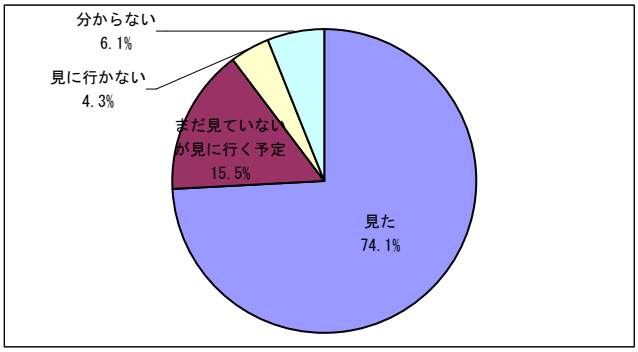
○美術館へは良く行きますか

選択肢	数	比率
よく行く	120	11.5%
たまに行く	440	42.3%
あまり行かない	378	36.3%
はじめて来た	102	9.8%
計	1,040	100.0%



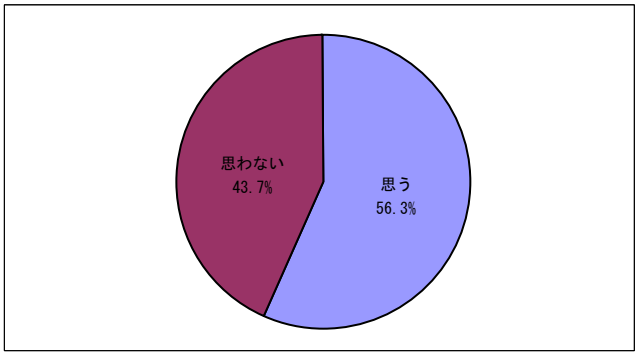
○トリエンナーレの展示作品は見ましたか

選択肢	数	比率
見た	771	74.1%
まだ見ていないが見に行く予定	161	15.5%
見に行かない	45	4.3%
分からない	63	6.1%
計	1,040	100.0%



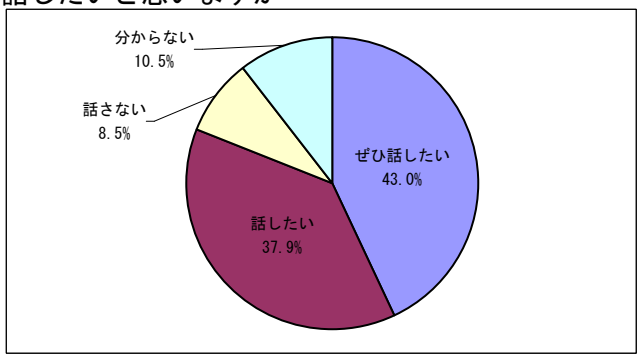
○キッズトリエンナーレ以外の、トリエンナーレのプログラム（演劇、ダンス、オペラなど）にも参加したいと思いますか

選択肢	数	比率
思う	586	56.3%
思わない	455	43.7%
計	1,041	100.0%



○お家に帰ったら、今日のことを、家の人にも話したいと思いますか

選択肢	数	比率
ぜひ話したい	448	43.0%
話したい	395	37.9%
話さない	89	8.5%
分からない	109	10.5%
計	1,041	100.0%



○自由意見抜粋

《いつでもプログラム「きおくのへや」》
・新聞紙をいろいろなものに貼っていて、すごくびっくりしたし、おもしろかったです。いろいろな子の思いが込められていていいなと思いました。
・家ではできない物に落書きできるのはすごく楽しかったです。
・キッズトリエンナーレは、とても賑やかで、「きおくのへや」はいろいろな色を混ぜて描いたりしたのでメチャクチャ楽しかったです！

《トリエンナーレ・キット》
・よく考えないといけないものが多くて、考えるのが楽しかったです。トリエンナーレ・キットの答えを探すために、しっかり作品を見ることができました。
・キットを借りて展示作品を見ると違う見え方がしておもしろかったです。

《ワークショップ》
・学校でやっている音楽と全然違ってびっくりしました。とても自由でおもしろかったです。(「親子オーケストラ」ワークショップ)
・壊すことも制作の一部になるということが分かって、勉強になりました。貴重な体験が出来て良かったです。(『壊すこと』もアートなこと)
・自分の知らない人といっしょにワークショップをやるのは難しいと思っていました。でも、いざやってみるととても楽しかったです。(音楽劇ワークショップ～音楽を使ってストーリーを作ろう！～)
・他の子が作ったひもをくっつけていって、自分の作品をつくるのが楽しかったです。他の子の作品を見て、なるほど、と思いました。(せんのとりで)
・ダンボールでいろいろなものを作れることを知ってびっくりした。部屋を作るときは秘密基地みたいで楽しかった。(ダンボールでサバイバル！)

《つながる！79 のキーワード》
・つながる！79 のキーワードでお題から全く違う言葉になって面白かった。自分の後にかいてくれて嬉しかった。

《その他》
・アート作品や芸術作品を見て図工が好きになってきた。
・もっとコーナーを増やしてほしい。
・今日は今まで行った美術館の中で一番楽しかったです。またこういう機会があれば、行きたいです。
・友達も誘って、また来てみたい！！

■パブリック・プログラム

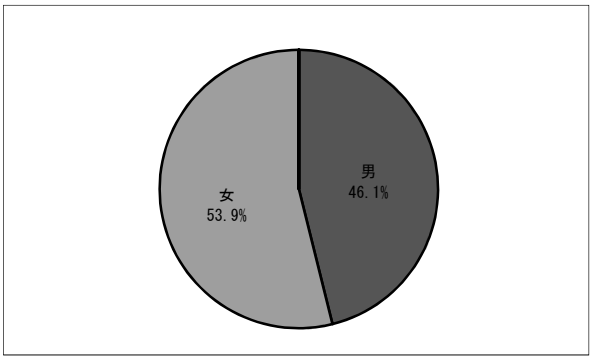
実施時期	パブリック・プログラムの開催日
調査対象	パブリック・プログラム（「エントランスプログラム」、「スポットライト」、「イン・ディスカッション」、「クロス・キーワード」、「クロージングイベント」）の参加者
配布・回収方法	受付時にアンケート用紙を配付し、プログラム終了後に出口付近で回収
回収数/参加者数	753 人/3,328 人（22.6%）

・回答者の属性をみると、他のプログラムに比べ男女の割合が近く、年齢層も満遍なく分布している。住まいは名古屋市内の方が半数近くとなっており、愛知県内の参加者が全体の 8 割に達している。
・プログラムの感想については、「よかった」と「まあまあよかった」が合わせて 90.5%を占めており、大変好評であった。
・パブリック・プログラムは、今回のトリエンナーレにおける新たな試みの一つであったが、アンケートの自由意見欄には「トリエンナーレの作品について理解が深まった」旨の記述も多く、有意義なプログラムであったと考えられる。

【回答者の属性】

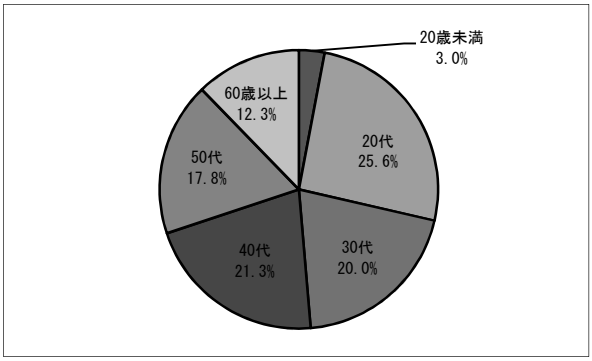
○性別

選択肢	数	比率
男	339	46.1%
女	396	53.9%
計	735	100.0%



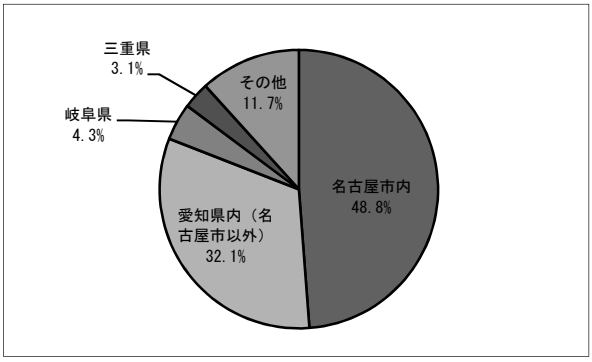
○年齢

選択肢	数	比率
20 歳未満	22	3.0%
20 代	188	25.6%
30 代	147	20.0%
40 代	156	21.3%
50 代	131	17.8%
60 歳以上	90	12.3%
計	734	100.0%



○お住まい

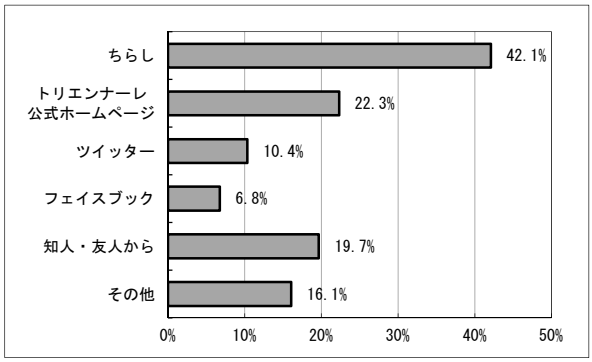
選択肢	数	比率
名古屋市内	363	48.8%
愛知県内（名古屋市以外）	239	32.1%
岐阜県	32	4.3%
三重県	23	3.1%
その他	87	11.7%
計	744	100.0%



【来場理由】

○今回のプログラムをどこでお知りになりましたか（複数回答可）

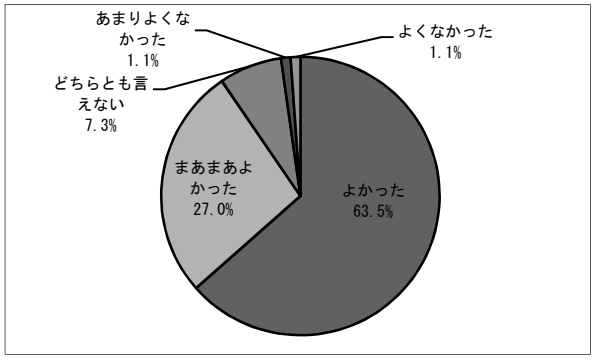
選択肢	数	比率
ちらし	317	42.1%
トリエンナーレ公式ホームページ	168	22.3%
ツイッター	78	10.4%
フェイスブック	51	6.8%
知人・友人から	148	19.7%
その他	121	16.1%
計	883	ー



【プログラムの感想】

○本日のプログラムの評価をお聞かせください

選択肢	数	比率
よかった	452	63.5%
まあまあよかった	192	27.0%
どちらとも言えない	52	7.3%
あまりよくなかった	8	1.1%
よくなかった	8	1.1%
計	712	100.0%



○自由意見抜粋

・今回のトリエンナーレの根幹をなすテーマに関わるお話を聴かせていただき、たいへん勉強になりました。
・トークイベントに何度か参加しましたが、その中で「揺れる大地」というテーマが震災の事だけではない事が言われていて、実際に作品を見てもそれが伝わって来たけれど、こういったイベントに参加するとその度に改めて認識ができて、理解も深まってトリエンナーレをより楽しめたと思います。
・アーティストの方から直接話を聞くのは貴重な機会です。私も自分が何を感じ、どうしてそう思うのか？考える良い機会になりました。
・造形することの大変さ、地道な作業の話を聞けてよかった。手法の説明等の話はこれから作品を見る時の参考になります。
・作家の背景がよく理解でき、生きる為にアートするという言葉が印象的でした。
・絵の中に込められたモチーフの意味や精神について知ることができて、もう一度作品を観てみたいと思いました。
・理路整然とした建築家の語り口と、イメージ、印象を断片的に話されるアーティストの語り口、その両方が重なり合って出来上がったのが、このたびの名古屋市美術館という「場」だったことを実感することができました。とてもエキサイティングなトークイベントだったと思います。
・ビジュアル、パフォーマンス、建築、人、時間、場所、うわべだけでなく真剣につなげようとしていることを知ることができました。
・企画側のプラン、本音、過程など、あつい想いが聞けてすごくいい体験になりました。
・名古屋と現代アートのかかわりが聞けてとても面白かった。
・名古屋のアートシーンを振り返るような企画がもっとあるといいです。

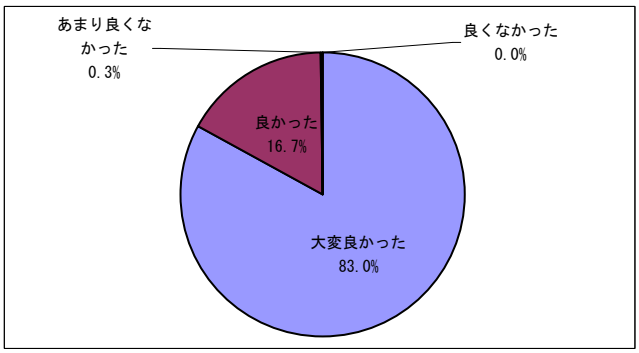
■オープンアーキテクチャー

実施時期	オープンアーキテクチャーの開催日
調査対象	オープンアーキテクチャーの参加者
配布・回収方法	受付時にアンケート用紙を配付し、プログラム終了後にその場で回収
回収数/参加者数	297 人/1,194 人（24.9%）

・オープンアーキテクチャーは、今回のトリエンナーレの大きな特色のひとつであるが、ほとんどのプログラムにおいて参加申込人数が定員を上回るなど、人気を博した。
・参加者にも好評であり、アンケート結果において、「大変良かった」または「良かった」と回答した方の割合が、「イベントに対する評価」において 99.3%、「見学した建物」において 100.0%となるなど、非常に高い割合となった。
・自由記述欄には、「普段、気に留める事の少ない建物を改めて見るきっかけになった」、「音楽も演奏していたのが良かった」などの意見が多数あった。

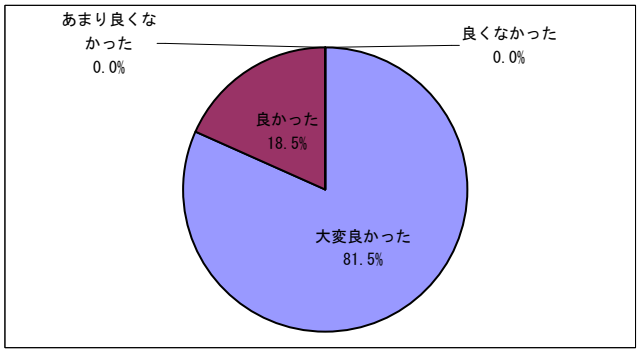
○イベントに対する評価

選択肢	数	比率
大変良かった	239	83.0%
良かった	48	16.7%
あまり良くなかった	1	0.3%
良くなかった	0	0.0%
計	288	100.0%



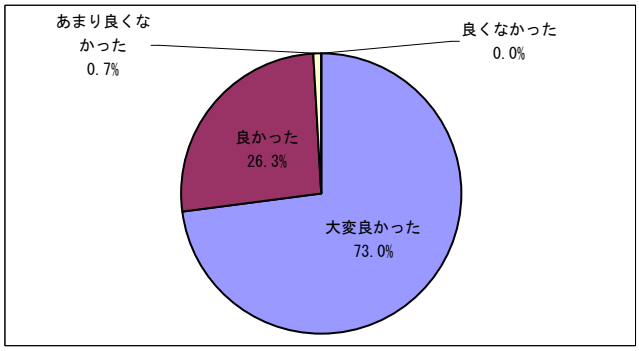
○見学した建物

選択肢	数	比率
大変良かった	234	81.5%
良かった	53	18.5%
あまり良くなかった	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%
計	287	100.0%



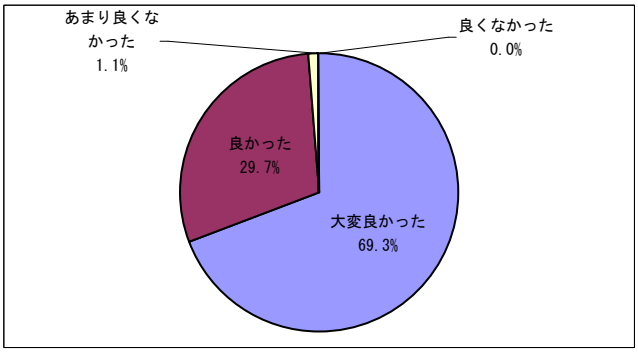
○ガイド

選択肢	数	比率
大変良かった	208	73.0%
良かった	75	26.3%
あまり良くなかった	0	0.7%
良くなかった	0	0.0%
計	285	100.0%



○運営スタッフの対応

選択肢	数	比率
大変良かった	196	69.3%
良かった	84	29.7%
あまり良くなかった	3	1.1%
良くなかった	0	0.0%
計	283	100.0%



○自由意見抜粋

・普段は見られない個人の方のお宅が見られてとても良かったです。実際に建てられた建築家の方や、住み手の方のお話もまじえ、素敵な家のなり立ちや暮らしも、とても参考になりました。
・生まれたときから名古屋に住んでいるのに、この建物の存在を知りませんでした。いい機会でした。
・材料のメリハリのある使い方、身の大きさに合った空間のつくり方が居心地良かったです。
・個性的な建物がすべて合理性のある理由があって、設計者の意図を素直に聞きいれることができて良かった。
・設計の仕事をしているので、実際住まわれている様子を含め、内部を見ることができ、勉強になりました。こういった機会は少ないので、今日はとても良い機会でした。
・地形を生かした建物でおもしろい。冒険心がくすぐられる。
・コンサートと一緒になっていて、建物のコンセプトを実際に体感できるプログラム内容が、とてもよかったと思います。
・外を周った時、スロープを歩いたり、敷地内にいる時の急斜面の感じ方の違いが面白かった。敷地内にいる時の方が大地と一体となっている様に感じることが出来ました。
・この朗読劇がなければ、知らずにいた建物で、中に入り解説を聞けてよかったです。展示物にも興味深かったですが、建物に使用されている材料・備品等すばらしく、残していってほしいものです。床を歩くと鳴る音、なつかしかったです。すてきな会場でした。
・構造の話を多くされたが、それなら出来れば、もう少しディティール図面があるとよかった。
・もう少し、ツアーで一緒に回る人数を少なくした方が、どんな質問が出たか、どんな解説をしているか全員に設計者の声が行き渡ると思います。
・階段の昇り降りがけっこうあったので、高齢の方は大変だったかもしれません。ツアー時間は良かったと思うのですが、その点への配慮があるとさらに良かったかもしれません。

■モバイル・トリエンナーレ

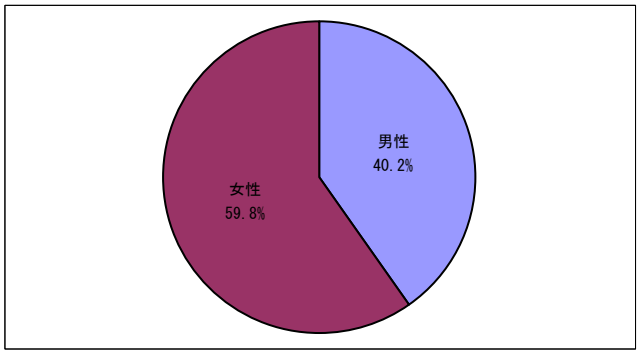
実施時期	モバイル・トリエンナーレの開催日
調査対象	モバイル・トリエンナーレの来場者（4 会場）
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、出口付近に設置したアンケートボックスにて回収
回収数/来場者数	377 人/7,316 人（5.2%）

・モバイル・トリエンナーレは、愛知県内での広域展開を図るという、今回のトリエンナーレの新たな試みの一つであるが、来場者には名古屋会場や岡崎会場とは異なる傾向が見られた。
・名古屋会場及び岡崎会場の来場者は 20 代及び 30 代が 6 割弱を占めるが、モバイル・トリエンナーレにおいては、各年代が満遍なく来場している。また、住まいについては、開催市町内が 6 割を占めるなど、地域に近いイベントだったと考えられる。
・展示内容の感想については、「良かった」と「まあ良かった」を合わせて 87.4%を占め、好評であった。また、展示を見て名古屋市や岡崎市で開催しているトリエンナーレに行ってみたいと思ったかという質問において、6 割の方が「思った」と答えている。

【回答者の属性】

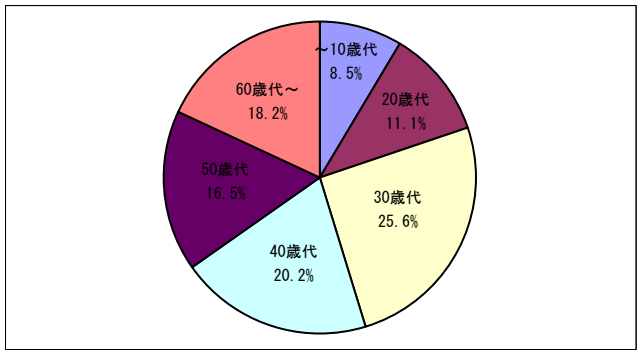
○性別

選択肢	数	比率
男性	144	40.2%
女性	214	59.8%
計	358	100.0%



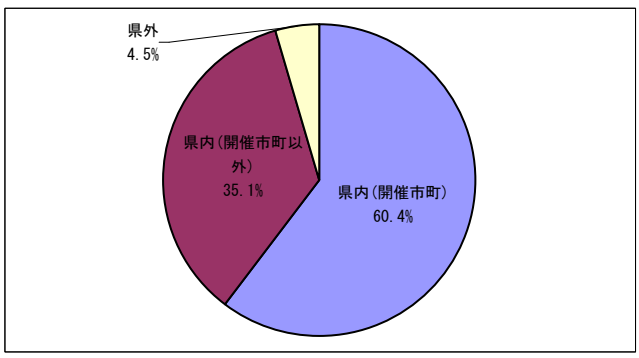
○年代

選択肢	数	比率
～10 歳代	30	8.5%
20 歳代	39	11.1%
30 歳代	90	25.6%
40 歳代	71	20.2%
50 歳代	58	16.5%
60 歳代～	64	18.2%
計	352	100.0%



○住まい

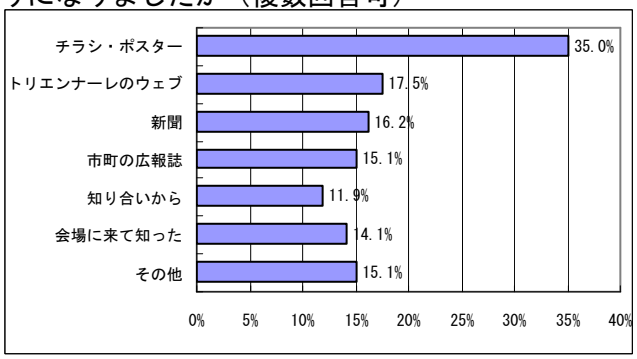
選択肢	数	比率
愛知県内（開催市町）	215	60.4%
愛知県内（開催市町以外）	125	35.1%
愛知県外	16	4.5%
計	356	100.0%



【来場理由】

○モバイル・トリエンナーレをどのようにお知りになりましたか（複数回答可）

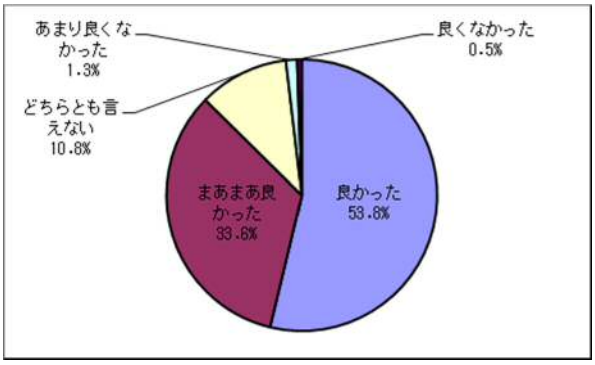
選択肢	数	比率
チラシ・ポスター	132	35.0%
トリエンナーレのウェブ	66	17.5%
新聞	61	16.2%
市町の広報誌	57	15.1%
知り合いから	45	11.9%
会場に来て知った	53	14.1%
その他	57	15.1%
計	471	ー



【展示の感想】

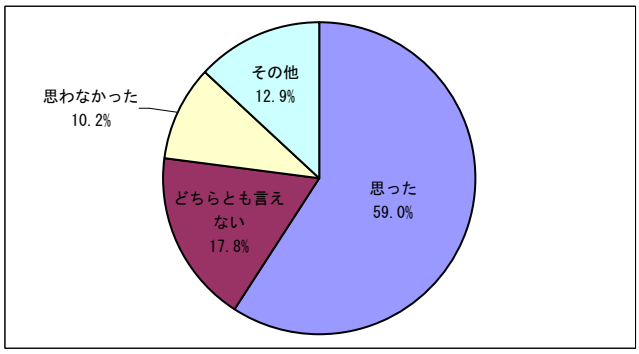
○展示の内容はいかがでしたか

選択肢	数	比率
良かった	200	53.8%
まあまあ良かった	125	33.6%
どちらとも言えない	40	10.8%
あまり良くなかった	5	1.3%
良くなかった	2	0.5%
計	372	100.0%



○本日の展示を見て、名古屋市や岡崎市で開催しているあいちトリエンナーレに行ってみたいと思いましたか。

選択肢	数	比率
思った	219	59.0%
どちらとも言えない	66	17.8%
思わなかった	38	10.2%
その他	48	12.9%
計	371	100.0%



○自由意見抜粋

・地元で気軽に現代アートに触れることができてよかった。
・頭が覚醒し刺激を受けた。
・見てわかりやすい作品が多くて親しみが持てた。
・作品ガイドツアーの説明が分かりやすく、作者の思いと作品の良さを味わうことができた。
・ビデオプログラムが意外とおもしろく、新しい発見だった。
・名古屋、岡崎会場（本展）にも行ってみたい。
・閉校となった木造校舎の雰囲気が作品を引き立てて良いハーモニーを奏でていた。
・昔通っていた小学校が素敵に復活していて嬉しかった。
・近所でアート作品を見ることができてうれしかった。
・いろいろな発想があふれていて刺激になった。
・アートを通して自分の考えを省みることも大切だと思った。
・視点を変えて物事を見ると世界が広がることに気付いた。

(2) 関係者アンケート

区分	調査対象数	回収数	回収割合	該当ページ
ボランティア	964 名	249 名	25.8%	104
祝祭ウィーク事業参加団体	14 団体	14 団体	100.0%	108
パートナーシップ事業参加団体	364 団体	81 団体	22.3%	110

■ボランティア

実施時期	11 月
調査対象	ボランティア参加者
配布・回収方法	メール、郵送
回収数/対象数	249 名/964 名（25.8%）

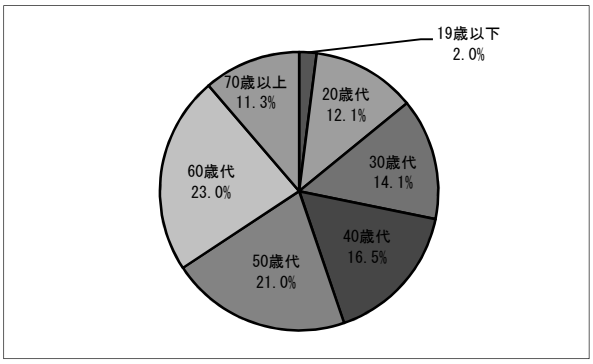
【回答者の属性】

・10 歳代から 70 歳以上まで、幅広い年代の方に参加していただいた。職業については会社員と主婦が多くなっている。

・以前にボランティア活動を経験したことのある方が 73.9%を占め、そのうち 50.0%の方が「トリエンナーレ 2010 でのボランティア」経験あり、39.7%の方が「愛・地球博でのボランティア」経験ありと回答している。

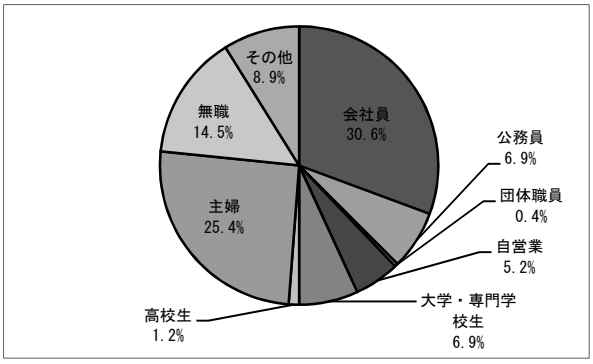
○年代

選択肢	数	比率
19 歳以下	5	2.0%
20 歳代	30	12.1%
30 歳代	35	14.1%
40 歳代	41	16.5%
50 歳代	52	21.0%
60 歳代	57	23.0%
70 歳以上	28	11.3%
計	248	100.0%



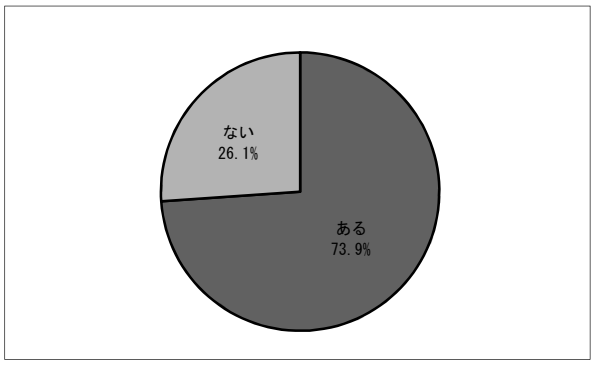
○職業

選択肢	数	比率
会社員	76	30.6%
公務員	17	6.9%
団体職員	1	0.4%
自営業	13	5.2%
大学・専門学校生	17	6.9%
高校生	3	1.2%
主婦	63	25.4%
無職	36	14.5%
その他	22	8.9%
計	248	100.0%



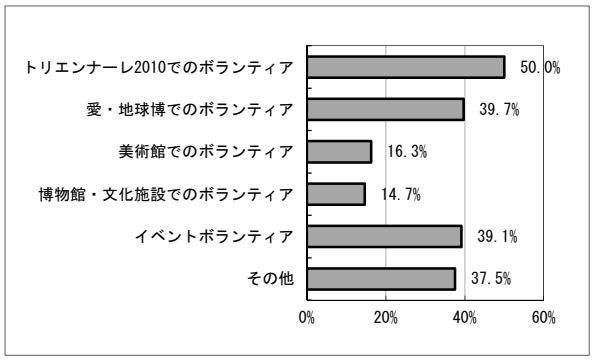
○トリエンナーレ 2013 のボランティアに参加する前にボランティア活動に参加した経験がありますか

選択肢	数	比率
ある	184	73.9%
ない	65	26.1%
計	249	100.0%



○これまで、どのような活動に参加されましたか（複数回答可）
（※前問で「ある」と回答した方のみ）

選択肢	数	比率
トリエンナーレ 2010 でのボランティア	92	50.0%
愛・地球博でのボランティア	73	39.7%
美術館でのボランティア	30	16.3%
博物館・文化施設でのボランティア	27	14.7%
イベントボランティア	72	39.1%
その他	69	37.5%
計	363	ー

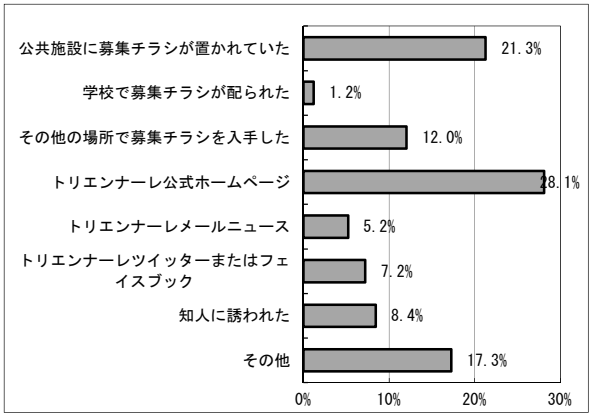


【参加理由】

・募集を知ったきっかけは、公式ホームページと公共施設に置かれていたチラシが多い。
・参加理由としては、「トリエンナーレに興味があった」が最も多いが、「ボランティア活動に興味がある」「人との交流が好き」「社会や人のためになりたい」との回答も多くなっている。

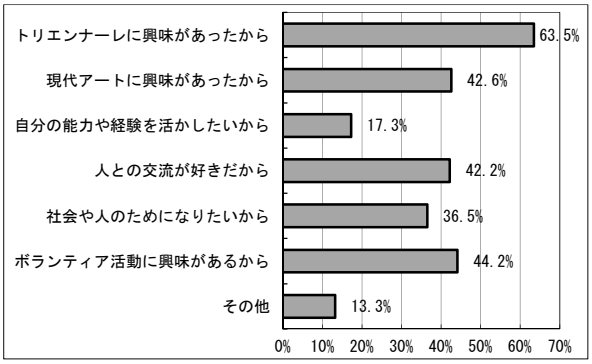
○ボランティア募集について、どのように知りましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
公共施設に募集チラシが置かれていた	53	21.3%
学校で募集チラシが配られた	3	1.2%
その他の場所で募集チラシを入手した	30	12.0%
トリエンナーレ公式ホームページ	70	28.1%
トリエンナーレメールニュース	13	5.2%
トリエンナーレツイッターまたはフェイスブック	18	7.2%
知人に誘われた	21	8.4%
その他	43	17.3%
計	251	ー



○ボランティアに参加した理由をお聞かせください（複数回答可）

選択肢	数	比率
トリエンナーレに興味があったから	158	63.5%
現代アートに興味があったから	106	42.6%
自分の能力や経験を活かしたいから	43	17.3%
人との交流が好きだから	105	42.2%
社会や人のためになりたいから	91	36.5%
ボランティア活動に興味があるから	110	44.2%
その他	33	13.3%
計	646	ー



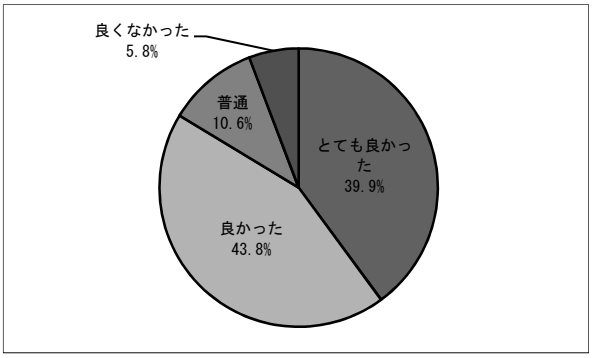
【感想】

・ボランティア活動に参加して、「とても良かった」「良かった」という回答は 83.7%にのぼった。その理由として、「来場者と交流することができた」が 70.1%、「ボランティア同士で交流することができた」が 69.0%と高くなっている。

・次回のトリエンナーレなど、今後このような芸術イベントにボランティアとして参加したいか聞いたところ、「参加したい」「参加を検討したい」を合わせると 82.3%と高くなっている。

○ボランティア活動をしていかがでしたか

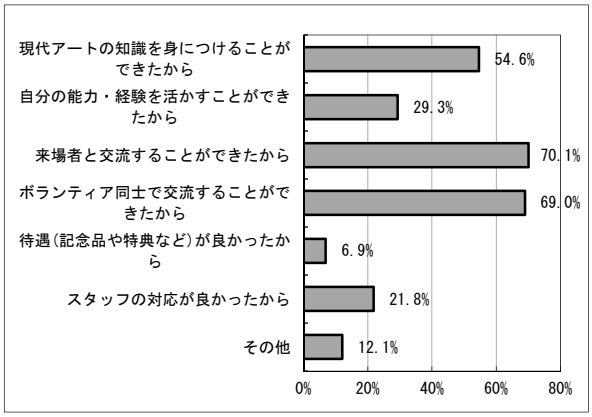
選択肢	数	比率
とても良かった	83	39.9%
良かった	91	43.8%
普通	22	10.6%
良くなかった	12	5.8%
計	208	100.0%



○どのような面で良かったと思いますか（複数回答可）

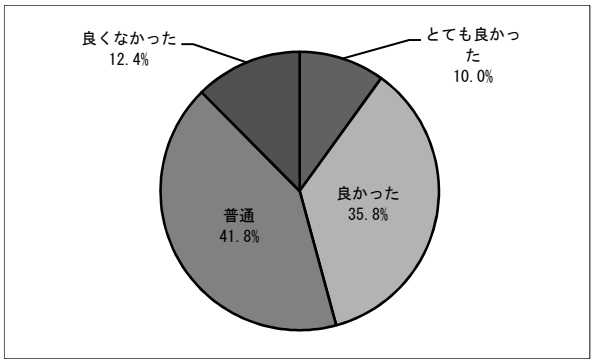
（※前問で「とても良かった」「良かった」と回答した方のみ）

選択肢	数	比率
現代アートの知識を身につけることができたから	95	54.6%
自分の能力・経験を活かすことができたから	51	29.3%
来場者と交流することができたから	122	70.1%
ボランティア同士で交流することができたから	120	69.0%
待遇(記念品や特典など)が良かったから	12	6.9%
スタッフの対応が良かったから	38	21.8%
その他	21	12.1%
計	459	ー



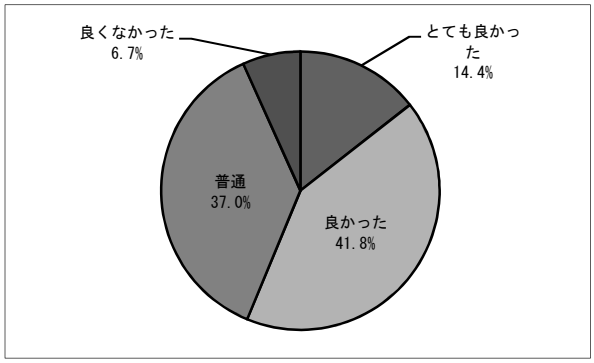
○研修の内容はいかがでしたか

選択肢	数	比率
とても良かった	20	10.0%
良かった	72	35.8%
普通	84	41.8%
良くなかった	25	12.4%
計	201	100.0%



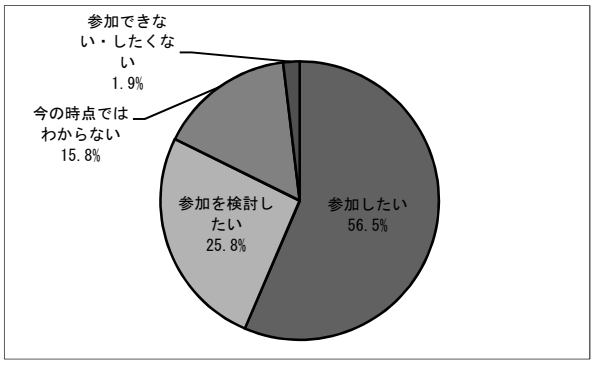
○ボランティア活動の内容についてはいかがでしたか

選択肢	数	比率
とても良かった	30	14.4%
良かった	87	41.8%
普通	77	37.0%
良くなかった	14	6.7%
計	208	100.0%



○今後、トリエンナーレのような芸術イベントにボランティアとして参加したいとお考えですか

選択肢	数	比率
参加したい	118	56.5%
参加を検討したい	54	25.8%
今の時点でわからない	33	15.8%
参加できない・したくない	4	1.9%
計	209	100.0%



○自由意見抜粋

・初めての経験でとまどいましたが、とてもよい経験でした。次回も参加したいと思います。
・様々な方々と出会うたびにものごとに対する視点が変わり、良い経験ができました。スタッフ、ボランティア、来場者等の出会った方々に感謝です。
・あまり縁のなかった現代アートですが、ボランティア仲間と一緒に活動したり、提供していただいた資料で勉強したりするうちに、ますます楽しくなりました。こういう場をいただき感謝しています。
・来場者に楽しんでもらえるためにボランティア同士で意見を出し合いながら活動することができ、大きな達成感を味わうことができました。
・ディレクターの対応及び指示が適切であると、ボランティア活動が円滑になる。また、ディレクターの雰囲気作りが何より大事だと思う。
・公式ガイドブック、ポケットマップ、作品キャプションなどの文字が小さく読みづらいと思いました。
・会場ごとにまとめた、作品等の解説資料があるとよかったです。

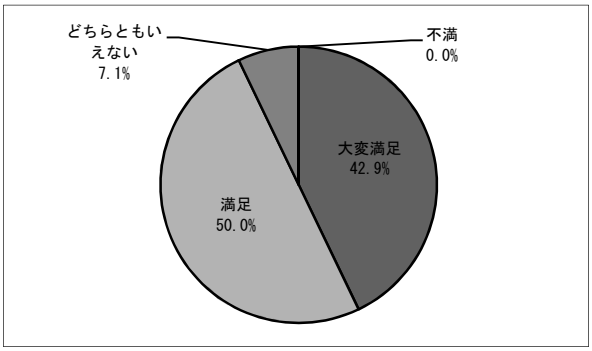
■祝祭ウィーク事業参加団体

実施時期	11 月
調査対象	祝祭ウィーク事業参加団体
配布・回収方法	メール
回収数/対象数	14 団体/14 団体（100.0%）

・来場者の反応については、「大変良かった」と「良かった」が合わせて 100.0%、全体的な満足度については、「大変満足」と「満足」が合わせて 92.9%となり、高い評価となった。
・しかしながら、次回参加したいかという質問に対しては、「参加したい」が 50.0%にとどまっている。

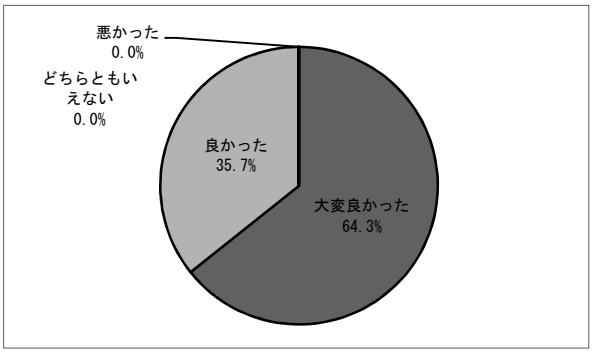
○全体的な満足度をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変満足	6	42.9%
満足	7	50.0%
どちらともいえない	1	7.1%
不満	0	0.0%
計	14	100.0%



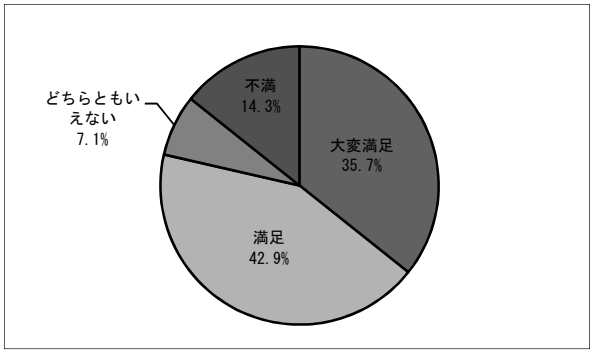
○来場者の反応は良かったと思いますか

選択肢	数	比率
大変良かった	9	64.3%
良かった	5	35.7%
どちらともいえない	0	0.0%
悪かった	0	0.0%
計	14	100.0%



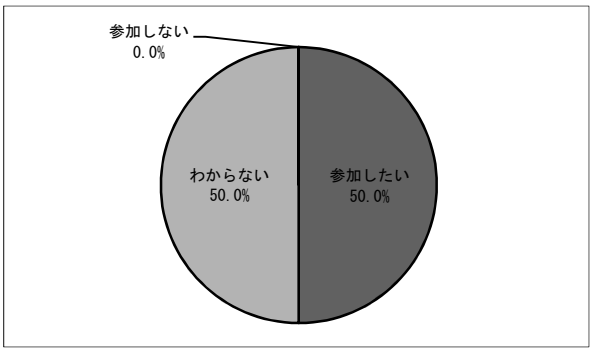
○実行委員会事務局のサポート体制はいかがでしたか

選択肢	数	比率
大変満足	5	35.7%
満足	6	42.9%
どちらともいえない	1	7.1%
不満	2	14.3%
計	14	100.0%



○次回のトリエンナーレ（2016 年）において「祝祭ウィーク事業」が実施されるとしたら、参加したいと思いますか。

選択肢	数	比率
参加したい	7	50.0%
わからない	7	50.0%
参加しない	0	0.0%
計	14	100.0%



○自由意見抜粋

・「初めてのアートで、斬新なアート認識を得られることができた」というお声が多くあった。
・多くの方々より、「感激と感動のコンサートだった」という感想をいただいた。また、「新しいエンターテイメントのあり方を提案し、東海地域の音楽文化向上に大きく貢献された公演でした」という評価も得られました。
・トリエンナーレ事務局のサポート体制が良かったので、公演に集中することができた。
・日常の舞台芸術活動とは異なる、現実から脱出した革新的な創作に思い切り挑戦できる場。おもしろく触発されます。
・総合チラシがあまり出回っていなかったと感じた。宣伝にもう少し力を入れた方が良かったのではないか。
・事業全体としてはいいことだと思うが、１週間で（全公演を）詰め込んでいるので、観客の選択の幅が狭かったのではないかと思う。
・愛知県芸術劇場の大ホール、小ホールだけでは客席数からいうと、極端に差があって制作面でかなり制約されるため、中間客席数のホールを設定していただきたい。
・参加団体が何らか関わって最終日に何か一つの演目を上演できれば、統一感や祝祭ウィーク事業としての目玉になるかとは思う（非常に難しいとは思いますが…）
・こういった機会でなければ芸術劇場を使用できない団体が発表の機会を得られる場として多く採用されることを願います。

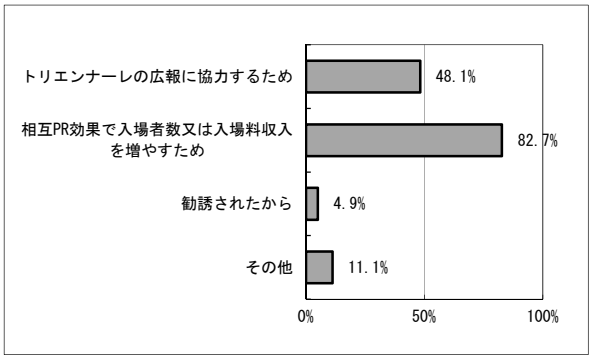
■パートナーシップ事業参加団体

実施時期	11 月
調査対象	パートナーシップ事業参加団体
配布・回収方法	メール
回収数/対象数	81 団体/364 団体（22.3%）

・満足度を聞いたところ、「大変満足」と「満足」が合わせて 65.4%を占めるものの、「どちらともいえない」が 29.6%となっている。
・効果については、約半数の団体が「自らの事業の知名度があがった」と感じている一方で、「特になかった」との回答も 19.8%あった。
・次回トリエンナーレのパートナーシップ事業に参加したいか聞いたところ、「是非参加したい」「可能であれば参加したい」が合わせて 86.5%となっている。

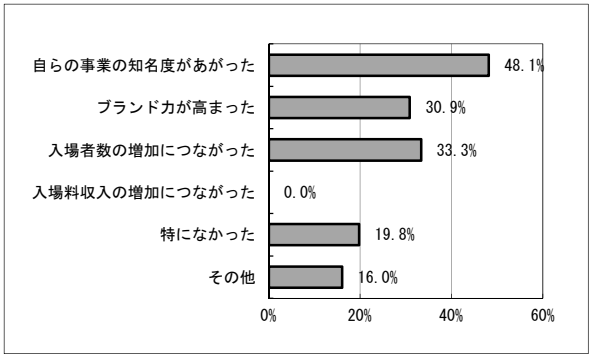
○パートナーシップ事業に参加された理由をお聞かせください（複数回答可）

選択肢	数	比率
トリエンナーレの広報に協力するため	39	48.1%
相互 PR 効果で入場者数又は入場料収入を増やすため	67	82.7%
勧誘されたから	4	4.9%
その他	9	11.1%
計	119	ー



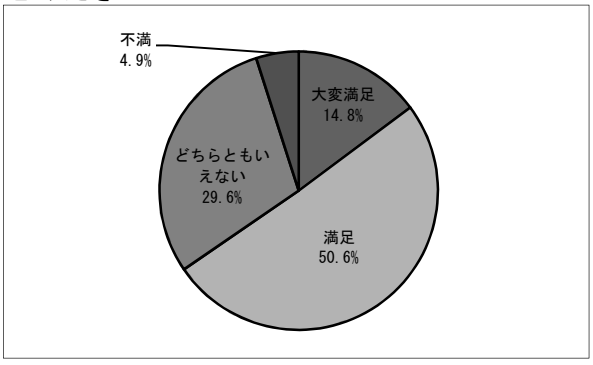
○パートナーシップ事業によって、どのような効果があったと感じられていますか（複数回答可）

選択肢	数	比率
自らの事業の知名度があがった	39	48.1%
ブランド力が高まった	25	30.9%
入場者数の増加につながった	27	33.3%
入場料収入の増加につながった	0	0.0%
特になかった	16	19.8%
その他	13	16.0%
計	120	ー



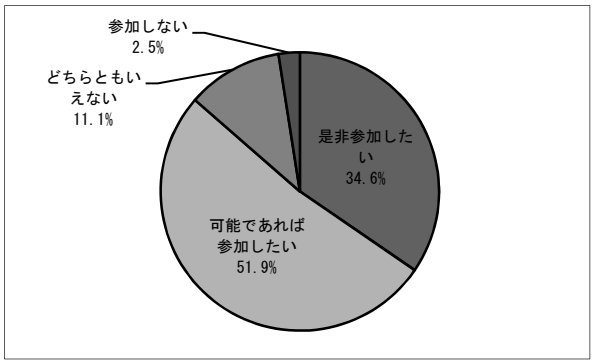
○パートナーシップ事業に対する満足度をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変満足	12	14.8%
満足	41	50.6%
どちらともいえない	24	29.6%
不満	4	4.9%
計	81	100.0%



○次回 2016 年のトリエンナーレに今回と同様のパートナーシップ事業があれば、参加しようと思いますか

選択肢	数	比率
是非参加したい	28	34.6%
可能であれば参加したい	42	51.9%
どちらともいえない	9	11.1%
参加しない	2	2.5%
計	81	100.0%



○自由意見抜粋

・3 年前のトリエンナーレ「長者町」に感動して、何かやりたいと仲間を集めた。
・パートナーシップ事業に参加している者同士のつながりが生まれた。
・トリエンナーレ情報コーナーにて、トリエンナーレ会期中の各市で開催される企画展の情報を収集できるのは、普段の PR だけでは広報しにくい市外の皆様に周知することができたので、効果があったと思います。
・チラシや広報であいちトリエンナーレのパートナーシップに参加していることを掲載し、冠をつけることによって、ブランド力を高めることになったようです。
・パートナーシップ事業は、普段アートに親しんでいない方にも展覧会に来ていただくきっかけになり、とても良かったです。
・ホームページへの掲載や、チラシの設置など事業の幅が広がり、有難く感じております。今後もパートナーシップ事業に参加させていただけたらと思いますのでよろしくお願い致します。
・前回同様何の効果もありませんが、そもそも見返りを求めておりません。
・パートナーシップ事業なるものの性格／役割が、曖昧ではないでしょうか。主たる事業の脇に隠れて「あっても無くてもよい」ような存在感しかありません。
・チラシや DM、目録にパートナーシップのロゴを入れたりする手続きなどの手間や費用の割にはメリットが得られなかった感じがする。
・トリエンナーレの Web サイト内のパートナーシップ事業の場所が非常に分かりにくかった。

(3) 文化芸術関係機関等アンケート

区分	調査対象数	回収数	回収割合	該当ページ
全国の芸術系教育機関	48 件	9 件	18.8%	112
愛知県内ギャラリー	79 件	18 件	22.8%	115
愛知県内小・中・高等学校、特別支援学校等	1,681 校	473 校	28.1%	118

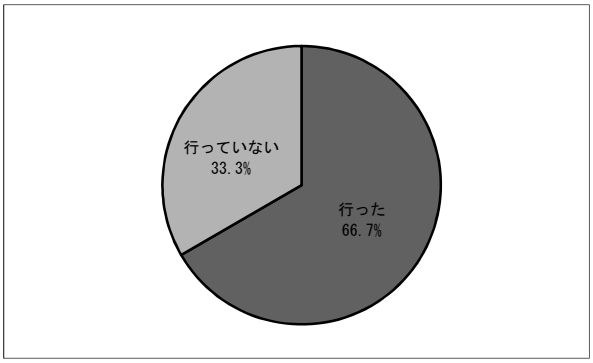
■全国の芸術系教育機関

実施時期	11 月
調査対象	全国の芸術系教育機関（芸術大学等）
配布・回収方法	郵送
回収数/対象数	9 件/48 件（18.8%）

・総合評価としては、「大変良い」と「良い」が合わせて 83.3%と高く評価されている。

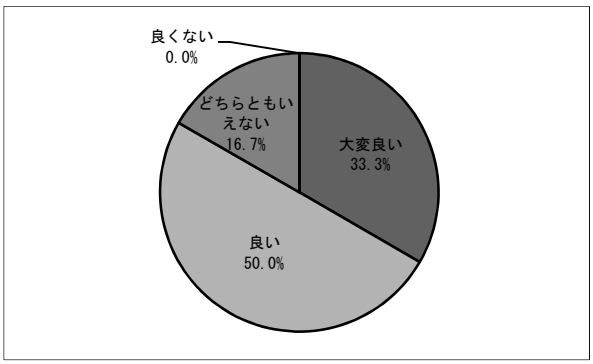
○トリエンナーレにお越しいただけましたか

選択肢	数	比率
行った	6	66.7%
行っていない	3	33.3%
計	9	100.0%



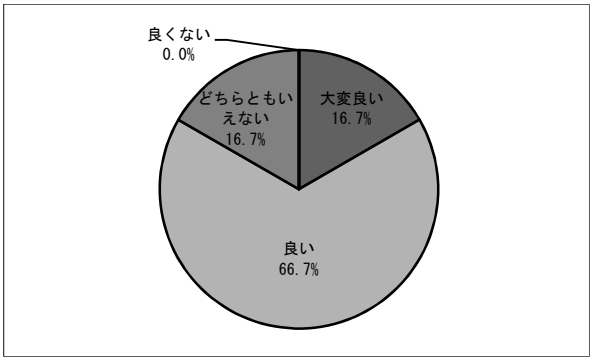
○総合評価

選択肢	数	比率
大変良い	2	33.3%
良い	3	50.0%
どちらともいえない	1	16.7%
良くない	0	0.0%
計	6	100.0%



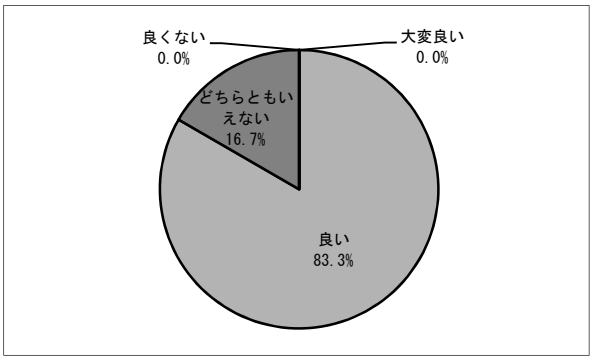
○現代芸術の先端的な動向を紹介する国際芸術祭としての評価

選択肢	数	比率
大変良い	1	16.7%
良い	4	66.7%
どちらともいえない	1	16.7%
良くない	0	0.0%
計	6	100.0%



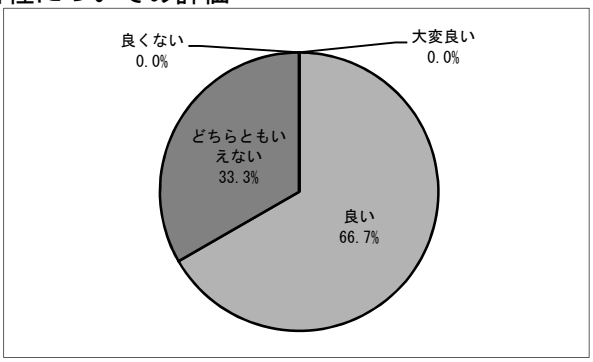
○祝祭的なイベントとしての評価

選択肢	数	比率
大変良い	0	0.0%
良い	5	83.3%
どちらともいえない	1	16.7%
良くない	0	0.0%
計	6	100.0%



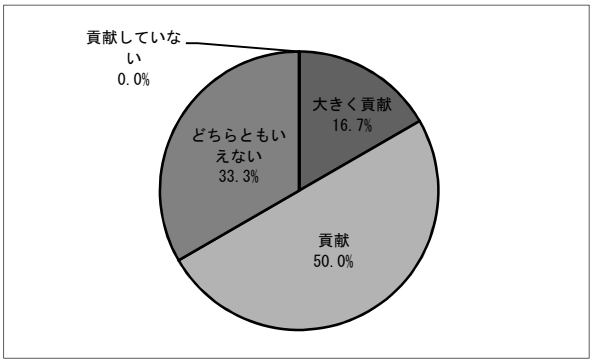
○パフォーミングアーツを積極的に取り込む複合性についての評価

選択肢	数	比率
大変良い	0	0.0%
良い	4	66.7%
どちらともいえない	2	33.3%
良くない	0	0.0%
計	6	100.0%



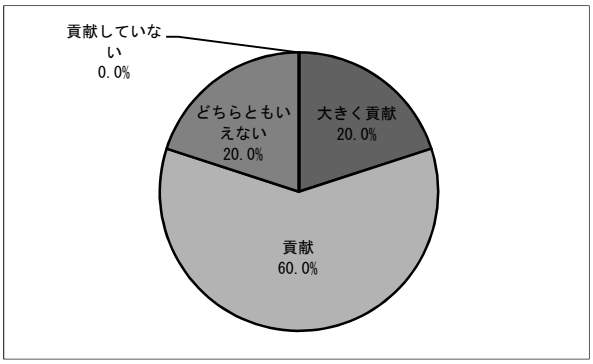
○芸術の普及啓発に貢献したと思いますか

選択肢	数	比率
大きく貢献	1	16.7%
貢献	3	50.0%
どちらともいえない	2	33.3%
貢献していない	0	0.0%
計	6	100.0%



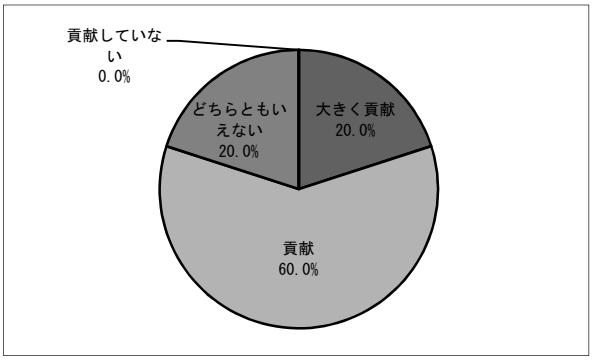
○わが国の芸術水準の向上に貢献したと思いますか

選択肢	数	比率
大きく貢献	1	20.0%
貢献	3	60.0%
どちらともいえない	1	20.0%
貢献していない	0	0.0%
計	5	100.0%



○学生やアーティストへの刺激や、創作活動の活発化等に貢献していると思いますか

選択肢	数	比率
大きく貢献	1	20.0%
貢献	3	60.0%
どちらともいえない	1	20.0%
貢献していない	0	0.0%
計	5	100.0%



○自由意見抜粋

・キュレーション、作品バランス、都市空洞化対策、リノベーションの可能性を感じさせる。
・テーマはタイムリーでよかった。建築が入ったことで関心が高まった。
・東日本大震災の強烈なインパクトを再考し、新たなスタートを考えるという視点がよかった。
・愛知が文化創造に貢献するイベントとして長く続けて欲しい。
・超長期的政策として継続していただきたい。文化や教育の投資効果は、数 10 年～数世紀先のためのもの。
・アンテナを高くし、世界の芸術動向をつかんで、一歩先を行く企画を発信する意気込みを持ち続けて欲しい。
・あいちの個性がはっきりしない。
・行政が一定の役割を担うことは必要だが、芸術的で自由な取り組みに常にブレーキがかかっている印象を持つ。
・あいちであるなら、あいちの学生、住人が主体でありたい。それができなければやるべきではない。国際、グローバル…など古めかしい設定であり発想である。
・期待していますが、いっぽうであまりにエリアを拡張しすぎて、テーマも拡散して何だか分からなくならないと良いなあと思います。

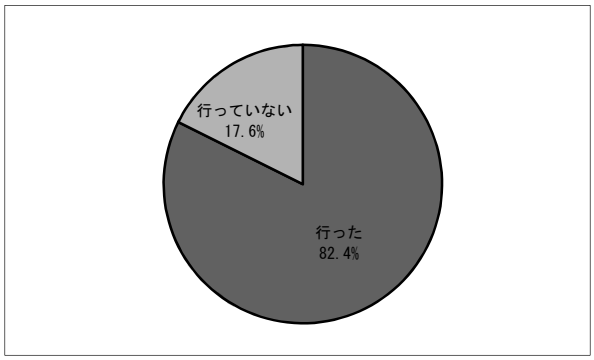
■愛知県内ギャラリー

実施時期	11 月
調査対象	愛知県内ギャラリー
配布・回収方法	郵送
回収数/対象数	18 件/79 件（22.8%）

・総合評価としては、「大変良い」と「良い」が合わせて 57.1%、「どちらともいえない」が 42.9%となっている。
・「パフォーミングアーツを積極的に取り込む複合性」、「普及啓発への貢献」、「アーティストへの刺激や、創作活動の活発化等」については高く評価されているが、「祝祭的なイベントとしての評価」については、「大変良い」「良い」が半数を下回っている。

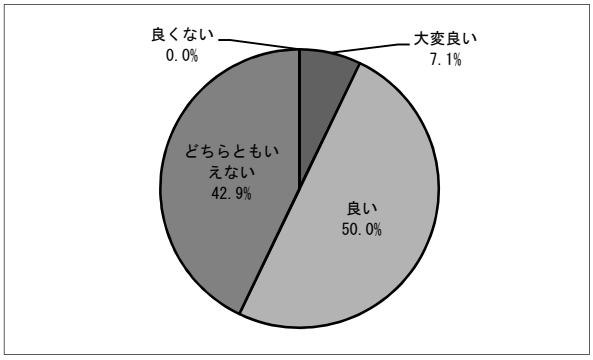
○トリエンナーレにお越しいただけましたか

選択肢	数	比率
行った	14	82.4%
行っていない	3	17.6%
計	17	100.0%



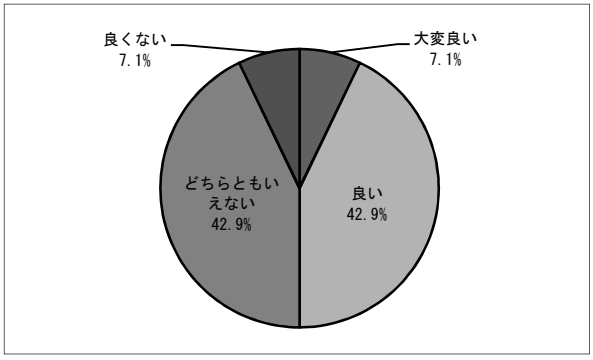
○総合評価

選択肢	数	比率
大変良い	1	7.1%
良い	7	50.0%
どちらともいえない	6	42.9%
良くない	0	0.0%
計	14	100.0%



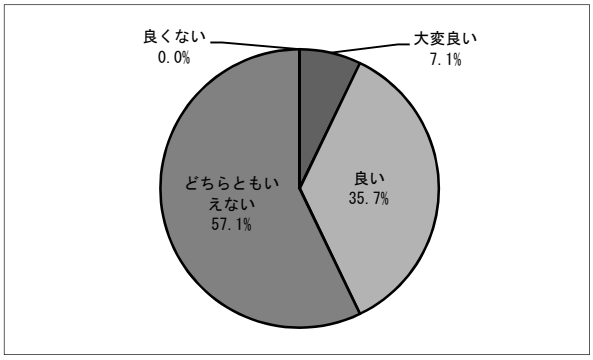
○現代芸術の先端的な動向を紹介する国際芸術祭としての評価

選択肢	数	比率
大変良い	1	7.1%
良い	6	42.9%
どちらともいえない	6	42.9%
良くない	1	7.1%
計	14	100.0%



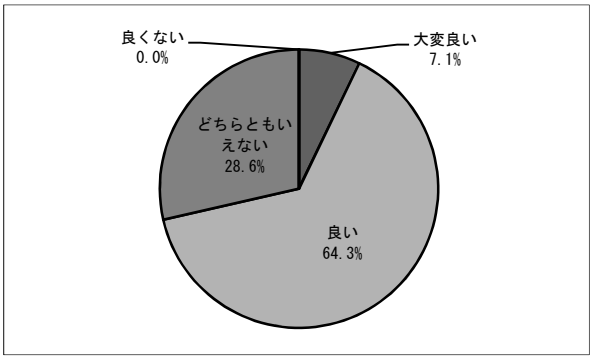
○祝祭的なイベントとしての評価

選択肢	数	比率
大変良い	1	7.1%
良い	5	35.7%
どちらともいえない	8	57.1%
良くない	0	0.0%
計	14	100.0%



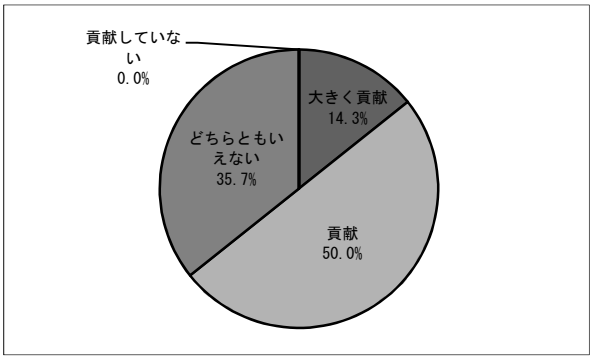
○パフォーミングアーツを積極的に取り込む複合性についての評価

選択肢	数	比率
大変良い	1	7.1%
良い	9	64.3%
どちらともいえない	4	28.6%
良くない	0	0.0%
計	14	100.0%



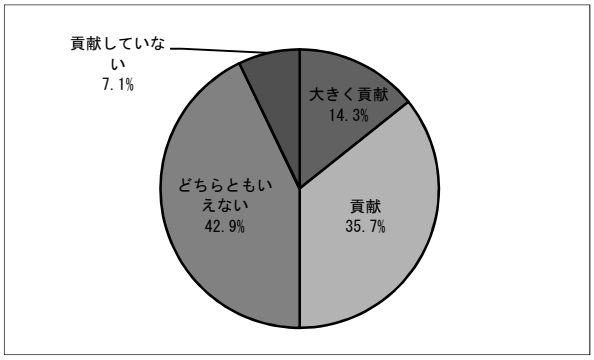
○芸術の普及啓発に貢献したと思いますか

選択肢	数	比率
大きく貢献	2	14.3%
貢献	7	50.0%
どちらともいえない	5	35.7%
貢献していない	0	0.0%
計	14	100.0%



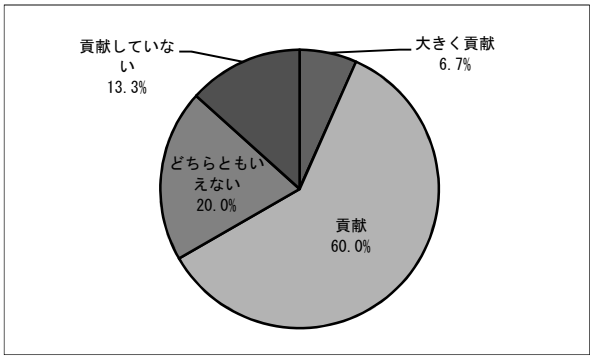
○わが国の芸術水準の向上に貢献したと思いますか

選択肢	数	比率
大きく貢献	2	14.3%
貢献	5	35.7%
どちらともいえない	6	42.9%
貢献していない	1	7.1%
計	14	100.0%



○アーティストへの刺激や、創作活動の活発化等に貢献していると思いますか

選択肢	数	比率
大きく貢献	1	6.7%
貢献	9	60.0%
どちらともいえない	3	20.0%
貢献していない	2	13.3%
計	15	100.0%



○自由意見抜粋

・納屋橋の会場の展示が全体的に好きでした。
・青野文昭さんの展示はやはり震災ならではと思える展示で胸にせまるものがありました。
・建築の視点を取り入れたことに関しては面白い試みと感じた。
・震災をテーマにした試みはよいと思います。被災地以外のところで取り上げることに大きな意味があるように思います。
・伝統と歴史を重んじる「愛知」から全世界へアピールすることが美術・芸術を通じて紹介できると思う。
・見に行ってとても楽しかったという思いになれず、疲れたという気持ちの方が大きかった。
・愛知県で開催する意義をよく検討してもらいたい。
・愛知在住のアーティスト達への視点が欠けている。愛知出身の優れたアーティストもたくさんいるので、彼らを起用してあげて欲しい。
・コンテンポラリーなイメージが強すぎて敬遠しました。個人的にも知らない作家が多く興味が持てなかったことと、商売にも結びつかないと考え行きませんでした。

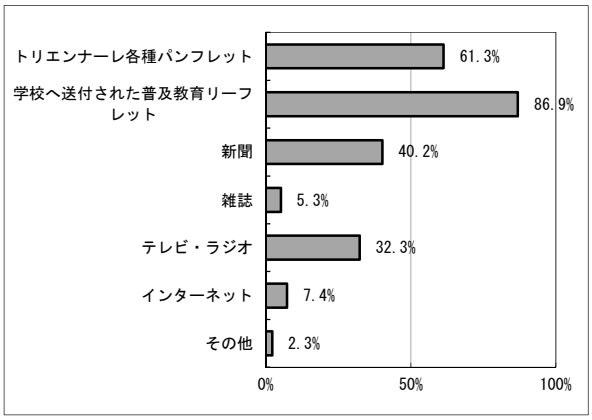
■愛知県内小・中・高等学校、特別支援学校等

実施時期	11 月
調査対象	愛知県内小・中・高等学校、特別支援学校等
配布・回収方法	郵送、FAX、メール
回収数/対象数	473 校/1,681 校（28.1%）

・トリエンナーレの情報を何で得たか、という質問に対しては、愛知県内の全学校等へ送付した普及啓発リーフレットから情報を得たという学校等の割合が 86.9%と高くなっており、有効性が高かったと考えられる。
・普及教育リーフレットは、96.0%の学校で児童・生徒に配り、持ち帰ってもらっているため、愛知県内の大部分の児童・生徒に直接行き渡っていると考えられる。

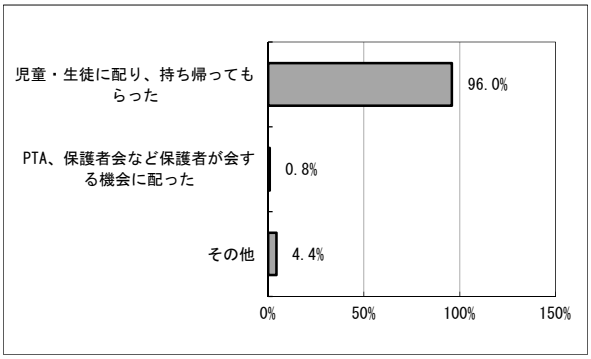
○トリエンナーレの情報を何で得られましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
トリエンナーレ各種パンフレット	290	61.3%
学校へ送付された普及教育リーフレット	411	86.9%
新聞	190	40.2%
雑誌	25	5.3%
テレビ・ラジオ	153	32.3%
インターネット	35	7.4%
その他	11	2.3%
計	1,115	―



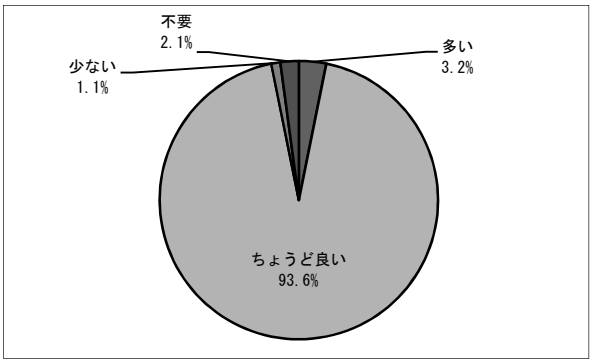
○貴校へ送付させていただいた普及教育リーフレットは、どのような方法で配布されましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
児童・生徒に配り、持ち帰ってもらった	454	96.0%
PTA、保護者会など保護者が会する機会に配った	4	0.8%
その他	21	4.4%
計	479	―



○送付の回数はいかがでしたか

選択肢	数	比率
多い	15	3.2%
ちょうど良い	441	93.6%
少ない	5	1.1%
不要	10	2.1%
計	471	100.0%



○自由意見抜粋

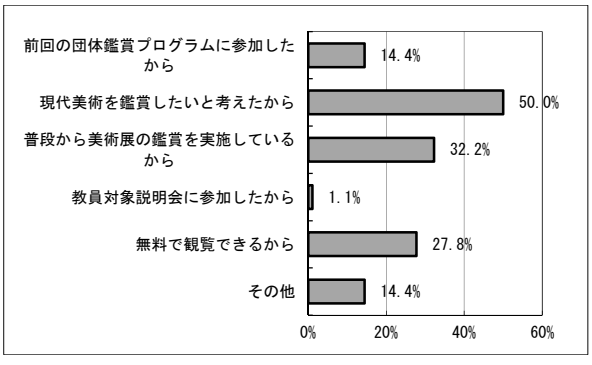
《オノ・ヨーコ作品リーフレット》
・「やってみよう」「どうだった」「この作品をつくったのは…」などインパクトのある言葉で表されており、印象に残るものであった。
・オノ・ヨーコさんの言葉がとても印象的でした。子どもたちの心の中に浸み込む感じがしました。
・子どもたちの想像力を働かせるオノ・ヨーコの作品を取り上げたことはよかった。
・オノ・ヨーコさんがチラシに登場したことで、さまざまなメディアを駆使して多くの人が参加できる活動を芸術を通して行おうとしていることが伝わってきた。
・オノ・ヨーコの感覚的な言葉がアートについての意識や知識のない子どもたちに伝わるかは難しい部分があるのではないかと思う。トリエンナーレの趣旨や内容を示すキャッチフレーズとしてはおしゃれでよい。

《キッズトリエンナーレ参加者募集チラシ》
・各種のワークショップがわかりやすく紹介されており興味をひくものであった。
・キッズトリエンナーレチラシは他のプリント類と形状が同じでないため、子どもの注意を引くものでした。文字情報が多く、丁寧な説明になっていました。
・興味、関心のある児童・保護者が参加する良いきっかけになったと思う。児童にとって愛知県でこのような文化芸術的なイベントが開催されていることを知る助けとなった。
・色もついていたし、校内でも話題に取り上げて参加を促していたので、子どもへの説明に大きく役立ちました。
・小中学生には、イベントの内容が伝わりにくいので、おしゃれな感じが減ってもいいので分かりやすくしてほしい。

【学校向け団体鑑賞プログラム参加校】
・学校向け団体鑑賞プログラム参加校 130 校にアンケートを行い、90 名から回答を得た。
・参加した感想については、「大変良かった」「良かった」が合わせて 97.6%に達し、非常に好評であった。
・参加した児童・生徒が現代美術に興味・関心を持つ機会になったと思うか、という質問に対しては、「とても思う」「思う」が 97.8%に達し、非常に効果があったと考えられる。

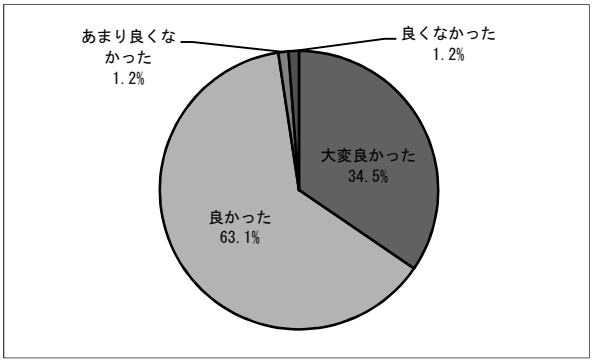
○今回のプログラムに参加していただいた動機をお聞かせください（複数回答可）

選択肢	数	比率
前回の団体鑑賞プログラムに参加したから	13	14.4%
現代美術を鑑賞したいと考えたから	45	50.0%
普段から美術展の鑑賞を実施しているから	29	32.2%
教員対象説明会に参加したから	1	1.1%
無料で観覧できるから	25	27.8%
その他	13	14.4%
計	126	ー



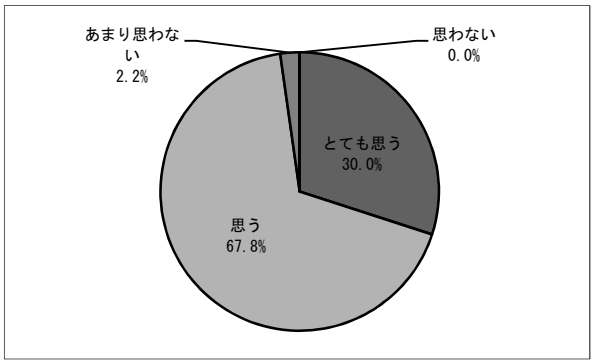
○学校団体鑑賞プログラムに参加していかがでしたか

選択肢	数	比率
大変良かった	29	34.5%
良かった	53	63.1%
あまり良くなかった	1	1.2%
良くなかった	1	1.2%
計	84	100.0%



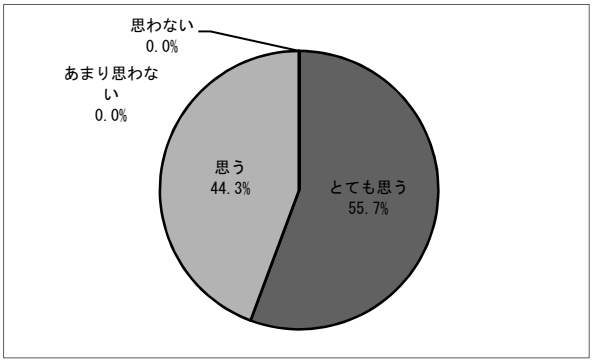
○団体鑑賞に参加したことで、貴校の児童・生徒が現代美術に興味・関心を持つ機会になったと思われますか

選択肢	数	比率
とても思う	27	30.0%
思う	61	67.8%
あまり思わない	2	2.2%
思わない	0	0.0%
計	90	100.0%



○今後も校外での美術展鑑賞を実施したいと思いましたか

選択肢	数	比率
とても思う	49	55.7%
思う	39	44.3%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
計	88	100.0%



○自由意見抜粋

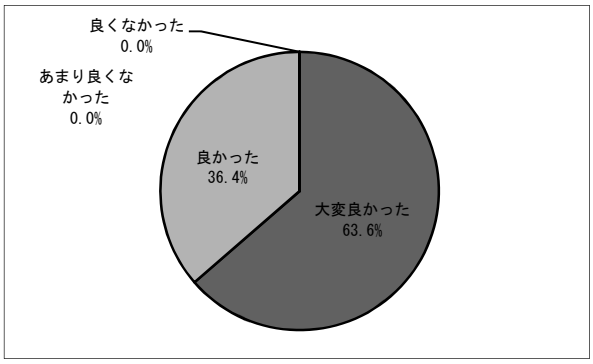
・よく大人が思っている「現代美術は難解だ」という考え方や、そもそも「現代美術」というジャンル自体も、子どもたちはまだ認識していないと思います。そういった年頃の子どもたちが直に現代美術を見ることで、表現の多様性を知ることができたと思います。
・普段なかなか作品作りに熱中できない生徒が意欲的になっていました。
・美術に興味がある子どもにとっても、美術館や美術展はまだまだ身近なものではないです。学校の身近な友達と一緒に作品を見たことで、その距離は少し縮まったのではないかと思います。
・現代美術の展覧会の鑑賞会で子どもたちがどのような反応をするのか不安でしたが、目を輝かせて鑑賞している姿を見ることができてとてもよかったと思いました。
・ふだんとは違う芸術鑑賞となった。しかし、子どもによっては、理解が難しい作品もあり、団体で鑑賞する難しさを感じた。
・普段、自分達が考えている「美術」と、現代における美術の違いを感じたり、「何だかよくわからないけど、すごい！」という感覚を受けていたようです。
・初めて美術館に行った生徒ばかりでした。（生徒も教員も無料ということが、学校からも OK が出やすかったです。）生徒にとってとても貴重な体験ができたと思います。
・ガイドツアーボランティアに作品の情報を丁寧に教えていただき、ありがたかった。もう少し自由に鑑賞する時間もあるとよかった。

【学校等へのアーティスト派遣事業参加校】

・学校等へのアーティスト派遣事業参加校 6 校にアンケートを行い、6 校 13 名からの回答を得た。
・参加した感想については、全員が「大変良かった」「良かった」と回答し、非常に好評であった。
・参加した生徒達が現代美術に興味・関心を持つ機会になったと思うか、という質問に対しても、全員が「強く思う」「思う」と回答し、非常に効果があったと考えられる。

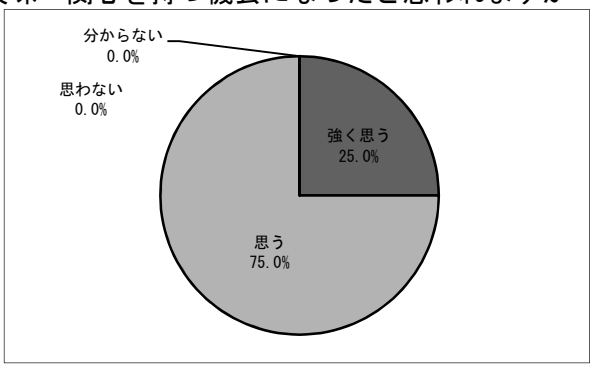
○今回のアーティスト派遣事業を実施していかがでしたか

選択肢	数	比率
大変良かった	7	63.6%
良かった	4	36.4%
あまり良くなかった	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%
計	11	100.0%



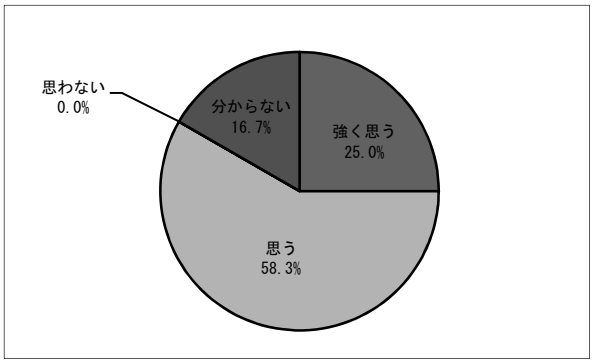
○本事業を受けたことで、生徒達が現代美術に興味・関心を持つ機会になったと思われますか

選択肢	数	比率
強く思う	3	25.0%
思う	9	75.0%
思わない	0	0.0%
分からない	0	0.0%
計	12	100.0%



○今後もアーティストと連携した授業を行いたいと思いましたか

選択肢	数	比率
強く思う	3	25.0%
思う	7	58.3%
思わない	0	0.0%
分からない	2	16.7%
計	12	100.0%



○自由意見抜粋

・普段あまり目立たない生徒が、とても深く考えているということ、感性が豊かだということがよくわかりました。生徒だけでなく、教師も、たくさん学ばせていただきました。
・技術を教えてもらうのではなく、生き方、考え方を教えていただき、生徒の視野が広がったと感じました。
・日常の授業では経験できないアーティストとの出会いが持てたので良かったと思います。
・いつも笑顔の少ない児童も劇をみせていただき、笑う姿に、本当に感動しました。
・今回のように、学校が気軽に美術館と連携できる体制があると良いと思います。
・中学校では評価・成績を気にかけるところがあり、できれば小学校で取り組む方がよいのでは。
・せりふの言い方、体の動かし方など細かな技術指導ではなく、体全体で表現していくこと、仲間と共に演じていくことの大切さを感じさせてくれた。
・生徒の楽しむ顔を見ました。成績を気にせず、自由に意欲的に全員が心からワクワクして制作に取り組んだのは、これが最初で最後かもしれません。このモチベーションの高さが本当の制作での醍醐味です。

4　有識者意見

・緊急雇用創出事業基金事業を活用して、文化芸術に関する専門的な知識・見識を有する者 11 名にヒアリングを行い、あいちトリエンナーレ 2013 に対する評価や今後の展開に向けたアドバイスを頂いた。
・今回の評価としては、「国際美術展としてのクオリティー」や「テーマ設定・展開」を始め、2010 年の初回から継続している愛知独自の基本的枠組である「舞台芸術との複合性」、「まちなか展開」及び「普及・教育の取組み」、更には、今回新たに実施した「県内での広域展開」などに関して意見を頂いた。
・一部、「テーマ設定・展開」に関して、イベントとしての楽しさは物足りなかったとの意見や、「まちなか展開」に関して、長者町会場の展示に迫力がなかったなどの意見もあったが、総じて高い評価であった。
・また、トリエンナーレの「基本フレーム」や「テーマ設定・展開」、「まちなか展開」、「県内での広域展開」などに関して、今後の展開に向けたアドバイスも頂いた。

■ヒアリング対象者　（敬称略）

氏名	職名等
石井達朗	舞踊評論家
磯　達雄	建築ジャーナリスト
逢坂恵理子	横浜美術館館長
太下義之	三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング 芸術・文化政策センター兼経済・社会政策部 主席研究員／センター長
加藤義夫	インディペンデント・キュレーター
北川フラム	アートディレクター
高北幸矢	清須はるひ美術館館長、名古屋造形大学教授
南條史生	森美術館館長
藤井知昭	愛知芸術文化協会顧問、国際文化研究所所長
藤江　充	愛知教育大学名誉教授
山口裕美	アートプロデューサー、現代美術ジャーナリスト

■トリエンナーレ 2013 に対する評価

○国際美術展としてのクオリティー、テーマ設定・展開

・現代アートの美術展として成功している。作品も国際的レベルであり、良い展覧会であったと思う。前回よりも発信力が高まった。

・メイン会場である愛知県美術館は、コンセプトと空間の関係性がしっかりしており、作品が生きていた。通常とは逆の動線を設定した名古屋市美術館についても、展示空間としての美術館の可能性を引き出してくれたものとして評価したい。納屋橋会場も、大胆に空間を活用した、質が高くバランスの良い会場となっていた。

・「揺れる大地」というテーマは、時宜を得ていて良かったし、そのテーマと作品の共振性という点で、岡崎会場のシビコの作品群が圧倒的に良かった。

・テーマが良く、アーティストに対して緊張感を持たせたことも、質の高い作品を生んだ要因。それは、「揺れる大地」というよりも、英語の「Awakening（目覚め、覚醒）」にこそ本来のテーマ性が強く宿っており、多くのアーティストがそのテーマに向き合っていたからだと思う。

・非常に難しいテーマのもとで、シリアスな面とエンターテインメント性がうまく融合していて、震災を現実として受け止めながら、人類が前に進んでいくための時空を超えた普遍的メッセージに溢れた国際美術展として上手く着地させたという印象が強い。特に、愛知県美術館や納屋橋会場では、展示ストーリーのメリハリのつけ方や作品の視覚的な説得性など、難しいテーマをアートでしっかり受け止めており、非常に優れていると感じた。日本の大災害を入口に、「国際紛争」「宗教」「イデオロギー」「環境問題」まで含めた世界が共有すべきグローバルな課題を「揺れる大地」として着地させ、来訪者の「知力」を誘発する国際美術展として成立させたことを考えれば、その評価は必然的に高くなる。

・今回のテーマは、圧倒的に良かった。議論が生まれるテーマを提示できたことは、とても良かった。

・建築とアートの親和性のある作品が多く、バランスが取れていた。

・真面目なテーマに取り組んだ点は高く評価したいし、作品も優れたものが多かったが、一方で、テーマが真面目であったことは「諸刃の剣」。街を巻き込んだイベント型のトリエンナーレと捉えたとき、一般県民が感情移入できずに乗り切れなかったという面もあるのではないか。

〇まちなか展開、県内での広域展開

・まちなか展開により、街の印象が大きく変わった。アートによって、街が持つ本来の魅力を引き出していた。

・「あいちトリエンナーレ」なのに、なぜ名古屋会場だけかと思っていた県民が多かったと思うが、その点、岡崎会場での実施やモバイル・トリエンナーレという試みは良かった。

・岡崎に会場を設けたことは良かった。運営的には大変だが、地元での下地づくりをしながら地域に参加してもらうことは良いことである。

・長者町会場の展示は迫力がなかった。魅力の低下が気になった。街ぐるみでの盛り上がりは前回の方があったように思う。

〇舞台芸術

・あいちトリエンナーレは、日本を代表する総合的で最大のアートフェスティバルであると言える。現代美術だけでなくコンテンポラリーなパフォーミングアーツをこれほど総合的に行っているものは他にはなく、大きな特色である。

・パフォーミングアーツは、イリ・キリアン、ジェコ・シオンポ、清水靖晃+カール・ストーン、梅田宏明などが良かった。

・オペラ「蝶々夫人」は抜群の出来だった。舞台美術は見事だった。ただ、舞台の機能はもっと有効に使えたと思う。音楽は地元中心だったが、出演者ももう少し地元から採用すれば、より良かった。

〇普及・教育の取組み

・キッズトリエンナーレは、国際美術展とのつながりを意識したプログラムづくりがなされていて、良かった。

・学校へのアーティスト派遣事業は、非常に良い取組みである。

〇建築関連プロジェクト

・「あいち建築ガイド」の発行のような新しい試みは評価したい。

〇県民との協働・連携

・東岡崎駅会場では、海外の作家と市民が協働で古着を使った作品づくりを行ったが、このことを作家自身が楽しんでいたことは大きい。市民ボランティアにも良い経験となったことはもちろんだが、作家が自国に帰った後、日本・愛知のことを良い印象を持って話してくれることで愛知ファンが増える。

・東岡崎駅会場の古着を使った作品制作に市民が参加できたことは、トリエンナーレと県民が近づく結果となり、良かったと思う。

■今後の展開に向けたアドバイス

《基本フレーム》
・芸術監督は毎回変わるけれども、あいちトリエンナーレのスタンス・事業意義は変わらないのだという、骨格や芯をしっかりとするべきだと思う。

・あいちトリエンナーレのスタイルを明確化すべきだと思う。愛知らしさを、ものづくりとか陶磁器とかいう産業から導くのではなく、文化芸術の領域からもう一度しっかり考える必要があるのではないか。

《テーマ設定・展開》
・愛知という土地にこだわるより、世界が抱える課題に向き合ったテーマ型のトリエンナーレにしていくべきではないか。アートは問題提起であり、デザインは課題を解決するという意味合いを、あいちトリエンナーレで体現してほしい。

・時代が必要とすること、日本・世界が必要とすることに向き合う美術展を貫くべきだと思う。

・愛知県の課題（少子高齢化、コミュニティの再生、防災、他）に対しアートが如何に機能していくかを突き詰めることが、あいちトリエンナーレの今後の必然性を導き出すことにつながるのではないか。

・現代アートの良さは、「こんなのもアートか」と思えるものとの出会いの魅力であると思う。そういう楽しさを与える場をもっと開拓してほしい。

・「既視感」をなくし、全体として「あれ」と思うような作品を展示してほしい。「新鮮さ」や「新しい空気」を大切にしてほしい。

・大切なのはイノベーション。観客の頬をひっぱたくくらいのインパクトを持ったダイナミックな作品があると、みんなワクワクする。

《まちなか展開、県内での広域展開》
・都市で行う現代アート展は、街を活かすことでパワーや魅力が生まれるので、街の印象や街が持っているさまざまな意味合いを、もっと活かしてはどうか。美術館では到底できない、街に出ていくことでしか表現できないビジョンを示すことができると良い。

・作家の創造力を刺激し、喚起するような「場」を提供する必要があると思う。「場」が持っているやばさと作家の資質を掛け合わせると凄いものが生まれるという点からも、作品発表の「場」は重要な意味を持つ。

・会場となる街で現代アート展を行う必然性や、作品が街に滲み出してくるような楽しさが求められるのではないか。

・美術館以外の展開や県内での広域展開を、アートを活かした地域課題の解決という社会実験のチャンスとして捉えてみてはどうか。

・アートをきっかけにまちのポテンシャルとの出合いを作っていく美術展を県内各地で行っていけば、あいちトリエンナーレはどんどん面白くなっていくだろう。

・空間的な広がりとして、県内での広域展開による楽しさの拡大が大切であると思う。モバイル・トリエンナーレもその一環かもしれないが、もっと力を入れても良いのではないか。

・他県を上回ると思われる愛知の「都市力」を活かしたい。県内の都市が持つ多様なポテンシャルを活かし連携していくことが、新しい魅力につながる。それぞれが持つ芸術文化にかけられる資金も、連携によって活かすことができるのではないか。

《普及・教育の取組み》
・中学校でダンスが必修科目となっている中、コンテンポラリーダンスのアーティストを学校に派遣することも含め、学校へのアーティスト派遣事業は積極的に行っていくべきである。

《地元文化芸術団体、芸術大学、県民等との協働・連携》
・「祝祭ウィーク事業」は、土日を最低でも 2 回はさんでいないと、応募総数が減り、質が落ちてしまうのではないか。

・県内の 4 芸術大学を含む若い作家との接点など、地元へのインパクトのある仕組づくりや継続的な活動が、トリエンナーレのもう一つの開催意義を創造するのではないか。

・参加アーティストと県民との接点を増やすことが大切である。コミュニケーションによって、現代アートへの理解が深まると思う。

《愛知の資産の活用》
・歴史、産業、ものづくり、世界とつながる企業の技術などの活用や、県内の実績のある現代アート展との連携など、愛知にある多様な資産を活かした展開も検討してはどうか。

《サポート体制》
・シニアの経験、エネルギーを活用しないともったいない。

《広報・PR》
・県内での広域展開に当たっては、各会場等の作品の魅力を強く発信して、見る人に選んでもらえるような配慮も必要になってくると思う。

・「2 泊 3 日であいちトリエンナーレに行こう！」といったようなキャッチフレーズで、名古屋だけの美術展ではないことをアピールすることも必要ではないか。

《盛上げ方策》
・観光行政と連携し、会場に至るプロセス、回遊を楽しませる工夫をすると良い。

《継続性》
・きちんとした国際美術展として海外の作家等に認められるには、とにかくやり続けることが必要であるので、覚悟を決めてやってほしい。資金難や地域活性化の問題などの高いハードルを、官民が共有しながら超えていくことにより長く続いたまちなかでの美術展の例があるが、これも、あいちトリエンナーレを継続させる一つのヒントになるのではないか。

・時間的な広がりとして、トリエンナーレの期間以外に、継続的に何を行うかが大切であると思う。

・これほどのスケール感と魅力のあるトリエンナーレは、これからの名古屋・愛知を全国に印象付ける絶好の素材であると思うので、そうなるよう、是非、育てていってもらいたい。

5　経済波及効果

・トリエンナーレの開催により、約 69.0 億円（愛知県内では約 58.2 億円）の経済波及効果があったと考えられる。

■経済波及効果の推計結果

経済波及効果 ①+②+③	主催者等総支出額 ①	来場者消費額	第 1 次波及効果 ②	第 2 次波及効果 ③
69.0 億円	13.5 億円	(28.5 億円)	47.5 億円	8.0 億円
(うち愛知県内) 58.2 億円	12.5 億円	(22.1 億円)	39.1 億円	6.6 億円

（推計：株式会社日建設計総合研究所）

①主催者等総支出額：あいちトリエンナーレ実行委員会の平成 23 年度から平成 25 年度までの総支出と、愛知県の緊急雇用創出事業基金事業による関連事業支出との合計額
②第 1 次波及効果：主催者等総支出及び来場者消費（飲食、買い物、交通費、宿泊費）による需要発生が、その他の産業にもたらす生産誘発額
③第 2 次波及効果：先の需要の発生により雇用者の所得が生まれるが、その雇用者が消費したことによる生産誘発額

【算出の前提条件等】

・産業連関分析の方法により、「平成 17 年あいちの産業連関表」を用いて算出した。具体的な前提条件等は、以下のとおりである。

○主催者等総支出額

区分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度 (見込)	計
実行委員会事業	0.3 億円	1.6 億円	9.7 億円	11.6 億円
緊急雇用創出事業基金事業	―	0.5 億円	1.4 億円	1.9 億円
計	0.3 億円	2.1 億円	11.1 億円	13.5 億円

○来場者数

・総来場者数は 626,842 人であるが、この中には複数会場を訪れた来場者がいることから、会期中に行った来場者アンケート調査結果を用いて平均来訪会場数（2.81 会場/人）を算出し、これで除して想定実来場者数を 223,076 人とした。うち宿泊者については、同アンケート調査結果を用いて、約 27%（60,160 人）と推計した。

総来場者数	平均来訪会場数	想定実来場者数	うち宿泊者
626,842 人	2.81 会場/人	223,076 人	60,160 人

○来場者消費額

・来場者アンケート等からわかる一人当たりの消費額に、想定実来場者数を乗じることで算出した。

区分	一人当たり消費額	総消費額	(参考) うち岡崎地区
飲食	1,578 円	3.5 億円	0.4 億円
買い物	2,595 円	5.8 億円	0.2 億円
交通費	6,424 円	14.3 億円	1.9 億円
宿泊費	8,081 円	4.9 億円	0.6 億円
計	―	28.5 億円	3.1 億円

○うち愛知県内の経済波及効果

・主催者等総支出額から、愛知県外への支出額約 1 億円を差し引いて算出した。
・来場者消費額から、広域からの交通費用のうち県外消費額の約 6.4 億円を差し引いて算出した。

６　パブリシティ効果

・トリエンナーレのメディア報道におけるパブリシティ効果（広告費換算額）は、55 億円以上と考えられる。

■パブリシティ効果の推計結果

種別	掲載・放映件数	合計金額	備考（対象期間）
新聞(一般紙、ブロック紙、地方紙等)	731 件	1,519 百万円	平成 23 年 7 月～平成 25 年 12 月
雑誌(美術誌、建築誌、一般紙等)	286 件	171 百万円	平成 23 年 8 月～平成 26 年 1 月
テレビ	134 件	3,744 百万円	平成 24 年 7 月～平成 25 年 11 月
ラジオ	61 件	70 百万円	平成 24 年 6 月～平成 25 年 10 月
計	1,212 件	5,504 百万円	

※各メディアにおいて掲載・放映された同じ分量を広告出稿した場合の料金を 1 件ごとに算出し、その合計をパブリシティ効果の金額とした。

（新聞・雑誌のパブリシティ効果＝原単位価格×記事面積
テレビ・ラジオのパブリシティ効果＝原単位価格×放送時間）

※掲載・放映の確認ができたもののみを対象として算出しているため、実際には 55 億円以上の効果があったと考えられる。

Ⅶ　実行委員会の状況等

1　実行委員会の収支状況

■総括（平成 23 年度～平成 25 年度）

○収入の部　　（単位：千円）

区分	平成 23 年度（決算）	平成 24 年度（決算）	平成 25 年度（決算）	計
事業収入	―	―	232,381	232,381
公的負担金収入	33,967	158,436	671,619	864,022
愛知県負担金	25,475	118,828	577,852	722,155
名古屋市負担金	8,492	39,608	93,767	141,867
広告・協賛金等収入	―	824	80,939	81,763
雑収入	7	9	66	82
計	33,974	159,269	985,005	1,178,248

○支出の部　　（単位：千円）

区分	平成 23 年度（決算）	平成 24 年度（決算）	平成 25 年度（決算）	計
事業費	31,342	156,090	981,023	1,168,455
管理費	2,632	3,179	3,982	9,793
予備費	―	―	0	0
計	33,974	159,269	985,005	1,178,248

■平成 23 年度内訳（決算）

○収入の部

区分		金額（千円）
公的負担金収入		33,967
	愛知県負担金	25,475
	名古屋市負担金	8,492
雑収入	受取利息収入等	7
合計		33,974

○支出の部

区分			金額（千円）
事業費			31,342
	事業企画活動費		20,669
		芸術監督・キュレーター等活動費	11,450
		展示等準備費	441
		その他事業企画活動費	8,778
	計画策定費		4,539
		計画策定調査費	1,517
		芸術監督選考費	308
		その他計画策定事務費	2,714
	広報関係費		6,134
		広報業務委託費	2,679
		その他広報関係費	3,455
管理費	管理費		2,632
		運営会議開催費	1,563
		その他管理費	1,069
合計			33,974

■平成 24 年度内訳（決算）

○収入の部

区分		金額（千円）
公的負担金収入		158,436
	愛知県負担金	118,828
	名古屋市負担金	39,608
助成金収入	文化財団等助成金	824
雑収入	受取利息収入等	9
合計		159,269

○支出の部

区分			金額（千円）
事業費			156,090
	現代美術		61,164
		芸術監督・キュレーター等活動費	40,744
		展示制作等準備費	20,420
	舞台芸術		26,955
		パフォーミングアーツ公演準備費	3,421
		プロデュースオペラ舞台制作等準備費	23,534
	普及・教育		6,816
		エデュケーター等活動費	3,548
		普及教育資料等作成費	3,268
	祝祭的展開 まちなか展開		16,916
		祝祭的展開等準備費	2,813
		まちなか展開等準備費	14,103
	ボランティア	ボランティア関連経費	2,971
	広報・PR		41,268
		広報業務委託費	28,298
		広報イベント開催費	3,533
		その他広報物等作成費	9,437
管理費	管理費		3,179
		運営会議開催費	1,285
		その他管理費	1,894
合計			159,269

■平成 25 年度内訳（決算）

○収入の部

区分		金額（千円）
事業収入		232,381
	国際美術展入場券収入	167,073
	カタログ等販売収入	4,808
	舞台芸術入場券収入	60,500
公的負担金収入		671,619
	愛知県負担金	577,852
	名古屋市負担金	93,767
広告・協賛金等収入	企業協賛、国及び各種文化財団等の助成金等	80,939
雑収入	受取利息収入	66
合計		985,005

○支出の部

区分			金額（千円）
事業費			981,023
	現代美術		629,453
		芸術監督・キュレーター等活動費	32,890
		展示制作費	398,572
		会場関係費	160,378
		モバイル・トリエンナーレ関係費	3,446
		美術展その他開催費	34,167
	舞台芸術		198,093
		パフォーミングアーツ開催費	96,637
		プロデュースオペラ公演開催費	101,456
	普及・教育		19,459
		エデュケーター等活動費	7,130
		キッズトリエンナーレ開催費	7,273
		普及教育資料等作成費	4,324
		その他普及活動費	732
	祝祭的展開 まちなか展開		44,631
		祝祭ウィーク等開催費	41,112
		建築関連プロジェクト等関係費	3,519
	ボランティア	ボランティア関連経費	17,230
	広報・PR		72,157
		広報業務委託費	40,259
		広報イベント開催費	5,819
		その他広報関係費	26,079
管理費	管理費		3,982
		運営会議開催費	657
		その他管理費	3,325
予備費	予備費		0
合計			985,005

２　実行委員会委員等

区分	職名	氏名及び就任年月日			
		平成 23 年度		平成 24 年度	平成 25 年度
		H23.4.1			
会長	愛知県知事	大村秀章	→	→	→
会長代行	名古屋市長	河村たかし	→	→	→
副会長	名古屋商工会議所会頭	－	H23.7.8 髙橋治朗	→	H26.1.6 岡谷篤一
	一般社団法人中部経済連合会会長	－	H23.7.8 三田敏雄	→	→
委員	名古屋商工会議所専務理事	細谷孝利	→	→	→
	一般社団法人中部経済連合会専務理事	山内拓男	H23.5.19 伊藤範久	→	→
	中日新聞社代表取締役社長	大島寅夫	H23.6.20 小出宣昭	→	→
	日本放送協会名古屋放送局局長	木田幸紀	H23.6.24 佐藤幹夫	→	H25.6.20 吉川幸司
	独立行政法人国際交流基金理事	櫻井友行	→	→	→
	愛知芸術文化センター総長	神田真秋	→	→	→
	愛知県県民生活部長	大野明彦	→	→	H25.4.12 寺澤義則
	名古屋市市民経済局長	鈴木邦尚	→	H24.5.29 新開輝夫	H26.1.6 宮村喜明
	公益財団法人愛知県文化振興事業団理事長	池田善次	→	→	H25.6.27 中野秀秋
	公益財団法人名古屋市文化振興事業団理事長	相羽規充	→	→	H25.5.7 平野幸久
	名古屋ボストン美術館館長	馬場駿吉	→	→	→
	愛知県立芸術大学学長	磯見輝夫	→	→	H25.4.16 松村公嗣
	大原美術館館長	高階秀爾	→	→	→
	多摩美術大学名誉教授	峯村敏明	→	→	→
	愛知県立芸術大学名誉教授	北爪道夫	→	→	→
	鳥取大学教授	野田邦弘	→	→	→
監事	（税理士）	加藤純利	→	→	→
	（文化行政経験者）	中谷光孝	→	→	→
顧問	愛知県議会議長	－	H23.5.23 岩村進次	H24.6.15 小林 功	H25.6.3 久保田浩文
	名古屋市会議長	－	H23.7.13 中村孝太郎	H24.5.30 中川貴元	H25.4.24 藤田和秀
	愛知県市長会会長	－	H23.6.8 神谷 学	H24.6.20 山脇 実	H25.6.24 堀 元
	愛知県町村会会長	江戸 滿	H23.6.17 横山光明	→	H25.6.26 籾山芳輝
	名古屋商工会議所会頭	髙橋治朗	（委員へ）	－	－
	一般社団法人中部経済連合会会長	川口文夫	（委員へ）	－	－
芸術顧問	京都市立芸術大学学長	－	H23.7.8 建畠 晢	→	→

参与	愛知県議会総務県民委員会委員長	―	H23.5.23 酒井庸行	H24.6.12 神戸洋美	H25.6.4 伊藤勝人
	名古屋市会経済水道委員会委員長	―	H23.7.19 丹羽ひろし	H24.5.31 横井利明	H25.6.12 金庭宜雄
	中京テレビ放送代表取締役社長	徳光彰二	→	→	H25.6.27 山本孝義
	中部日本放送代表取締役社長	大石幼一	→	→	→
	テレビ愛知代表取締役社長	―	H23.9.13 小谷 勝	→	→
	東海テレビ放送代表取締役社長	浅野碩也	→	→	H25.6.27 内田 優
	名古屋テレビ放送代表取締役社長	―	H23.8.5 荒木高伸	→	→
	朝日新聞名古屋本社代表	―	H23.8.8 高橋順二	→	H25.7.5 横山 宏
	日本経済新聞社専務執行役員名古屋支社代表	秋山光人	H23.6.1 高橋美夫	→	H25.4.11 泉 宣道
	毎日新聞社専務執行役員中部代表	渡会文化	→	→	→
	読売新聞東京本社執行役員中部支社長	井川隆明	H23.6.7 尾崎和典	→	→
	名古屋音楽大学学長	高橋 肇	→	→	→
	名古屋芸術大学学長	竹本義明	→	→	→
	名古屋造形大学学長	高北幸矢	→	H24.4.16 小林亮介	→
	愛知県小中学校長会会長	坂野重法	→	→	H25.6.6 岡田 豊
	愛知県公立高等学校長会会長	高須勝行	→	→	H25.4.18 岩間 博
	名古屋市立小中学校長会会長	松本朋充	→	H24.4.16 本田修三	H25.6.1 辻 正人
	愛知県私学協会会長	石田正城	→	→	→
	公益財団法人科学技術交流財団理事長	松尾 稔	→	→	→
	愛知芸術文化協会顧問	藤井知昭	→	→	→
	愛知県美術館館長	村田眞宏	→	→	→
	名古屋市美術館館長	松永恒裕	→	→	→
アドバイザー	独立行政法人国際交流基金文化事業部企画役	伊東正伸	→	→	→
幹事	愛知県県民生活部文化芸術課長	上田信子	→	H24.5.17 梶藤和彦	H25.4.15 岩田道人
	名古屋市市民経済局文化観光部長	山本正雄	→	→	→
	名古屋商工会議所常務理事・事務局長	内川尚一	→	→	→
	一般社団法人中部経済連合会企画部長	赤木紳一郎	→	→	H25.7.2 村田純一
	愛知芸術文化センター管理部長	塚田公二	→	H24.5.16 三輪幸夫	→
	公益財団法人愛知県文化振興事業団常務理事	阿部幸則	→	H24.7.9 鈴木滋夫	→

※平成 26 年 2 月末日現在
※職名は平成 25 年度のもの

3　実行委員会事務局組織

区分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
事務局長	愛知芸術文化センター長	愛知芸術文化センター長	愛知芸術文化センター長
愛知県 県民生活部 文化芸術課 国際芸術祭 推進室 （専任組織）	国際芸術祭推進室長 （事務局次長）	国際芸術祭推進室長 （事務局次長）	国際芸術祭推進室長 （事務局次長）
	主幹（国際芸術祭）	主幹（調整） 主幹（事業）	主幹（調整） 主幹（事業）
	調整グループ　5 名	調整グループ　8 名	調整グループ　12 名
	【愛知県】 ・職員　3 名 ・非常勤嘱託員　2 名	【愛知県】 ・職員　7 名 ・非常勤嘱託員　1 名	【愛知県】 ・職員　7 名 ・臨時的任用職員※2　2 名 ・市町村等職員実務研修生 1 名（豊田市） ・非常勤嘱託員　2 名
	事業グループ　5 名	事業第一グループ　8 名	事業第一グループ　16 名
	【愛知県】 ・職員　4 名 ・臨時的任用職員　1 名	【愛知県】 ・職員　5 名 ・臨時的任用職員※1　3 名	【愛知県】 ・職員　5 名 ・臨時的任用職員※2　7 名 ・市町村等職員実務研修生 2 名（豊橋市、岡崎市） ・非常勤嘱託員　1 名 【名古屋市】 ・職員　1 名
		事業第二グループ　5 名	事業第二グループ　11 名
		【愛知県】 ・職員　4 名 ・非常勤嘱託員　1 名	【愛知県】 ・職員　4 名 ・臨時的任用職員※2　3 名 ・市町村等職員実務研修生 2 名（西尾市、津島市） ・非常勤嘱託員　1 名 【名古屋市】 ・職員　1 名
	計 12 名	計 24 名	計 42 名

（兼任組織）
〇愛知芸術文化センター（管理部、文化情報センター、愛知県美術館）
〇名古屋市美術館
〇公益財団法人愛知県文化振興事業団

※1　平成 24 年 12 月から
※2　平成 25 年 11 月または 12 月まで

■あいちトリエンナーレ実行委員会事務局

（愛知県県民生活部 文化芸術課 国際芸術祭推進室内）
〒461-8525
愛知県名古屋市東区東桜 1-13-2　愛知芸術文化センター6 階
TEL：052-971-6111
FAX：052-971-6115
E-mail：geijutsusai@pref.aichi.lg.jp

（資料）あいちトリエンナーレの開催経緯

■平成 17 年度（2005 年度）

平成 18 年 3 月	・「新しい政策の指針」公表

我が国屈指の複合的文化芸術施設である愛知芸術文化センターの機能や蓄積を十分に活用するとの観点や、経済面のみならず、文化芸術面においても世界に向けた創造力、発信力を一層強化しながら、心の豊かさや潤いのある生活が実感できる魅力的な地域づくりに繋げていくとの視点から、平成 18 年 3 月に策定した「新しい政策の指針」において、「愛知芸術文化センターを拠点として、国際的に注目される文化芸術イベントの開催をめざす」こととした。

■平成 18 年度（2006 年度）

平成 18 年 12 月 25 日	・「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」報告書 ～文化芸術あいち百年の軸をつくる～

平成 18 年度に開催した「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」において、「文化芸術施策の総合戦略としての愛知ビエンナーレを開催すべき」との提言を受ける。

■平成 19 年度（2007 年度）

平成 19 年 12 月	・「文化芸術創造あいちづくり推進方針」策定

国際芸術祭の開催を「文化芸術政策全体を推進するための先導的役割を担う取組」として位置づける。

平成 20 年 3 月 21 日	・「あいち国際芸術祭(仮称)基本構想」公表

初回となる 2010 年は、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、現代美術を中心に、舞台芸術も含めた芸術祭を開催していくこと、この地域から世界に向けた、新しい芸術の創造・発信に加え、芸術文化の普及・教育、祝祭的な賑わいを図ることなどを盛り込んだ基本構想を策定・公表。

○「あいち国際芸術祭（仮称）基本構想」の概要

開催意義	「国際文化交流の豊富な基盤やノウハウ」、「世界にも誇り得る複合的文化芸術施設とその活動の蓄積」、「様々な文化芸術資源」などを十分に活かしながら、経済面だけではなく文化芸術面でも日本、世界に貢献。
開催目的	・ 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。 ・ 現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。 ・ 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。
事業構想	・創造・発信：初回（2010 年）は美術部門の現代美術を基軸とするが、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、音楽、舞踊、オペラなども併せて展開。 ・普及・教育：美術、舞台芸術などの部門で幅広い層を対象にした様々な普及・教育プログラムを展開。 ・祝祭的展開：美術、舞台芸術を始め、伝統芸能、生活文化も含む様々な部門で県民に親しまれる事業を展開。

■平成 20 年度（2008 年度）

平成 20 年 6 月 28 日	【設立総会】 ・実行委員会の設立 【第 1 回運営会議】 ・平成 20 年度事業計画及び収支予算等決定

平成 20 年 7 月 22 日	・芸術監督選任（平成 20 年 8 月 1 日芸術監督就任）

○芸術監督
建畠　晢（国立国際美術館館長）

平成 20 年 10 月 14 日	【第 2 回運営会議】 ・正式名称、テーマ、基本方針決定・公表

○正式名称、テーマ・基本方針の決定・公表
・正式名称
あいちトリエンナーレ 2010 / Aichi Triennale 2010
・テーマ
都市の祝祭　Arts and Cities
・基本方針（要約）
あいちトリエンナーレ 2010 を愛知・名古屋の文化のシンボルとして多くの市民に親しまれ、海外への芸術の発信基地としても注目されるユニークな特色をもったものにするために、次の三つの基本方針を掲げた。
方針①　美術を中心とした現代芸術の先端的な動向を、国際的な視野によって紹介する。
方針②　美術館や劇場のみならずまちなかへも進出し、都市の祝祭としての高揚感を演出する。
方針③　現代美術を基軸にしつつ、オペラやダンス、音楽などのパフォーミング・アートをも積極的に取り込む。

平成 21 年 3 月 25 日	【第 3 回運営会議】 ・企画概要、ロゴマーク公表 ・平成 21 年度事業計画及び収支予算等決定

○ロゴマークの公表
《ロゴマークデザインのコンセプト》
・あいちトリエンナーレの頭文字、ＡとＴを組合せ、芸術の先端的な動向を示す矢印として形作られている。
・その矢印は、従来のロゴマークのような固定的なものではなく、あらゆる方向を指し示すことで、芸術表現の多様性、国内外への発信、祝祭的ひろがりを表現できる。
・また、街中にもひろがる会場では、視覚的な案内表示としても機能するように考えられている。

デザイナー：山本 誠（愛知県生まれ、東京都在住。愛知県立芸術大学卒業）

■平成 21 年度（2009 年度）

平成 21 年 8 月 21 日	【第 4 回運営会議】 ・企画概要公表

平成 22 年 3 月 25 日	【第 5 回運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 22 年度事業計画及び収支予算等決定

■平成 22 年度（2010 年度）

平成 22 年 8 月～10 月	・あいちトリエンナーレ 2010 開催 （8 月 21 日～10 月 31 日）

平成 23 年 3 月 25 日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ 2010 開催結果報告 ・平成 23 年度事業計画及び収支予算等決定

■平成 23 年度（2011 年度）

平成 23 年 7 月 20 日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定

平成 23 年 7 月 28 日	・芸術監督選任（平成 23 年 8 月 1 日芸術監督就任）

○芸術監督
五十嵐太郎（東北大学大学院工学研究科教授（都市・建築学））

平成 23 年 10 月 21 日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表

○テーマ
揺れる大地 － われわれはどこに立っているのか ： 場所、記憶、そして復活
Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection

平成 24 年 3 月 29 日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 24 年度事業計画及び収支予算等決定

■平成 24 年度（2012 年度）

平成 24 年 7 月 25 日	【運営会議】 ・企画概要公表

平成 25 年 3 月 22 日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 25 年度事業計画及び収支予算等決定

■平成 25 年度（2013 年度）

平成 25 年 8 月～10 月	・あいちトリエンナーレ 2013 開催 （8 月 10 日～10 月 27 日）

（資料）あいちトリエンナーレ実行委員会規約

第１章　総　則

（名称）

第１条　本会は、あいちトリエンナーレ実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

（事務所）

第２条　実行委員会は、事務所を愛知県名古屋市東区東桜一丁目１３番２号に置く。

（目的）

第３条　実行委員会は、あいちトリエンナーレ（以下「トリエンナーレ」という。）の準備及び開催運営等を行うことにより、次に掲げる事項を達成することを目的とする。

（１）新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献すること。

（２）現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ること。

（３）文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ること。

（事業）

第４条　実行委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

（１）トリエンナーレの準備及び開催運営

（２）その他実行委員会の目的を達成するために必要な事業

第２章　組　織

（委員）

第５条　実行委員会の委員は、次のとおりとする。

（１）別表１に掲げる職にある者

（２）若干名の学識経験者

２　前項第２号に規定する委員は、第１２条第１項第１号に規定する運営会議（以下「運営会議」という。）の同意を得て会長が委嘱する。

（役員）

第６条　実行委員会に、次の役員を置く。

（１）　会長　　１名

（２）　会長代行　　１名

（３）　副会長　　２名

（４）　監事　　２名

２　会長は、愛知県知事をもって充てる。

３　会長代行は、名古屋市長をもって充てる。

４　副会長は、名古屋商工会議所会頭及び一般社団法人中部経済連合会会長をもって充てる。

５　監事は、運営会議の同意を得て会長が委嘱する。

（職務）

第７条　会長は、実行委員会を代表し、会務を統括する。

２　会長代行は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

３　副会長は、会長代行とともに会長を補佐する。

４　監事は、実行委員会の業務及び会計を監査する。

（任期）
第８条　役員及び委員の任期は３年とする。ただし、再任を妨げない。
２　補欠又は増員により選任された役員及び委員の任期は、前項本文の規定にかかわらず、前任者又は他の現任者の残任期間とする。
３　役員及び委員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

（芸術監督）
第９条　実行委員会に、トリエンナーレの学芸業務の最高責任者として芸術監督を置く。
２　芸術監督は、運営会議において選任し、会長が委嘱する。

（顧問、芸術顧問及び参与）
第 10 条　実行委員会に、顧問、芸術顧問及び参与を置くことができる。
２　顧問、芸術顧問及び参与は、会長が委嘱する。
３　顧問は、実行委員会の運営に関し、会長の相談に応じる。
４　芸術顧問は、トリエンナーレの学芸業務に関し、会長及び芸術監督の相談に応じる。
５　参与は、実行委員会の事業に関し、会長の相談に応じる。

（アドバイザー）
第 11 条　実行委員会に、トリエンナーレの展開に関し専門的な観点から助言を得るため、アドバイザーを置くことができる。
２　アドバイザーは、会長が委嘱する。

第３章　会　議

（会議）
第 12 条　実行委員会に、次の会議を置く。
（１）運営会議
（２）有識者部会
（３）幹事会
２　前項に定めるもののほか、実行委員会に会長が必要と認める会議を置くことができる。

（運営会議）
第 13 条　運営会議は、会長、副会長その他の委員をもって構成する。
２　運営会議は、次の事項を議決する。
（１）事業計画及び収支予算
（２）事業報告及び収支決算
（３）その他実行委員会の運営に関する重要な事項
３　運営会議は、会長が召集する。
４　運営会議の議長は、会長がこれに当たる。
５　運営会議は、構成員の３分の２以上の出席をもって成立する。
６　運営会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
７　やむを得ない理由のため運営会議に出席できない構成員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は代理人に表決を委任することができる。この場合において、前２項の規定の適用については、その構成員は出席したものとみなす。
８　会長が必要と認める場合、あらかじめ通知した事項に対する構成員による書面表決をもって、運営会議の議決に代えることができる。
９　会長は、必要と認めるときは、運営会議に構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（有識者部会）
第 14 条　トリエンナーレの芸術部門の企画に関し、専門的な観点から芸術監督に助言を行うため、運営会議に有識者部会を置く。
２　有識者部会は、第５条第１項第１号に規定する委員のうちから会長が指名する者及び同項第２号に規定する委員をもって構成する。
３　有識者部会に部会長を置き、第５条第１項第１号に規定する委員のうちから会長が指名する者をもって充てる。
４　部会長は、有識者部会の事務を掌理する。
５　芸術監督は、有識者部会の経過及び結果を会長に報告する。
６　前条第３項、第４項及び第９項の規定は、有識者部会について準用する。この場合において、それらの規定中「運営会議」とあるのは「有識者部会」と、「会長」とあるのは「部会長」と読み替えるものとする。

（幹事会）
第 15 条　実行委員会の円滑な運営を図るため、運営会議の下に幹事会を置く。
２　幹事会は、幹事長、幹事長代理及び幹事をもって構成し、それぞれ、別表２に掲げる職にある者をもって充てる。
３　第１３条第３項から第９項までの規定は、幹事会について準用する。この場合において、それらの規定中「運営会議」とあるのは「幹事会」と、「会長」とあるのは「幹事長」と読み替えるものとする。

第４章　会長の専決処分

（会長の専決処分）
第 16 条　会長は、運営会議の議決事項について、緊急を要するときは、これを専決処分することができる。
２　会長は、前項の規定により専決処分をしたときは、これを次の運営会議において報告しなければならない。

第５章　事務局

（事務局）
第 17 条　実行委員会の事務を処理するため、事務局を置く。
２　事務局は、愛知県県民生活部文化芸術課国際芸術祭推進室に置く。
３　事務局には、所要の職員を置く。
４　事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

第６章　会　計

（経費）
第 18 条　実行委員会の活動に必要な経費は、負担金その他の収入をもって充てる。

（会計年度）
第 19 条　実行委員会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。

第７章　補　則

（委任）
第 20 条　この規約に定めるもののほか、必要な事項は、会長が別に定める。

附　則

1　この規約は、平成２０年６月２８日から施行する。

2　実行委員会の設立当初の役員及び委員並びに顧問は、第５条及び第６条並びに第１０条第１項及び第２項の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

3　実行委員会の設立当初の役員及び委員の任期は、第８条第１項の規定にかかわらず、設立の日から平成２３年３月３１日までとする。

4　実行委員会の設立当初の会計年度は、第１８条の規定にかかわらず、設立の日から平成２１年３月３１日までとする。

附　則

この規約は、平成２０年１０月１日から施行する。

附　則

この規約は、平成２０年１０月１４日から施行する。

附　則

この規約は、平成２１年８月１日から施行する。

附　則

この規約は、平成２３年７月　８日から施行する。

附　則

この規約は、平成２４年７月２５日から施行する。

別表１（第５条関係）

区　分	職　　名
委員	愛知県知事
	名古屋市長
	名古屋商工会議所会頭
	一般社団法人中部経済連合会会長
	名古屋商工会議所専務理事
	一般社団法人中部経済連合会専務理事
	中日新聞社代表取締役社長
	ＮＨＫ名古屋放送局長
	独立行政法人国際交流基金理事
	愛知芸術文化センター総長
	愛知県県民生活部長
	名古屋市市民経済局長
	公益財団法人愛知県文化振興事業団理事長
	公益財団法人名古屋市文化振興事業団理事長

別表２（第１５条関係）

区　分	職　　名
幹事長	愛知県県民生活部文化芸術課長
幹事長代理	名古屋市市民経済局文化観光部長
幹　事	名古屋商工会議所企画振興部長
	一般社団法人中部経済連合会企画部長
	愛知芸術文化センター管理部長
	公益財団法人愛知県文化振興事業団常務理事

（資料）あいちトリエンナーレの推移

項目	2010	2013
名称	あいちトリエンナーレ 2010 Aichi Triennale 2010	あいちトリエンナーレ 2013 Aichi Triennale 2013
テーマ	都市の祝祭 Arts and Cities	揺れる大地－われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活 Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection
芸術監督	建畠　晢 （国立国際美術館館長）	五十嵐太郎 （東北大学大学院工学研究科教授（都市・建築学））
会期	平成 22 年（2010 年） 8 月 21 日(土）～10 月 31 日(日) （72 日間）	平成 25 年（2013 年） 8 月 10 日(土）～10 月 27 日(日) （79 日間）
会場	・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・納屋橋会場 ※その他、名古屋城、オアシス２１、中央広小路ビル、七ツ寺共同スタジオなど	■名古屋地区 ・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・納屋橋会場 ※その他、中央広小路ビル、オアシス２１、名古屋テレビ塔、若宮大通公園など ■岡崎地区 ・東岡崎駅会場 ・康生会場 ・松本町会場
参加アーティスト数	24 の国と地域から 131 組	34 の国と地域から 122 組
作品数	208 作品	182 作品
来場者数	572,023 人	626,842 人
国際美術展展示面積	18,127 ㎡	33,963 ㎡
プロデュースオペラ演目	オッフェンバック作曲 「ホフマン物語」	プッチーニ作曲 「蝶々夫人」
全体事業費（決算額）	（平成 20 年度～平成 22 年度） 1,207,537 千円	（平成 23 年度～平成 25 年度） 1,257,803 千円　※
経済波及効果	約 78.1 億円	約 69.0 億円 （うち愛知県内 約 58.2 億円）
パブリシティ効果（広告費換算）	47 億円以上	55 億円以上
ボランティア登録者数（実人数）	1,289 人	1,310 人
主な特徴（新たな展開）	－	・象徴的なテーマ展開 ・建築の視点の導入 ・まちなか展開の拡大（岡崎市内での展開） ・建築関連プロジェクト ・モバイル・トリエンナーレ（移動型展示） ・パブリック・プログラム

※平成 25 年度分は平成 26 年 3 月現在で決算額が未確定のため予算額で積算

あいちトリエンナーレ 2013 開催報告書

平成 26 年 3 月

編集：あいちトリエンナーレ実行委員会事務局
発行：あいちトリエンナーレ実行委員会

あいちトリエンナーレ実行委員会事務局
（愛知県県民生活部 文化芸術課 国際芸術祭推進室内）
〒461–8525
愛知県名古屋市東区東桜 1-13-2　愛知芸術文化センター６階
Tel:052-971-6111　Fax:052-971-6115
E-mail:geijutsusai@pref.aichi.lg.jp